

茨城県教育財団文化財調査報告第174集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書V

熊の山遺跡  
(下巻)

平成13年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第174集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 V

くま やまと  
熊の山遺跡  
(下巻)

平成13年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

# 目 次

## - 下 卷 -

第3章 調査の成果 .....	853
第3節 遺構と遺物 .....	853
4 8区の遺構と遺物 .....	853
(2) 据立柱建物跡 .....	853
① 古墳時代 .....	853
② 奈良・平安時代 .....	854
(3) 溝 .....	927
(4) 井戸跡 .....	949
(5) 道路状遺構 .....	966
(6) 方形堅穴状遺構 .....	968
(7) 土坑 .....	970
① 火葬施設 .....	970
② 墓嘗 .....	971
③ その他の土坑 .....	972
(8) 遺構外出土遺物 .....	982
第4節 まとめ .....	985
付 章	
熊の山遺跡の自然科学分析 .....	パリノ・サーヴェイ株式会社
1 熊の山遺跡第1425A号住居跡から出土した炭化物の分析	
2 熊の山遺跡第881号上坑覆土中の灰の材質について	
熊の川遺跡第31号井戸出土木製品の樹種調査 .....	株式会社吉田生物研究所
3 熊の山遺跡第31号井戸出土木製品の樹種同定結果	
写真図版	

## 挿図目次

-下巻-

第599図 第120号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	853	第622図 第80A・B号掘立柱建物跡実測図(1) 図	880
第600図 第37号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	855	第623図 第80A・B号掘立柱建物跡実測図(2) 図	881
第601図 第41号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	856	第624図 第80A号掘立柱建物跡出土遺物実測 図	882
第602図 第42号掘立柱建物跡実測図	858	第625図 第80A・B号掘立柱建物跡出土遺物 実測図	883
第603図 第44号掘立柱建物跡実測図	859	第626図 第81号掘立柱建物跡出土遺物実測図 実測図	884
第604図 第45号掘立柱建物跡実測図	860	第627図 第82号掘立柱建物跡実測図	886
第605図 第46号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	861	第628図 第83号掘立柱建物跡実測図	887
第606図 第47号掘立柱建物跡出土遺物実測図	862	第629図 第84号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	888
第607図 第47号掘立柱建物跡出土遺物実測図	863	第630図 第85号掘立柱建物跡実測図	889
第608図 第70号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	864	第631図 第85号掘立柱建物跡出土遺物実測図 .....	890
第609図 第70号掘立柱建物跡出土遺物実測図 .....	865	.....	.....
第610図 第71号掘立柱建物跡実測図	866	第632図 第86号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	891
第611図 第71号掘立柱建物跡出土遺物実測図 .....	867	第633図 第87A・B号掘立柱建物跡実測図 .....	892
第612図 第72号掘立柱建物跡実測図	868	第87A号掘立柱建物跡出土遺物実測 .....	893
第613図 第73号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	870	第634図 第87B号掘立柱建物跡出土遺物実測 図	894
第614図 第74号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	871	第635図 第88号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	895
第615図 第75号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	873	第636図 第89号掘立柱建物跡・出土遺物実測 .....	896
第616図 第76号掘立柱建物跡実測図	875	.....	897
第617図 第77号掘立柱建物跡実測図	876	第637図 第100・101号掘立柱建物跡実測図	898
第618図 第78・81号掘立柱建物跡実測図	877	第638図 第100号掘立柱建物跡出土遺物実測 .....	899
第619図 第78号掘立柱建物跡出土遺物実測図 .....	878	第639図 第101号掘立柱建物跡出土遺物実測 .....	900
第620図 第79号掘立柱建物跡実測図	879	.....	901
第621図 第79号掘立柱建物跡出土遺物実測図	.....	第640図 第102号掘立柱建物跡実測図	901

第641図	第103・104号掘立柱建物跡実測図	903	第666図	第16号溝出土遺物実測図(5)	934
第642図	第103号掘立柱建物跡出土遺物実測 図	904	第667図	第35B号溝実測図(1)	938
			第668図	第35B号溝遺物出土状況図	939
第643図	第105号掘立柱建物跡実測図	905	第669図	第35B号溝実測図(2)	940
第644図	第106号掘立柱建物跡実測図	907	第670図	第35B号溝出土遺物実測図(1)	941
第645図	第107号掘立柱建物跡実測図	908	第671図	第35B号溝出土遺物実測図(2)	942
第646図	第108号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	909	第672図	第35B号溝出土遺物実測図(3)	943
第647図	第109号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	911	第673図	第35B号溝出土遺物実測図(4)	944
			第674図	第82号溝土層断面図	947
第648図	第110号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	912	第675図	第83号溝実測図	947
			第676図	第84A・B号溝実測図	948
第649図	第118号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	914	第677図	第67・81号溝上層断面図	948
			第678図	第4号井戸跡実測図	949
第650図	第119号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	915	第679図	第29号井戸跡実測図	950
			第680図	第30号井戸跡実測図(1)	952
第651図	第121号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	917	第681図	第30号井戸跡実測図(2)	953
			第682図	第30号井戸跡遺物出土状況図(1)	954
第652図	第123号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	919	第683図	第30号井戸跡遺物出土状況図(2)	955
			第684図	第30号井戸跡出土遺物実測図(1)	956
第653図	第124号掘立柱建物跡実測図	920	第685図	第30号井戸跡出土遺物実測図(2)	957
			第686図	第30号井戸跡出土遺物実測図(3)	958
第654図	第124号掘立柱建物跡出土遺物実測図	921	第687図	第30号井戸跡出土遺物実測図(4)	959
			第688図	第30号井戸跡出土遺物実測図(5)	960
第655図	第125号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	922	第689図	第31号井戸跡実測図	963
			第690図	第31号井戸跡出土遺物実測図(1)	963
第656図	第125号掘立柱建物跡出土遺物実測図	923	第691図	第31号井戸跡出土遺物実測図(2)	964
			第692図	第32号井戸跡実測図	965
第657図	第126号掘立柱建物跡実測図	924	第693図	第33号井戸跡実測図	965
			第694図	第5号道路状遺構実測図	966
第658図	第127号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図	925	第695図	第9号道路状遺構実測図	967
			第696図	第20号方形堅穴状遺構・出土遺物 実測図	968
第659図	第16号溝・須恵器大甕出土状況図	928			
			第697図	第21号方形堅穴状遺構・出土遺物 実測図	969
第660図	第16号溝実測図(1)	929			
第661図	第16号溝実測図(2)	930			
第662図	第16号溝出土遺物実測図(1)	930	第698図	第847号土坑実測図	971
第663図	第16号溝出土遺物実測図(2)	931	第699図	第863号土坑・出土遺物実測図	971
第664図	第16号溝出土遺物実測図(3)	932	第700図	第881・886号土坑実測図	972
第665図	第16号溝出土遺物実測図(4)	933	第701図	第881号土坑出土遺物実測図(1)	973

第702図 第881号土坑出土遺物実測図(2) .....	974	第713図 砥石集成図(1) .....	991
第703図 第886号土坑出土遺物実測図 .....	976	第714図 砥石集成図(2) .....	992
第704図 第857・860B・1026・1344号土坑出土 遺物実測図 .....	976	第715図 鋼（鋼）先形十製品集成図 .....	995
第705図 第856・1355号土坑出土遺物実測図 .....	977	第716図 鉄製農具集成図 .....	997
第706図 8区遺構外出土遺物実測図(1) .....	982	第717図 調査8区(8世紀)遺構配置図(1) .....	1002
第707図 8区遺構外出土遺物実測図(2) .....	983	第718図 調査8区(8世紀)遺構配置図(2) .....	1003
第708図 第Ⅰ期出土土器 .....	987	第719図 調査8区(8世紀)遺構配置図(3) .....	1004
第709図 第Ⅱ期出土土器 .....	988	第720図 球集成図 .....	1007
第710図 第Ⅲ期出土土器 .....	988	第721図 腰帶具集成図 .....	1008
第711図 第Ⅳ期出土土器 .....	989	第722図 文字資料集成図(1) .....	1010
第712図 第Ⅴ期出土土器 .....	989	第723図 文字資料集成図(2) .....	1011
		第724図 文字資料集成図(3) .....	1012
		第725図 球、腰帶具、文字資料出土位置図 .....	1013

### 表　日　次

-下　卷-

表12 8区住居跡一覧表 .....	851	表19 各期・各区住居跡数 .....	956
表13 8区掘立柱建物跡一覧表 .....	926	表20 石器・石製品一覧表 .....	992
表14 8区溝一覧表 .....	948	表21 土製品一覧表 .....	995
表15 8区井戸一覧表 .....	966	表22 鉄製農具一覧表 .....	997
表16 8区道路状遺構一覧表 .....	968	表23 球一覧表 .....	1007
表17 8区方形堅穴状遺構一覧表 .....	970	表24 腰帶具一覧表 .....	1008
表18 8区土坑一覧表 .....	977	表25 文字資料一覧表 .....	1014

## 写真図版目次

-下 卷-

P L 1	2区遺構群、4区北部遺構群	970・972・973号住居跡遺物出土状況、第
P L 2	4区北西部遺構群、4区中央部遺構群(1)	970号住居跡遺物出土状況
P L 3	4区中央部遺構群(2)、5区遺構群	P L 19 第973号住居跡竪穴掘状況、第971号住居跡 完掘・遺物出土状況、第974号住居跡完掘 状況
P L 4	8区北部遺構群	P L 20 第975号住居跡完掘状況、第975号住居跡竪 穴掘状況、第976号住居跡完掘状況
P L 5	8区全景、8区南部遺構群	P L 21 第976号住居跡竪穴層断面・遺物出土状況、 第976号住居跡竪穴掘状況、第977号住居跡 完掘状況
P L 6	第80A・B号掘立柱建物跡完掘状況、第35 B号遺物出土状況	P L 22 第977号住居跡竪穴出土状況、第978号住 居跡完掘状況、第978号住居跡竪穴完掘状況
2区		P L 23 第979・985号住居跡完掘状況、第979号住 居跡竪穴掘状況、第980号住居跡完掘状況
P L 7	第1241号住居跡完掘状況、第1245号住居跡 完掘状況、第1246号住居跡遺物出土状況	P L 24 第981号住居跡完掘状況、第983号住居跡完 掘状況、第984号住居跡完掘状況
4区		P L 25 第987号住居跡完掘状況、第987号住居跡竪 穴遺物出土状況、第988号住居跡完掘状況
P L 8	第20・21号住居跡完掘状況、第20号住居跡 竪穴遺物出土状況・第21号住居跡竪穴完掘状 況、第22号住居跡完掘状況	P L 26 第988号住居跡竪穴遺物出土状況、第989号住 居跡完掘状況、第990号住居跡完掘状況
P L 9	第22号住居跡竪穴完掘状況、第23号住居跡完 掘状況、第23号住居跡遺物出土状況	P L 27 第991号住居跡完掘状況、第993号住居跡完 掘状況、第993号住居跡竪穴完掘状況
P L 10	第29号住居跡完掘状況、第129号住居跡完 掘状況、第130号住居跡完掘状況	P L 28 第993号住居跡竪穴遺物出土状況、第994号住 居跡完掘状況、第994号住居跡竪穴完掘状況
P L 11	第130号住居跡竪穴完掘状況、第407号住居跡 完掘状況、第954号住居跡完掘状況	P L 29 第996号住居跡完掘状況、第997号住居跡完 掘状況、第997号住居跡遺物出土状況(1)
P L 12	第954号住居跡竪穴遺物出土状況、第955・ 977・995号住居跡完掘状況、第956号住居 跡完掘状況	P L 30 第997号住居跡遺物出土状況(2)、第997号住 居跡竪穴遺物出土状況、第998号住居跡完 掘状況
P L 13	第956号住居跡遺物出土状況、第956号住居 跡竪穴遺物出土状況、第957号住居跡完 掘状況	P L 31 第999号住居跡完掘状況、第999号住居跡遺 物出土状況、第999号住居跡竪穴遺物出土状 況
P L 14	第958号住居跡完掘状況、第959号住居跡完 掘状況、第960号住居跡完掘状況	P L 32 第1000号住居跡完掘状況、第1001号住居跡 遺物出土状況、第1002号住居跡完掘状況
P L 15	第960号住居跡竪穴遺物出土状況、第961号住 居跡完掘状況、第961号住居跡竪穴完掘状況	
P L 16	第963号住居跡完掘状況、第965・966号住 居跡完掘状況、第967号住居跡完掘状況	
P L 17	第968号住居跡完掘状況、第968号住居跡完 掘状況、第969号住居跡完掘状況	
P L 18	第970・972・973号住居跡完掘状況、第	

P L 33	第1002号住居跡窓完掘状況、第1003号住居跡完掘状況、第1003号住居跡窓遺物出土状況	P L 50	住居跡窓完掘状況、第1051号住居跡窓完掘状況
P L 34	第1006号住居跡完掘状況、第1007号住居跡完掘・遺物出土状況、第1008号住居跡完掘状況	P L 51	第1054号住居跡完掘状況、第1054号住居跡遺物出土状況、第1055号住居跡遺物出土状況
P L 35	第1009号住居跡完掘状況、第1011号住居跡完掘状況、第1012号住居跡完掘状況	P L 52	第1055号住居跡ビット3遺物出土状況、第1055号住居跡ビット4遺物出土状況、第1056号住居跡完掘状況
P L 36	第1012号住居跡遺物出土状況、第1012号住居跡窓完掘状況、第1013号住居跡窓完掘状況	P L 53	第1056号住居跡窓完掘状況、第1059号住居跡窓完掘状況、第1059号住居跡窓遺物出土状況
P L 37	第1014号住居跡窓完掘状況、第1017号住居跡窓完掘状況、第1018号住居跡窓完掘状況	P L 54	第1060号住居跡完掘状況、第1060号住居跡遺物出土状況、第1060号住居跡窓遺物出土状況
P L 38	第1019号住居跡窓完掘状況、第1019号住居跡窓灰出土状況、第1020号住居跡窓完掘状況	P L 55	第1061号住居跡窓完掘状況、第1061号住居跡遺物出土状況、第1062号住居跡窓完掘状況
P L 39	第1023号住居跡窓完掘状況、第1024号住居跡窓完掘状況、第1027号住居跡窓完掘状況	P L 56	第1063号住居跡窓完掘状況、第1063号住居跡壁掘り方状況、第1063号住居跡窓遺物出土状況
P L 40	第1027号住居跡窓遺物出土状況、第1028号住居跡窓完掘状況、第1028号住居跡窓完掘状況	P L 57	第1064号住居跡窓完掘状況、第1064号住居跡窓遺物出土状況、第1065号住居跡窓完掘状況
P L 41	第1030号住居跡窓完掘状況、第1030号住居跡窓灰出土状況、第1031号住居跡窓完掘状況	P L 58	第1065号住居跡窓遺物出土状況、第1067号住居跡窓完掘状況、第1067号住居跡窓完掘状況
P L 42	第1032号住居跡窓完掘状況、第1032号住居跡窓遺物出土状況、第1033号住居跡窓完掘状況	P L 59	第1068号住居跡窓完掘状況、第1068号住居跡窓遺物出土状況
P L 43	第1033号住居跡窓遺物出土状況、第1034号住居跡窓完掘状況、第1034号住居跡窓遺物出土状況	P L 60	第1069号住居跡窓完掘状況、第1069号住居跡窓完掘状況、第1069号住居跡窓遺物出土状況
P L 44	第1035号住居跡窓完掘状況、第1035号住居跡窓完掘状況、第1037号住居跡窓完掘状況	P L 61	第1070号住居跡窓完掘状況、第1070号住居跡窓遺物出土状況、第1071号住居跡窓完掘状況
P L 45	第1040号住居跡窓完掘状況、第1040号住居跡窓遺物出土状況、第1042号住居跡窓完掘状況	P L 62	第1071号住居跡窓遺物出土状況、第1072号住居跡窓完掘状況、第1073号住居跡窓完掘状況
P L 46	第1043号住居跡窓完掘状況、第1044・1045号住居跡窓完掘状況、第1045号住居跡窓完掘状況	P L 63	第1073号住居跡窓遺物出土状況、第1074号住居跡窓完掘状況、第1074号住居跡窓遺物出土状況
P L 47	第1046号住居跡窓完掘状況、第1047号住居跡窓完掘状況、第1047号住居跡窓遺物出土状況	P L 64	第1075号住居跡窓遺物出土状況(1)・(2)、第
P L 48	第1047・1048号住居跡窓完掘状況、第1049号住居跡窓完掘状況、第1049号住居跡窓遺物出土状況		
P L 49	第1049号住居跡窓遺物出土状況、第1049号住		

	1075号住居跡発灰出土状況		完掘状況, 第1148号住居跡遺物出土状況
P L 65	第1076号住居跡完掘状況, 第1076号住居跡遺物出土状況, 第1077号住居跡完掘状況	P L 82	第1149号住居跡遺物出土状況, 第1149号住居跡竪窓完掘状況, 第1154号住居跡完掘状況
P L 66	第1077号住居跡遺物出土状況, 第1077号住居跡竪窓部内遺物出土状況, 第1078号住居跡完掘状況	P L 83	第1154号住居跡竪窓完掘状況, 第1155号住居跡完掘状況, 第1157号住居跡完掘状況
P L 67	第1078号住居跡竪窓完掘状況, 第1080号住居跡完掘状況, 第1080号住居跡遺物出土状況	P L 84	第1158号住居跡完掘状況, 第1159号住居跡完掘状況, 第1161号住居跡完掘状況
P L 68	第1080号住居跡発光洞状況, 第1100号住居跡完掘状況, 第1101号住居跡完掘状況	P L 85	第1162号住居跡完掘状況, 第1163号住居跡完掘状況, 第1163号住居跡遺物出土状況(1)
P L 69	第1102号住居跡完掘状況, 第1104号住居跡完掘状況, 第1106号住居跡完掘状況	P L 86	第1163号住居跡遺物出土状況(2), 第1163号住居跡竪窓完掘状況, 第1164号住居跡完掘状況
P L 70	第1107号住居跡完掘状況, 第1109号住居跡完掘状況, 第1110号住居跡完掘状況	P L 87	第1165号住居跡完掘状況, 第1165号住居跡遺物出土状況, 第1166号住居跡完掘状況
P L 71	第1110号住居跡竪窓竪穴完掘状況, 第1110号住居跡遺物出土状況, 第1113号住居跡完掘状況	P L 88	第1166号住居跡竪窓完掘状況, 第1168号住居跡完掘状況, 第1170号住居跡完掘状況
P L 72	第1115号住居跡完掘状況, 第1115号住居跡遺物出土状況(1)・(2)	P L 89	第1171号住居跡完掘状況, 第1172号住居跡・第821号十坑完掘状況, 第1172号住居跡竪窓完掘状況
P L 73	第1116号住居跡完掘状況, 第1119号住居跡完掘状況, 第1120号住居跡完掘状況	P L 90	第1173号住居跡遺物出土状況, 第1456号住居跡完掘状況, 第1461号住居跡完掘状況
P L 74	第1121号住居跡完掘状況, 第1122号住居跡完掘状況, 第1122号住居跡遺物出土状況	P L 91	第1463号住居跡完掘状況, 第1464号住居跡完掘状況, 第1465号住居跡完掘状況
P L 75	第1123号住居跡完掘状況, 第1123号住居跡遺物出土状況, 第1123号住居跡発光洞完掘状況	P L 92	第1465号住居跡遺物出土状況, 第53号掘立柱建物跡完掘状況, 第54号掘立柱建物跡完掘状況
P L 76	第1128号住居跡完掘状況, 第1131・1136・1138・1139号住居跡発光洞(1)・(2)	P L 93	第55号掘立柱建物跡完掘状況, 第55号掘立柱建物跡ピット7完掘状況, 第56号掘立柱建物跡完掘状況
P L 77	第1133号住居跡完掘状況, 第1134号住居跡完掘状況, 第1133・1134号住居跡遺物出土状況	P L 94	第57号掘立柱建物跡完掘状況, 第57号掘立柱建物跡堀り方完掘状況, 第57号掘立柱建物跡ピット6掘り方完掘状況
P L 78	第1140号住居跡完掘状況, 第1144号住居跡完掘状況, 第1144号住居跡遺物出土状況	P L 95	第58号掘立柱建物跡完掘状況, 第59号掘立柱建物跡完掘状況, 第60号掘立柱建物跡完掘状況
P L 79	第1144号住居跡竪窓完掘状況, 第1145号住居跡完掘状況, 第1145号住居跡遺物出土状況	P L 96	第129号掘立柱建物跡完掘状況, 第1号鍛冶工房跡完掘状況, 第9号方形窓穴状造構完掘状況
P L 80	第1145号住居跡竪窓遺物出土状況, 第1146号住居跡完掘状況, 第1146号住居跡遺物出土状況		
P L 81	第1147号住居跡完掘状況, 第1148号住居跡		

P L 97	第10号方形堅穴状遺構完掘状况, 第11号方形堅穴状遺構完掘状况, 第12号方形堅穴状遺構完掘状况	1451号住居跡完掘状况, 第1451号住居跡遺物出土状况
P L 98	第13号方形堅穴状遺構完掘状况, 第14号方形堅穴状遺構完掘状况, 第15号方形堅穴状遺構完掘状况	P L 107 第1452号住居跡完掘状况, 第1453号住居跡完掘状况, 第1453号住居跡遺物出土状况
P L 99	第16号方形堅穴状遺構完掘状况, 第17号方形堅穴状遺構完掘状况, 第18号方形堅穴状遺構完掘状况	P L 108 第1454号住居跡完掘状况, 第1455号住居跡完掘状况, 第1458号住居跡完掘・遺物出土状况
P L 100	第19号方形堅穴状遺構完掘状况, 第35A号溝完掘状况(1)・(2)	P L 109 第1458号住居跡遺物出土状况, 第1459号住居跡完掘状况, 第128号掘立柱建物跡完掘状况 8区
P L 101	第59号溝完掘状况, 第60号溝完掘状况(1)・(2)・(3), 第62号溝完掘状况, 第63号溝完掘状况, 第65号溝完掘状况, 第28号井戸跡完掘状况(1)	P L 110 第520号住居跡完掘状况, 第520号住居跡遺物出土状况, 第520号住居跡完掘状况
P L 102	第28号井戸跡完掘状况(2), 第21号地下式壙完掘状况, 第22号地下式壙完掘状况, 第23号地下式壙完掘状况, 第24号地下式壙完掘状况, 第25号地下式壙完掘状况, 第26号地下式壙完掘状况, 第4号ピット群完掘状况	P L 111 第926号住居跡完掘状况, 第931号住居跡遺物出土状况, 第933号住居跡完掘状况
P L 103	第5号ピット群完掘状况, 第6号ピット群完掘状况, 第120号上坑完掘状况, 第723号土坑完掘状况, 第736号土坑遺物出土状况, 第742号上坑完掘状况, 第754号上坑完掘状况, 第755号土坑遺物出土状况	P L 112 第933号住居跡遺物出土状况(1)・(2), 第936号住居跡完掘状况
P L 104	第766・769号土坑完掘状况, 第775号土坑完掘状况, 第776・777号土坑完掘状况, 第778・785号土坑完掘状况, 第781・782号上坑完掘状况, 第788～790・792・793・795号土坑完掘状况, 第794号土坑完掘状况, 第809号土坑完掘状况	P L 113 第939・941・944号住居跡完掘状况, 第941号住居跡遺物出土状况, 第945号住居跡完掘状况
P L 105	第811号上坑完掘状况, 第812号土坑完掘状况, 第814・815号土坑完掘状况, 第833号土坑完掘状况, 第900号上坑完掘状况, 第903号土坑完掘状况, 第906号土坑完掘状况, 第913号上坑完掘状况	P L 114 第1200号住居跡完掘状况, 第1200号住居跡遺物出土状况(1)・(2)
5区		P L 115 第1200号住居跡完掘状况, 第1201号住居跡完掘状况, 第1201号住居跡遺物出土状况
P L 106	第748号住居跡ピット2遺物出土状况, 第	P L 116 第1202号住居跡完掘状况, 第1203号住居跡完掘状况, 第1203号住居跡完掘状况
		P L 117 第1204号住居跡完掘状况, 第1204号住居跡遺物出土状况, 第1207号住居跡完掘状况
		P L 118 第1207号住居跡遺物出土状况, 第1208・1209号住居跡完掘状况, 第1208号住居跡遺物出土状况
		P L 119 第1208号住居跡遺物出土状况, 第1209号住居跡完掘状况, 第1209号住居跡遺物出土状况
		P L 120 第1210号住居跡完掘状况, 第1210号住居跡遺物出土状况
		P L 121 第1211号住居跡完掘状况, 第1211号住居跡

	遗物出土状况(1) · (2)		遗物出土状况, 第1234号住居跡遺物出土
P L122	第1211号住居跡遺物完掘状况, 第1211号住居跡遺物出土状况, 第1214号住居跡完掘状况		状况
P L123	第1214号住居跡遺物出土状况, 第1214号住居跡遺物出土状况, 第1215号住居跡完掘状况	P L138	第1235号住居跡完掘状况, 第1235号住居跡遺物出土状况
P L125	第1219号住居跡完掘状况, 第1219号住居跡遺物出土状况, 第1219号住居跡完掘状况	P L139	第1236号住居跡完掘状况, 第1236号住居跡遺物出土状况, 第1236号住居跡遺物出土状况
P L126	第1220号住居跡完掘状况, 第1220号住居跡遺物出土状况(1) · (2)	P L140	第1238号住居跡 · 第880号上坑完掘状况, 第1238号住居跡遺物出土状况(1) · (2)
P L127	第1220号住居跡遺物完掘状况, 第1221号住居跡完掘状况, 第1221号住居跡遺物出土状况	P L141	第1239号住居跡完掘状况, 第1239号住居跡遺物出土状况, 第1239号住居跡遺物出土状况
P L128	第1221号住居跡遺物完掘状况, 第1221号住居跡袖部断裂 · 遗物出土状况, 第1222号住居跡完掘状况	P L142	第1241号住居跡完掘状况, 第1241号住居跡遺物出土状况, 第1241号住居跡遺物出土状况
P L129	第1222号住居跡遺物出土状况, 第1222号住居跡遺物完掘状况, 第1223号住居跡完掘状况	P L143	第1242号住居跡遺物出土状况, 第1243号住居跡完掘状况
P L130	第1223号住居跡遺物出土状况, 第1223号住居跡遺物出土状况	P L144	第1401号住居跡完掘状况, 第1401号住居跡遺物出土状况(1) · (2)
P L131	第1224 · 1225 · 1230号住居跡完掘状况, 第1224 · 1225 · 1230号住居跡遺物出土状况, 第1226号住居跡完掘状况	P L145	第1401号住居跡遺物出土状况(3), 第1404号住居跡完掘状况, 第1404号住居跡遺物出土状况
P L132	第1226号住居跡遺物出土状况, 第1226号住居跡遺物完掘状况, 第1227号住居跡完掘状况	P L146	第1405号住居跡完掘状况, 第1405号住居跡遺物出土状况, 第1407号住居跡完掘状况
P L133	第1227号住居跡遺物出土状况, 第1227号住居跡遺物完掘状况, 第1228号住居跡完掘状况	P L147	第1408 · 1409 · 1420号住居跡完掘状况, 第1410号住居跡完掘状况, 第1410号住居跡遺物出土状况
P L134	第1228号住居跡遺物出土状况, 第1228号住居跡遺物完掘状况, 第1231号住居跡完掘状况	P L148	第1410号住居跡完掘状况, 第1411号住居跡遺物出土状况
P L135	第1231号住居跡遺物出土状况, 第1231号住居跡遺物付近遺物出土状况, 第1231号住居跡遺物出土状况	(1)	
P L136	第1233号住居跡完掘状况, 第1233号住居跡遺物出土状况, 第1233号住居跡遺物完掘状况	P L149	第1411号住居跡遺物出土状况(2), 第1412号住居跡完掘状况, 第1412号住居跡遺物出土状况
P L137	第1234号住居跡完掘状况, 第1234号住居跡	P L150	第1413号住居跡完掘状况, 第1413号住居跡遺物出土状况, 第1413号住居跡遺物完掘状况
		P L151	第1414号住居跡完掘状况, 第1414 · 1415号住居跡遺物出土状况, 第1414号住居跡遺物出土状况
		P L152	第1415号住居跡完掘状况, 第1417号住居跡

	完掘状况，第1419号住居跡完掘状况	跡完掘状况
P L153	第1420号住居跡完掘状况，第1421号住居跡完掘状况，第1421号住居跡遺物出土状况(1)	P L168 第46号掘立柱建物跡完掘状况，第46·121·123号掘立柱建物跡完掘状况，第47号掘立柱建物跡完掘状况
P L154	第1421号住居跡遺物出土状况(2)，第1422号住居跡完掘状况，第1423号住居跡遺物出土状况	P L169 第70号掘立柱建物跡完掘状况，第71号掘立柱建物跡完掘状况，第72号掘立柱建物跡完掘状况
P L155	第1424号住居跡完掘状况，第1424号住居跡遺物出土状况，第1424号住居跡遺物完掘状况	P L170 第73号掘立柱建物跡完掘状况，第74号掘立柱建物跡完掘状况，第75号掘立柱建物跡完掘状况
P L156	第1424号住居跡遺物出土状况，第1425 A·B号住居跡完掘状况，第1425A号住居跡遺物出土状况	P L171 第77号掘立柱建物跡完掘状况，第78号掘立柱建物跡完掘状况，第79号掘立柱建物跡完掘状况
P L157	第1425A号住居跡炭化材·炭化物出土状况，第1425A·B号住居跡遺物完掘状况，第1426号住居跡完掘状况	P L172 第81号掘立柱建物跡完掘状况，第82号掘立柱建物跡完掘状况，第83号掘立柱建物跡完掘状况
P L158	第1427号住居跡完掘状况，第1427号住居跡蓋完掘状况，第1428号住居跡完掘状况	P L173 第84号掘立柱建物跡完掘状况，第85号掘立柱建物跡完掘状况，第87号掘立柱建物跡完掘状况
P L159	第1428号住居跡遺物出土状况，第1428号住居跡遺物出土状况，第1429号住居跡完掘状况	P L174 第88号掘立柱建物跡完掘状况，第89号掘立柱建物跡完掘状况，第100号掘立柱建物跡完掘状况
P L160	第1429号住居跡遺物出土狀況(1)·(2)，第1429·1430·1432号住居跡完掘状况	P L175 第101号掘立柱建物跡完掘状况，第102号掘立柱建物跡完掘状况，第103号掘立柱建物跡完掘状况
P L161	第1430号住居跡遺物完掘状况，第1431号住居跡完掘状况，第1431号住居跡遺物出土状况	P L176 第104号掘立柱建物跡完掘状况，第105号掘立柱建物跡完掘状况，第106号掘立柱建物跡完掘状况
P L162	第1431号住居跡蓋完掘状况，第1432号住居跡完掘状况，第1439号住居跡完掘状况	P L177 第107号掘立柱建物跡完掘状况，第108号掘立柱建物跡完掘状况，第109号掘立柱建物跡完掘状况
P L163	第1439号住居跡遺物出土状况，第1440号住居跡完掘状况，第1441号住居跡完掘状况	P L178 第110号掘立柱建物跡完掘状况，第118·127号掘立柱建物跡完掘状况，第119号掘立柱建物跡完掘状况
P L164	第1441号住居跡遺物出土状况，第1442号住居跡完掘状况，第1442号住居跡遺物出土状况	P L179 第120号掘立柱建物跡完掘状况，第121号掘立柱建物跡完掘状况，第123号掘立柱建物跡完掘状况
P L165	第1442号住居跡遺物出土状况，第1443号住居跡完掘状况，第1443号住居跡遺物出土状况	P L180 第124号掘立柱建物跡完掘状况，第125·
P L166	第1445A号住居跡完掘状况，第1445A号住居跡遺物出土状况，第1445A号住居跡蓋完掘状况	
P L167	第37号掘立柱建物跡完掘状况，第41号掘立柱建物跡完掘状况，第41·45号掘立柱建物	

P L 181	126号掘立柱遗物出土状况, 8区遗物群第16号满完掘状况, 第16·35B号满完掘状况, 第16号满遗物出土状况(1)·(2)·(3)	P L 193	第881·884·886·887号土坑完掘状况, 第881号上坑灰出土状况, 第881·884·886·887号土坑遗物出土状况, 第885号土坑完掘状况, 第889号土坑完掘状况
P L 182	第35B号溝北側完掘状况, 第35B号溝遺物出土状况(1)·(2)	P L 194	第892号上坑完掘状况, 第893号土坑完掘状况, 第895号土坑完掘状况, 第898号土坑完掘状况, 第980号土坑完掘状况, 第981号土坑完掘状况, 第983号土坑完掘状况, 第987号土坑完掘状况
P L 183	第35B号溝遺物出土状况(3)·(4), 第35B号溝土堆積狀況	P L 195	第989号土坑完掘状况, 第991号土坑完掘状况, 第994号土坑完掘状况, 第995号土坑完掘状况, 第996号土坑完掘状况, 第998号土坑完掘状况, 第999号土坑完掘状况, 第1000号土坑完掘状况
P L 184	第67号溝完掘状况, 第81号溝完掘状况, 第82号溝完掘状况	P L 196	第1003号土坑完掘状况, 第1006号土坑完掘状况, 第1010号上坑完掘状况, 第1013号上坑完掘状况, 第1014号上坑完掘状况, 第1015号土坑完掘状况, 第1025号上坑完掘状况, 第1026号遺物出土狀況
P L 185	第84号溝遺物出土狀況, 第86号溝1~3區完掘狀況, 第86号溝2·3區完掘狀況	P L 197	第1027号上坑完掘狀況, 第1028号上坑完掘狀況, 第1029号土坑完掘狀況, 第1030号土坑完掘狀況, 第1032号土坑完掘狀況, 第1037号上坑遺物出土狀況, 第1041·1042号土坑完掘狀況, 第1046A·B号土坑完掘狀況
P L 186	第30号井戶跡完掘狀況, 第30号井戶跡遺物出土狀況(1)·(2)	P L 198	第1049号上坑完掘狀況, 第1051号土坑完掘狀況, 第1052号土坑遺物出土狀況, 第1053号土坑完掘狀況, 第1054号土坑完掘狀況, 第1055号土坑完掘狀況, 第1056号土坑完掘狀況, 第1061号土坑完掘狀況
P L 187	第30号井戶跡馬骨出土狀況(1)·(2), 第30号井戶跡完掘狀況(1)·(2), 第30号井戶跡遺物出土狀況(1)·(2)	P L 199	第1057号上坑完掘狀況, 第1069号土坑完掘狀況, 第1079号土坑完掘狀況, 第1081号土坑完掘狀況, 第1082号土坑完掘狀況, 第1083号土坑完掘狀況, 第1084号土坑完掘狀況, 第1098号土坑完掘狀況
P L 188	第29号井戶跡完掘狀況, 第31号井戶跡完掘狀況, 第32号井戶跡完掘狀況	P L 200	第1250号土坑完掘狀況, 第1259号土坑完掘狀況, 第1263号土坑完掘狀況, 第1270号土坑完掘狀況, 第1331号土坑完掘狀況, 第
P L 189	第690号上坑完掘狀況, 第834号土坑完掘狀況, 第835号土坑完掘狀況, 第836号土坑完掘狀況, 第839号土坑完掘狀況, 第841·842号土坑完掘狀況, 第845号土坑完掘狀況, 第846号土坑完掘狀況		
P L 190	第848号土坑完掘狀況, 第850号土坑完掘狀況, 第851号土坑完掘狀況, 第852号土坑完掘狀況, 第853号土坑完掘狀況, 第855号土坑完掘狀況, 第856号土坑完掘狀況, 第857号土坑完掘狀況		
P L 191	第858号上坑完掘狀況, 第860A·B号土坑完掘狀況, 第861号上坑完掘狀況, 第862号土坑完掘狀況, 第863号土坑完掘狀況, 第864号上坑完掘狀況, 第865号土坑遺物出土狀況		
P L 192	第866号上坑完掘狀況, 第867号土坑完掘狀況, 第867号土坑遺物出土狀況, 第868号土坑完掘狀況, 第869号土坑完掘狀況, 第870号土坑完掘狀況, 第871号土坑完掘狀況, 第872号土坑完掘狀況		

	1343号土坑完掘状况，第1344号土坑遺物出土状况，第1345号土坑完掘状况	P L 219 第1163·1166·1463·1465号住居跡出土上器，出土土製品
2区		P L 220 出土土製品，鐵器，鐵製品
P L 201	第1244·1245·1246号住居跡出土土器，遺構外出土土器	P L 221 出土鐵器，鐵製品，石製品
4区		P L 222 出土土製品，石器，石製品
P L 202	第20·21·22·407·956·966号住居跡出土土器	P L 223 第129·954·965·976·977·982号住居跡出土土器
P L 203	第956·957·958号住居跡出土土器	P L 224 第985·988·989·993·997号住居跡出土土器
P L 204	第960·963·964·968·970·971号住居跡出土土器	P L 225 第997·999·1003号住居跡出土土器
P L 205	第970·971·972·973·974·975·978·979号住居跡出土土器	P L 226 第1003·1009·1013·1014·1017·1019·1027号住居跡出土土器
P L 206	第974·975·978·979·981·987号住居跡出土土器	P L 227 第1003·1027·1028·1030·1039·1042·1059号住居跡出土土器
P L 207	第987·990·991·994·998·1002号住居跡出土土器	P L 228 第1030·1035·1042·1043·1046·1052·1053·1056·1059号住居跡出土土器
P L 208	第1001·1002·1007·1008·1010·1012号住居跡出土土器	P L 229 第1042·1052·1053·1056·1059·1060·1062·1065号住居跡出土土器
P L 209	第1012·1029·1032·1034·1037·1040号住居跡出土土器	P L 230 第1046·1060·1065·1066·1068·1069·1070号住居跡出土土器
P L 210	第1032·1034·1044·1045·1048·1049·1051号住居跡出土土器	P L 231 第1069·1070·1071·1072·1073号住居跡出土土器
P L 211	第1049·1051·1055·1061·1063·1064号住居跡出土土器	P L 232 第1073·1077·1101·1104·1109·1113号住居跡出土土器
P L 212	第1064·1074·1075·1076·1078号住居跡出土土器	P L 233 第1104·1112·1120·1124·1126·1128·1135·1136·1138·1140·1141号住居跡出土土器
P L 213	第1078·1079·1080·1103·1110号住居跡出土土器	P L 234 第1140·1146·1147·1149号住居跡出土土器
P L 214	第1078·1080·1110·1115号住居跡出土土器	P L 235 第1146·1148·1149·1151·1153·1157·1158·1168·1169·1172·1173·1176·1461号住居跡出土土器
P L 215	第1110·1115·1119·1121·1122·1123号住居跡出土土器	P L 236 第1158·1169号住居跡出土土器，出土土製品，出土鐵器，鐵製品，第1号鍛冶工房跡出土鷄羽口
P L 216	第1122·1123·1133·1134·1139·1144·1145·1154号住居跡出土土器	P L 237 出土鐵器，鐵製品
P L 217	第1144·1145·1159·1163号住居跡出土土器	P L 238 出土鐵器，鐵製品，第1号鍛冶工房跡出土粒状淬·鑄造剝片（大·中·小）
P L 218	第1163·1165·1166号住居跡出土土器	

- P L239 出土石器・石製品
- P L240 第28・59号掘立柱建物跡出土土器, 第28号  
井戸跡出土土器, 第755・1416号上杭州上  
土器, 第57号掘立柱建物跡出土土製品, 第  
35A号溝, 第794号出土古錢, 第35A号溝  
出土土製品, 道構外出土遺物
- P L241 道構外出土遺物  
5区
- P L242 第748・1451・1452・1453・1458・1459・  
1460号住居跡出土土器, 第128号掘立柱建  
物跡出土土器
- P L243 第509・919・926・927・933・943・1200号  
住居跡出土土器
- P L244 第943・1200・1207・1211号住居跡出土土  
器
- P L245 第1211・1216・1219号住居跡出土土器
- P L246 第1216・1219・1224・1235・1243・1401号  
住居跡出土土器
- P L247 第1401・1405・1409・1416・1417・1419・  
1421号住居跡出土土器
- P L248 第1421・1422号住居跡出土土器
- P L249 第1422・1423・1424・1426・1427・1429号  
住居跡出土土器
- P L250 第1429・1430・1434・1439号住居跡出土土  
器
- P L251 第1439・1441・1445A号住居跡出土土器
- P L252 第1441・1445A号住居跡出土土器
- P L253 出土土製品
- P L254 出土土製品・鉄器・銅製品・石器・石製品
- P L255 第514・520・918・931・936・1201・1203  
号住居跡出土土器
- P L256 第1203・1204・1205・1208・1209・1210・  
1213号住居跡出土土器
- P L257 第1210・1212・1213・1214・1215・1218・  
1220・1221号住居跡出土土器
- P L258 第1220・1221・1222・1223・1226・1231号  
住居跡出土土器
- P L259 第1222・1225・1226・1227・1231・1232・  
1233号住居跡出土土器
- P L260 第1226・1232・1233・1234号住居跡出土土  
器
- P L261 第1234・1236・1238号住居跡出土土器
- P L262 第1237・1238・1239・1241号住居跡出土土  
器
- P L263 第1237・1241・1242号住居跡出土土器
- P L264 第1242・1408・1410・1411・1412号住居跡  
出土土器
- P L265 第1408・1410・1412・1413・1414・1415・  
1420号住居跡出土土器
- P L266 第1413・1420・1425A・1425B号住居跡出  
出土土器
- P L267 第1425A・1428・1431号住居跡出土土器
- P L268 第1431・1432・1442・1443・1447号住居跡  
出土土器
- P L269 第37・47・70・71・73・74・75・78・79・  
80A・80B・81号掘立柱建物跡出土土器
- P L270 第81・86・88・109・124・125号掘立柱建  
物跡出土土器, 第16号溝出土土器
- P L271 第75・84・85・86・87A・89・100・101・  
103・108・109・118・121・127号掘立柱建  
物跡出土土器, 第16号溝出土土器
- P L272 第16号溝出土土器
- P L273 第16・35B号溝出土土器
- P L274 第16・35B号溝出土土器
- P L275 第35B号溝出土土器
- P L276 第30号井戸跡出土土器
- P L277 第30号井戸跡出土土器, 第856・857・881  
号土坑出土土器
- P L278 第30号井戸跡出土土器, 第881・886号土坑  
出土土器
- P L279 第31号井戸跡出土土器, 第881・886・  
1026・1344・1355号七坑出土土器, 第21  
号方形窓穴状造構出土土器, 道構外出土  
土器
- P L280 出土土製品・鉄器

P L 281 出土鉄器・鉄製品・銅製品

P L 282 出土鉄器・鉄製品・古錢

P L 283 出土鉄器・鉄製品・鉄滓

P L 284 出土石器・石製品・木製品

## 付 図

付図1 熊の山遺跡4区遺構全体図

付図2 熊の山遺跡8区遺構全体図

付図3 熊の川遺跡遺構全体図

## (2) 挖立柱建物跡

調査8区からは、53棟の掘立柱建物跡が検出されている。内訳は、古墳時代後期のものが1棟、奈良・平安時代のものが、北部で19棟、南部で33棟の計52棟である。その内、『茨城県教育財團文化財調査報告』第166集で既に報告されている4棟を除いた49棟について掲載する。

### ①古墳時代

#### 第120号掘立柱建物跡（第599図）

位置 調査8区の西部。M8h6区。

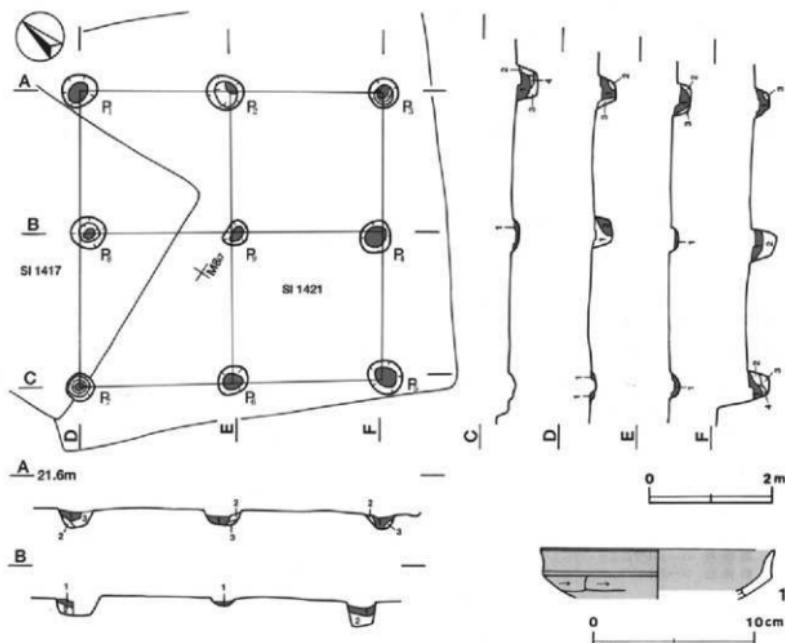
重複関係 全体が第1421号住居に、北部が第1417号住居に掘り込まれている。

規模 2間×2間の縦柱式の建物跡で、一辺の長さ4.80m、柱間寸法は2.30～2.50mである。柱穴は9か所（P1～P9）で、平面形は長径0.40～0.58m、短径0.36～0.50mの円形または椭円形であり、断面形はU字形を呈し、深さは14～40cmである。

桁行方向 N-33°-W

柱穴覆土 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、第2～4層は埋土と考えられる。

- P 1～P 9 土層解説（各柱穴共通）
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
  - 2 淡褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
  - 3 黑褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
  - 4 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量



第599図 第120号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**遺物** 上部器片22点が、P 1・P 2・P 4・P 5・P 8・P 9の埋土及びP 5の柱の抜き取り痕から出土している。第599図1の十師器坏は、P 5の柱の抜き取り痕から出土している。

**所見** 本跡の時期は、6世紀後葉から7世紀前葉の第1421号住居に掘り込まれていることと、出土土器から、6世紀後半と考えられる。

第120号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手次	特徴	出土・保護・成成	備考
599図 1 上部器	坏	A [34.2] B [30]	体部がU字形跡にかけての破片。 体部は内側に立ち上がり、U字形 部との間に明瞭な境をもつ。口縁 部はわずかに外傾する。	U字形内部・外縁横ナギ。体部外縁 横幅のヘラ削り。内・外縁黒色施 加。	砂埃・苔斑・本色 に赤褐色 普通	P599 10%	

② 奈良・平安時代

### 第37号掘立柱建物跡（第600図）

**位置** 調査8区の北部に、「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する。L9d0K。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査もP 4・P 5の東半以東のP 1～P 3が平成9年度、それ以外のP 6～P 10が平成11年度と両年度にわたった。平成11年度調査区で検出されたP 6～P 10は、確認面での平面形が隅九長方形の柱穴が重複しており、それらの柱穴それぞれに柱痕がみられた。このことから、重複または建て替えの可能性があるとして調査を開始した。しかし、土層断面において重複関係は認められないことから、平成9年度に調査した第37号掘立柱建物跡として調査した。

**重複関係** 北部のP 5・P 9・P 10の上部が、第82号溝に掘り込まれている。

**規模** 柱行3間、梁行2間の倒柱式の建物跡で、柱行長6.94m、梁行長4.88mである。柱間寸法は柱行2.20～2.50m、梁行2.40～2.80mである。柱穴は10か所（P 1～P 10）で、平面形が長軸（径）0.96～1.50m、短軸（径）0.62～1.30mの円形、梢円形、隅九長方形であり、断面形が逆台形状または、建物の内側に面した部分が浅い二段掘り状を呈し、深さは46～76cmである。特に、P 7・P 9の深さはそれぞれ68・76cmで、P 6・P 8・P 10の深さはそれぞれ53～66cmであり、南北・北西コーナーに位置するP 7・P 9は、それ以外の柱穴よりやや深い。

**柱行方向** N-88° - E

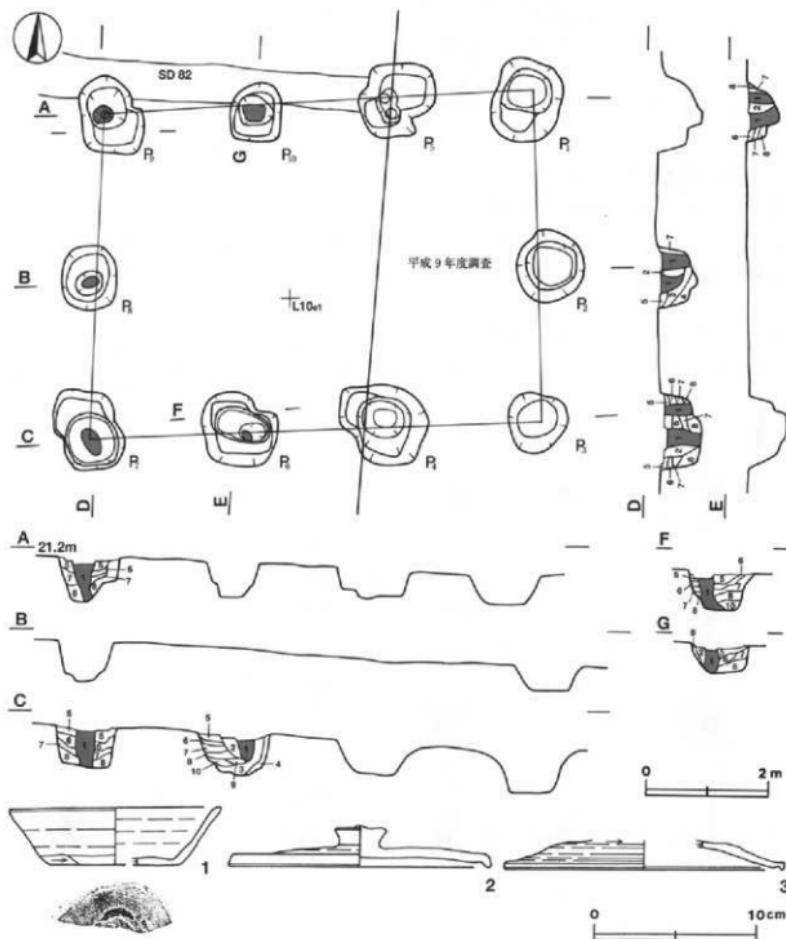
**柱穴覆土** 上層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む暗褐色・黒褐色土で、版塗状に突き固められている。

#### P 6～P 10土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒々・焼け粒子・炭化粒子少量。しまり弱い。
- 2 棕褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒々・炭化粒子少量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒々少量
- 4 黑褐色 フコム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒々少量
- 5 棕褐色 コーム小ブロック・ローム粒々中量、ローム中ブロック少量
- 6 棕褐色 ローム中ブロック・ローム粒々中量、ローム粒々少量
- 7 黑褐色 ローム小ブロック・コーム粒々中量
- 8 棕褐色 ローム小ブロック・ローム粒々・炭化粒子少量
- 9 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・コーム粒々少量
- 10 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒々中量、ローム中ブロック少量

**遺物** 猶意器片12点、土師器片75点が、P 4・P 6～P 10の埋土から出土している。土師器片は細片であり、古墳時代後期のもので、混入したと思われる。第600図1の須意器坏はP 7、2の須意器蓋はP 6、3の須意器蓋はP 10の、それぞれ埋土から出土している。

所見 本跡のP 6～P 10で検出された建物の内側部分に位置する柱痕は、外側部分に位置するものより規模が小さく、また、掘り方も浅いことから、東柱の可能性がある。本跡は、調査8区の北部に「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する東西棟であり、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集に掲載されている第38号掘立柱建物跡と時期及び桁行方向が一致する。また、本跡の南部に位置する南北棟の第47・124・125号掘立柱建物跡と時期がほぼ一致していることから、これらは、同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第600図 第37号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第37号掘立柱建物跡出土遺物観察表

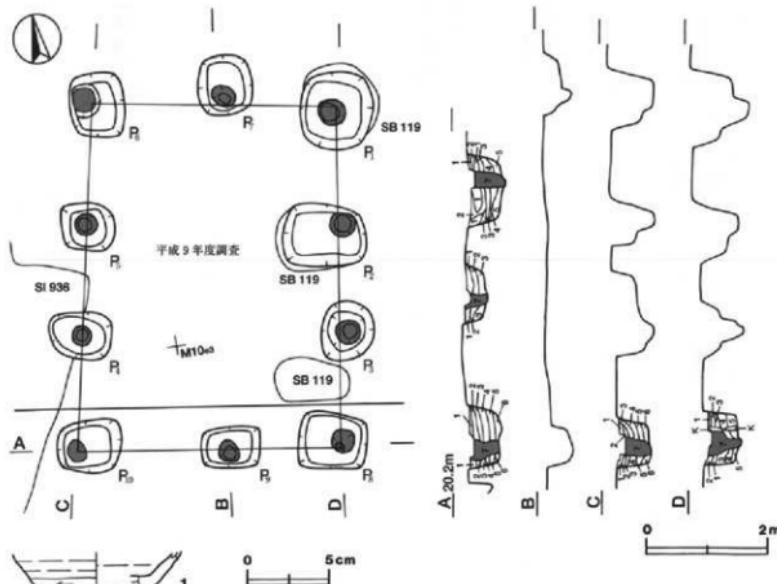
国版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第600図 1	環 頸 恵 器	A [13.0] B 3.5 C [ 8.0]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり。 口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面クロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回 転ヘラ切り痕を残す。ヘラ削り。 普通	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P 8882 50% P L 269
2	蓋 頸 恵 器	A [16.0] B 2.4 F 3.1 G 1.1	天井部から口縁部にかけての破片。 天井頂部は平底で外方に開き、外 周部はなだらかに下降する。口縁 部は傾斜し、傾く垂下する。つま みは鑿宝珠状。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部 口縁部クロナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P 8883 35% P L 269
3	蓋 頸 恵 器	A [17.2] B [ 18]	天井部から口縁部にかけての破片。 天井頂部は平底で、外周部はなだ らかに下降する。口縁部は屈曲し、 傾く垂下する。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部 口縁部クロナデ。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P 8885 10%

第41号掘立柱建物跡（第601図）

位置 調査8区の北部。M10d2区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査もP3・P4の柱穴以北が平成9年度、それ以南のP8～P10の柱穴が平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 北東部のP1・P2で第119号掘立柱建物跡を掘り込み、南西部のP4が第936号住居に掘り込まれている。

規模 柱行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、柱行長5.60m、梁行長4.27mである。柱間寸法は柱行1.75～2.00m、梁行1.80～2.50mである。柱穴は10か所（P1～P10）で、平面形が長軸0.80～1.34m、短軸0.67～



第601図 第41号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

1.18mの隅丸方形・隅丸長方形であり、断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し、深さは148~94cmである。

航行方向 N-10°-E

柱穴埋土 土層断面図中、第7層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む結褐色・褐色土で、版築状に突き固められている。

P 8~P 10土壌解説（各井共通）	
1	粘 褐 色 ハーム小ブロック、ハーム粒子中量
2	腐 褐 色 コーム小ブロック、コーム粒子中量、炭化粒子少無
3	粘 褐 色 ハーム粒子多量、ハーム小ブロック中量
4	腐 褐 色 ハーム粒子多量、コームナチュラック、コーム小ブロック 中量
5	粘 褐 色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、コームナチュラック量
6	褐 色 コーム粒子多量、ローム大ブロック、ローム白ブロック少量
7	暗褐色 ハーム小ブロック、ローム粒子少無し、しまり弱い。

遺物 士師器片12点、須恵器片4点が、P 8～P 10の埋土から出土している。第601図1の須恵器片はP 9の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、9世紀後葉の第936号住居跡に掘り込まれていることから、それ以前と考えられ、第119号掘立柱建物跡との重複関係及び出土土器から9世紀前半と考えられる。本跡の北部に位置する第42号掘立柱建物跡、北西部に位置する第43号掘立柱建物跡と時期及び平行方向が、ほぼ一致することから、同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。

第41卦据立柱建物跡出土遺物觀察表

医療番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	施上・処置・機械	備考
第601回 1	耳	B ( 2.2 ) C ( 7.2 )	底部から口縫部にかけての痕跡。 下底。体部は外縫して立ち上がる。	体部内・外側ロクロナダ。体部下端子持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	秒針・雲母・長い有	P 8886
	耳 患 器				黒褐色	10%

### 第42号掘立柱建物跡（第602図）

位置 調査 8 区の北部。M10a3 区。平成 9 年度と平成 11 年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も P1 ~ P9 が平成 9 年度、北部に位置する P10 ~ P12 が平成 11 年度と両年度にわたった。

**重複関係** 北部のP11・P12で第1445A号住居跡を掘り込み、P10～P12が第1447号住居に掘り込まれている。さらに、北西部のP7～P10で第44号掘立柱建物跡を掘り込み、P7・P8が第937号住居に掘り込まれている。

規模 桁行4間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長8.08m、梁行長4.10mである。柱間寸法は桁行2.10～2.30m、梁行1.80～2.20mである。柱穴は12か所（P1～P12）で、平面形が長軸（径）0.85～1.58m、短軸（径）0.70～1.23mの橢円長方形・梢円形であり、断面形が二段掘り状、逆台形状を呈し、深さはP12が16cmと深く、その他は10～69cmである。

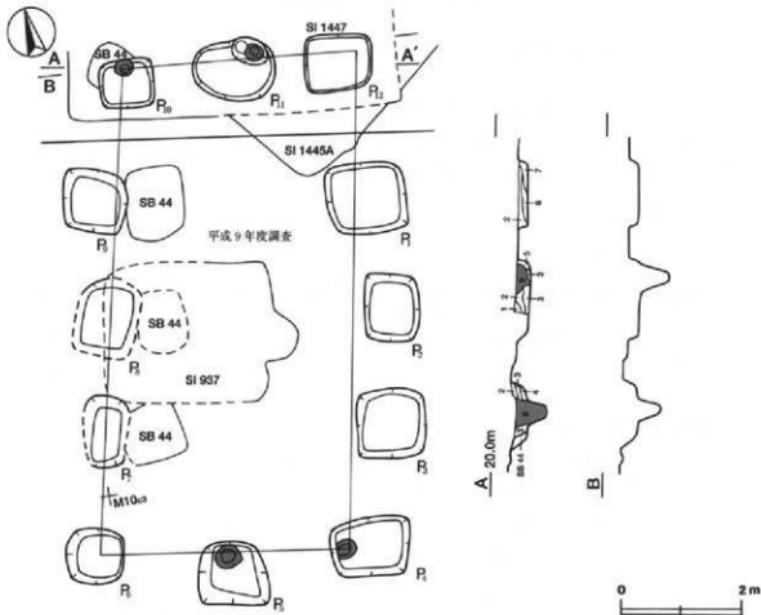
航行方向 N-10° E

柱穴覆土 土層断面図中、P10の第8層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック土体の暗褐色・褐色土で、版築状に突き固められている。

P10~P12土層解説(各社穴共通)	
1. 当初色	11-ム灰多量、11-ム少、ソロック中量
2. 逐層色	ローム灰白色、11-ム中少ソロック少量
3. 逐層色	コローム灰多量、11-ム少ソロック少量
4. 逐層色	11-ム灰中量、11-ム少ソロック少量
5. 逐層色	11-ム灰中量、11-ム少ソロック中量、ローム中少ソロック少量
6. 褐色	ローム中量、11-ム少ソロック、11-ム少、ソロック少量
7. 逐層褐色	ローム少ソロック、コローム改テ、灰化粘土、11-ム少、ソロック少量
8. 暗褐色	11-ム少ソロック、ローム少ソロック

**遺物** 土師器片34点、須恵器片2点が、P11～P12の埋土から出土している。土師器片は細片であり、古墳時代後期のもので、混入したものと思われる。出土土器は細片であるため、図示はできなかった。

**所見** 本跡の時期は、出土土器からは細片であるため断定できないが、9世紀の第937号住居、9世紀後葉の第1447号住居に掘り込まれている。さらに、9世紀前葉の第45号掘立柱建物跡と隣接しているが、間隔が狭いため同時に存在した可能性は低く、周囲の掘立柱建物跡の配置から、9世紀前葉から中葉と考えられる。本跡の西部に位置する第43号掘立柱建物跡、南部に位置する第41号掘立柱建物跡と時期及び桁行方向がほぼ一致することから、同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。



第602図 第42号掘立柱建物跡実測図

#### 第44号掘立柱建物跡（第603図）

**位置** 調査8区の北部。M10a2区。平成9年度の調査区ではP1～P9の柱穴が確認されており、『茨城県教育財團文化財調査報告』第166集において、桁行2間、梁行2間の総柱式の建物跡と報告されている。しかし、平成11年度の調査区において、その北側に連続する柱穴P10～P12が検出されたことから、同一の建物として調査し、規模等を変更する。

**重複関係** 東部のP2が第937号住居に、北部のP12が第1447号住居に、東部が第42号掘立柱建物に、西部が第45号掘立柱建物に、それぞれ掘り込まれている。

**規模** 桁行3間、梁行2間の総柱式の建物跡で、桁行長5.76m、梁行長3.66mである。柱間寸法は桁行1.90～2.10m、梁行1.80～2.00mである。柱穴は12か所（P1～P12）で、平面形が長軸0.90～1.16m、短軸0.64～

0.92mの隅丸方形・隅丸長方形であり、断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し、深さは35~64cmである。

桁行方向 N - 1° - W

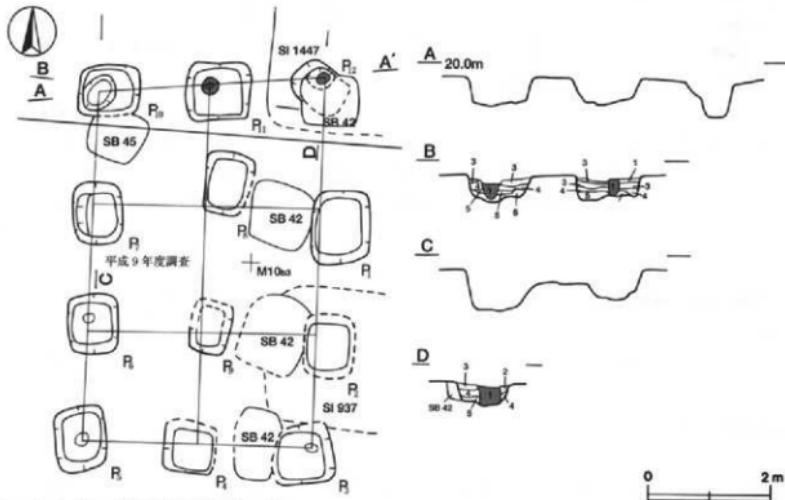
柱穴覆土 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む暗褐色・黒褐色土で、版塗状に突き固められている。

P10~P12土層解説 (各柱穴共通)

- |                          |                                     |
|--------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量   | 5 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量   |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量 | 6 黒褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、ローム小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 |                                     |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |                                     |

遺物 土師器片31点、須恵器片7点が、P10~P12の埋土から出土している。土師器片は細片であり、古墳時代後期のもので、混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は、出土土器が細片であるため断定できないが、9世紀の第937号住居、9世紀後葉の第1447号住居、9世紀中葉から後半の第42号掘立柱建物、9世紀前葉と考えられる第45号掘立柱建物に掘り込まれていることから、9世紀前葉以前と考えられる。また、周囲の掘立柱建物跡の重複関係から、時期差がさほどない期間内に、ほぼ同一の場所に建て替えが行われたと考えられる。これらの重複関係及び周囲の掘立柱建物跡の配置から、8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。また、重複関係から本跡が廃絶された後に第45号掘立柱建物が建てられ、その後、第42号掘立柱建物が建てられたと考えられる。

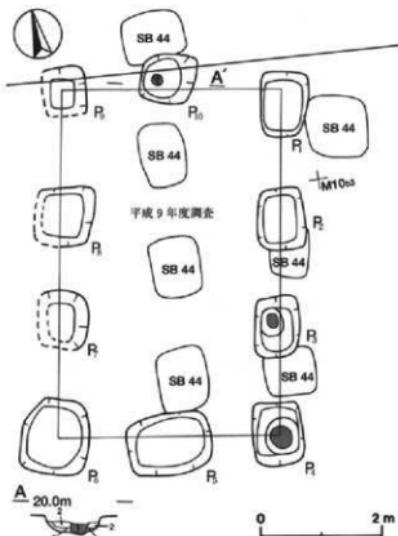


第603図 第44号掘立柱建物跡実測図

第45号掘立柱建物跡 (第604図)

位置 調査8区の北部。M10b2区。平成9年度の調査区ではP1~P9が確認されており、『茨城県教育財团文化財調査報告書』第166集において、桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡と報告されている。平成11年度の調査区において、その北側に柱穴P10が検出されたことから、同一の建物として調査した。

重複関係 東部で第44号掘立柱建物跡を掘り込み、西部が第43号掘立柱建物に掘り込まれている。



第604図 第45号掘立柱建物跡実測図

物跡の重複関係や密集の度合いから、時期差がさほどない期間内に、ほぼ同一の場所に建て替えられたものと考えられる。これらの重複関係及び周囲の掘立柱建物跡の配置から、9世紀前葉から中葉の時期幅におさまると考えられる。また本跡は、重複関係から第44号掘立柱建物が廃絶された後に建てられ、その後、第43号掘立柱建物が建てられたと考えられる。

#### 第46号掘立柱建物跡（第605図）

**位置** 調査8区の北部に、「L」字状に集中する掘立柱建物群の南部に位置する南北棟である。L9i9区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も南部のP1～P3が平成9年度、北部のP4～P10が平成11年度と両年度にわたった。

**重複関係** 西半で第47号掘立柱建物跡を掘り込み、北部のP6・P7が第123・126号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模** 衍行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、衍行長6.22m、梁行長4.26mである。柱間寸法は衍行1.80～2.10m、梁行1.70～2.30mである。柱穴は10か所（P1～P10）で、平面形が長軸（径）1.02～1.10m、短軸（径）0.84～0.91mの隅丸長方形・椭円形であり、断面形が逆台形状を呈し、深さは44～66cmである。

**衍行方向** N-10°-E

**柱穴覆土** 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で、版築状に突き固められている。

**規模** 衍行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、衍行長5.50m、梁行長3.62mである。柱間寸法は衍行1.80～1.90m、梁行1.80～2.00mである。柱穴は10か所（P1～P10）で、平面形が長軸（径）0.84～1.38m、短軸（径）0.74～1.00mの隅丸方形・隅丸長方形・椭円形であり、断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し、深さは30～55cmである。

**衍行方向** N-3°-E

**柱穴覆土** 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック主体の暗褐色土で、版築状に突き固められている。

#### P10土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量。しまり弱い。
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量。しまり強い。
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量。しまり強い。

**所見** 本跡からは土器が出土していないため、土器から時期を判断することはできないが、重複関係からは、9世紀中葉の第43号掘立柱建物に掘り込まれているため、それ以前と考えられる。また、第44号掘立柱建物跡を掘り込んでいるが、周囲の掘立柱建物跡の重複関係や密集の度合いから、時期差がさほどない期間内に、ほぼ同一の場所に建て替えられたものと考えられる。これらは重複関係及び周囲の掘立柱建物跡の配置から、9世紀前葉から中葉の時期幅におさまると考えられる。また本跡は、重複関係から第44号掘立柱建物が廃絶された後に建てられ、その後、第43号掘立柱建物が建てられたと考えられる。

#### 第46号掘立柱建物跡（第605図）

**位置** 調査8区の北部に、「L」字状に集中する掘立柱建物群の南部に位置する南北棟である。L9i9区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も南部のP1～P3が平成9年度、北部のP4～P10が平成11年度と両年度にわたった。

**重複関係** 西半で第47号掘立柱建物跡を掘り込み、北部のP6・P7が第123・126号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模** 衍行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、衍行長6.22m、梁行長4.26mである。柱間寸法は衍行1.80～2.10m、梁行1.70～2.30mである。柱穴は10か所（P1～P10）で、平面形が長軸（径）1.02～1.10m、短軸（径）0.84～0.91mの隅丸長方形・椭円形であり、断面形が逆台形状を呈し、深さは44～66cmである。

**衍行方向** N-10°-E

**柱穴覆土** 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で、版築状に突き固められている。

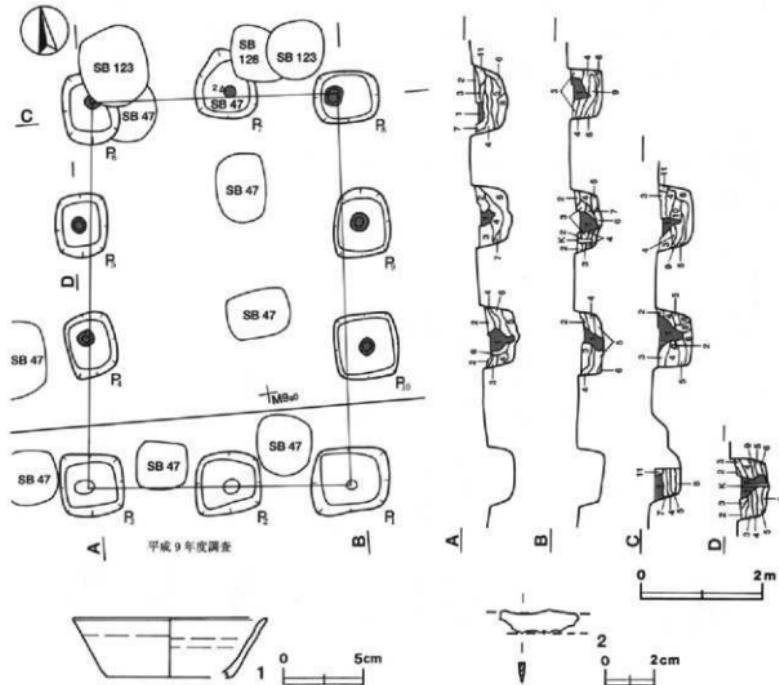
#### P4～P10土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量。しまり弱い。
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量  
 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量。ローム粒子少量  
 5 黒褐色 ローム中ブロック多量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量  
 6 暗褐色 ローム中ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック少量  
 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック少量  
 8 黒褐色 ローム小ブロック中量。ローム中ブロック・ローム粒子少量  
 9 暗褐色 ローム粒子多量。ローム小ブロック少量  
 10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量  
 11 暗褐色 ローム粒子中量。焼土粒子少量

**遺物** 土器片53点、須恵器片12点、鉄器1点（刀子）が、P 4～P 10の埋土から出土している。土器片は細片であるが、そのほとんどが古墳時代後期のもので、混入したものと思われる。第605図1の須恵器片はP 8の埋土から、2の刀子はP 7の埋土から、それぞれ出土している。

**所見** 本跡は、重複している第47号掘立柱建物跡とほぼ同位置で検出されており、時期差があまりないことから、第47号掘立柱建物の廃絶後に建て替えられた建物の可能性がある。時期は、重複関係及び出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第605図 第46号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第46号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第605図 1	环 須恵器	A [11.8] B [3.6] C [7.8]	体部の被片。平底。体部は外燃して立ち上がり、口縁部をわずかに外反する。	口縁部、体部内・外側ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石。 石英 黄灰色、普通	P 8887 15%

図版番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	刃身長(cm)	身幅(cm)	重さ(cm)	基長(cm)			
第605図	刀子	(3.3)	(2.1)	(0.9)	0.2	(1.2)	(1.3)	鉄	刃部・茎部一部欠損。柄区残存。M8445

#### 第47号掘立柱建物跡（第606・607図）

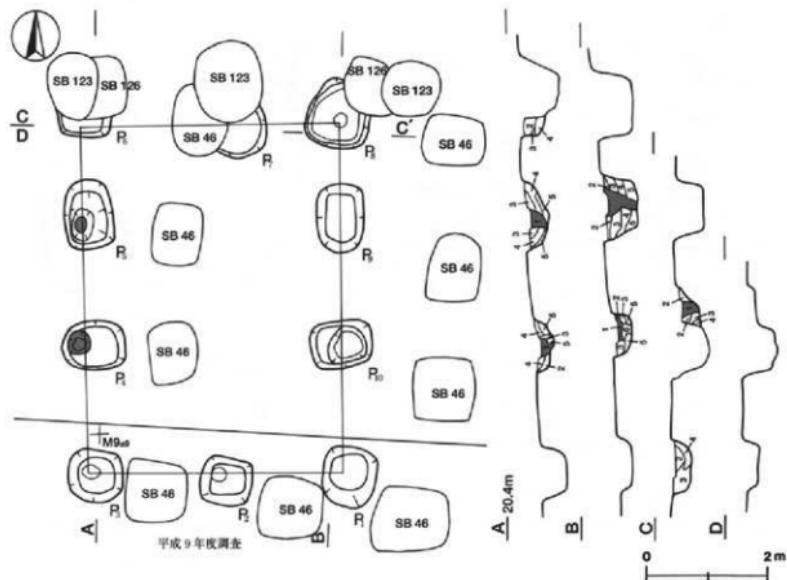
位置 調査8区の北部に、「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の南部に位置する南北棟であり、南北に延びる第35B号溝から東側2.5mに位置している。L919区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査の南部のP1～P3が平成9年度、それ以北のP4～P10が平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 北部のP6～P8が第123・126号掘立柱建物に、東半が第46号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 柱行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長5.76m、梁行長4.21mである。柱間寸法は桁行1.90～2.00m、梁行1.80～2.40mである。柱穴は10か所（P1～P10）で、平面形が長軸（径）1.04～1.22m、短軸（径）0.80～1.08mの隅丸長方形・橢円形であり、断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し、深さは24～64cmである。

桁行方向 N-1°-E

柱穴覆土 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土で、版築状に突き固められている。



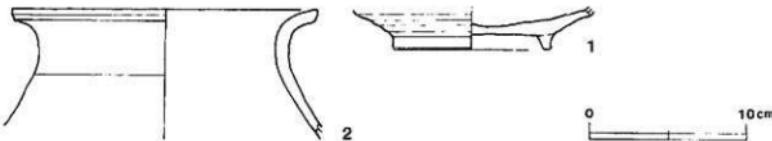
第606図 第47号掘立柱建物跡実測図

P 4～P 7・P 9・P 10土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、コーム中ブロック、ローム小ブロック中量、コーム大ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック、ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 コーム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 コーム粒子少量、ローム大ブロック、ローム小ブロック少量
- 5 黑褐色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック、ローム粒子少量
- 6 黄褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック、ローム小ブロック中量

**遺物** 土師器片23点、須恵器片9点が、P 4～P 7・P 9の埋土及びP 5・P 7・P 9の柱の抜き取り痕から出土している。土師器片は細片であり、そのほとんどが古墳時代後期のもので、混入したものと思われる。第607図1の須恵器盤はP 9の壇上から、2の土師器蓋の口縁部片はP 7の柱の抜き取り痕から、それぞれ出土している。

**所見** 本跡は、重複している第16号掘立柱建物跡とほぼ同位置で検出されている。また、調査区8区の北部に「し」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する南北棟であり、西側2.5mの位置を南北に延びる第35B号溝と桁行方向が一致している。時期は、重複関係及び出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第607図 第47号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第47号掘立柱建物跡出土遺物観察表

列記番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第607図 1	壇	B (27)	高台部分から体部にかけての破片。	体部内・外凸凹クロナザ、底部斜面	砂粒・雲母・灰石・ P8888	
		C (9)	体部は大きく外方に開く。高台は	軸ヘラ削り・高台貼り付け後、手	石灰 30%	
	底盤	E (10)	わざかに外方にふんばる。	削り	灰褐色・普通 P1.269	
2	蓋	A (18.0)	壇部から口縁部にかけての破片。	口縁部、壇部内・外凸凹クロナザ	砂粒・雲母・灰石・ P8889	
	土師器	B (8.0)	壇部はゆるやかにくびれ、口縁部は外反式。壇部は外上方につまみ上げられている。	赤色吹子 にぶい褐色 普通	5 %	

第70号掘立柱建物跡（第608・609図）

位置 調査8区の南西部。O8e2区。

重複関係 北部で第1224・1226号住居跡を掘り込み、中央部が第20号方形堅穴状造構に掘り込まれている。

規模 衍行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、衍行長6.70m、梁行長4.60mである。柱間寸法は衍行2.05～2.35m、梁行2.25～2.40mである。柱穴は10か所（P 1～P 10）で、平面形が長軸0.66～1.10m、短軸0.63～0.96mの隅丸長方形・隅丸方形であり、断面形が逆台形状を呈し、深さは41～93cmである。

衍行方向 N 6° E

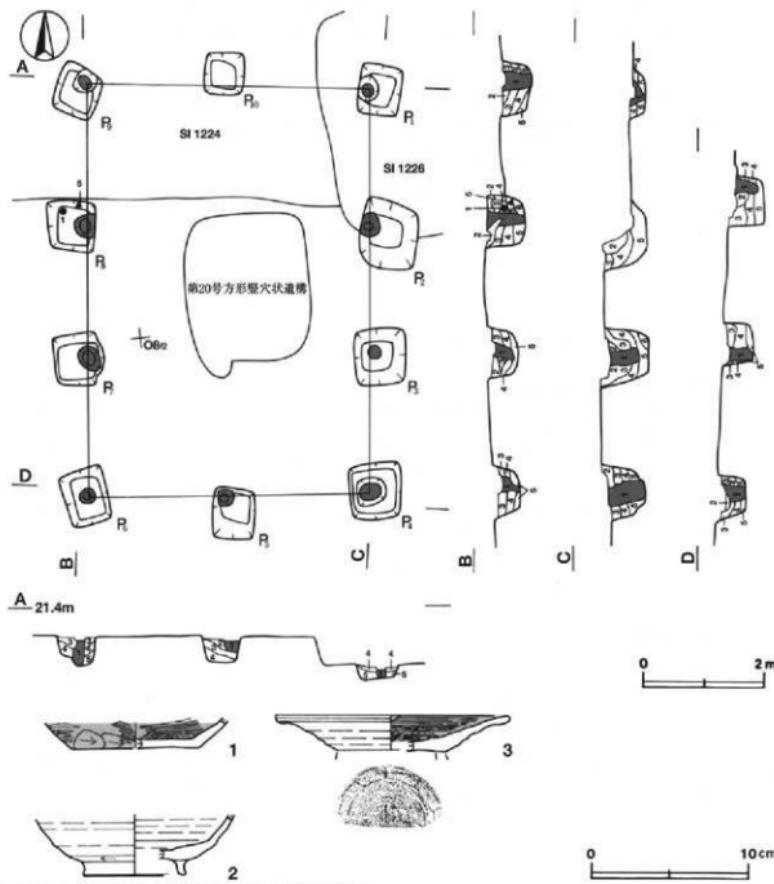
柱穴覆土 上層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕と考えられる。埋土はロームブロック主体の暗褐色・褐色土で、版築状に空きぬけられている。

P 1～P 10土層解説（各柱穴共通）

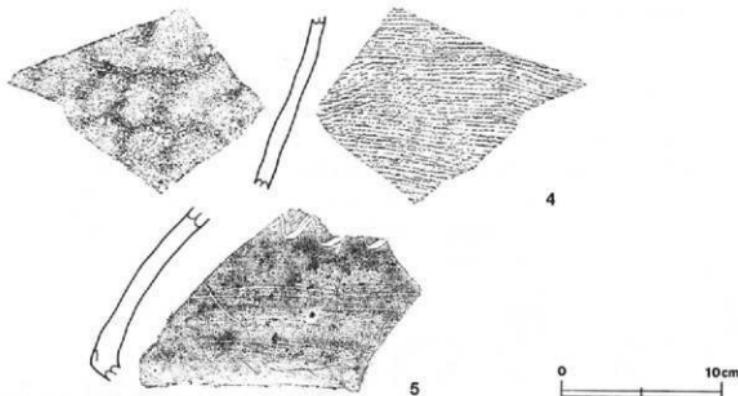
- 1 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子・壇上粒子少量、しまりがない。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック、炭化物少量
- 3 暗褐色 コーム小ブロック、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子中量、ローム大ブロック、炭化物少量
- 5 黄褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック少量
- 6 黄褐色 ローム小ブロック、コーム粒子多量、炭化物少量

**遺物** 土師器片86点、須恵器片32点が、すべての柱穴の埋土から出土している。第608・609図1の土師器坏はP 8の埋土中から、2の土師器高台付坏、3の土師器皿はP 7の埋土から、それぞれ出土している。4の須恵器の体部片、5の須恵器壺の口縁部片は、P 8の埋土中から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。本跡の北側にある第71・73号掘立柱建物跡と時期及び行方方向がほぼ一致することから、同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。



第608図 第70号掘立柱建物跡・出土遺物実測図



第609図 第70号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第70号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第608図 1	壺	B (16) C [80]	底部から体部下位にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ハラ磨き。下端手持ちハラ削り。底部ハラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 黒色 普通	P 8890 15%
	土師器					
2	高台付壺	B (3.6)	高台部から体部下位にかけての破片。	口縁部、体部内・外面クロナデ。	砂粒・雲母	P 8892
	頸惠州器	D [6.4] E 0.9	体部は下位に継を有し、外傾して立ち上がる。高台は底部内側にあり、「ハ」の字形に開く。	体部下端手持ちハラ削り。底部不定方向のハラ削り。	黒色 普通	15% P L 269
	皿	A [14.3] B (2.1)	底部から口縁部にかけての破片。 高台欠損。体部は外反気味に開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面クロナデ、内面ハラ磨き。底部削りハラ削り。高台貼り付け痕あり。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8893 40% P L 269
第609図 4	壺	B (10.7)	体部の破片。	体部外表面の平行叩き、一部縫合目との印記。内面指頭による押圧痕を残すナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	T P 8418 10% P L 269
	頸惠州器	B (9.1)	頸部の破片。頸部は外反気味に立ち上がる。	頸部内・外面クロナデ。外面に擦痕波状文。	砂粒・赤色粒子 にぶい褐色、普通	T P 8425 10% P L 269

第71号掘立柱建物跡 (第610・611図)

位置 調査8区の南西部。O8b2区。

重複関係 南部で第1224・1225・1230号住居跡を、北部のP11で第105号掘立柱建物跡のP6を掘り込んでいる。

規模 桁行3間、梁行3間の側柱式の建物跡で、桁行長7.82m、梁行長5.24mである。柱間寸法は桁行2.20~2.90m、梁行1.30~2.10mである。柱穴は12か所(P1~P12)で、平面形が長軸(径)1.16~1.56m、短軸(径)0.81~1.20mの隅丸長方形・梢円形であり、断面形が逆台形状・二段掘り状を呈し、深さは32~111cmである。

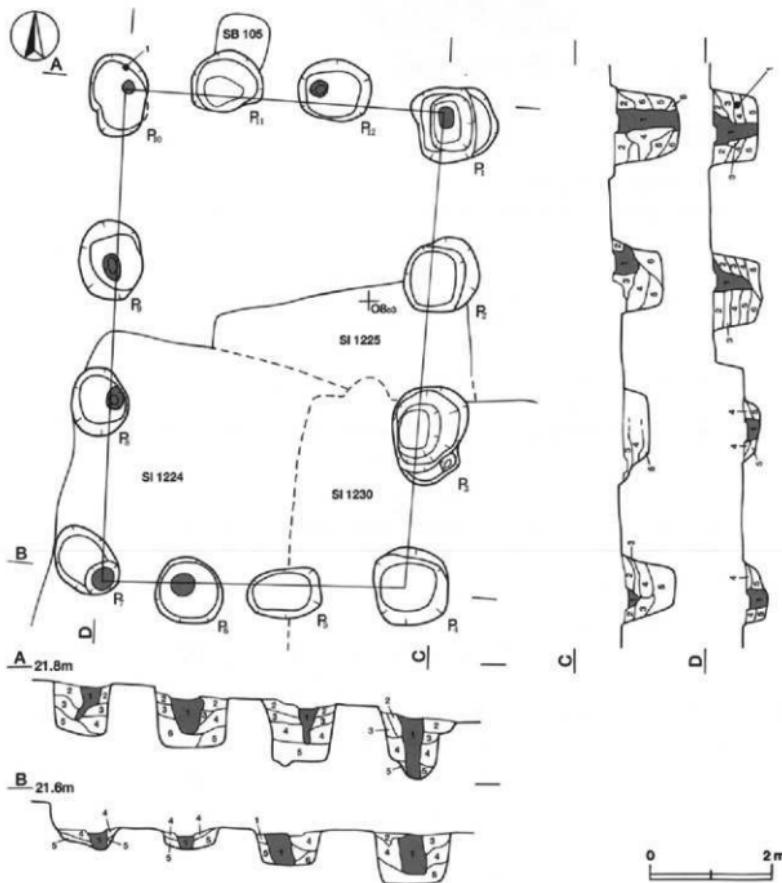
桁行方向 N-1° - W

柱穴覆土 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック主体の暗褐色・褐色土で、版築状に突き固められている。

P 1～P 12土層解説（各柱穴共通）

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量。焼土粒子・炭化物・砂粒微量。しまり弱い。
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック少量。ローム大ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック少量。炭化物・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量。炭化粒子微量
- 6 喀斯特色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。粘土中ブロック微量

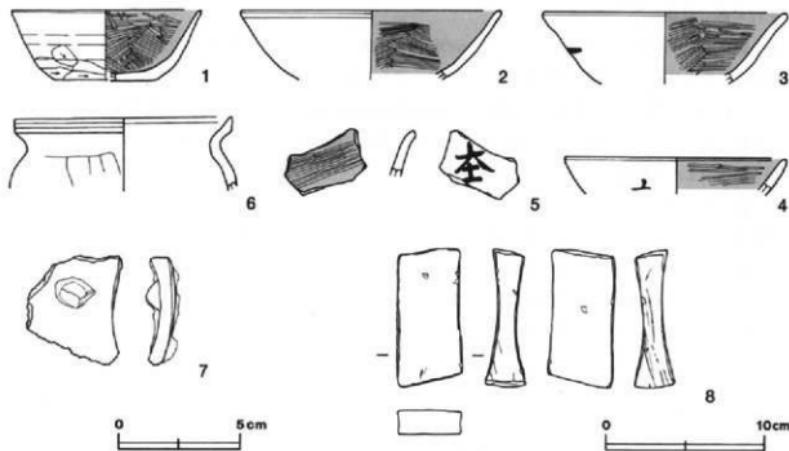
遺物 土師器片63点、須恵器片24点、不明鉄製品1点、石器1点（砥石）が、すべての柱穴の埋土から出土している。第611図1の土師器片はP10の埋土から、2の土師器片はP7の埋土から、それぞれ出土している。3の土師器片、6の土師器片はP9の埋土から、それぞれ出土している。3の土師器片の体部外面に墨書きされているが、判読は不能である。4の土師器片はP9の埋土から出土しており、体部外面に墨書きされている。判読は不能である。5の土師器片はP10の埋土から出土しており、体部外面に「空」と墨書きされている。7の不



第610図 第71号掘立柱建物跡実測図

明鉄製品はP12の埋土から、8の磁石はP11の埋土から、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。本跡の北側にある第73号掘立柱建物跡、南側にある第70号掘立柱建物跡と時期及び行方方向がほぼ一致することから、同時期に一連の施設として機能している可能性がある。



第611図 第71号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第71号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴		手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第611図 1	环 土師器	A [11.6] B 4.3 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内壁気味に外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちハラ削り、内面へラ削き。底部1方向のハラ削り。 内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・ 赤色粒子 橙色 普通	P 8894 35% P L 269	
		A [16.0] B (42)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内壁気味に外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部内面横位のハラ削き。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 淡黄褐色 普通	P 8895 20%	
		A [15.0] B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内壁気味に外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部内面横位のハラ削き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8896 10% 体部外面に墨痕	
2	环 土師器	A [13.6] B (2.2)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内壁気味に外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部内面横位のハラ削き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黃褐色 普通	P 8884 5% 体部外面に墨痕 判読不能	
		B (2.7)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内壁気味に外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部内面横位のハラ削き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黃褐色 普通	P 8892 5% 体部外面に墨痕	
5	环 土師器	A [13.4] B (4.5)	体部上部から口縁部にかけての破片。 体部は内壁気味に外傾して立ち上がり、頭部で「く」の字状にくびれ、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頭部内・外面横ナデ。 体部外縁位のハラ削り。内面横ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P 8897 5%	
							「主」

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第611図7	不 明	(4.5)	(3.8)	1.2	(33.5)	鉄	やや彎曲して尖起部を有す。	M8446

調査番号	器種	計測値					石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第611図 8	石	85	40	15	0.3	101.5	凝灰岩	柱穴で柱(直径30cm、高さ25cm)6本。	Q8414 PL284

### 第72号掘立柱建物跡（第612図）

位置 調査8区の南西部、O7j0区。北西へ8mの距離に位置する第74号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係 P1が第1222号住居跡を掘り込んでいる。また、P5を第861号土坑に掘り込まれている。

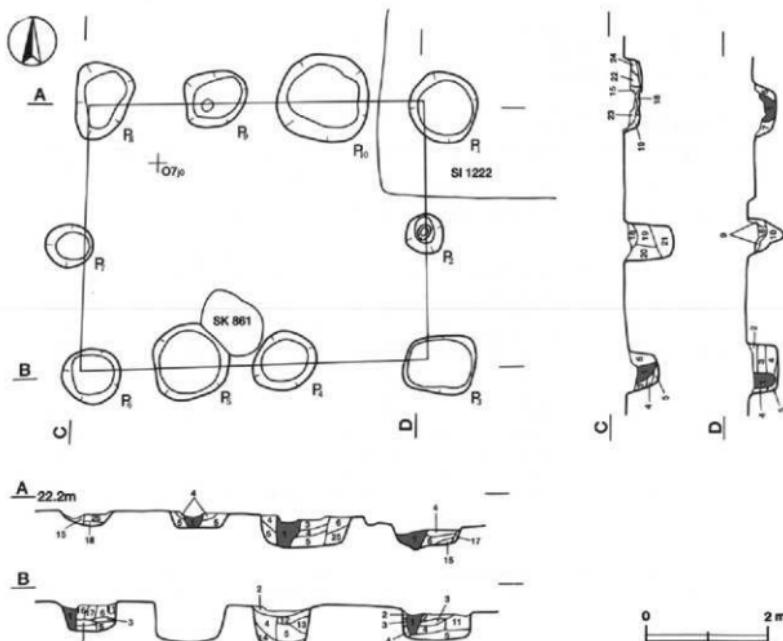
規模 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長5.60m、梁行長4.43mである。柱間寸法は桁行1.70m～2.30m、梁行2.10～2.40mである。柱穴は、平面形が長径(軸)0.64～1.52m、短径(軸)0.59～1.20mの円形・椭円形または隅丸方形で、深さ28～80cmである。

桁行方向 N-88° - E

柱穴覆土 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含んだ暗褐色・褐色土であり、強く突き固められてはいない。

#### P1～P4、P6～P10層解説（各柱穴共通）

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量



第612図 第72号掘立柱建物跡出土遺物実測図

5	毛	色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・コーム小ブロック少量、炭化粒子少量
6	暗褐色	色	ローム・小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
7	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
8	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子少量
9	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物、炭化粒子微量
10	褐色	色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
11	褐色	色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
12	褐色	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
13	褐色	色	ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
14	褐色	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
15	褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
16	褐色	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
17	暗褐色	色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量
18	褐色	色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
19	褐色	色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
20	褐色	色	ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
21	褐色	色	ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
22	暗褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化物微量
23	暗褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子、炭化粒子少量
24	暗褐色	色	ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
25	褐色	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
		褐色	ローム中ブロック少量、炭化粒子微量

**遺物** 土師器片86点、須恵器片8点が、P7を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。そのうち土師器片55点は壺の体部細片である。また、土師器杯の細片が28点、土師器皿の細片が3点、須恵器壺の体部細片が2点、須恵器壺小片が6点出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土土器が細片のため特定が困難なもの、わずかながらうかがえる出土土器の特徴、隣接する9世紀中葉と考えられる第74号掘立柱建物跡と平行方向が一致しており、同時期の可能性が考えられること、8世紀前葉と考えられる第1222号住居跡を掘り込んでいることなどから、9世紀中葉と推定される。

### 第73号掘立柱建物跡（第613図）

**位置** 調査8区の南西部、N8j2区。東へ5mの距離に位置する第1221号住居跡と並列する。

**重複関係** P7～P9が第1222号住居跡を、P10が第105号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模** 行間3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁長5.75m、梁行長3.40mである。柱間寸法は桁行1.80～2.00m、梁行1.10～1.60mである。柱穴は、平面形が直径0.78～1.00m、短径0.68～0.75mの円形または梢円形で、深さ51～69cmである。

**桁行方向** N-4° E

**柱穴覆土** 上層断面図中、第1・2層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含んだ暗褐色、褐色土であり、強く突き固められてはいない。

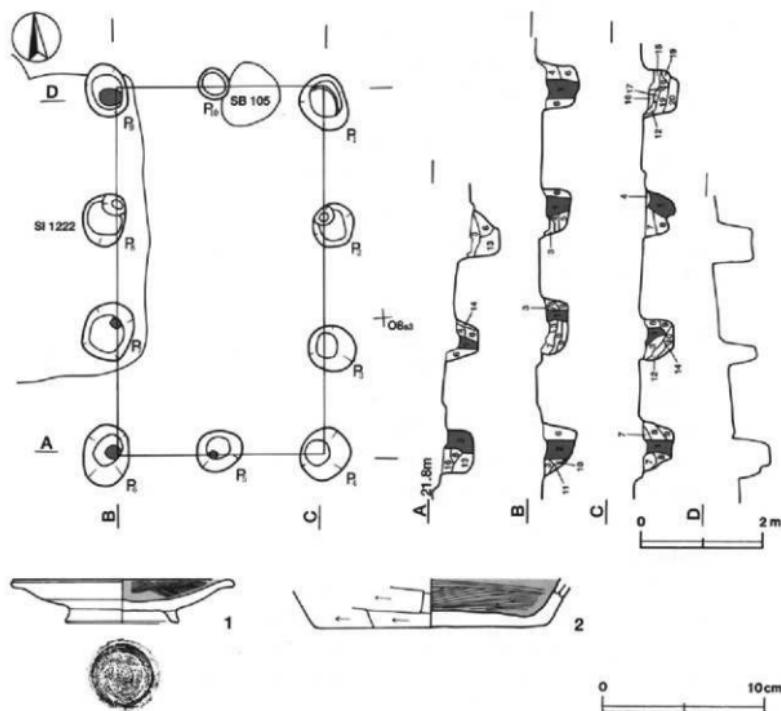
#### P1～P10十層解説（各柱穴共通）

1	暗褐色	色	ローム粒子・炭化粒子少量	10	藍褐色	色	ローム小ブロック・炭化粒子少量
2	褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	11	暗褐色	色	ローム小ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
3	褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	12	褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化物微量
4	暗褐色	色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	13	褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	14	褐色	色	ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
6	暗褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量	15	褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量
7	褐色	色	ローム小ブロック少量、炭化粒子少量、燒土粒子微量	16	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子、炭化物少量
8	褐色	色	ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	17	褐色	色	炭化物中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
9	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子、炭化粒子少量	18	褐色	色	ローム小ブロック少量
10	暗褐色	色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・炭化粒子微量	19	褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

**遺物** 土師器片26点が、P1・P3・P6・P8・P10の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第613図の1の上師器皿はP2の埋土から、2の上師器鉢はP6の埋土から出土している。

**所見** 本跡の桁行方向が隣接する第1221号住居跡の主軸方向と一致することから、同時期に一連の施設として

機能していた可能性が考えられる。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第613図 第73号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第73号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第613図 1	皿 土師器	A 13.6 B 27 D 6.8 E 0.9	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部は緩やかに外傾して立ち上がり。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部外面クロナツ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・紫母・長石・ 石英 にぶい橙色 普通	P 8348 50% P L 269
2	鉢 土師器	B (3.0) C [14.4]	底部から体部下端の破片。底盤は外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちへら削り。内面ヘラ磨き。底盤摩滅により調節不明。 内面黒色処理。	砂粒・紫母 にぶい黄褐色 普通	P 8349 30% P L 269

第74号掘立柱建物跡（第614図）

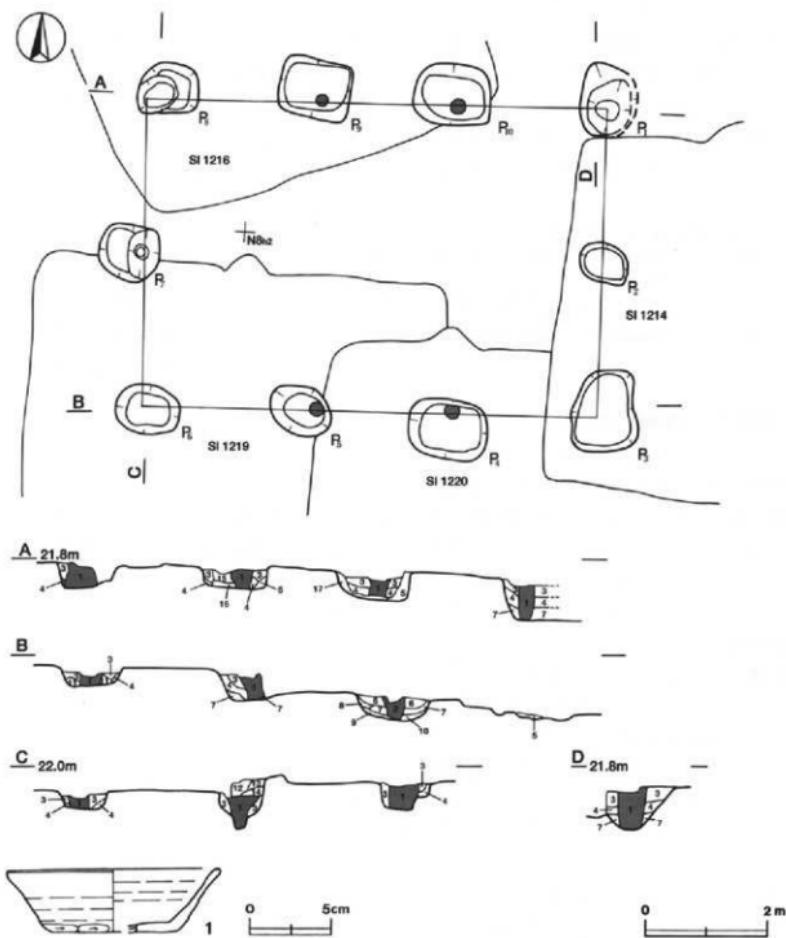
位置 調査8区の南西部、N8h2区。西へ9mの距離に位置する第81号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係 P 2・P 3が第1214号住居跡を、P 4が第1220号住居跡を、P 5～P 7が第1219号住居跡を、P 8～P 10が第1216号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長7.30m、梁行長4.98mである。柱間寸法は桁行2.10m～2.60m、梁行2.30～2.40mである。柱穴は、平面形が長径（軸）1.00～1.40m、短径（軸）0.91～1.10mの不整椭円形または隅丸長方形で、深さ15～85cmである。

桁行方向 N-88°-E

柱穴覆土 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含んだ暗褐色・褐色土であり、強く突き固められてはいない。



第614図 第74号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

P 1～P 10 土層解説（各柱穴共通）

1 濃褐色	ローム小ブロック中量、粘土小ブロック・塊土小ソロック少量 ・無土粒子・炭化粒子・炭化物微量	9 黒色	ローム小ブロック中量、コム大ブロック・コム中ブロック少量 ・無土粒子・炭化物微量
2 黑褐色	ローム小ソロック中量、コム中ブロック少量、コム大ブロック・塊土粒子・炭化粒子微量	10 黑色	ローム小ブロック・無土粒子少量、炭化物微量
3 暗褐色	コム小ブロック・ローム小ソロック・塊土小ブロック・ 燒土粒子・炭化物少量	11 灰褐色	コム中ブロック・ローム小ソロック中量、炭化物・炭化 粒子少量
4 暗褐色	ローム小ブロック少量、炭化物微量	12 灰褐色	ローム小ブロック・塊土小ブロック・炭化粒子少量、コム 中ソロック・炭化物微量
5 褐色	ローム小ソロック中量、コム中ブロック・ 炭化物少量、ローム大ソロック・塊土中ブロック微量	13 灰色	ローム中ブロック・ローム小ソロック少量、塊土小ソロック ・炭化物微量
6 褐色	ローム粒子多量、ローム小ソロック少量	14 黑褐色	ローム小ブロック中量、コム粒子少量、炭化物微量
7 暗褐色	ローム小ブロック少量、燒土小ブロック・塊土粒子・炭化 物・炭化粒子微量	15 灰褐色	ローム小ブロック中量、炭化物微量
8 暗褐色	ローム小ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	16 灰褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化物微量
		17 黑色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化物微量

**遺物** 上師器片41点、須恵器片5点が、P 1・P 4・P 7～P 9の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第614図の須恵器はP 4の埋土から出土しているが、第1220号住居跡から混入したものと思われる。

**所見** 本跡は、隣接する9世紀中葉と考えられる第81号掘立柱建物跡と桁行方向が一致しており、同時期の一連の施設として機能していた可能性が考えられる。時期は、8世紀後葉と考えられる第1220号住居跡を掘り込んでいることや、第81号掘立柱建物跡との関連及び出土土器から9世紀中葉と推定される。

第74号掘立柱建物跡出土遺物観察表

回収番号	器種	大きさ(cm)	器形の特徴	手法の特徴	断土・色調・焼成	備考
第614図	环	A 112.8 B 39 C 174.1	A:底部から口縁部の被覆。底平。体部 B:外縁に立ち上がり、口縁部はや C:外反する。幅部は丸く收めている。	A:縫部及び体部内・外面クロマ B:底部下部手縫もヘラ削り。底 C:部ヘラ削り。	砂粒・灰灰・瓦石 石英 灰色	P 8350 30% PL 269

第75号掘立柱建物跡（第615図）

**位置** 調査8区の中央部、N8g0k。

**重複関係** P 6・P 7が第89号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模** 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長8.18m、梁行長5.39mである。柱間寸法は桁行2.30m～3.26m、梁行2.40～2.85mである。柱穴の平面形は、P 8が壊乱を受け長径0.46m、短径0.36mの梢円形が確認できた。深さは15cmである。それ以外の柱穴の平面形は長径0.90～1.38m、短径0.85～1.20mの円形または梢円形で、深さ31～114cmである。

**桁行方向** N 0°。

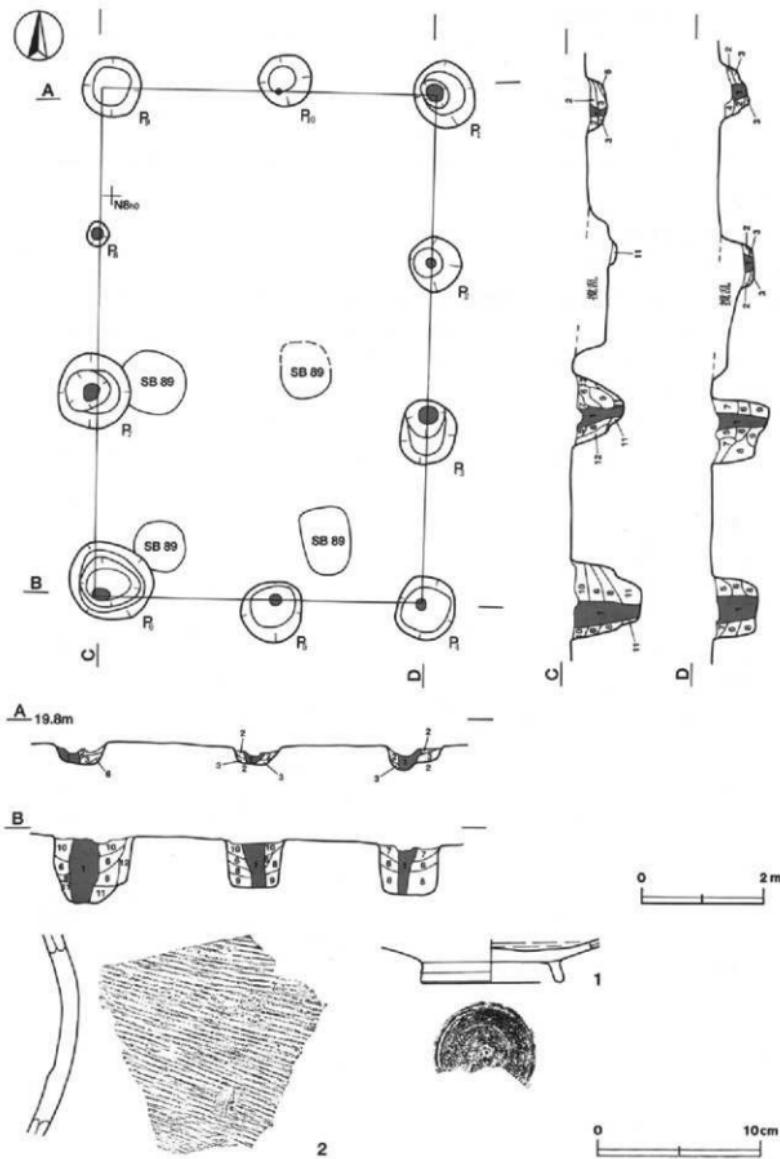
**柱穴覆土** 上層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土は粘土ブロックを含む黒褐色土を主体としており、粘性の強い層と弱い層が互層をなしている。

P 1～10 土層解説（各種穴共通）

1 黒褐色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量	7 黒褐色	粘土小ブロック少量、粘土中ブロック・塊土小ブロック少 量
2 黑褐色	ローム小ソロック・粘土中ソロック少量、炭化物微量	8 黑褐色	炭化物微量
3 黑褐色	ローム小ブロック中量、粘土小ソロック少量、燒土粒子・ 炭化粒子微量	9 黑褐色	粘土セロニック・粘土小ブロック中量、燒土粒子・炭化物 微量
4 黑褐色	粘土小ソロック多量、粘土中ブロック中量、燒土粒子・炭化 物微量	10 黑褐色	燒土粒子・炭化物微量
5 黑褐色	粘土小ソロック少量、燒土小ソロック・燒土粒子・炭化物 微量	11 黑褐色	燒土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子中量
6 黑褐色	粘土小ブロック少量	12 黑褐色	粘土小ソロック少量

**遺物** 上師器片52点、須恵器片58点が、P 1・P 9を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第615図の須恵器高台付环、2の須恵器全体部片は、P 6の埋土から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土土器から、8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。



第615図 第75号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

## 第75号掘立柱建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第615号	盤	B L 27.1 D 8.6 幅 14	高台部から体部下第の破片。高台は中核に粘をもち、ハの字状に開く。体部は大きく聞く。	体部内・外面にクロナテ。底部回転へ引き後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色・黄褐色	P 2351 10% P L 269
	盤 恵 器	B (12.5)	体部。体部は内側して立ち上がり、体部外面横位の手形手形。	砂粒・雲母 灰色・普通	T P 8210 5% P L 271	

## 第76号掘立柱建物跡（第616号）

位置 調査8区の南部、O8b8区。

規模 柱行2間、梁行2間の側式の建物跡で、桁行長4.90m、梁行長4.57mである。柱間寸法は桁行1.70~3.00m、梁行2.20~2.30mである。柱穴は、平面形が長径（輪）0.63~1.05m、短径（輪）0.61~0.96mの円形・梢円形または梢丸方形で、深さ34~70cmである。

桁行方向 N-86° - W

柱穴覆土 土層断面図中、P 1・P 3・P 5・P 6の第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。

埋土はロームブロック・焼土粒子を含んだ暗赤褐色土・黒褐色土・黒色土であり、強く突き固められていない。

## P 1 土層解説

- 1 黒赤褐色 粘土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・灰化粘土粒子・粘土小ブロック少量
- 2 黑赤褐色 燃・小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・灰化粘土・灰化灰・灰化灰子・粘土小ブロック少量
- 3 黑褐色 土上小ブロック・焼土粒子・灰化粘土・粘土小ブロック少量、灰化粘土少量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・灰化粘土・灰化灰少量
- 5 黑褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・灰化粘土少量

## P 2 土層解説

- 1 黑褐色 焼土粒子・灰化粘土・粘土小ブロック少量、灰化粘土微量
- 2 黑褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・灰化粘土・粘土小ブロック少量
- 3 黑褐色 土上小ブロック・焼土粒子・灰化粘土少量、焼土小ブロック少量

## P 3 土層解説

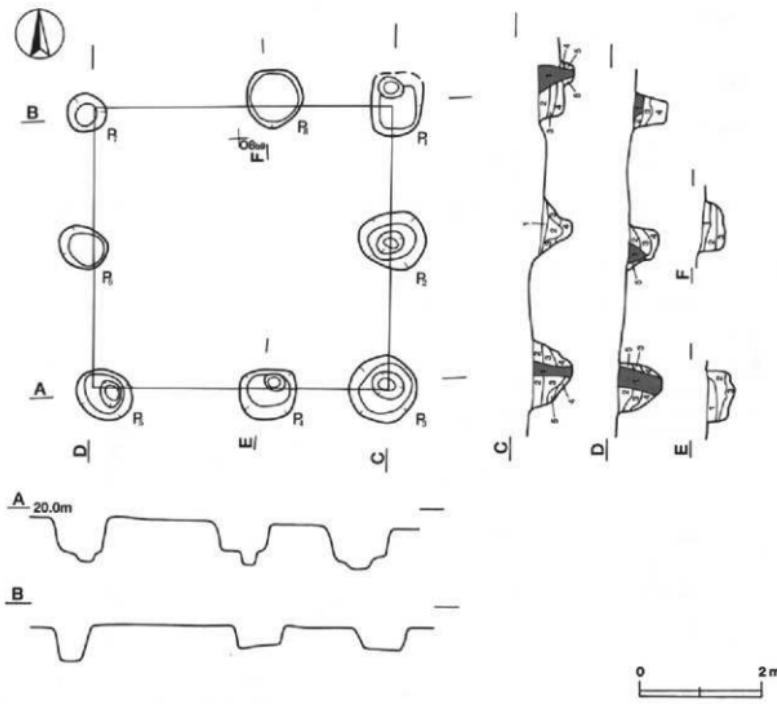
- 1 黑褐色 土上粒子中量、コーム小ブロック・焼土小ブロック・灰化粘土・灰化灰・灰化灰子・粘土小ブロック少量
- 2 黑赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、コーム小ブロック・粘土小ブロック少量
- 3 黑褐色 烧土小ブロック・焼土粒子中量、コーム小ブロック・灰化粘土・灰化灰少量・粘土小ブロック少量
- 4 黑褐色 烧土粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・灰化粘土・灰化灰少量
- 5 黑褐色 ローム小ブロック・焼土粒子中量、灰化粘土少量

## P 4 土層解説

- 1 黑褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・灰化粘土・灰化灰少量
- 2 黑褐色 烧土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・灰化粘土少量

遺物 土師器片90点、須恵器片20点が、P 6・P 8を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。土師器片のうち61点は壺の体部細片、9点は壺の細片である。須恵器片のうち12点が壺の体部細片、8点が杯小片である。

所見 柱穴は、平面形・断面形・規模ともに不ぞろいで、柱間寸法についても規則性に乏しい。同じ構造の掘立柱建物跡は検出されていない。時期は、出土土器から、奈良・平安時代と考えられるが、詳細は不明である。



第616図 第76号掘立柱建物跡実測図

#### 第77号掘立柱建物跡（第617図）

位置 調査8区の南部、O911区。

重複関係 P 1～P 4 が第1239号住居跡に掘り込まれている。

規模 南部が擾乱をうけているため桁行長は不明であるが、さらに南へ延びる可能性があり、桁行1間以上、梁行1間の建物跡である。規模は、桁行長3.00m以上、梁行長2.70mである。柱間寸法は桁行2.50m、梁行2.70mである。柱穴は、平面形が長径（軸）1.17～1.51m、短径（軸）0.90～1.03mの不整橢円形または隅丸方形で、深さ30～34cmである。

桁行方向 N - 2° - E

柱穴覆土 土層断面図中、P 1・P 2・P 4 の第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック・炭化粒子を含む黒色土で、強く突き固められてはいないが互層をなしている。

#### P 1 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒色 炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック微量
- 3 黒色 ローム小ブロック少量

P 2 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒色 炭化粒子少量
- 3 黒色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量

P 3 土層解説

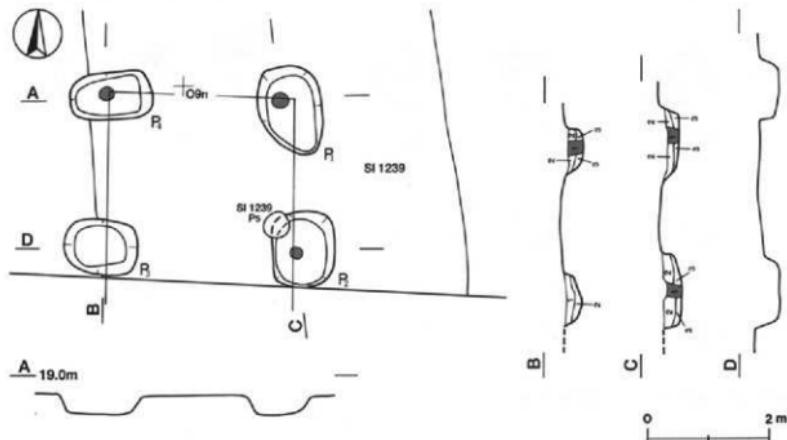
- 1 黒色 ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

P 4 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 2 黒色 炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 3 黒色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 土器窓体部細片11点、須恵器窓体部細片3点、須恵器盤細片1点が、P 3 を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、9世紀中葉と考えられる第1239号住居に掘り込まれていること、わずかながらうかがえる出土土器の特徴から、8世紀後半から9世紀中葉と考えられる。



第617図 第77号掘立柱建物跡実測図

第78号掘立柱建物跡（第618・619図）

位置 調査8区の南西、N8g6区。

重複関係 すべての柱穴が第81号掘立柱建物に掘り込まれている。

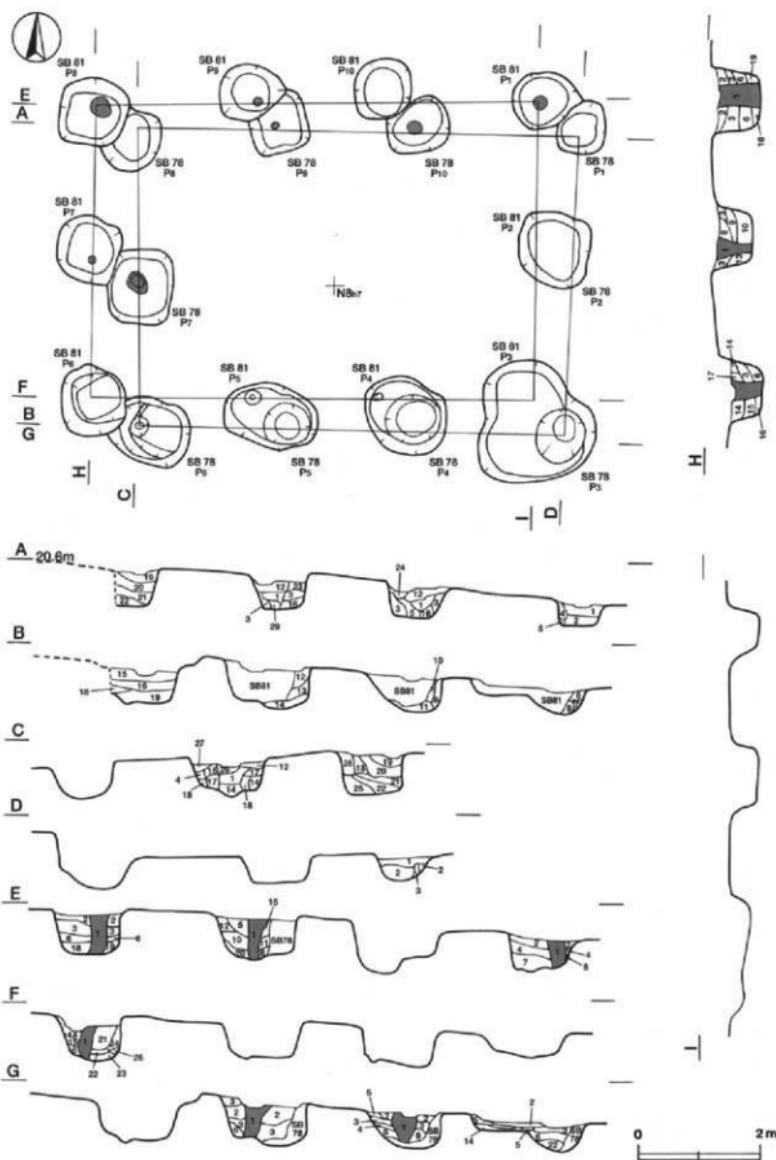
規模 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長7.07m、梁行長4.82mである。柱間寸法は桁行2.30~2.70m、梁行2.00~2.80mである。柱穴は、平面形が長径（軸）0.95~1.95m、短径（軸）0.82~1.63mの梢円形・隅丸長方形または不定形で、深さ44~95cmである。

桁行方向 N-85° - E

柱穴覆土 土層断面でとらえたのは、すべて埋土である。埋土はロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土であり、強く突き固められてはいない。

P 1~P 10 土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

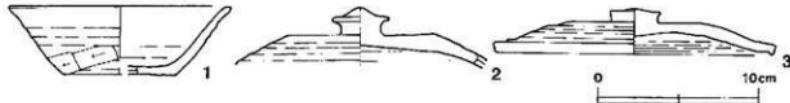


第618図 第78・81号掘立柱建物跡実測図

- 2 黒褐色 ロ・ム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
 5 黑褐色 烧土小ブロック・粘土粒子・炭化物・炭化粒子微量  
 7 黑褐色 ローム小ブロック少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量  
 8 黑褐色 コーム小ブロック少量  
 9 黑褐色 コーム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量  
 10 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化物・粘土大ブロック微量  
 11 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量  
 12 黑褐色 ローム小ブロック中量、炭化物微量  
 13 黑褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・炭化粒子微量  
 14 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量  
 15 黑褐色 コーム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量  
 16 黑褐色 コーム小ブロック・コーム小ブロック中量、炭化物・炭化粒子微量  
 17 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量  
 18 黑褐色 ローム小ブロック少量、コーム小ブロック中量、燒土・粘土微量  
 19 黑褐色 ローム小ブロック少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量  
 20 黑褐色 ローム小ブロック少量、ローム小ブロック中量、炭化物微量  
 21 黑褐色 ローム小ブロック・ローム小ブロック少量、コーム小ブロック微量  
 22 黑褐色 コーム小ブロック中量、炭化粒子微量  
 23 黑褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック微量  
 24 黑褐色 ローム小ブロック少量、燒土小ブロック・燒土粒子微量  
 25 黑褐色 ローム小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量  
 26 黑褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、燒土粒子微量  
 27 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量  
 28 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、燒土粒子微量  
 29 黑褐色 ローム小ブロック中量、燒土粒子少量、炭化物微量

**遺物** 上部器皿131点、須恵器116点が、P 2・P 4を除く各柱穴の埋土から出土している。第619図1の須恵器はP 9の埋土から、2の須恵器蓋はP 6の埋土から、3の須恵器蓋はP 7の埋土からそれぞれ出土している。

**所見** 柱穴にはそれぞれ第81号掘立柱建物の柱穴との重複が見られ、本跡が第81号掘立柱建物に建て替えられた可能性が考えられる。本跡の時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。



第619図 第78号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第78号掘立柱建物跡出土遺物観察表

回収番号	器種	計測値(cm)	沿形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第619回 1	环	A [38.6]	腹部から口縁部の剥離。平底、体	口縁部及び体部内・外向ロクロナダ	深緑・青緑・灰石・ 20%	P 8382
	器	B 42	部は外端として立ち上がり、口縁部	。体部下端子持ちへら削り、底部削面へラ切り後、ヘラ削り。	灰白色、普通	
	須恵器	C [70.1]	はわずかに外反する。			
2	蓋	B [3.8]	口縫部欠損。天井部から外周部の	大井部削りへラ削り。外周部内・外向ロクロナダ。	深緑・青緑・灰石・ 40%	P 8353
		F [26.0]	脱片。天井部は円形で、腹内底状		石灰	P L 260
	須恵器	G 17	のつまみが付く。	外周ロクロナダ。	褐色色、普通	
3	蓋	A 17.2	天井部から口縁部の剥離。火牛部	天井部削りへラ削り。外周部及び	深緑・青緑・灰石・ 20%	P 8354
		B 28	は頂部が平底で外周部はなだらか	口縁部内・外向ロクロナダ。	暗灰色	
	須恵器	F 31	に下降し、口縁部は下方へ削りす		普通	P L 269
		G 0.9	る。つまみはボタン状を呈する。			

第79号掘立柱建物跡(第620・621図)

**位置** 調査8区の中央部、N8j8区。

**重複関係** P 10が第107号掘立柱建物跡を、P 1～P 3・P 6～P 9が第108号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模** 衍行3間、梁行2間の側式の柱建物跡で、衍行長5.86m、梁行長4.80mである。柱間寸法は衍行1.50～2.30m、梁行2.08～2.70mである。柱穴は、平面形が長径0.79～1.73m、短径0.78～1.22mの円形または不整形円形で、深さ44～88cmである。

航行方向 N-88° - E

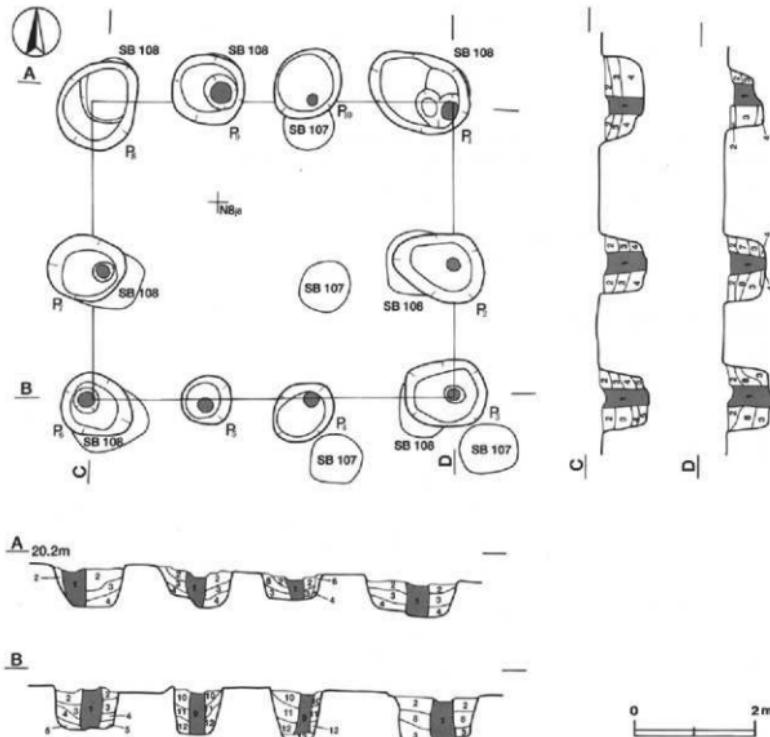
柱穴覆土 土層断面図中、第1・9層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒色土・黒褐色土・暗褐色土であり、強く突き固められていないが互層をなしている。

P 1～P 10土層解説（各柱穴共通）

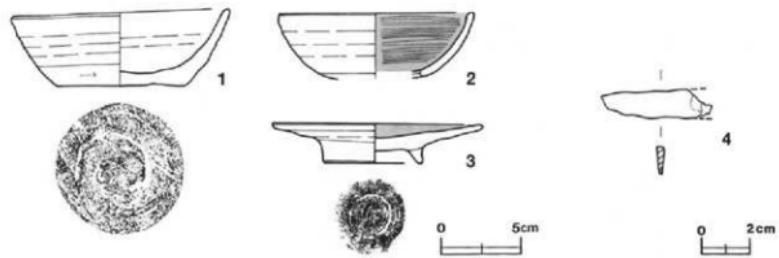
1 黒褐色	ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量	7 黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、炭化物微量	8 黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化物・粘土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化物・粘土粒子微量	9 黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量化、焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 黒褐色	ローム小ブロック少量
5 黒褐色	ローム小ブロック少量化、焼土粒子微量	11 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
6 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子微量	12 黒褐色	炭化粒子微量
		13 黒色	粘土粒子中量

遺物 土器片134点、須恵器片49点、鉄器1点（刀子）が、P 4・6を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第621図1の土器片はP 7の埋土から、2の土器片はP 10の埋土から、3の土器片はP 2の埋土から、4の刀子はP 8の埋土からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。



第620図 第79号掘立柱建物跡実測図



第621図 第79号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第79号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第621図 1	壺	A 13.4 B 4.7 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部に丸る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 70% 浅黄褐色、普通	P8355 P L269
	壺	A [12.0] B 4.0 C [5.8]	底部から体部の破片。体部は内側立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 10% 褐色、普通	P8356 P L269
	皿	A [12.8] B 2.4 C 6.0 D 1.1	高台部から口縁部の破片。高台は底部周囲にあり、ハの字状に開く。体部は直やかに外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 30% 普通	P8357 P L269
第621図 4	刀子	(4.6)	(4.6)	1.2	0.3	(4.7) 胎、刀身部の破片。 MS223 P L282

第80A・B号掘立柱建物跡（第622～625図）

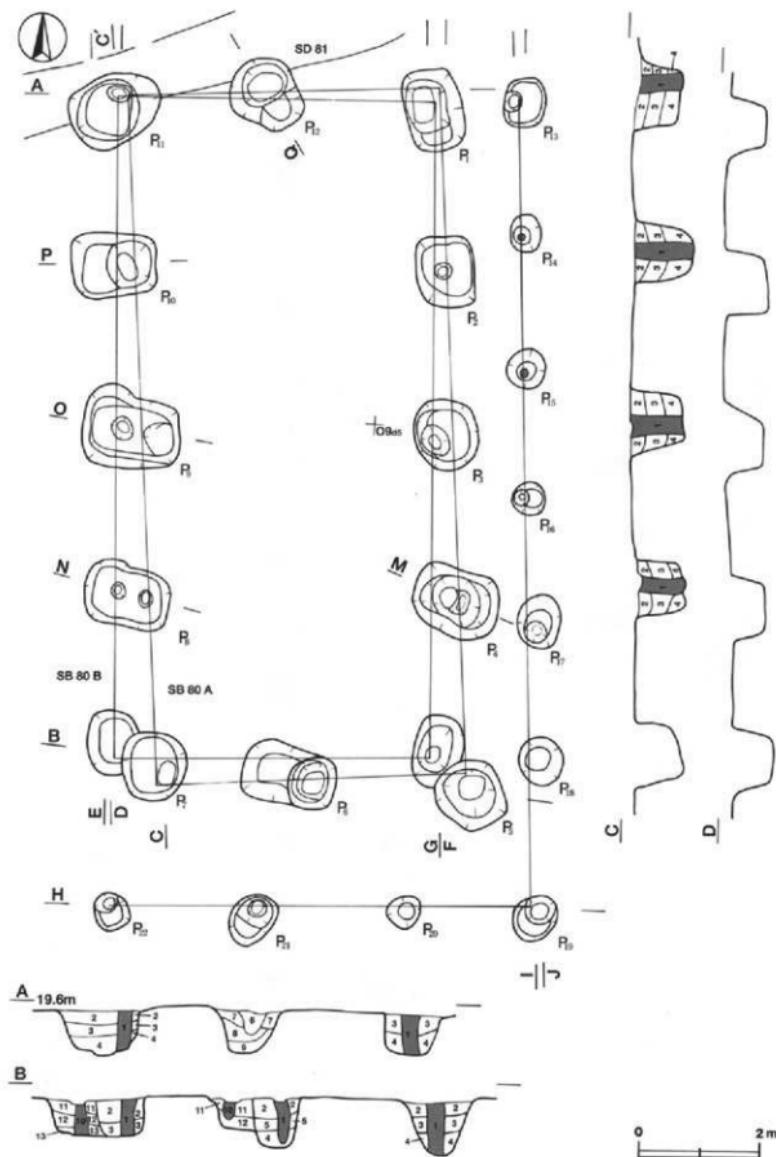
位置 調査8区の南部、O9c4区。

重複関係 第80A号掘立柱建物跡が第80B号掘立柱建物跡のすべての柱穴を掘り込んでいる。また、P11・P12が第81号溝を掘り込んでいる。

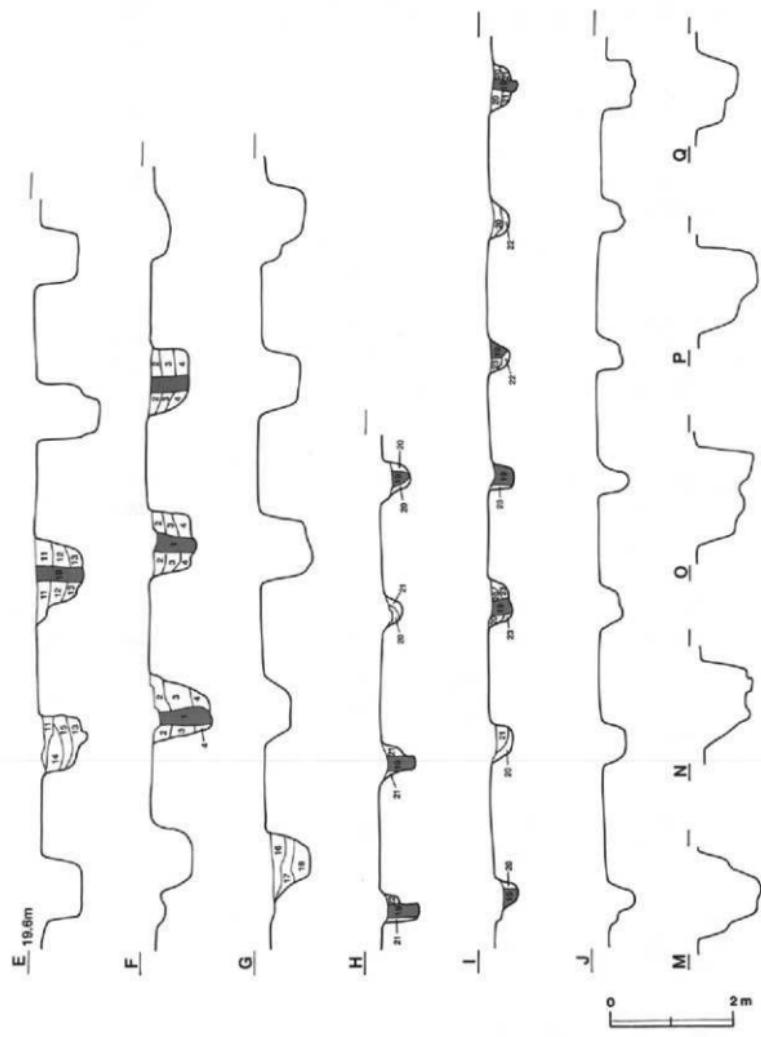
規模 第80A号掘立柱建物跡は、桁行4間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長11.10m、梁行長5.00mである。柱間寸法は桁行2.70m～2.80m、梁行2.50mである。柱穴は、平面形が長径（軸）0.90～1.52m、短径（軸）0.70～1.10mの円形・椭円形または隅丸長方形で、深さ60～103cmである。第80B号掘立柱建物跡は、桁行4間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長10.60m、梁行長5.10mである。柱間寸法は桁行2.60～2.70m、梁行2.50～2.60mである。確認できた柱穴の平面形は、長径（軸）0.99～1.04cm、短径（軸）81～93cmの円形・椭円形または隅丸長方形で、深さ45～78cmである。また、東側へ1.50m離れて東桁行に、南側へ2.40m離れて南梁行にそれぞれ平行してL字状の柱列（P13～P22）を検出した。規模は、P13～P19の長さ13.10m、P19～P22の長さ6.65m、柱間寸法は2.20m～2.40mである。柱穴は平面形が長径（軸）0.45～0.75m、短径（軸）0.48～0.58mの円形・椭円形または隅丸方形で、深さ41～58cmである。

桁行方向 N-5°-W（第80A号掘立柱建物跡）、N-1°-W（第80B号掘立柱建物跡）

柱穴覆土 土層断面図中、第1～9層が第80A号掘立柱建物跡、第10～23層が第80B号掘立柱建物跡の土層で



第622図 第80 A + B号掘立柱建物跡実測図 (1)



第623図 第80A・B号掘立柱建物跡実測図（2）

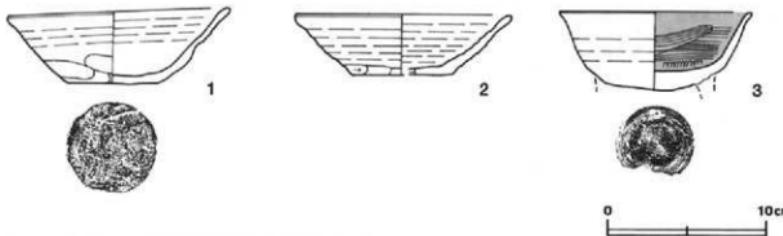
ある。第1・10・19層が柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック・粘土ブロックを含む黒褐色土を基調に互層にし、突き固められている。特に第5・8・13層は強く突き固められている。

P 1～P22層解説（各柱穴共通）

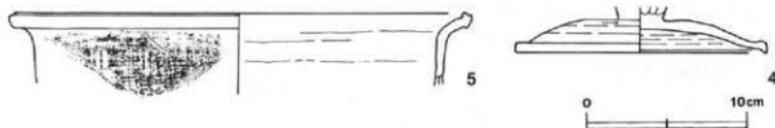
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 3 黑褐色 粘土粒子中量・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 4 黑褐色 烧土粒子中量・焼土粒子少量・炭化粒子・粘土小ブロック微量
- 5 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 暗赤褐色 烧土粒子中量・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 烧土粒子中量・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 8 黑褐色 粘土粒子中量・ローム小ブロック少量
- 9 黄褐色 炭化物・粘土粒子・灰中量・焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 黑褐色 粘土粒子中量・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 11 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 12 黑褐色 粘土小ブロック・粘土粒子中量・炭化粒子少量
- 13 黑褐色 粘土小ブロック・粘土粒子中量・炭化物少量
- 14 黑褐色 粘土小ブロック・粘土粒子中量・ローム粒子・炭化物少量
- 15 黑褐色 粘土粒子中量・粘土小ブロック少量・焼土小ブロック・炭化物・粘土中ブロック微量
- 16 黄褐色 烧土小ブロック・粘土粒子中量・ローム小ブロック少量
- 17 暗褐色 ローム小ブロック中量・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 18 暗褐色 ローム小ブロック・粘土粒子中量・炭化粒子少量
- 19 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・粘土小ブロック少量
- 20 暗褐色 ローム小ブロック中量・ローム粒子少量
- 21 黑褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 22 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量
- 23 黑褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量

**遺物** 第80A号掘立柱建物跡からは、土師器片335点、須恵器片239点が、第80B号掘立柱建物跡からは、土師器片39点、須恵器片101点がP14・P22を除く各柱穴柱抜き取り痕や埋土から出土している。第624・625図の1～3・5は第80A号掘立柱建物跡から出土している。4は第80B号掘立柱建物跡から出土している。1の須恵器は、P11の埋土から出土した2片が接合したものである。2の須恵器は、P12の埋土から出土した数片が接合したものである。3の土師器高台付杯は、P2の埋土から出土した2片が接合したものである。4の須恵器蓋はP13の埋土から、5の須恵器甕はP9の埋土からそれぞれ出土している。

**所見** 柱穴にはそれぞれ重複が見られ、第80B号掘立柱建物跡から第80A号掘立柱建物跡に建て替えられた可能性が考えられる。また、東側と南側にL字状の柱列を検出した。庇を想定するには柱筋が合わないが、第80B号掘立柱建物跡の東桁行と南梁行に平行していることから、第80B号掘立柱建物跡の付属施設の可能性が考えられる。第80A号掘立柱建物跡の時期は出土土器から、9世紀中葉と考えられる。第80B号掘立柱建物跡の時期は第80A号掘立柱建物跡に掘り込まれていることや、わずかながらうかがえる出土土器の特徴から9世紀前葉から9世紀中葉と考えられる。



第624図 第80A号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第625図 第80A・B号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第80A・B号掘立柱建物跡出土遺物観察表

団番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第624団 1	環	A 13.6 B 47 C 5.6	底部から体部の被片。体部は外縁して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナナ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 褐色、普通	P8359 50%
	環	A [13.2] B 3.7 C [ 6.0]	底部から体部の被片。体部は外縁して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナナ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄褐色 普通	P8360 40% P L269
	高台付環 土師器	A [13.2] B ( 5.3 )	高台部欠損。底部からロ縁部の被片。体部は下段に後をもち、外側して立ち上がる。ロ縁部はやや外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナナ。内部ヘラ削き。底部回転ヘラ削り後。ナナ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 褐色 普通	P8358 30% P L269
第625団 4	蓋	A 15.6 B ( 2.8 )	つまみ部欠損。天井部は頂部が平坦で外周部はなだらかに下降し、口縁部は下方へ屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面ロクロナナ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色、普通	P8361 50% P L269
	蓋 土師器	A [28.0] B ( 4.4 )	体部上位からロ縁部。体部は直線的に立ち上がり、頭部で屈曲する。ロ縁部は上方に突出させている。	ロ縁部内・外面ロクロナナ。体部外面格子目状の叩き、内面ヘラナナ。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P8362 5%

第81号掘立柱建物跡（第618・626図）

位置 調査8区の南西部、N8g6区。

重複関係 すべての柱穴が第78号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長7.21m、梁行長4.74mである。柱間寸法は桁行2.10m～2.58m、梁行2.21～2.53mである。柱穴は、平面形が長径（軸）1.10～1.47m、短径（軸）0.84～1.16mの円形、橢円形または隅丸方形で、深さ24～74cmである。

桁行方向 N-88° - E

柱穴覆土 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色土を基調としており、特に突き固められてはいないが互層をなしている。

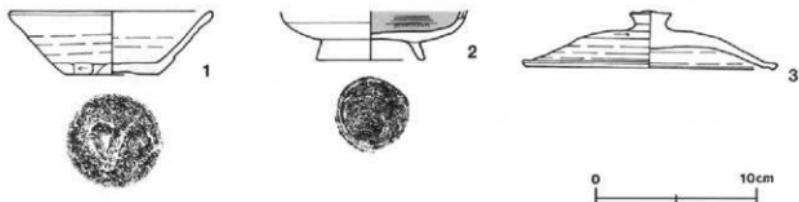
P 1～P10土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量、炭化物微量
- 2 黑褐色 ローム小ブロック中量、粘土小ブロック少量、燒土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック少量、燒土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、ローム中ブロック・燒土粒子・炭化物微量
- 5 黑褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・燒土粒子微量
- 6 黑褐色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 7 黑褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 8 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・燒土中ブロック・炭化物少量、燒土小ブロック微量
- 9 黑褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・燒土小ブロック・燒土粒子微量
- 10 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 11 黑褐色 ローム小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量
- 12 黑褐色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 13 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化物微量
- 14 黑褐色 粘土粒子中量、ローム小ブロック・燒土小ブロック・燒土粒子少量
- 15 黑褐色 粘土小ブロック・粘土粒子中量、ローム小ブロック少量
- 16 黑褐色 粘土粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 17 黑褐色 燃土粒子・砂粒中量、ローム小ブロック・炭化物・灰少量
- 18 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック少  
量、燒土小ブロック・炭化物微量
- 19 黑褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・燒土小ブロ  
ック・燒土粒子・炭化物微量
- 20 黑褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少  
量、炭化粒子微量
- 21 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロ  
ック少量、燒土小ブロック・炭化物微量
- 22 黑褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、炭化物微量
- 23 黑褐色 ローム小ブロック中量、燒土小ブロック・燒土粒子微量

24 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム大 25 灰褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・灰・砂粒中量、炭化物・炭化粒子微量

**遺物** 土器片66点、須恵器片67点が、P 3・P 10を除く各柱穴から出土している。第626図1の須恵器片はP 9の埋土から、2の土器高台付杯はP 3の埋土から、3の須恵器蓋はP 10の埋土からそれぞれ出土している。

**所見** 柱穴にはそれぞれ第78号掘立柱建物跡の柱穴との重複が見られ、第78号掘立柱建物跡から本跡に建て替えられた可能性が考えられる。本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第626図 第81号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第81号掘立柱建物跡出土遺物観察表

国版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第626図 1	环	A 12.4 B 3.9 C 5.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。体部下端半持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 石英 90% 黄灰色、普通	P 8364 P L 270
	高台付杯	B (3.0)	高台部から体部下位の破片。高台は短くハの字状に広がる。体部は	体部外側ロクロナデ。内面へラ削き。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。ナガ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P 8363 P L 270
	土器	D 6.6 E 1.1	下位に後をもつ。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面クロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	P 8365 P L 269
第82号掘立柱建物跡 2	蓋	A [15.4] B 3.5 F [2.6]	天井部から口縁部の破片。天井部は笠形で、縫合のボタン状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面クロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・雲母・石英 35%	P 8366
	須恵器	G 0.9				P L 269

第82号掘立柱建物跡（第627図）

**位置** 調査8区の南西部、O813区。

**重複関係** 北東部が第1236号住居に掘り込まれている。そのため、北東部の柱穴は確認できなかった。また、P 3の上部が第872号土坑に掘り込まれている。

**規模** 確認できたP 1～P 7の柱穴の配置から、桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡であったと考えられ、桁行長7.16m、梁行長4.82mである。柱間寸法は桁行2.40～2.70m、梁行2.30～2.50mである。柱穴は7か所（P 1～P 7）で、平面形が長軸（径）0.62～1.10m、短軸（径）0.62～1.05mの隅丸方形・円形であり、断面形が逆台形状を呈し、深さは34～82cmである。

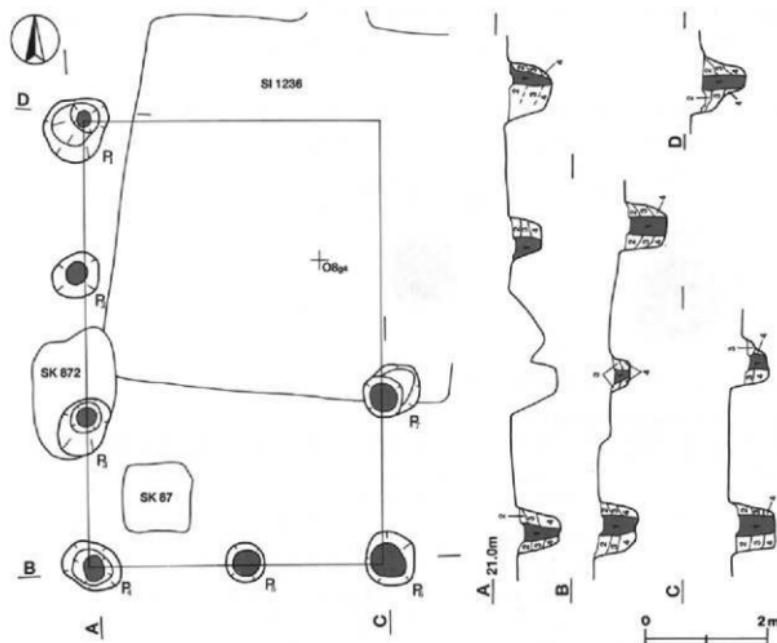
**桁行方向** N-1°-W

**柱穴覆土** 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色土で、版築状に突き固められている。

#### P 1～P 7土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量。しまり弱い。
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

所見 本跡の時期は、土器が出土していないため断定することは難しいが、9世紀中葉の第1236号住居に掘り込まれていることと、遺構の形態及び位置関係から8世紀から9世紀中葉の時期幅におさまると考えられる。



第627図 第82号掘立柱建物跡実測図

#### 第83号掘立柱建物跡（第628図）

位置 調査8区の南部。O8g5区。

重複関係 北部で第1228号住居跡を掘り込んでいる。

規模 南部が調査区外に位置しているため、全容は不明である。検出された北部は、東西軸が3間で、南北軸が1間であるが、南北軸はそれ以上の側柱式の建物跡であったと考えられる。東西長6.99m、南北長2.15mである。柱間寸法は、東西が2.10~2.60m、南北が2.05~2.15mで、柱穴は6か所（P 1~P 6）で、平面形は長軸（径）0.86~1.27m、短軸（径）0.70~1.20mの隅丸長方形・梢円形であり、断面形は逆台形状を呈し、深さは26~52cmである。

長軸方向 N-89°-E

柱穴覆土 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土で、版築状に突き固められている。

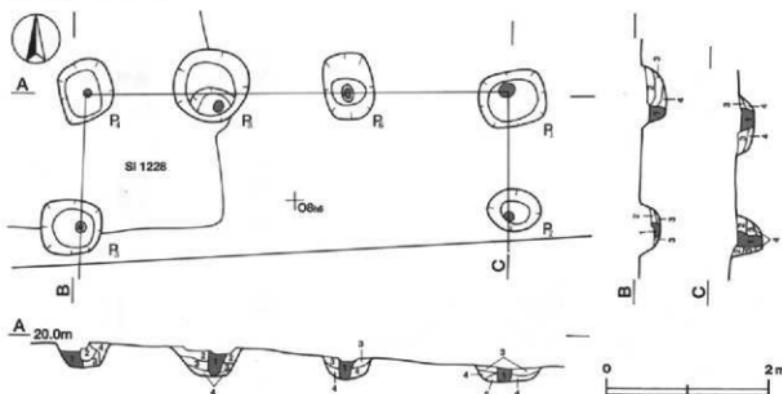
#### P 1~P 6 土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量。しまり弱い。

2 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

- 3 黒褐色 粘土粒子中量。ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量  
 4 褐色 ローム粒子多量。ローム大ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

所見 本跡から遺物は出土しなかった。時期は、9世紀中葉の第1228号住居を掘り込んでいることから、9世紀中葉以降と考えられる。



第628図 第83号掘立柱建物跡実測図

#### 第84号掘立柱建物跡（第629図）

位置 調査8区の南部。O8E5区。

重複関係 北部のP1・P11・P12が第1233・1237・1238号住居に、南西部のP6・P7が第1228号住居、東部のP2が第85号掘立柱建物に、それぞれ掘り込まれている。

規模 桁行3間、梁行3間の側柱式の建物跡で、桁行長7.20m、梁行長5.60mである。柱間寸法は桁行2.20~2.50m、梁行1.70~1.95mである。柱穴は12か所（P1～P12）で、平面形はP1が第1233号に掘り込まれているため径0.37mの円形であり、その他は、長軸（径）0.80~1.20m、短軸（径）0.66~0.86mの隅丸長方形・椭円形または円形であり、断面形が逆台形状を呈し、深さは24~72cmである。

桁行方向 N-81°-W

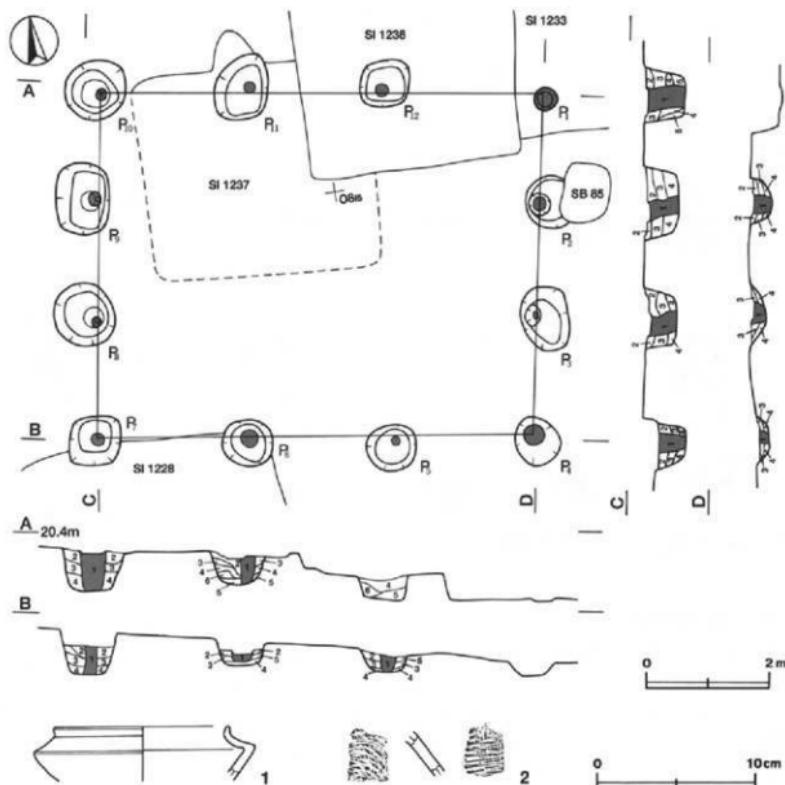
柱穴覆土 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土で、版築状に突き固められている。

#### P2~P12土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量。しまり弱い。
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量

遺物 土師器片9点、須恵器片7点が、P5・P6・P9の埋土から出土している。第629図1の須恵器小形短頸壺、2の須恵器壺の体部片は、P5の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、9世紀後葉の第1233号住居、9世紀前葉から後葉の第85号掘立柱建物に掘り込まれていることと出土土器から、8世紀前葉から9世紀前葉と考えられる。



第629図 第84号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第84号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第629図 1	小形短頸壺	A [10.8] B (3.3)	体部上位から頸部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、屈曲して底部に至る。頸部は短く直立する。	頸部、体部内・外面クロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 8888 10%
	頸壺					
2	甕	B (2.5)	体部の破片。	体部外側横位の平行叩き、内面同心円状の当て具痕。	砂粒・長石 灰褐色 普通	T P 8419 5% P L 271
	頸壺					

第85号掘立柱建物跡（第630・631図）

位置 調査8区の南部。O8F7区。

重複関係 第84・86号掘立柱建物跡を掘り込み、北西部が第1233号住居に掘り込まれている。

規模 北西部が第1233号住居に掘り込まれていて確認できず、全容は不明である。確認できた南東部から、桁

行3間、梁行3間の側柱式の建物跡であったと考えられる。桁行長6.81m、梁行長4.75mで、柱間寸法は桁行2.00~2.40m、梁行1.60mである。柱穴は8か所（P1~P8）で、平面形は長軸（径）0.98~1.38m、短軸（径）0.90~1.15mの隅丸長方形・椭円形であり、断面形は逆台形状を呈し、深さは32~71cmである。

桁行方向 N-83°-E

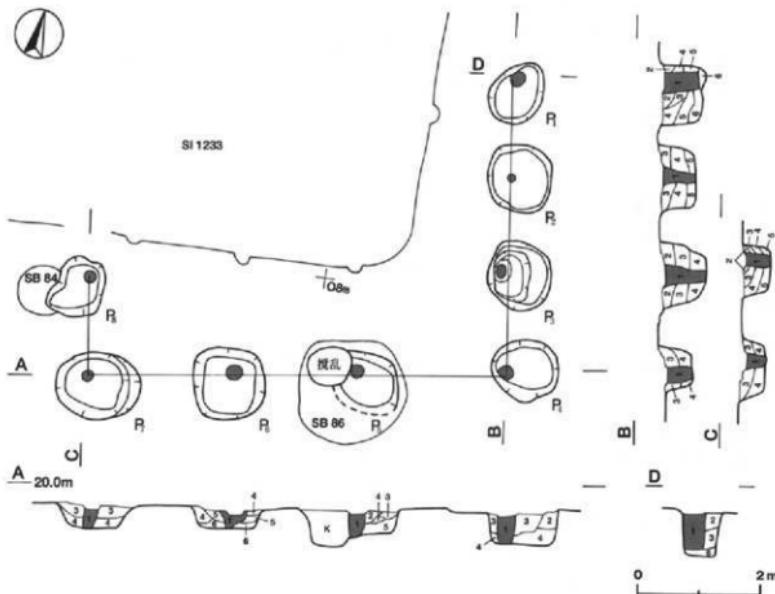
柱穴覆土 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土であり、版築状に突き固められている。

P1~P8土層解説（各柱穴共通）

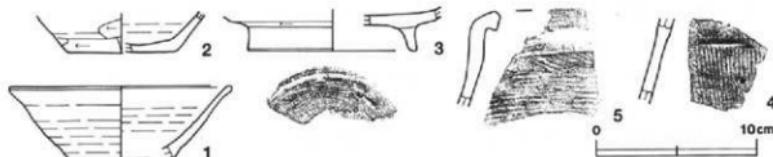
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、燒土小ブロック・燒土粒子・炭化粒子微量、しまり弱い。
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化物微量
- 4 黑褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量
- 5 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・粘土小ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子少量、粘土小ブロック・粘土粒子微量

遺物 土師器片32点、須恵器片12点が、すべての柱穴の埋土から出土している。第630図1の須恵器杯はP2の埋土から、2の須恵器杯はP8の埋土から、3の須恵器盤はP5の埋土から、それぞれ出土している。4の須恵器鉢の体部片はP8の埋土から、5の須恵器鉢の口縁部片はP3の埋土から、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、9世紀後葉の第1233号住居に掘り込まれていることと出土土器から、9世紀前葉から後葉と考えられる。



第630図 第85号掘立柱建物跡実測図



第631図 第85号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第85号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	動土・色調・焼成	備考
第631図 1	壺	A [13.6] B 4.4 C [ 6.4]	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内壁気味に外側して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部。体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P 8899 10%
	壺 横器	B ( 2.4) C [ 6.6]	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外側して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	P 8900 15%
	盤	B ( 2.6) D [10.4] E 1.5	高台部から体部下位にかけての破片。体部は大きく外方に開く。高台はわずかに外方にふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部削除手持ちヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P 8901 10%
2	鉢	B ( 5.3)	体部の破片。体部は外側して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面縁部の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	T P 8420 5% P L 271
	鉢 横器	B ( 5.8)	体部上部から口縁部にかけての破片。体部は内壁気味に立ち上がり、口縁部に重なる。底部は下方に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外表面横枝の平行叩き。内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐色 普通	T P 8436 5% P L 271

第86号掘立柱建物跡（第632図）

位置 調査8区の南部。O8e8区。

重複関係 北西部が第1233号住居に、南部が第85号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 北西部は、第1233号住居に掘り込まれているため確認できず、全容は不明である。確認できた南東部から桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡であったと考えられる。規模は、桁行長7.35m、梁行長4.80mである。柱間寸法は桁行2.40m、梁行2.20~2.40mである。柱穴は7か所（P 1~P 7）で、平面形は長径0.71~1.74m、短径0.64~1.62mの梢円形であり、断面形は逆台形状を呈し、深さは47~70cmである。

桁行方向 N-1° - E

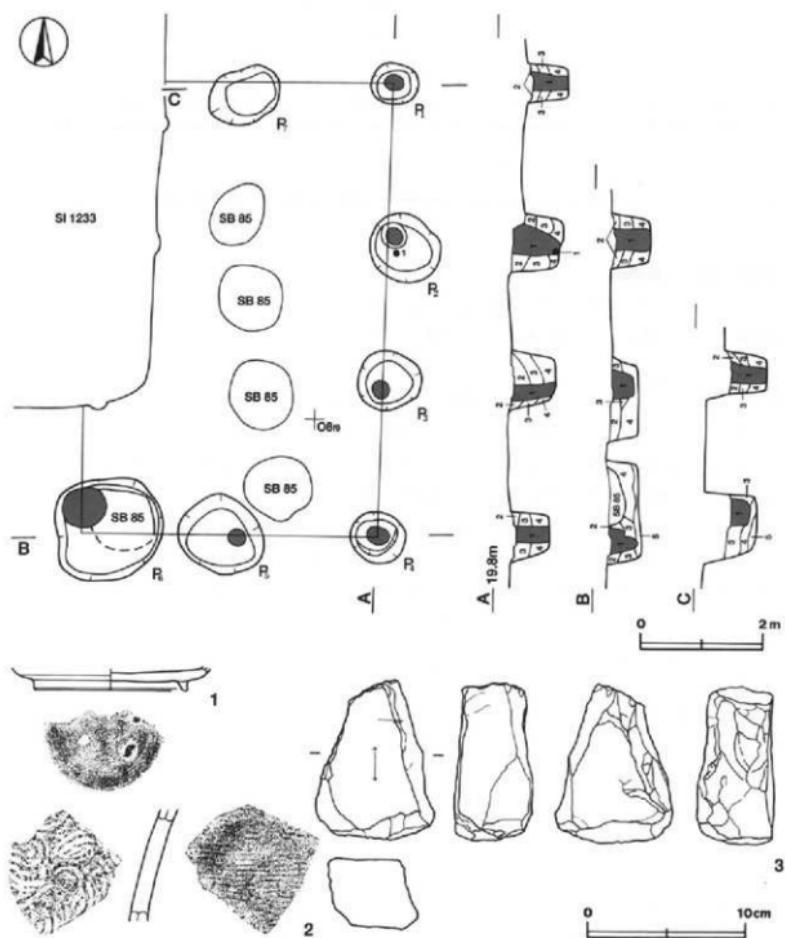
柱穴覆土 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土で、版築状に突き固められている。

#### P 1~P 7土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量。しまり弱い。
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・燒土粒子少量、炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック微量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、燒土粒子・炭化物微量
- 4 黑褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量
- 5 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・粘土小ブロック微量

遺物 土器片67点、須恵器片18点、石器1点（砥石）がP 1~P 5・P 7の埋土から、それぞれ出土している。第632図1の須恵器高台付杯はP 2の埋土中から、2の須恵器壺の体部片はP 5の埋土から、それぞれ出土している。3の砥石はP 2の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、9世紀後葉の第1233号住居、9世紀前葉から後葉の第85号掘立柱建物に掘り込まれていることと出土土器から、8世紀中葉から後葉と考えられる。



第632図 第86号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

## 第86号掘立柱建物跡出土遺物観察表

回収番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	断土・色調・模様	備考
第632回 高台付杯 1	B (13)	高台部から体部下位にかけての破片。体部は外側して立ち上がる。	体部内・外側クロマテ。体部下位凹軸・ハサギ型。底部凹軸・ハサギ型。	砂粒・雲母・石英 灰褐色	P 8903 10%	
	D 9.6					P L 270
	E 0.6	高台付外部周縁部にあり、わずかに「ハ」の字形に開く。				
2	甕	B (6.9) 体部の横片。	体部内・外側クロマテ。体部外向凹位の半円型。内面渦心凹位の当て具痕。	砂粒・雲母・長石 暗灰色	T P 8421 5%	
	須恵器			長石	P L 271	

回収番号	器種	計測値			石質	特徴	備考
		大きさ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
第632回 3	甕	9.9	7.4	4.5	(427.0)	凝灰岩 側面が埋里、中央が剥離している。	Q 8415 P L 284

## 第87A号掘立柱建物跡（第633回）

位置 調査8区の南部。O8g3区。南部は調査区域外に位置している。

重複関係 第87B号掘立柱建物跡を掘り込み、北東部のP 4～P 6の上部が、第1228・1236号住居に掘り込まれている。

規模 身合の北東コーナーの柱穴は、第1236号住居に掘り込まれているため確認できず、また、南部は調査区域外に位置しているため、全容は確認できなかった。東西両側の南北に並ぶ柱穴は、その内側の柱穴よりも、いずれも掘り込みが浅く規模が小さいことから、底部の柱穴として調査した。調査できた範囲は、桁行1間、梁行は2間とその東西両面に付く底部である。規模は構造上、桁行1間以上で、2面此付の側柱式建物跡と考えられ、桁行長2.85mで、梁行長5.40m、底部を含めた全長は10.75mである。柱間寸法は、桁行・梁行ともに2.85mである。柱穴は8か所（P 1～P 8）で、身合の柱穴は、平面形が長軸（径）0.86～1.16m、短軸（径）0.83～1.10mの隅丸長方形・楕円形であり、断面形が逆台形状を呈し、深さは62～82cmである。底部の柱穴は、平面形が長軸（径）0.85～1.27m、短軸（径）0.64～0.95mの隅丸長方形・楕円形であり、断面形が逆台形状・二段掘り状を呈し、深さは22～59cmである。

桁行方向 N = 2° - W

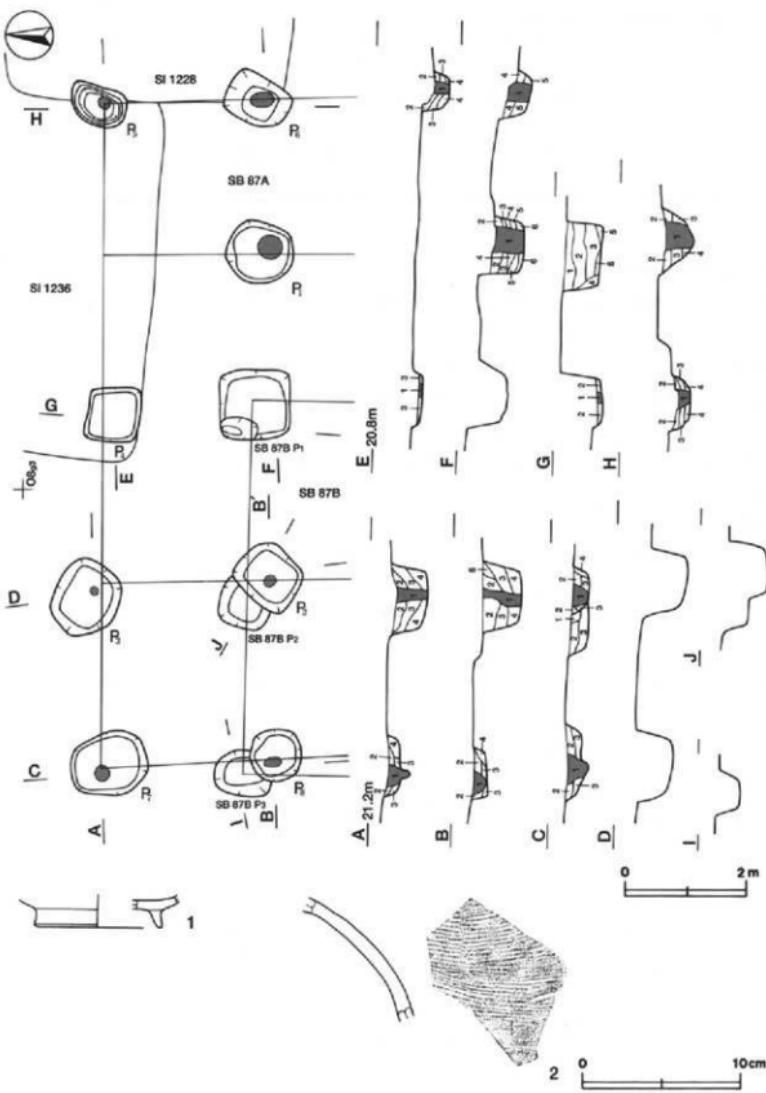
柱穴覆土 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土であり、版築状に突き固められている。

## P 1～P 8上層解説（各柱穴共通）

- 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・粘土中ブロック微量。しまり切。
- 2 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黑褐色 ローム粒子中量、ロームブロック少量
- 5 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量
- 6 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量

遺物 上部器片12点、須恵器片3点が、P 3・4・7の埋土から出土している。第633回1の須恵器高台杯はP 7の埋土中から、2の須恵器の体部片はP 4の埋土から、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、9世紀中葉の第1236号住居に掘り込まれていることと出土土器から、8世紀後葉から9世紀中葉と考えられる。



第633図 第87A・B号掘立柱建物跡実測図、第87A号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第87A号掘立柱建物跡出土遺物観察表

団版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第633図 1 土 鈴 器	高台付环	B (2.0) D (7.8) E 1.1	高台部から体部下位にかけての破片。体部は内壁気味に立ち上がり。高台は底部外周にあり、「ハ」の字状に開く。	体部内・外面クロナダ。底部圓転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナダ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P8904 10%
	甕	B (7.4)	体部の破片。	体部内・外面クロナダ。体部外面横位の平行叩き。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰色 普通	T P8422 5% P L271
	須恵器					
2	甕					
	須恵器					

第87B号掘立柱建物跡(第633・634図)

位置 調査8区の南部。O8h2区。北部のP1～P3を確認したが、その南側は調査区域外に位置しており、確認できなかった。

重複関係 P1～P3の柱穴が、第87A号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 南部が調査区域外に位置しているため、全容は不明である。調査できたP1～P3は、東西2間、長さは6.00mである。柱穴は3か所(P1～P3)で、平面形は長軸(径)0.94～1.24m、短軸(径)0.74～1.16mの隅丸長方形・橢円形であり、断面形は逆台形状を呈し、深さは40～58cmである。

長軸方向 N-87° - W。

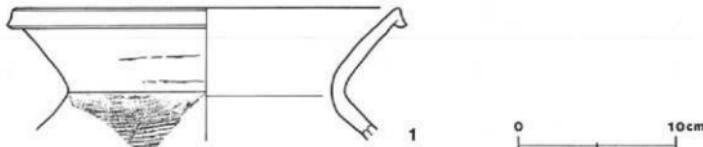
柱穴覆土 埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土である。

P1・P3土層解説(両柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量

遺物 土師器片2点、須恵器片3点が、P1の埋土から出土している。第634図1の須恵器は、P1の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、第87A号掘立柱建物に掘り込まれていることと出土土器から、8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。



第634図 第87B号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第87B号掘立柱建物跡出土遺物観察表

団版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第634図 1 須恵器	甕	A [24.0] B (8.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内壁して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。底部は下方に突出している。	口縁部、頸部、体部内・外面クロナダ。体部外面に横位の平行叩き。	砂粒・雲母・長石・石英 紫灰色 普通	P8905 5%
	須恵器					

### 第88号掘立柱建物跡（第635図）

位置 調査8区の南部、O9a3区。

重複関係 P 9・P 10が第1242号住居に掘り込まれている。

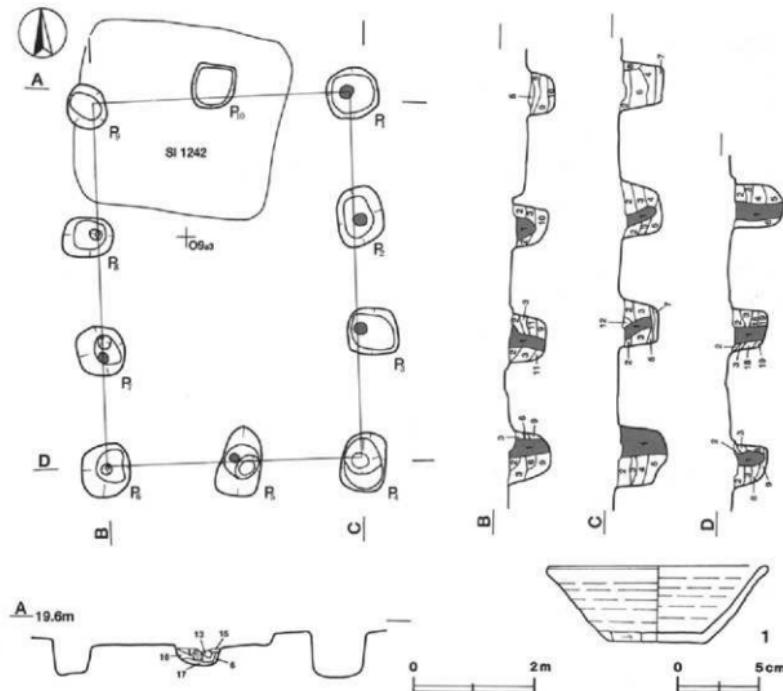
規模 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長5.89m、梁行長4.20mである。柱間寸法は桁行1.70~2.10m、梁行2.00~2.20mである。柱穴は、平面形が長軸（径）0.71~0.98m、短軸（径）0.66~0.72mの隅丸方形または梢円形で、深さ30~85cmである。

桁行方向 N - 2° - W

柱穴覆土 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土は粘土ブロック・粘土粒子を含む黒褐色土を基調にしており、粘性の多い層と少ない層が互層をなしている。

#### P 1 ~ P 10土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 4 にぶい黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 にぶい黄褐色 粘土粒子多量、ローム粒子少量
- 6 黑褐色 粘土粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
- 7 黑褐色 粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 8 黑褐色 粘土粒子中量、粘土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 9 黑褐色 炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 10 黑褐色 粘土小ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量



第635図 第88号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

11	黒	褐色	白	炭化粒子・粘土小ブロック少量。燒土粒子微量 粘土粒子中量。(ロームブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量)
12	黒	褐色	白	ロームブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量 ロームブロック・焼土粒子・燒土小ブロック中量。ローム小ブロック少量。炭化粒子微量
13	黒	褐色	白	ローム粒子・焼土粒子・燒土小ブロック・粘土粒子少量 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
14	黒	褐色	白	ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
15	黒	褐色	白	ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
16	黒	褐色	白	ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
17	黒	褐色	白	ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
18	黒	褐色	白	ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
19	黒	褐色	白	ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片19点、須恵器片12点が、P 3・P 8～P 10を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第635図1の須恵器片はP 5の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、9世紀後葉と考えられる第1242号性居に掘り込まれていることや、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第88号掘立柱建物跡出土遺物観察表

固形番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の若駕	地土・色調・焼成	備考
第635図	杯	A 136 B 49 C 60	底部から口縁部の破片。平底。体 部は外側で立ち上がり、口縁部 はわずかに外反する。縁部は丸く 収めている。	口縁部及び体部内・外側ロクロナ ド。体部下端手摺へハラ削り。底 部周縁ヘラ切り後、1方向のハラ 削り。	砂紋・雲母・長石・ 石英 黄灰色 普通	P8366 75% P.L.270
1						
須恵器						

#### 第89号掘立柱建物跡(第636図)

位置 調査8区の中央部、N80E区。

重複関係 P 6～P 8が第107号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また、P 10・P 11を第75号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 柱行3間、梁行2間の総柱式の建物跡で、柱行長7.80m、梁行長5.73mである。柱間寸法は南行2.60m、梁行2.60～2.90mである。柱穴は、平面形が長輪(径)0.59～1.08m、短軸(径)0.53～0.78mの円形または隅丸長方形で、深さ51～83cmである。

桁行方向 N=6°～W

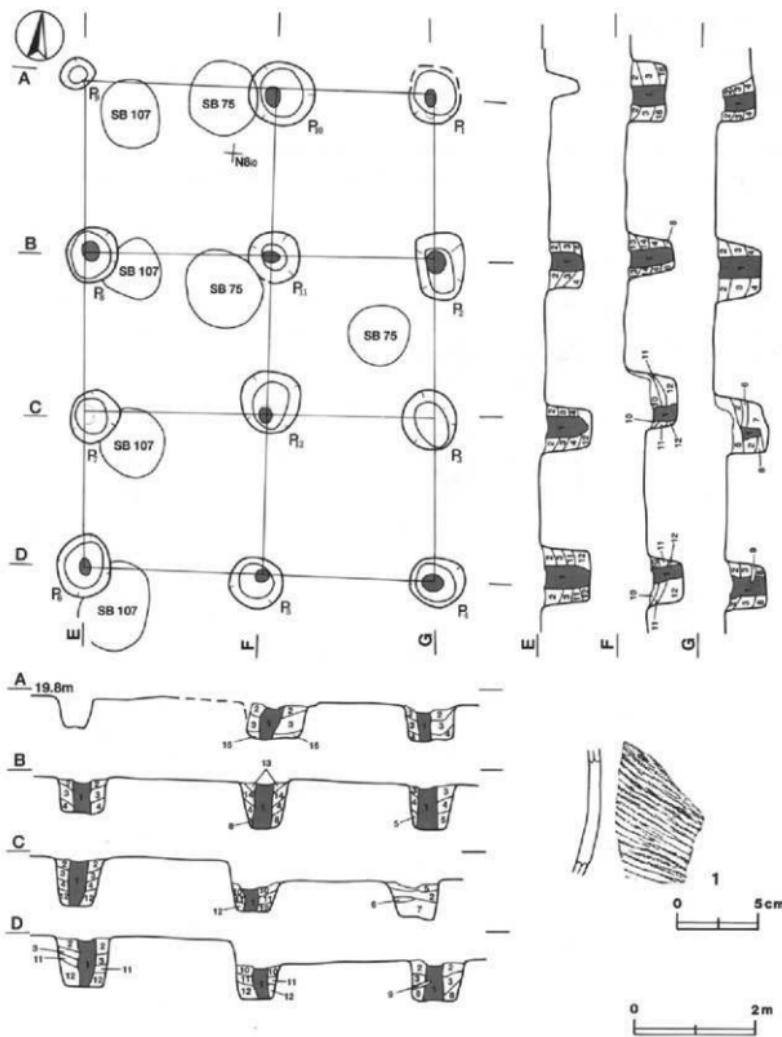
柱穴覆土 上層断面内中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒色土を基調にしており、特に強く突き固められてはいないが互層をなしている。

#### P 1～P 12上層解説(各穴共通)

1	黒	褐色	白	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
2	黒	褐色	白	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒	褐色	白	ローム小ブロック微量
4	黒	褐色	白	ローム小ブロック・焼土粒子微量
5	黒	褐色	白	ローム小ブロック微量
6	黒	褐色	白	ローム小ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量、燒土粒子微量
7	にぼい青褐色	褐色	白	ローム小ブロック多量
8	黒	褐色	白	ローム小ブロック微量
9	にぼい青褐色	褐色	白	ローム小ブロック少量

遺物 上層器片41点、須恵器片30点が、P 3～P 5・P 8・P 9を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第636図1の須恵器空体部片は、P 7の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器が細片のため特定が困難なもの、9世紀後葉から9世紀前葉と考えられる第75号掘立柱建物跡に掘り込まれていることや、わずかながらうかがえる出土土器の特徴などから8世紀と推定される。



第636図 第89号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第89号掘立柱建物跡出土遺物観察表

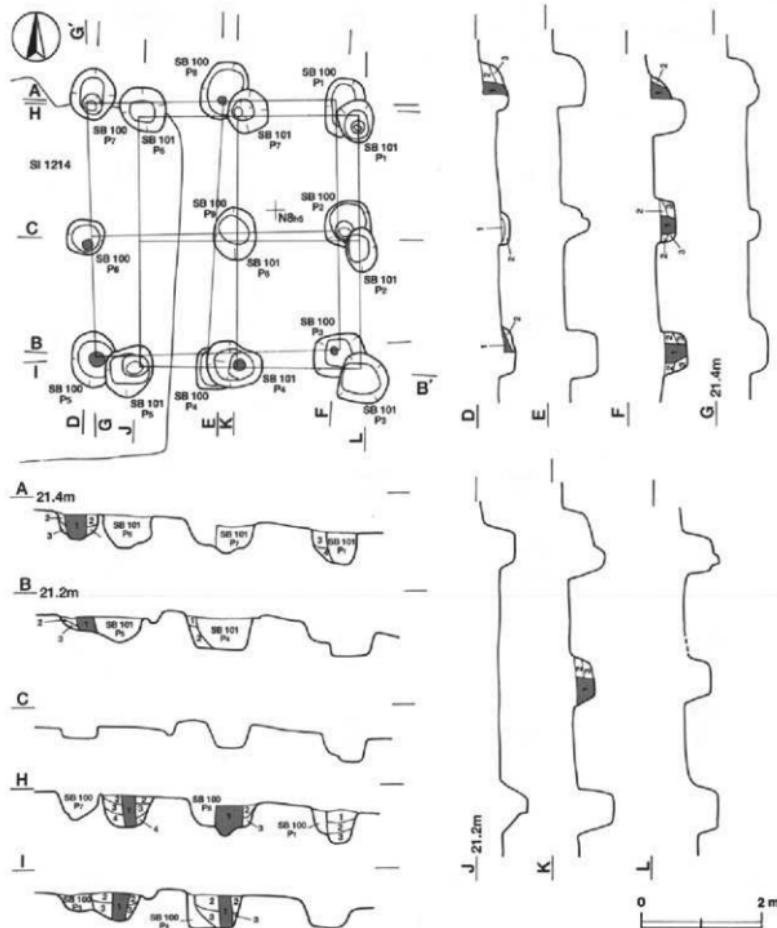
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第636図 1	須恵器	B(7.9)	体部片。	体部外斜位の平行叩き。内面ナ ギ。	砂粒・雲母・其石・ 石英、灰色、普通	T.P8213 5% P.L271

第100号掘立柱建物跡（第637・638図）

位置 調査8区の南西部、N8h4区。

重複関係 P5～P7が第1214号住居跡を掘り込んでいる。また、P1～P5・P8・P9が第101号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 桁行2間、梁行2間の総柱式の建物跡で、桁行長4.08m、梁行長4.04mである。柱間寸法は桁行1.90～2.20m、梁行1.80～2.20mである。柱穴は、平面形が長径（軸）0.60～0.98m、短径（軸）0.58～0.70mの円形・橢円形または隅丸方形で、深さ18～65cmである。



第637図 第100・101号掘立柱建物跡実測図

桁行方向 N - 0°

柱穴覆土 土層断面図中、P 1 ~ P 3, P 5 ~ P 7 の第1層が柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。

埋土はロームブロックを含む黒褐色土、暗褐色土で、強く突き固められてはいないが互層をなしている。

P 1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

P 2 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少數、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量

P 3 土層解説

- 1 黑褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量

P 4 土層解説

- 1 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 黑褐色 ローム小ブロック少量

P 5 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量

P 6 土層解説

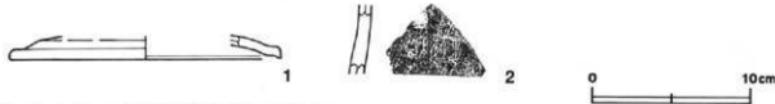
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化物微量

P 7 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・炭化物少量、炭化粒子微量

遺物 土器片30点、須恵器片13点が、P 2 ~ P 6 を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第638図1の須恵器蓋口縁部片は、P 1 の埋土から出土している。2の須恵器裏体部片は、P 1 の埋土から出土している。外面に篦書が施されているが判読不能である。

所見 本跡の身舎を構成する柱穴のうち、ほとんどが第101号掘立柱建物の柱穴と重複しており、本跡が第101号掘立柱建物に建て替えられた可能性が考えられる。また、本跡の桁行方向が、隣接する8世紀後葉と考えられる第1220号住居跡の主軸方向とほぼ一致することから、同時期に一連の施設として機能していた可能性が考えられる。時期は、出土土器が細片のため特定が困難なもの、わずかにうかがえる出土土器の特徴、8世紀中葉と考えられる第1214号住居跡を掘り込んでいること、第1220号住居跡との関連から8世紀後半と推定される。



第638図 第100号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第100号掘立柱建物跡出土遺物観察表

国版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第638図 1	蓋	A [17.0] B (1.5)	外周部から口縁部の破片。外周部はなだらかに下降し、口縁部は平坦面をもつ。裏面は下方へ仄く屈曲する。	外周部及び口縁部内・外周口クロナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 黄灰色、普通	P 8367 5%
	須恵器 裏体部片	B (4.3)	体部片。	体内部・外周ナデ。	砂粒・雲母・長石 暗灰色、普通	T P 8217 1% PL271 体部外周部
2	須恵器 裏体部片	B (4.3)	体部片。	体内部・外周ナデ。	砂粒・雲母・長石 暗灰色、普通	

#### 第101号掘立柱建物跡（第637・639図）

位置 調査8区の南西部、N8h4区。

重複関係 P 5 · P 6 が第1214号住居跡を掘り込んでいる。また、P 6 を除くすべての柱穴が第100号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模 桁行2間、梁行2間の総柱式の建物跡で、桁行長4.07m、梁行長3.59mである。柱穴は8か所（P 1 ~

P 8) 確認できた。柱間寸法は桁行1.80~2.10m, 梁行1.60~2.00mである。柱穴は、平面形が長径0.69~0.85m, 短径0.50~0.70mの円形・椭円形または不整椭円形で、深さ18~60cmである。

桁行方向 N - 0°

柱穴覆土 土層断面図中、P 4~P 6・P 8の第1層が柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土であり、強く突き固められてはいないが互層をなしている。

P 1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量

P 4 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

P 5 土層解説

- 1 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 3 黑褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

P 6 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

P 7 土層解説

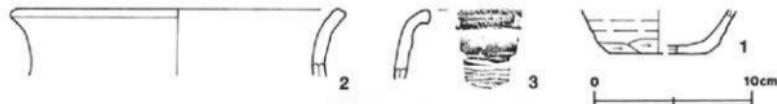
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

P 8 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土器片48点、須恵器片25点が、P 4・P 5を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第639図1の須恵器片はP 7の埋土から、2の須恵器片の口縁部片はP 1の埋土から、3須恵器鉢の体部から口縁部にかけての破片はP 2の埋土からそれぞれ出土している。

所見 本跡の身舎を構成する柱穴のうち、ほとんどが第100号掘立柱建物跡の柱穴と重複しており、第100号掘立柱建物跡から本跡に建て替えられた可能性を考えられる。時期は、出土土器が細片のため特定が困難なもの、わずかにうかがえる出土土器の特徴、8世紀中葉と考えられる第1214号住居跡を掘り込んでいることから、8世紀後半と推定される。



第639図 第101号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第101号掘立柱建物跡出土遺物観察表

回収番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第639回 1	壺	B (2.7)	底部から体部の破片。平底。体部は外反して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英・褐灰色。普通	P 8369 5%
	壺 須恵器	C (6.0)				
2	壺 須恵器	A (2.0)	口縁部片。口縁部は外反して開き端部は内側に取りをして角張らせてある。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英・灰褐色。普通	P 8371 5%
	鉢	B (4.1)	体部上位から口縁部の破片。体部は外斜して立ち上がり。口縁部で組みます。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外側横幅の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英・灰色。普通	T P 8216 5%
3	壺 須恵器	B (4.3)				P L 271

第102号掘立柱建物跡(第640図)

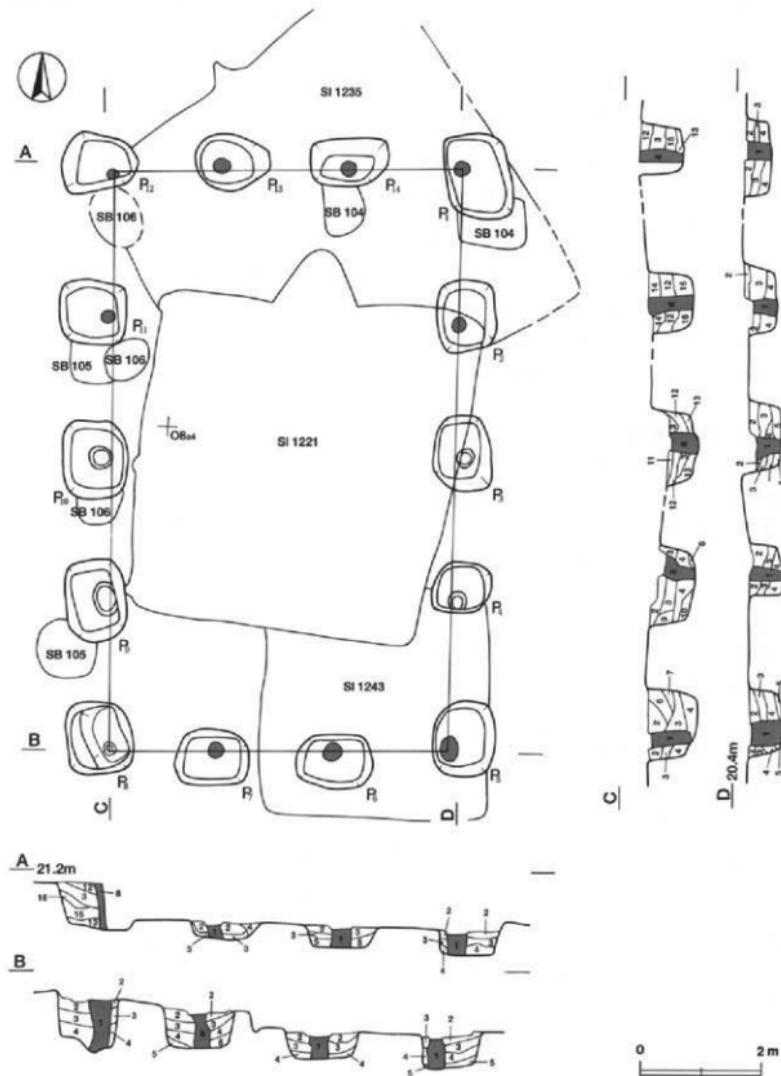
位置 調査8区の南西部、O8a3区。

重複関係 P 1・P 2・P 12~P 14が第1235号住居跡を、P 4~P 6が第1243号住居跡を、P 1・P 14が第104号掘立柱建物跡を、P 9~P 11が第105号掘立柱建物跡を、P 10~P 12が第106号掘立柱建物跡をそれぞれ掘り込んでいる。また、P 2・P 3を第1221号住居跡に掘り込まれている。

規模 桁行4間、梁行3間の側柱式の建物跡で、桁行長9.37m、梁行長5.66mである。柱間寸法は桁行2.20~

2.50m、梁行1.70~2.00mである。柱穴は、平面形が長径（軸）0.90~1.36m、短径（軸）0.84~1.03mの椭円形・隅丸方形または隅丸長方形で、深さ30~95cmである。

桁行方向 N - 2° - W



第640図 第102号掘立柱建物跡実測図

**柱穴覆土** 十層断面図中、第1・8層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土・褐色上で、突き固められてはいないが互層をなしている。

P 1～P 14土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・灰化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック・コーム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黑褐色 ローム小ブロック・コーム小ブロック中量、ローム大ブロック・炭化粒子少量
- 6 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 7 黑褐色 炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 8 暗褐色 コーム小ブロック中量、コーム中ブロック少量
- 9 黑褐色 コーム小ブロック少量
- 10 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 11 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化小ブロック・焼土粒子少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 13 黑褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 14 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 15 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 16 黑褐色 ローム中ブロック・コーム小ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

**遺物** 土器片231点、須恵器片41点が、P 7を除く各柱穴の性抜き取り痕や埋土から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土土器が細片のため特定が困難なもの、わずかにうかがえる出土土器の特徴。

8世紀後半と考えられる第104号掘立柱建物跡を掘り込んでいること、9世紀後葉と考えられる第1221号住居跡に掘り込まれていることから、9世紀と考えられる。

**第103号掘立柱建物跡（第641・642図）**

**位置** 調査8区の南西部、O8a5区。

**重複関係** P 8・P 9が第1235号住居跡を掘り込んでいる。P 3を第104号掘立柱建物に、P 6・P 7を第1221号住居に掘り込まれている。

**規模** 壁行3間、梁行2間の偶柱式の建物跡で、壁行長6.21m、梁行長4.34mである。柱間寸法は壁行1.90～2.50m、梁行2.00～2.30mである。柱穴は、平面形が長径（軸）0.72～1.15m、短径（軸）0.69～0.90mの円形・椭円形または隅丸方形で、深さ20～63cmである。

**壁行方向** N 4° E

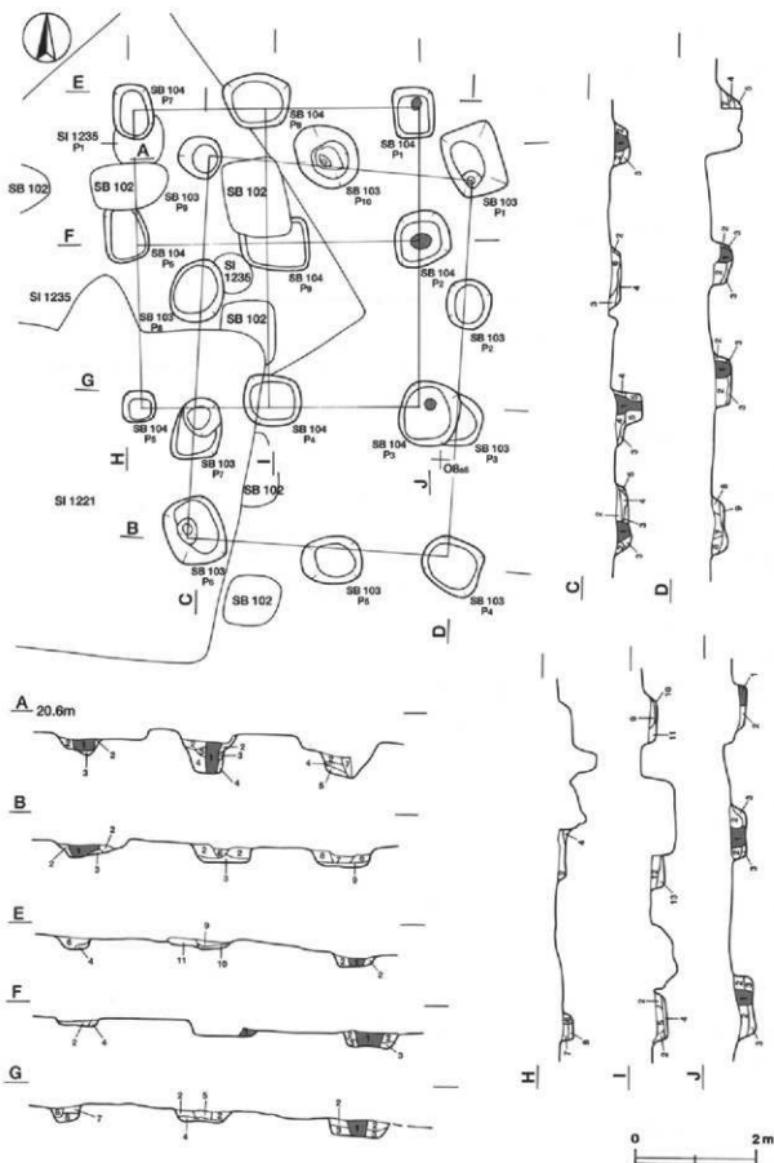
**柱穴覆土** 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック・ローム粒子を含む黒褐色土・暗褐色土であり、ローム粒子の多い層と少ない層が互層をなしている。

P 1～P 10土層解説（各柱穴共通）

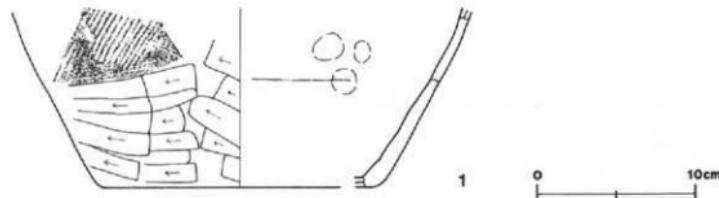
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック少量、炭化粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック微量
- 3 黑褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック・粘土小ブロック微量
- 5 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
- 6 黑褐色 ローム小ブロック少量、粘土小ブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量、コーム小ブロック微量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

**遺物** 十箇器片19点、須恵器片7点が、P 2・P 4・P 5を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第642図1の須恵器鉢体部片は、P 6の埋土から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土土器が細片のため特定が困難なもの、わずかにうかがえる出土土器の特徴、8世紀後半と考えられる第104号掘立柱建物に掘り込まれていることなどから、8世紀中葉と考えられる。



第641図 第103・104号掘立柱建物跡実測図



第642図 第103号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第103号掘立柱建物跡出土遺物観察表

回収番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第642図 1 鉢 卓器	鉢 卓器	B (11.0) C (17.4)	体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き、内面指頭圧痕、輪積み痕有り。	砂粒・雲母・長石 灰色、普通	P 8372 10% P L271

第104号掘立柱建物跡（第641図）

位置 調査8区の南西部、N85区。北へ4mの距離に位置する第100号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係 P 6～P 9が第1235号住居跡を、P 3が第103号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。P 4・P 5を第1221号住居に、P 6・P 9を第102号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 桁行2間、梁行2間の純柱式の建物跡で、桁行長4.88m、梁行長4.66mである。柱間寸法は桁行2.30～2.60m、梁行2.40～2.60mである。柱穴は、平面形が長軸（径）0.54～1.04m、短軸（径）0.53～0.96mの隅丸方形または隅丸椭円形で、深さ12～26cmである。

桁行方向 N-2°-W

柱穴覆土 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土は黒褐色土・暗褐色土・褐色土であり、突き固められてはいないが互層をなしている。

P 1～P 9土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム大粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 黑褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒色 ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、粘土小ブロック微量
- 7 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化物・粘土小ブロック微量
- 8 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 9 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 11 焦褐色 ローム小ブロック少量
- 12 黑褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は、出土土器がなく特定できないものの、隣接する8世紀後半と考えられる第100号掘立柱建物跡と桁行方向や構造がほぼ同じであることから、8世紀後半と推定される。

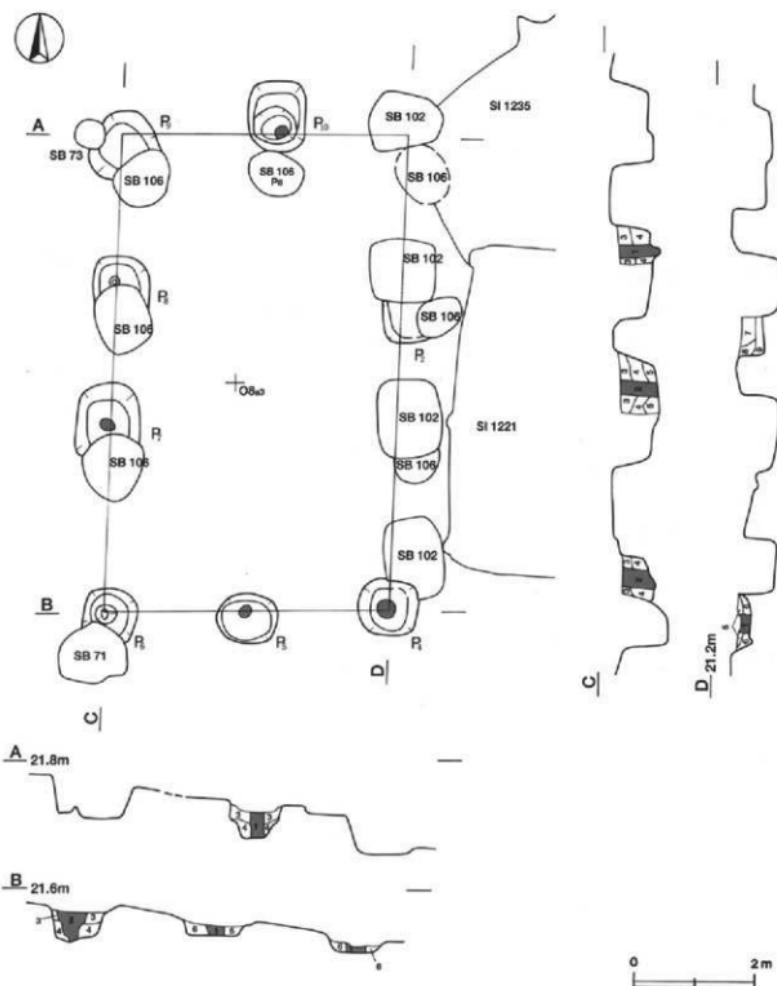
第105号掘立柱建物跡（第643図）

位置 調査8区の南西部、O8a2区。

重複関係 P 1～P 4が第102号掘立柱建物に、P 2・P 3・P 7～P 10が第106号掘立柱建物に、P 6が第71

号掘立柱建物に、P 9 が第73号掘立柱建物にそれぞれ掘り込まれている。

規模 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長7.68m、梁行長4.69mである。柱穴は、第102・106号掘立柱建物に掘り込まれていると思われる2か所を除いて8か所（P 2・P 4～P 10）が確認できた。柱間寸法は桁行2.30～3.00m、梁行2.10～2.30mである。柱穴は、平面形が長径（軸）0.98～1.18m、短径（軸）0.83～0.95mの椭円形・隅丸方形または隅丸長方形で、深さ18～80cmである。



第643図 第105号掘立柱建物跡実測図

桁行方向 N - 2° - E

柱穴覆土 上層断面図中、第1・2層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む暗褐色土を基調とし、強く突き固められてはいないが互層をなしている。

P 2・P 4～P 10上層解説（各柱穴共通）

- |       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム中ブロック、コーム小ブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック、粘土粒子少量、焼土粒子微量          |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量          |
| 4 黑褐色 | ローム小ブロック中量、焼土粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量   |
| 5 黑褐色 | ローム小ブロック少量、粘土粒子、炭化粒子微量          |
| 6 黑褐色 | ローム小ブロック少量、炭化物微量                |
| 7 黑褐色 | ローム小ブロック少量、炭化物微量                |
| 8 黑褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量          |
| 9 黑褐色 | ローム小ブロック、炭化粒子少量                 |

遺物 土器片37点、須恵器片1点が、P 4・P 6・P 7の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器が細片なため特定することが困難なもの、わずかながらうかがえる出土土器の特徴、8世紀後半と考えられる第106号掘立柱建物跡に掘り込まれていることなどから、8世紀後半以前と考えられる。

第106号掘立柱建物跡（第644図）

位置 調査8区の南西部、N83J区。東へ5mの距離に位置する第104号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係 P 1が第1235号住居跡、P 2・P 5～P 8が第105号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また、P 3を第102号掘立柱建物に掘り込まっている。

規模 桁行2間、梁行2間の総柱式の建物跡で、桁行長4.80m、梁行長4.75mである。柱間寸法は桁行2.30～2.40m、梁行2.20～2.50mである。柱穴は、平面形が長径（軸）0.84～1.10m、短径（軸）0.61～0.82mの楕円形または隅丸長方形で、深さ20～70cmである。

桁行方向 N - 2° - E

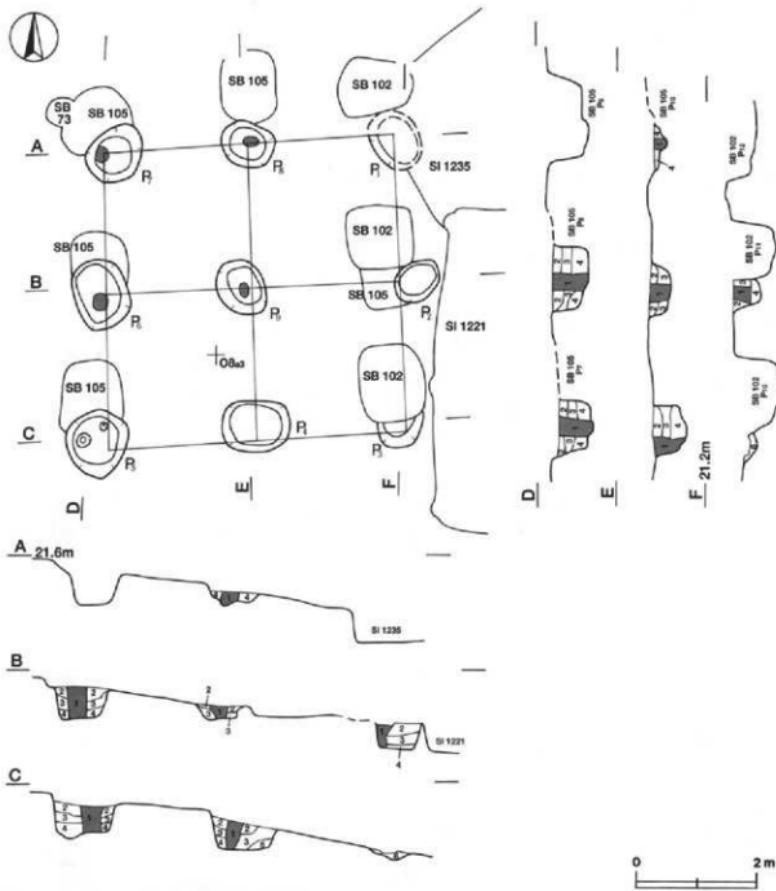
柱穴覆土 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色土、褐色土であり、突き固められてはいないが互層をなしている。

P 2～P 6・P 8・P 9土層解説（各柱穴共通）

- |       |   |
|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック多量、ローム中ブロック、コーム粒子、粘土粒子少量          |
| 2 黑褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子、粘土粒子少量                   |
| 3 黑褐色 | ローム小ブロック、粘土粒子少量、ローム中ブロック・コーム粒子少量          |
| 4 黑褐色 | ローム中ブロック、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック、コーム粒子、粘土粒子少量 |
| 5 焼   | ローム柱下多量、ローム中ブロック少量                        |
| 6 黑褐色 | ローム柱下多量                                   |

遺物 土器片84点、須恵器片4点が、P 2・P 5～P 7の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器が細片なため特定することが困難なもの、わずかながらうかがえる出土土器の特徴、隣接する第104号掘立柱建物跡と桁行方向と構造がほぼ一致しており、同時期の可能性を考えられること、9世紀と考えられる第102号掘立柱建物跡に掘り込まれていることなどから、8世紀後半と考えられる。



第644図 第106号掘立柱建物跡実測図

第107号掘立柱建物跡（第645図）

位置 調査8区の中央部、N8J9E区。

重複関係 P 2～P 4が第89号掘立柱建物に、P 8が第79号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 衍行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、衍行長8.20m、梁行長5.00mである。柱間寸法は衍行2.50～2.70m、梁行2.20～2.80mである。柱穴は、平面形が長径（軸）0.86～1.48m、短径（軸）0.80～1.10mの円形・梢円形・隅丸方形または隅丸長方形で、深さ30～85cmである。

衍行方向 N-5°-W

柱穴覆土 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含

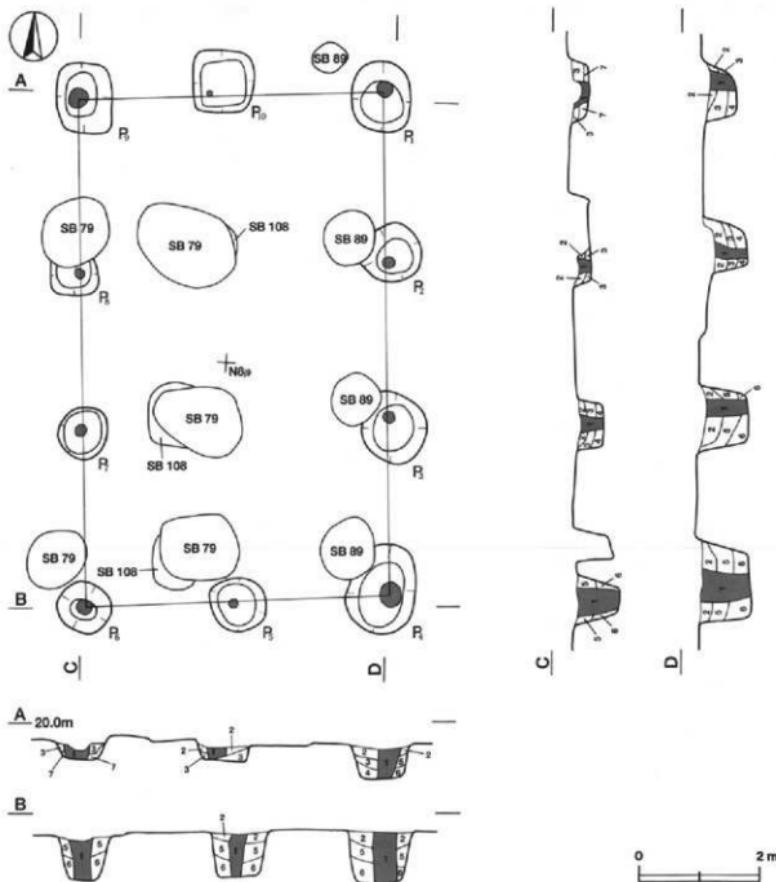
む黒褐色土・暗褐色土であり、強く突き固められてはいないが互層をなしている。

P 1～P 10土層解説(各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 無土粒子少量・ローム小ブロック・無土小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量・無土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量・粘土粒子微量
- 5 黑褐色 ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 6 黑褐色 ローム小ブロック・無土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土器器片44点、須恵器片16点が、P 1・P 3～P 7の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器が細片のため特定が困難なもの、わずかながらうかがえる出土土器の特徴、8世紀と考えられる第89号掘立柱建物跡に掘り込まれていることなどから、8世紀と推定される。



第645図 第107号掘立柱建物跡実測図

### 第108号掘立柱建物跡（第646図）

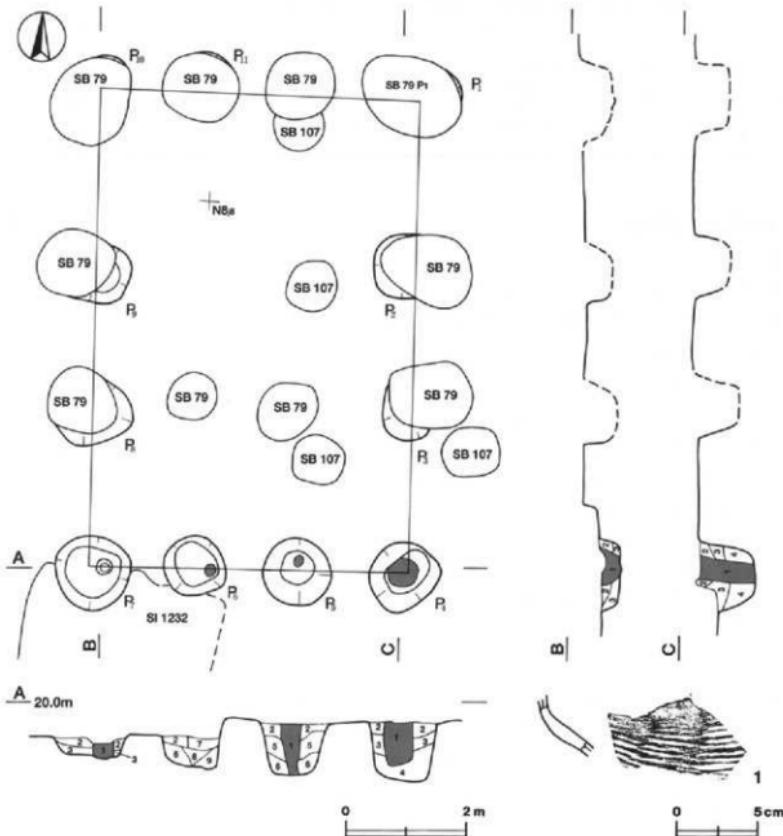
位置 調査8区の中央部、N8j8区。東へ4mの距離に位置する第89号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係 P6・P7を第1232号住居に、P1～P3・P8～P12を第79号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 桁行3間、梁行3間の側柱式の建物跡で、桁行長7.70m、梁行長5.20mである。柱穴は第79号掘立柱建物跡に完全に掘り込まれている1か所を除き11か所（P1～P11）が確認できた。柱間寸法は桁行2.40～3.00m、梁行1.50～1.80mである。柱穴は、平面形が長径0.98～1.50m、短径0.95～1.20mの円形・椭円形または不整椭円形で、深さ35～95cmである。

桁行方向 N-1°-W

柱穴覆土 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒色土・黒褐色土であり、強く突き固められてはいないが互層をなしている。



第646図 第108号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

P 4～P 7土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 黑褐色 コーム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黑褐色 コーム小ブロック・炭化粒子少量・純土粒子・粘土粒子微量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量・純土粒子・粘土粒子微量
- 5 黑褐色 ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 6 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 7 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量・焼土粒子・炭化物微量
- 8 黑褐色 ローム小ブロック少量・粘土粒子・炭化物微量
- 9 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 上師器片39点、須恵器片22点が、P 4～7の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第646図1の須恵器全体部片は、P 7の埋土から出土している。

所見 本跡は、隣接する第89号掘立柱建物跡と布行方向がほぼ一致することから、同時期の一連の施設として機能していた可能性が考えられる。時期は、出土土器が細片のため特定が困難なもの、わずかながらうかがえる出土土器の特徴、第89号掘立柱建物跡との関連などから8世紀と考えられる。

第108号掘立柱建物跡出土遺物観察表

回収番号	商種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	地質・色調・模様		備考
					地質	色調	
第646図 1	須恵器	B(1.39)	体部片。体部は内傾し、頸部に至る。	体部外面横位の平行叩き。内面ナガゲ。	砂質・偏灰・長石 灰岩、普通	TP8214 PL271	5%

第109号掘立柱建物跡（第647図）

位置 調査8区の南部、O8e0区。

重複関係 全体を第1241号住居に掘り込まれている。

規模 衍行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、衍行長7.15m、梁行長5.21mである。柱間寸法は衍行2.30～2.50m、梁行2.50mである。柱穴は、平面形が長径（軸）0.85～1.15m、短径（軸）0.72～0.85mの円形・稍円形または隅丸方形で、深さ15～13cmである。

衍行方向 N-2°-W

柱穴覆土 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土は黒褐色土を基調にし、

ロームブロックを含む層と粘土粒子を含む層が版築状に突き固められている。

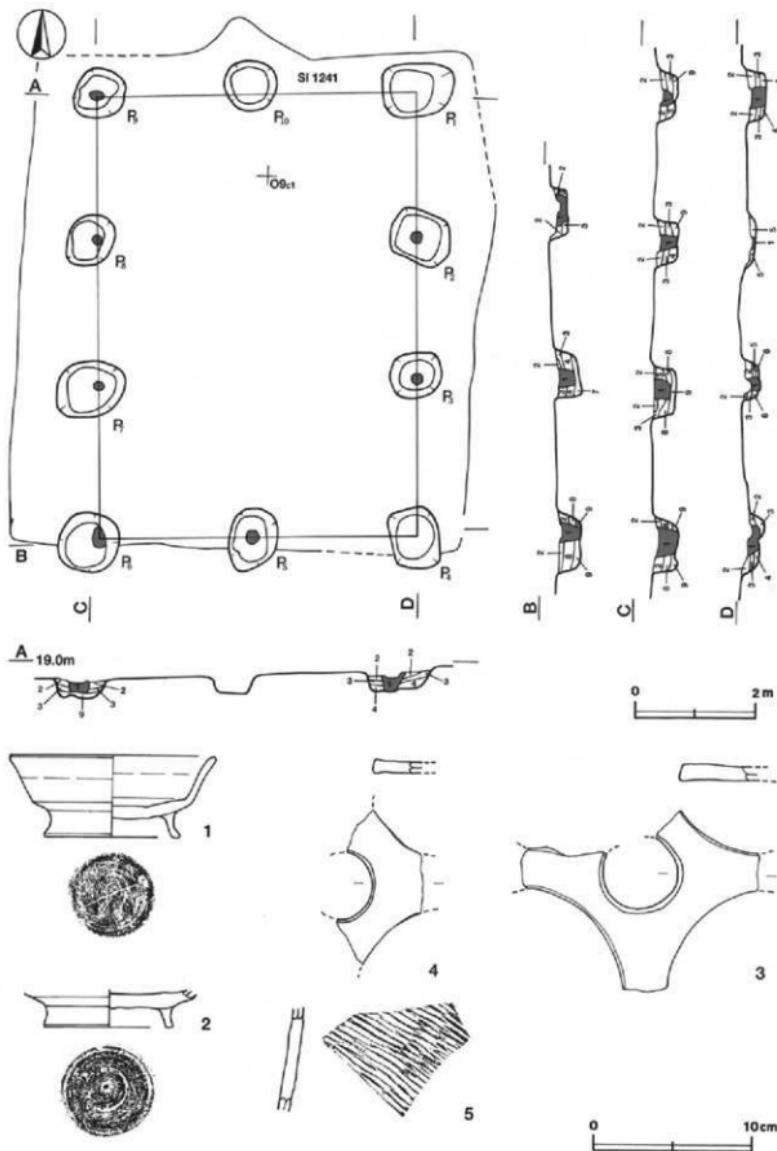
P 1～P 10土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック・焼土・ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック・焼土・ブロック・粘土粒子・粘土粒子少量
- 5 黑褐色 粘土中量
- 6 黑褐色 ローム粒子・粘土粒子中量・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 7 黑褐色 粘土粒子中量・炭土粒子・粘土小ブロック少量
- 8 黑褐色 粘土粒子中量・炭土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 9 黑褐色 粘土粒子中量・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量

遺物 土師器片61点、須恵器片53点が、P 2を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第647図

1・2の須恵器高台付杯はP 6の埋土から、3・4の須恵器底底部片はP 5の埋土からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、9世紀中葉と考えられる第1241号住居に掘り込まれていることや出土土器から、8世紀後半と考えられる。



第647図 第109号据立柱建物跡・出土遺物実測図

第109号掘立柱建物跡出土遺物観察表

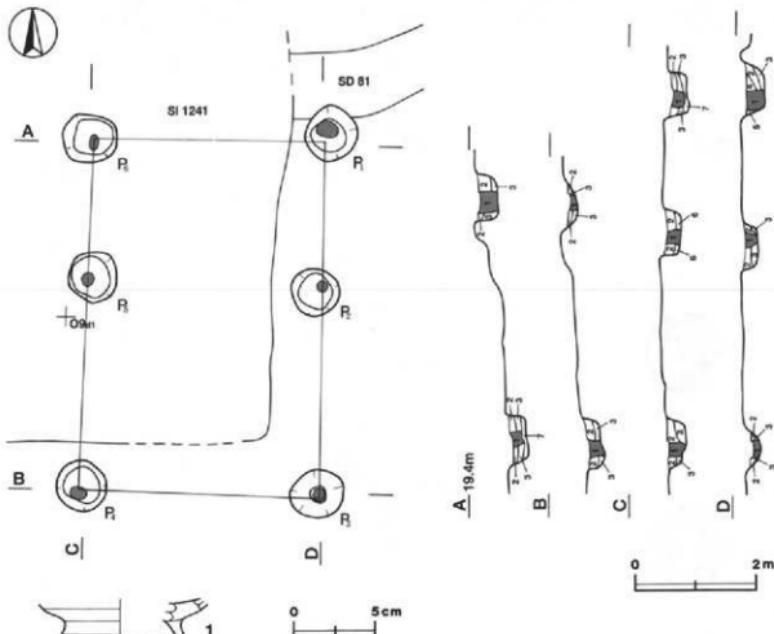
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第647図 1 高台付環 類 惠 器	A [125]	高台部から口縁部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は下端に輪をもち、外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色 普通	P 8373 60% P L 270 底部外側記号「+」	
	B 50					
	D 8.2 E 16					
2 高台付環 類 惠 器	B ( 2.3 )	高台部から底部の破片。高台は短くハの字状に広がる。接地面は平ら。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 黄灰色、普通	P 8374 20% P L 270	
	D 7.8 E 13					
3 瓶 類 惠 器	B ( 10 )	底部片。底部中央に円形の孔1。周縁に木彫形の孔4を穿孔する。五孔式。	穿孔面ヘラ状工具による穿孔後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色、普通	P 8375 5% P L 271	
	C ( 14.7 )					
4 瓶 類 惠 器	B ( 0.9 )	底部片。底部中央に円形の孔1。周縁に木彫形の孔4を穿孔する。五孔式。	穿孔面ヘラ状工具による穿孔後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色、普通	P 8376 3%	
	C ( 9.5 )					
5 甕 類 惠 器	B ( 6.5 )	体部片。	体部外側面の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英、灰色、普通	T P 8215 3% P L 271	

## 第110号掘立柱建物跡（第648図）

位置 調査8区の南部、O9c1区。

重複関係 P 1が第81号溝を掘り込み、P 5・P 6が第1241号住居に掘り込まれている。

規模 衍行2間、梁行1間の側柱式の建物跡で、衍行長5.74m、梁行長3.93mである。柱間寸法は衍行2.20~



第648図 第110号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

3.40m、梁行3.80~3.90mである。柱穴は、平面形が長方形（軸）0.85~0.90m、短径（軸）0.70~0.75mの円形または隅丸長方形で、深さ20~45cmである。

桁行方向 N 2° E

柱穴覆土 土壙断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、その他は埋土と考えられる。埋土はロームノロックを含む黒褐色・暗褐色で、強く突き固められてはいないが互層をなしている。

P 1 ~ P 6 土壙解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・埋土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・埋土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック・埋土小ブロック・粘土小ブロック少量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック・粘土粒子・灰白色少量
- 5 灰褐色 石灰岩子中量、ローム小ブロック少量
- 6 黑褐色 埋土粒子中量、ローム小ブロック・埋土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 黑褐色 粘土粒子多量、ローム小ブロック・粘土小ブロック中量

遺物 土師器片14点、須恵器片6点が、P 1・P 3の埋土から出土している。第648図1の須恵器高台付环底部片は、P 1の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器が細片であるため特定が困難であるものの、出土土器の様相、9世紀中葉と考えられる第1241号住居跡に掘り込まれていることから、9世紀中葉以前と推定される。

第110号掘立柱建物跡出土遺物観察表

測量番号	器種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴		手 法 の 特 徴	地 士・色調・施成	備 考
			高台付环	高台付环			
第648図	高台付环	B (24)	高台部から体部下端の腹片、高台	体部下端内・外面ロクロナデ、高	砂粒・空隙・長石	PR377	
		D (7.4)	はなくハの字状に聞く。体部下端	台付り付け後、ナデ。	灰白色	5%	
	須 惠 器	E 12	に埋を有する。		普通		

第118号掘立柱建物跡（第649図）

位置 調査 8区の北部、L10i2区。

重複関係 北東部が第918・919号住居に、東部が第127号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 衍行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、衍行長6.20m、梁行長4.46mである。柱間寸法は衍行1.90~2.30m、梁行1.80~2.40mである。柱穴は10か所（P 1 ~ P 10）で、平面形は長軸（径）0.86~1.10m、短軸（径）0.68~0.84mの隅丸長方形・楕円形であり、断面形は逆台形状を呈し、深さは18~50cmである。

衍行方向 N-10° - E

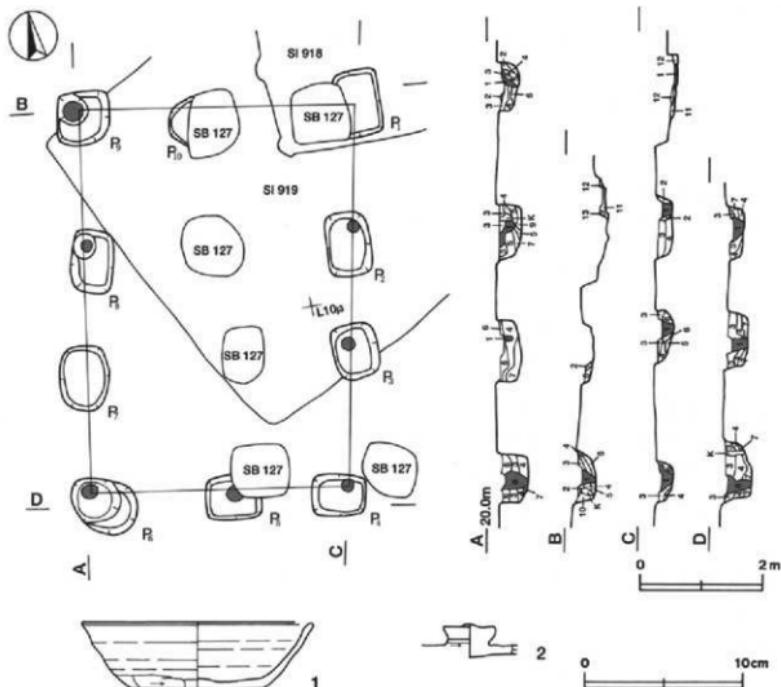
柱穴覆土 土壙断面図中、第1・8層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はコームブロックを含む黒褐色・褐色で、版築状に突き固められている。

P 1 ~ P 9 土壙解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、しまり弱い。
- 2 褐 色 ローム粒子を量、ローム小ブロック中量、埋土粒子少量
- 3 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 5 黑褐色 コーム粒子中量、ローム小ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 黑褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 7 黑褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 8 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 9 褐 色 ローム粒子多量
- 10 黑褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 11 褐 色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 12 黑褐色 ローム小ブロック・ローム小ブロック中量

遺物 土師器片43点、須恵器片7点が、すべての柱穴の埋土から出土している。第649図1の須恵器はP 7の埋土中から、2の須恵器蓋はP 8埋土から、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。本跡の西部に位置する第46号掘立柱建物跡と時期及び桁行方向がほぼ一致することから、同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。



第649図 第118号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第118号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第649図 1 須恵器	壺	A [14.2] B 4.1 C 8.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側気泡に外側如て立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰青色 普通	P 8906 40% P L271
	蓋	B (20) F 3.2 G 1.3	天井頭部の破片。天井頭部は平坦である。つまみは擬宝珠状。	天井頭部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 石英 灰色、普通	P 8907 10%
	須恵器					
2						

第119号掘立柱建物跡 (第650図)

位置 調査8区の北部。M10d4区。東部は調査区域外に位置している。

重複関係 北西部のP 4・P 5が、第41号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 東部が調査区域外に位置しているため、柱穴は8か所(P 1～P 8)が確認されただけであり、全容は確認できなかった。検出された部分から、桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡と考えられる。桁行長は現存

値が5.50m、梁行長4.41mである。柱間寸法は桁行1.70~2.20m、梁行2.10~2.30mである。平面形は長方形（径）0.78~1.44m、短軸（径）0.62~1.46mの隅丸長方形・椭円形であり、断面形は二段掘り状・逆台形状を呈し、深さは16~96cmである。

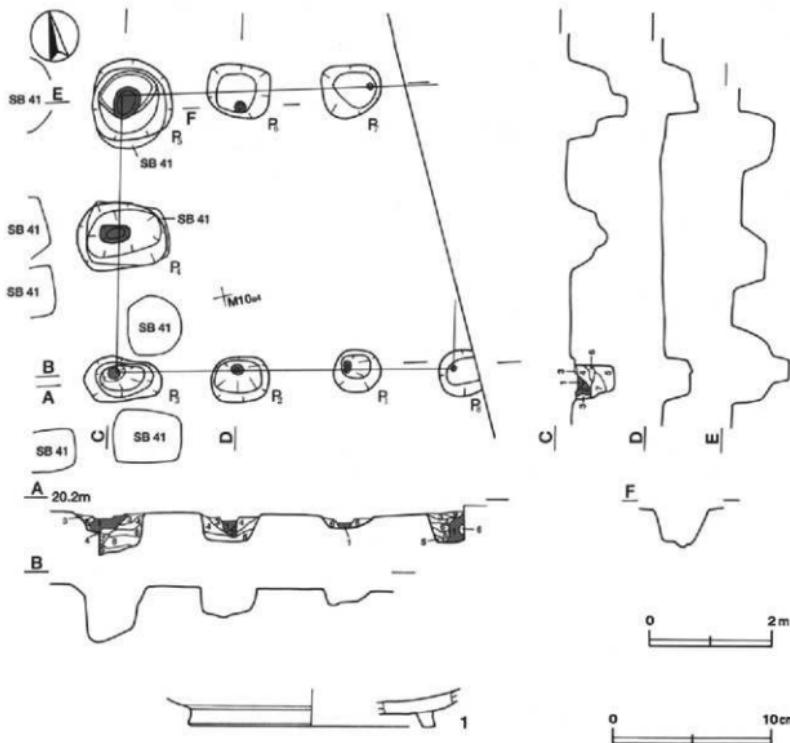
桁行方向 N - 77° - W

柱穴覆土 土層断面図中、第1・2層が柱の抜き取り痕と考えられる。埋土はロームブロックを含む暗褐色・黒褐色土で、版築状に突き固められている。

P 1~P 3・P 8上層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 8 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物 土器片14点、須恵器片4点が、P 2・P 3・P 8の埋土及びP 8の柱の抜き取り痕から出土している。



第650図 第119号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第650図1の須恵器盤はP 8の柱の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡の時期は、9世紀前半の第41号掘立柱建物に掘り込まれていることと、出土土器から8世紀後半と考えられる。木跡の北西部に位置する第44号掘立柱建物跡と時期がほぼ一致することから、同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。

第119号掘立柱建物跡出土遺物観察表

実数番号	番種	計測値(cm)	都形・特徴	手状の特徴	出土・発掘・完成	備考
第650図 1	瓶 箱底器	B (23) D (152)J 3 10	高台部から底部までにかけての波打。体部は内側気吹に大きく、外方に聞く。高台は「ハ」の字状に開く。接地面は平ら。	体部内・外側クロナナ。底部下端回転ヒラ削り。底面削除ヒラ削り。高台作り付後、ナナ。	砂利・表土・瓦石 石英 黄褐色 普通	P8908 10%

### 第121号掘立柱建物跡(第651図)

位置 調査8区の北部に「L」字状に集中する掘立柱建物群の北部に位置する。L9e9区。

重複関係 P 5・P 7・P 8・P 12～P 14が、第124号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 桁行2間、梁行2間の2面庇付の側柱式の建物跡で、桁行長3.90m、梁行長3.90mである。柱間寸法は桁行1.80～2.00m、梁行1.70～2.00mである。柱穴は14か所(P 1～P 14)で、身舎の柱穴は平面形が長軸(径)0.81～1.07m、短軸(径)0.64～0.87mの隅丸長方形・梢円形であり、断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し、深さは32～63cmである。庇部の柱穴は、平面形が長軸(径)0.85～1.01m、短軸(径)0.65～0.86mの隅丸長方形・梢円形であり、断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し、深さは27～70cmである。

桁行方向 N 86° W

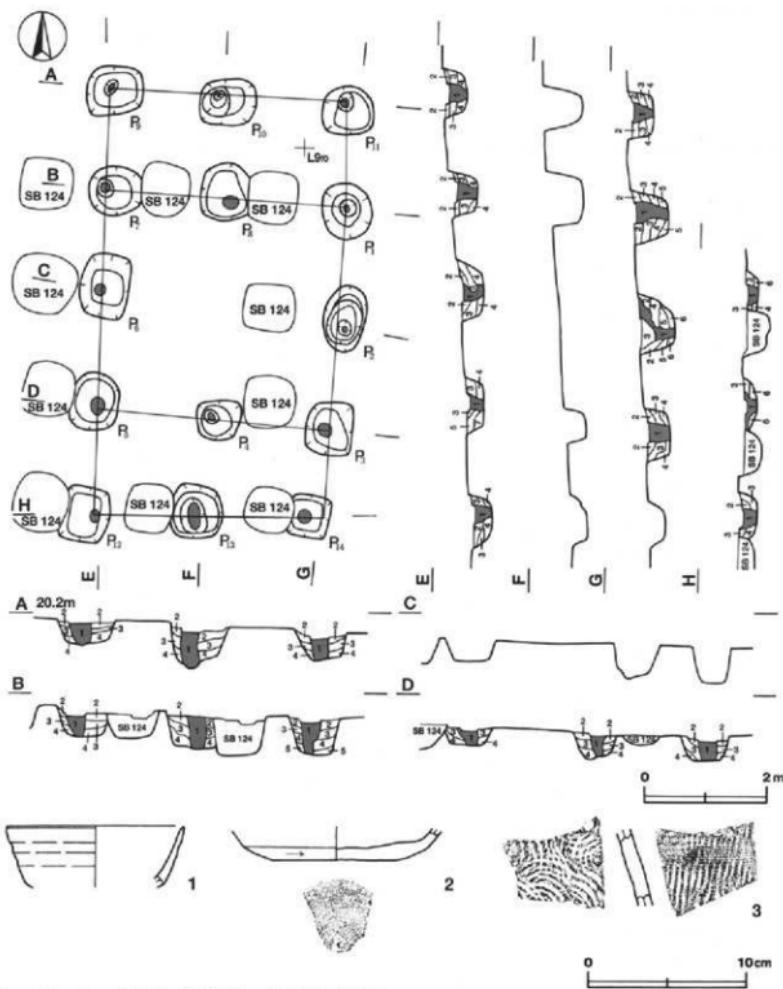
柱穴覆土 上層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で、版築状に突き固められている。

#### P 1～P 14上層解説(各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム・小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量。しまりよい。
- 2 黄褐色 ローム長丁中量、ローム小ブロック、焼土粒子少量
- 3 黑褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック、燒土粒子少量
- 4 黑褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 5 黑褐色 ローム中ブロック、ローム小ブロック、ローム粒子少量
- 6 黑褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量
- 7 黑褐色 ローム中ブロック、ローム中ブロック少量

遺物 土師器片93点、須恵器片9点が、P 12を除いた柱穴の埋土から出土している。土師器片は細片であり、古墳時代後期のもので、混入したものと思われる。第651図1の須恵器片はP 6の埋土から、2の須恵器片はP 7の埋土から、それぞれ出土している。3の須恵器片の体部片はP 8の埋土から出土している。

所見 本跡は、調査8区の北部に「L」字状に集中する掘立柱建物群の北部に位置する南北棟であり、西側2.5mの位置を南北に延びる第35B号構と桁行方向が一致している。時期は、出土土器から8世紀前葉から中葉と考えられる。



第651図 第121号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 121 号掘立柱建物跡出土遺物觀察表

固面番号	器 機	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	筋上・色調・焼成	備 考
第651 図 1	坏	A [11.0] B ( 3.8 )	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。	口縁部。体部内・外側クロナデ。	砂粒・黄青・長石・ 石英	P8910 10%
	須 恵 器				褐色灰・普通	

調査番号	種類	計測値(cm)	器形の特徴	手法の着費	著士・色調・斑成	備考
第65. 回環	B(2.0)	底盤から体溝下位にかけての底盤。	体部丸・外面クロナギ・体溝下位回転ヘラ割り。	鉛粒・雲母・長石 灰分	P8911 15%	
3	縦底盤	C(8.0)	体盤は内面気味に外観して立ち上りする。	普通		
	縦底盤	B(4.7)	体盤の底盤。	体盤外縁部の平行引き・内面同様状態の当面底盤。	鉛粒・雲母・赤土粒子 灰色 青苔	T P8423 3% P1.271
	底盤					

### 第123号掘立柱建物跡（第652回）

位置 調査8区の北側に「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する。L9h9区。

重複関係 南部で第16・47号掘立柱建物跡を、全体で第125・126号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

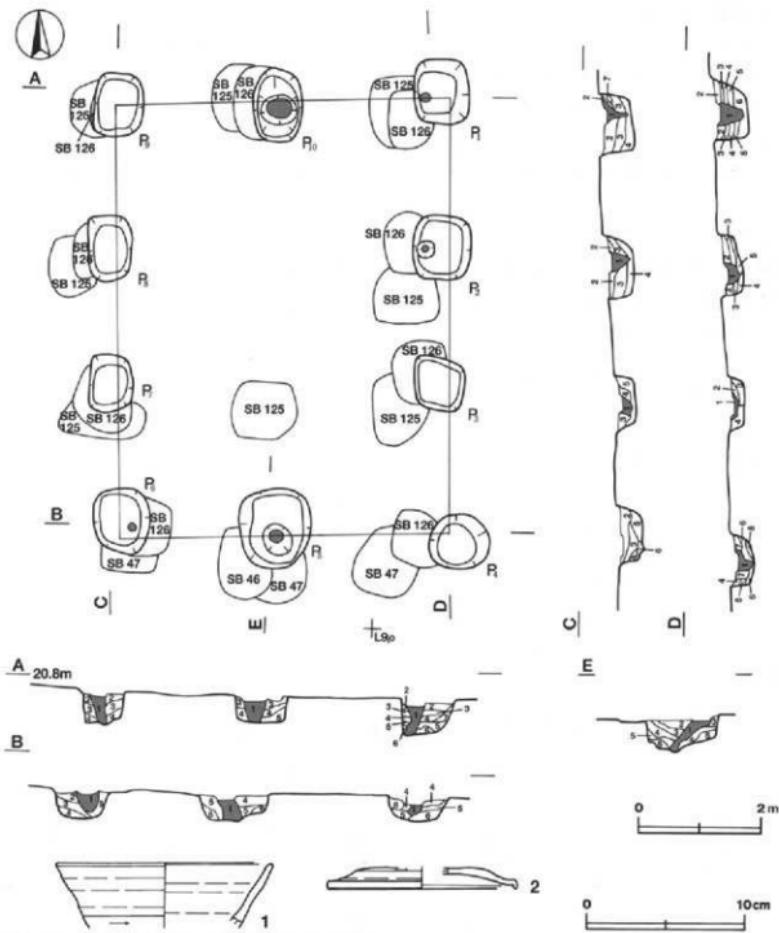
規模 桁行3間、梁行2間の倒柱式の建物跡で、桁行長6.99m、梁行長5.31mである。柱間寸法は桁行2.10~2.60m、梁行2.30~2.60mである。柱穴は10か所（P1~P10）で、平面形は長軸（径）0.90~1.24m、短軸（径）0.68~1.12mの隅丸長方形・梢円形であり、断面形は二段割り状、逆台形状を呈し、深さは28~50cmである。

桁行方向 N-3°-W

柱穴覆土 上層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は堆土と考えられる。堆土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で、版築状に突き固められている。

#### P1~P10土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・コム粒子中量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。こより弱い。
- 2 黑褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック少量。こより弱い。
- 3 黑褐色 ローム中ノコグリ・ローム小ブロック・P1・P2・P3・P4・P5・P6・P7・P8・P9・P10・P11・P12・P13・P14・P15・P16・P17・P18・P19・P20・P21・P22・P23・P24・P25・P26・P27・P28・P29・P30・P31・P32・P33・P34・P35・P36・P37・P38・P39・P40・P41・P42・P43・P44・P45・P46・P47・P48・P49・P50・P51・P52・P53・P54・P55・P56・P57・P58・P59・P60・P61・P62・P63・P64・P65・P66・P67・P68・P69・P70・P71・P72・P73・P74・P75・P76・P77・P78・P79・P80・P81・P82・P83・P84・P85・P86・P87・P88・P89・P90・P91・P92・P93・P94・P95・P96・P97・P98・P99・P100・P101・P102・P103・P104・P105・P106・P107・P108・P109・P110・P111・P112・P113・P114・P115・P116・P117・P118・P119・P120・P121・P122・P123・P124・P125・P126・P127・P128・P129・P130・P131・P132・P133・P134・P135・P136・P137・P138・P139・P140・P141・P142・P143・P144・P145・P146・P147・P148・P149・P150・P151・P152・P153・P154・P155・P156・P157・P158・P159・P160・P161・P162・P163・P164・P165・P166・P167・P168・P169・P170・P171・P172・P173・P174・P175・P176・P177・P178・P179・P180・P181・P182・P183・P184・P185・P186・P187・P188・P189・P190・P191・P192・P193・P194・P195・P196・P197・P198・P199・P200・P201・P202・P203・P204・P205・P206・P207・P208・P209・P210・P211・P212・P213・P214・P215・P216・P217・P218・P219・P220・P221・P222・P223・P224・P225・P226・P227・P228・P229・P230・P231・P232・P233・P234・P235・P236・P237・P238・P239・P240・P241・P242・P243・P244・P245・P246・P247・P248・P249・P250・P251・P252・P253・P254・P255・P256・P257・P258・P259・P260・P261・P262・P263・P264・P265・P266・P267・P268・P269・P270・P271・P272・P273・P274・P275・P276・P277・P278・P279・P280・P281・P282・P283・P284・P285・P286・P287・P288・P289・P290・P291・P292・P293・P294・P295・P296・P297・P298・P299・P300・P301・P302・P303・P304・P305・P306・P307・P308・P309・P310・P311・P312・P313・P314・P315・P316・P317・P318・P319・P320・P321・P322・P323・P324・P325・P326・P327・P328・P329・P330・P331・P332・P333・P334・P335・P336・P337・P338・P339・P340・P341・P342・P343・P344・P345・P346・P347・P348・P349・P350・P351・P352・P353・P354・P355・P356・P357・P358・P359・P360・P361・P362・P363・P364・P365・P366・P367・P368・P369・P370・P371・P372・P373・P374・P375・P376・P377・P378・P379・P380・P381・P382・P383・P384・P385・P386・P387・P388・P389・P390・P391・P392・P393・P394・P395・P396・P397・P398・P399・P400・P401・P402・P403・P404・P405・P406・P407・P408・P409・P410・P411・P412・P413・P414・P415・P416・P417・P418・P419・P420・P421・P422・P423・P424・P425・P426・P427・P428・P429・P430・P431・P432・P433・P434・P435・P436・P437・P438・P439・P440・P441・P442・P443・P444・P445・P446・P447・P448・P449・P450・P451・P452・P453・P454・P455・P456・P457・P458・P459・P460・P461・P462・P463・P464・P465・P466・P467・P468・P469・P470・P471・P472・P473・P474・P475・P476・P477・P478・P479・P480・P481・P482・P483・P484・P485・P486・P487・P488・P489・P490・P491・P492・P493・P494・P495・P496・P497・P498・P499・P500・P501・P502・P503・P504・P505・P506・P507・P508・P509・P510・P511・P512・P513・P514・P515・P516・P517・P518・P519・P520・P521・P522・P523・P524・P525・P526・P527・P528・P529・P530・P531・P532・P533・P534・P535・P536・P537・P538・P539・P540・P541・P542・P543・P544・P545・P546・P547・P548・P549・P550・P551・P552・P553・P554・P555・P556・P557・P558・P559・P5510・P5511・P5512・P5513・P5514・P5515・P5516・P5517・P5518・P5519・P5520・P5521・P5522・P5523・P5524・P5525・P5526・P5527・P5528・P5529・P5530・P5531・P5532・P5533・P5534・P5535・P5536・P5537・P5538・P5539・P5540・P5541・P5542・P5543・P5544・P5545・P5546・P5547・P5548・P5549・P5550・P5551・P5552・P5553・P5554・P5555・P5556・P5557・P5558・P5559・P55510・P55511・P55512・P55513・P55514・P55515・P55516・P55517・P55518・P55519・P55520・P55521・P55522・P55523・P55524・P55525・P55526・P55527・P55528・P55529・P55530・P55531・P55532・P55533・P55534・P55535・P55536・P55537・P55538・P55539・P55540・P55541・P55542・P55543・P55544・P55545・P55546・P55547・P55548・P55549・P55550・P55551・P55552・P55553・P55554・P55555・P55556・P55557・P55558・P55559・P555510・P555511・P555512・P555513・P555514・P555515・P555516・P555517・P555518・P555519・P555520・P555521・P555522・P555523・P555524・P555525・P555526・P555527・P555528・P555529・P555530・P555531・P555532・P555533・P555534・P555535・P555536・P555537・P555538・P555539・P555540・P555541・P555542・P555543・P555544・P555545・P555546・P555547・P555548・P555549・P555550・P555551・P555552・P555553・P555554・P555555・P555556・P555557・P555558・P555559・P5555510・P5555511・P5555512・P5555513・P5555514・P5555515・P5555516・P5555517・P5555518・P5555519・P5555520・P5555521・P5555522・P5555523・P5555524・P5555525・P5555526・P5555527・P5555528・P5555529・P5555530・P5555531・P5555532・P5555533・P5555534・P5555535・P5555536・P5555537・P5555538・P5555539・P5555540・P5555541・P5555542・P5555543・P5555544・P5555545・P5555546・P5555547・P5555548・P5555549・P5555550・P5555551・P5555552・P5555553・P5555554・P5555555・P5555556・P5555557・P5555558・P5555559・P55555510・P55555511・P55555512・P55555513・P55555514・P55555515・P55555516・P55555517・P55555518・P55555519・P55555520・P55555521・P55555522・P55555523・P55555524・P55555525・P55555526・P55555527・P55555528・P55555529・P55555530・P55555531・P55555532・P55555533・P55555534・P55555535・P55555536・P55555537・P55555538・P55555539・P55555540・P55555541・P55555542・P55555543・P55555544・P55555545・P55555546・P55555547・P55555548・P55555549・P55555550・P55555551・P55555552・P55555553・P55555554・P55555555・P55555556・P55555557・P55555558・P55555559・P555555510・P555555511・P555555512・P555555513・P555555514・P555555515・P555555516・P555555517・P555555518・P555555519・P555555520・P555555521・P555555522・P555555523・P555555524・P555555525・P555555526・P555555527・P555555528・P555555529・P555555530・P555555531・P555555532・P555555533・P555555534・P555555535・P555555536・P555555537・P555555538・P555555539・P555555540・P555555541・P555555542・P555555543・P555555544・P555555545・P555555546・P555555547・P555555548・P555555549・P555555550・P555555551・P555555552・P555555553・P555555554・P555555555・P555555556・P555555557・P555555558・P555555559・P5555555510・P5555555511・P5555555512・P5555555513・P5555555514・P5555555515・P5555555516・P5555555517・P5555555518・P5555555519・P5555555520・P5555555521・P5555555522・P5555555523・P5555555524・P5555555525・P5555555526・P5555555527・P5555555528・P5555555529・P5555555530・P5555555531・P5555555532・P5555555533・P5555555534・P5555555535・P5555555536・P5555555537・P5555555538・P5555555539・P5555555540・P5555555541・P5555555542・P5555555543・P5555555544・P5555555545・P5555555546・P5555555547・P5555555548・P5555555549・P5555555550・P5555555551・P5555555552・P5555555553・P5555555554・P5555555555・P5555555556・P5555555557・P5555555558・P5555555559・P55555555510・P55555555511・P55555555512・P55555555513・P55555555514・P55555555515・P55555555516・P55555555517・P55555555518・P55555555519・P55555555520・P55555555521・P55555555522・P55555555523・P55555555524・P55555555525・P55555555526・P55555555527・P55555555528・P55555555529・P55555555530・P55555555531・P55555555532・P55555555533・P55555555534・P55555555535・P55555555536・P55555555537・P55555555538・P55555555539・P55555555540・P55555555541・P55555555542・P55555555543・P55555555544・P55555555545・P55555555546・P55555555547・P55555555548・P55555555549・P55555555550・P55555555551・P55555555552・P55555555553・P55555555554・P55555555555・P55555555556・P55555555557・P55555555558・P55555555559・P555555555510・P555555555511・P555555555512・P555555555513・P555555555514・P555555555515・P555555555516・P555555555517・P555555555518・P555555555519・P555555555520・P555555555521・P555555555522・P555555555523・P555555555524・P555555555525・P555555555526・P555555555527・P555555555528・P555555555529・P555555555530・P555555555531・P555555555532・P555555555533・P555555555534・P555555555535・P555555555536・P555555555537・P555555555538・P555555555539・P555555555540・P555555555541・P555555555542・P555555555543・P555555555544・P555555555545・P555555555546・P555555555547・P555555555548・P555555555549・P555555555550・P555555555551・P555555555552・P555555555553・P555555555554・P555555555555・P555555555556・P555555555557・P555555555558・P555555555559・P5555555555510・P5555555555511・P5555555555512・P5555555555513・P5555555555514・P5555555555515・P5555555555516・P5555555555517・P5555555555518・P5555555555519・P5555555555520・P5555555555521・P5555555555522・P5555555555523・P5555555555524・P5555555555525・P5555555555526・P5555555555527・P5555555555528・P5555555555529・P5555555555530・P5555555555531・P5555555555532・P5555555555533・P5555555555534・P5555555555535・P5555555555536・P5555555555537・P5555555555538・P5555555555539・P5555555555540・P5555555555541・P5555555555542・P5555555555543・P5555555555544・P5555555555545・P5555555555546・P5555555555547・P5555555555548・P5555555555549・P5555555555550・P5555555555551・P5555555555552・P5555555555553・P5555555555554・P5555555555555・P5555555555556・P5555555555557・P5555555555558・P5555555555559・P55555555555510・P55555555555511・P55555555555512・P55555555555513・P55555555555514・P55555555555515・P55555555555516・P55555555555517・P55555555555518・P55555555555519・P55555555555520・P55555555555521・P55555555555522・P55555555555523・P55555555555524・P55555555555525・P55555555555526・P55555555555527・P55555555555528・P55555555555529・P55555555555530・P55555555555531・P55555555555532・P55555555555533・P55555555555534・P55555555555535・P55555555555536・P55555555555537・P55555555555538・P55555555555539・P55555555555540・P55555555555541・P55555555555542・P55555555555543・P55555555555544・P55555555555545・P55555555555546・P55555555555547・P55555555555548・P55555555555549・P55555555555550・P55555555555551・P55555555555552・P55555555555553・P55555555555554・P55555555555555・P55555555555556・P55555555555557・P55555555555558・P55555555555559・P555555555555510・P555555555555511・P555555555555512・P555555555555513・P555555555555514・P555555555555515・P555555555555516・P555555555555517・P555555555555518・P555555555555519・P555555555555520・P555555555555521・P555555555555522・P555555555555523・P555555555555524・P555555555555525・P555555555555526・P555555555555527・P555555555555528・P555555555555529・P555555555555530・P555555555555531・P555555555555532・P555555555555533・P555555555555534・P555555555555535・P555555555555536・P555555555555537・P555555555555538・P555555555555539・P555555555555540・P555555555555541・P555555555555542・P555555555555543・P555555555555544・P555555555555545・P555555555555546・P555555555555547・P555555555555548・P555555555555549・P555555555555550・P555555555555551・P555555555555552・P555555555555553・P555555555555554・P555555555555555・P555555555555556・P555555555555557・P555555555555558・P555555555555559・P5555555555555510・P5555555555555511・P5555555555555512・P5555555555555513・P5555555555555514・P5555555555555515・P5555555555555516・P5555555555555517・P5555555555555518・P5555555555555519・P5555555555555520・P5555555555555521・P5555555555555522・P5555555555555523・P5555555555555524・P5555555555555525・P5555555555555526・P5555555555555527・P5555555555555528・P5555555555555529・P5555555555555530・P5555555555555531・P5555555555555532・P5555555555555533・P5555555555555534・P5555555555555535・P5555555555555536・P5555555555555537・P5555555555555538・P5555555555555539・P5555555555555540・P5555555555555541・P5555555555555542・P5555555555555543・P5555555555555544・P5555555555555545・P5555555555555546・P5555555555555547・P5555555555555548・P5555555555555549・P5555555555555550・P5555555555555551・P5555555555555552・P5555555555555553・P5555555555555554・P5555555555555555・P5555555555555556・P5555555555555557・P5555555555555558・P5555555555555559・P55555555555555510・P55555555555555511・P55555555555555512・P55555555555555513・P55555555555555514・P55555555555555515・P55555555555555516・P55555555555555517・P55555555555555518・P55555555555555519・P55555555555555520・P55555555555555521・P55555555555555522・P55555555555555523・P55555555555555524・P55555555555555525・P55555555555555526・P55555555555555527・P55555555555555528・P55555555555555529・P55555555555555530・P55555555555555531・P55555555555555532・P55555555555555533・P55555555555555534・P55555555555555535・P



第652図 第123号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第123号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第652図 1	環 須恵器	A [13.2] B (39)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 黄褐色、普通	P8912 15%
2	蓋 須恵器	A [11.7] B (13)	天井部から口縁部にかけての破片。 天井頭部は平坦で、外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲して、短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	P8914 10%

### 第124号掘立柱建物跡（第653・645図）

**位置** 調査8区の北部に「L」字形に集中する掘立柱建物跡群の北部に位置する。L9f9区。

**重複関係** 第121号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模** 构造3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長5.17m、梁行長3.81mである。柱間寸法は桁行1.50~2.10m、梁行1.80~2.00mである。柱穴は10か所（P1~P10）で、平面形は長軸（径）0.78~1.08m、短軸（径）0.76~0.98mの隅丸長方形・椭円形であり、断面形は二段掘り状・逆台形状を呈し、深さは34~66cmである。

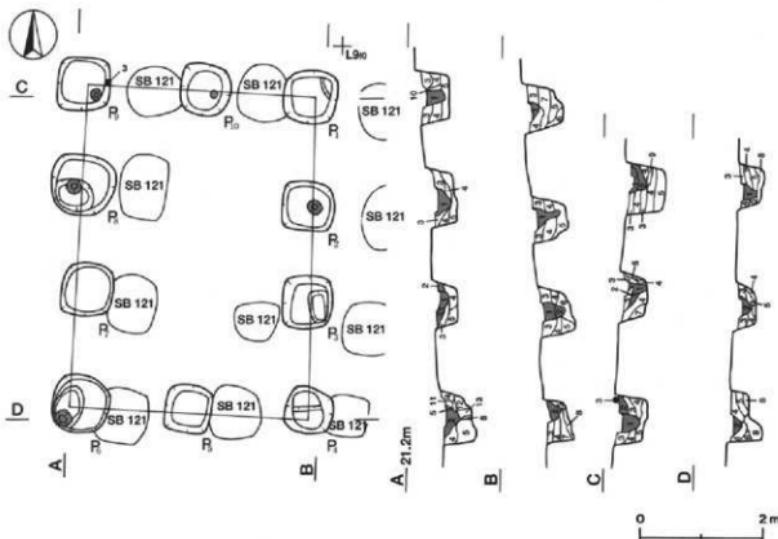
**桁行方向** N-10°-E

**柱穴覆土** 土層断面図中、第1・2層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で、版築状に突き固められている。

#### P 1 ~ P 10 土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 4 黑褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 5 黑褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 黑褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量
- 7 黑褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 11 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、燒土粒子微量
- 12 前褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 13 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

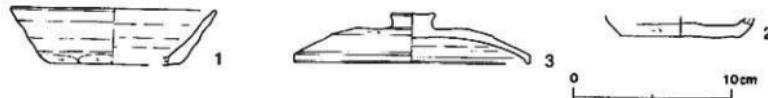
**遺物** 土師器片86点、須恵器片17点が、すべての柱穴の埋土及びP1~P3・P5・P8・P10の柱の抜き取り痕から出土している。土師器片は細片であり、古墳時代後期のもので、混入したものと思われる。第654図



第653図 第124号掘立柱建物跡実測図

1・2の須恵器杯、3の須恵器蓋はP 9の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、8世紀前葉から中葉と考えられる第121号掘立柱建物跡を掘り込んでいることと出土土器から、8世紀中葉から後葉と考えられる。また、第121号掘立柱建物跡とはほぼ同位置で検出されており、時期も近いことから、第121号掘立柱建物が廃絶された後に、建て替えたものと考えられる。本跡の北部に位置する第37・38号掘立柱建物跡とは「L」字状に並び、南部に位置する第47・125号掘立柱建物跡とは平行方向が一致し、ほぼ時期が一致していることから、これらは一連の施設として機能していた可能性がある。



第654図 第124号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第124号掘立柱建物跡出土遺物観察表

品目番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第654図 1 須恵器 杯	A [128]	部から口縁部にかけての破片。	口縁部、体部内・外面コクロナチ。砂粒・高湯・長石・P9013			
	B 33	平底。体部は外傾して立ち上がり。	体部下端手持ちへ剥り。	石灰	15%	
	C 1.80	口縁部に当る。		青灰色、青透		
2 須恵器 杯	B [12]	底部から底部下端にかけての破片。	底部下端手持ちへ剥り。底部I	砂粒・墨色・長石	P8916	
	C 7.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	方向のヘラ削り。	灰褐色	15%	
				普通		
3 須恵器 蓋	A [148]	天井部から口縁部にかけての破片。	天井部頭部は折れへ剥り。外板部	砂粒・青色・長石	P8917	
	B 3.1	天井部は平済で、外底部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲して、想く垂下する。	口縁部内・外面コクロナ。	石灰	10%	
	F 2.7			黄褐色		
	G 1.0			普通	P 1.270	

第125号掘立柱建物跡（第655・656図）

位置 調査8区の北部に「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の北内部に位置する。L9h8区。

重複関係 全体が第123・126号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 2間×2間の側柱式の建物跡で、一辺の長さ4.85~5.15m、柱間寸法は2.20~3.10mである。柱穴は8か所（P 1～P 8）で、平面形が長軸（径）0.88~1.45m、短軸（径）0.78~0.88mの隅丸長方形、橢円形であり、断面形が二段掘り状・逆合形状を呈し、深さは26~51cmである。

平行方向 N-1° - W

柱穴覆土 十層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕と考えられる。埋土はロームブロック主体の黒褐色・暗褐色上であり、版築状に突き固められている。

P 1～P 8 土層解説（各柱穴共通）

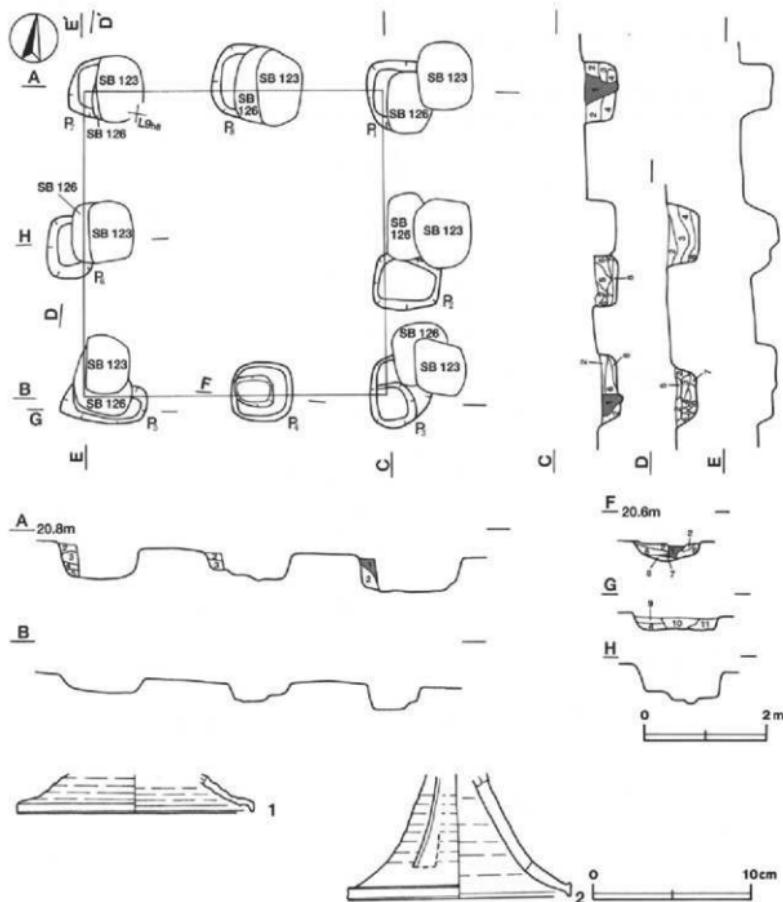
- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中部、ローム粒子・洗土粒子・炭化粒子少
- 2 黑褐色 コーム小ブロック中部、ローム中ソックル・ローム粒子・燒土・火灰・シノリック・炭化物少量
- 3 燃褐色 コーム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
- 4 黑褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土少
- 5 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・「一木柱」中層、燒土少
- 6 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・「一木柱」中層、燒土少
- 7 黑褐色 ローム中ブロック・ローム中ソックル・ローム中ブロック
- 8 黑褐色 フーム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少
- 9 黑褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中層、ローム中ブロック少
- 10 黑褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中層、ローム中ブロック少
- 11 黑褐色 ローム大ブロック・ローム柱子多

遺物 土師器片42点、須恵器片10点が、柱穴の埋土及びP 1・P 2・P 4の柱の抜き取り痕から出土している。

土師器片は細片であり、古墳時代後期のもので、混入したものと思われる。第655・656図1の須恵器蓋はP 8

の埋土から、2の須恵器高杯の脚部片はP 3の埋土から、それぞれ出土している。3の須恵器鉢はP 2とP 6の埋土から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡は、8世紀末葉から9世紀前葉と考えられる第126号掘立柱建物跡、9世紀前半と考えられる第123号掘立柱建物跡に掘り込まれていることと出土土器から、8世紀後葉と考えられる。また、第123・126号掘立柱建物跡とほぼ同位置で検出されており、3棟の時期幅は8世紀後葉から9世紀前半におさまることから、建て替えが行われたと考えられる。本跡の北部に位置する第37・38号掘立柱建物跡とは「し」字状に並び、北部に位置する第124号掘立柱建物跡、南部に位置する第47号掘立柱建物跡とは平行方向が一致し、ほぼ時期も一致していることから、これらは一連の施設として機能していた可能性がある。



第655図 第125号掘立柱建物跡・出土遺物実測図



第656図 第125号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第125号掘立柱建物跡出土遺物観察表

団版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第655図 1	盃	A [148] B [23]	外周部から口縁部にかけての破片。 外周部はなだらかに下傾し、口縁部に至る。端部は短く垂下する。	外周部クロコナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰褐色、普通	P8918 5%
	須恵器					
2	高盤	B [7.5] D [140]	脚部の破片。脚部はラバ状に開き、三方に長方形の透かし孔を有する。	脚部内・外側面クロコナデ。脚部へラ状工具による透かし。	砂粒・雲母 灰色 普通	P8919 10% P L270
	須恵器					
第656図 3	鉢	A [418] B [6.1]	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、屈曲して、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外側面クロコナデ。 体部外側斜位の平行叩き、内面へラナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色、普通	P8920 5%
	須恵器					P L270

第126号掘立柱建物跡（第657図）

位置 調査区8区の北部に「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する。L9h9区。

重複関係 南部で第46・47号掘立柱建物跡を、中央部以北で第125号掘立柱建物跡を掘り込み、全体が第123号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 柱行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、柱行長6.87m、梁行長4.90mである。柱間寸法は柱行2.00~2.70m、梁行2.20~2.50mで、柱穴は10か所（P 1~P 10）で、平面形は長軸（径）0.90~1.24m、短軸（径）0.70~0.82mの隅丸長方形・梢円形であり、断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し、深さは30~58cmである。

柱行方向 N=0°

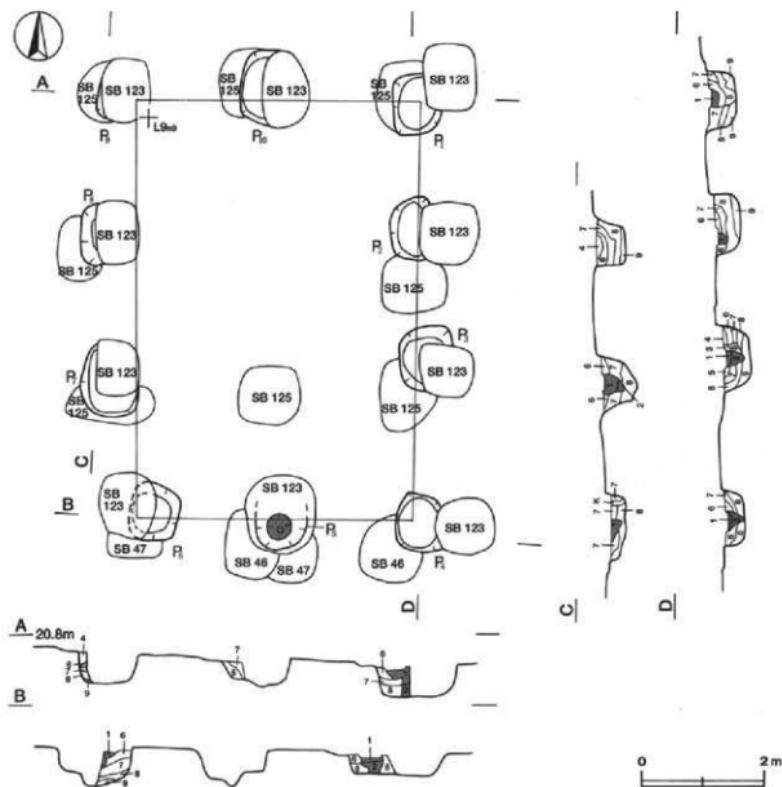
柱穴覆土 土層断面図中、第1・2層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・黒色土で、版築状に突き固められている。

#### P 1~P 4・P 6~P 10土層解説（各柱共通）

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量。しまり弱い。
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黑褐色 ローム粒子少量
- 4 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。炭化粒子微量
- 5 黑色 ローム小ブロック・ローム粒子少量。炭化粒子微量
- 6 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量。燒土粒子微量
- 7 黑褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 8 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。炭化粒子微量
- 9 黑褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 土器片21点、須恵器片8点が、すべての柱穴の埋土及びP 1・P 6・P 8の柱の抜き取り痕から出土している。いずれも細片のため図示はできなかった。

所見 本跡の時期は、8世紀後葉と考えられる第125号掘立柱建物跡を掘り込み、9世紀前半と考えられる第123号掘立柱建物に掘り込まれていることから、8世紀末葉から9世紀前葉と考えられる。また、これらの掘立柱建物跡とほぼ同位置で検出されており、3棟の時期幅は8世紀後葉から9世紀前半におさまることから、第125号掘立柱建物を廃絶した後に建て替えられたものと考えられる。また、調査区8区の北部に「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する南北棟であり、西側2.5mの位置を南北に延びる第35B号溝と柱行方向が一致している。



第657図 第126号掘立柱建物跡実測図

#### 第127号掘立柱建物跡（第658図）

位置 調査区の北部。L10i2区。

重複関係 北部で第918・919号住居跡を、南部で第1445A・B号住居跡を、西部で第118号掘立柱建物跡を掘り込み、南部が第1447号住居に掘り込まれている。

規模 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長5.84m、梁行長4.08mである。柱間寸法は桁行1.70~2.40m、梁行1.70~2.30mである。柱穴は10か所（P 1 ~ P 10）で、平面形は長軸（径）0.78~1.16m、短軸（径）0.58~0.98mの隅丸長方形・梢円形であり、断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し、深さは28~54cmである。

桁行方向 N - 3° - E

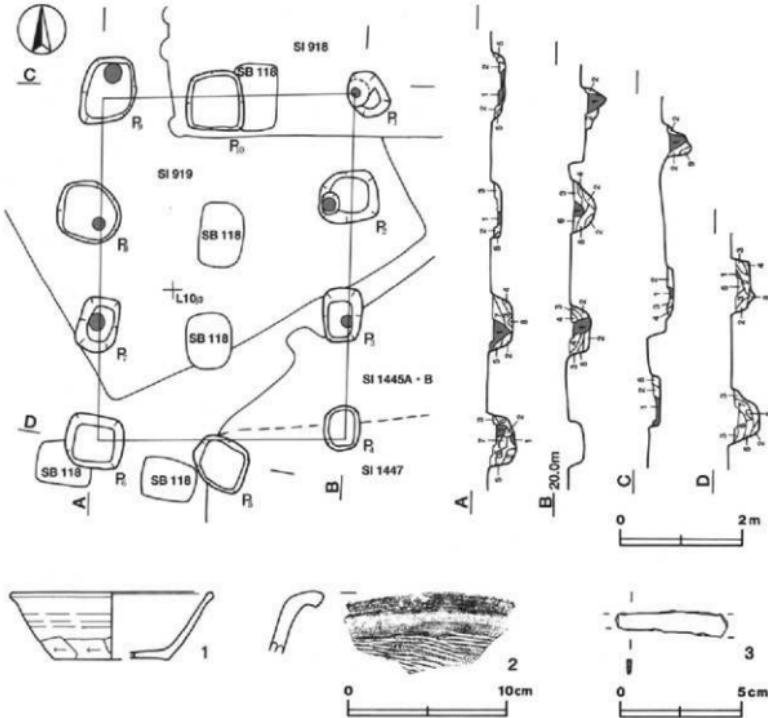
柱穴覆土 土層断面図中、第1層が柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で、版築状に突き固められている。

P 1～P 10土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。しまり弱い。
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 橙褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 橙褐色 ローム中ブロック中量・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 橙褐色 ローム粒子中量・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 橙褐色 ローム小ブロック中量・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 断面褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量・ローム中ブロック少量
- 9 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

**遺物** 土師器片43点、須恵器片14点が、P10を除く柱穴の埋土及びP1～P7・P9の柱の抜き取り痕から出土している。第658図1の須恵器はP1の埋土から、2の須恵器はP8の埋土から、それぞれ出土している。3の刀子は、P3の埋土から出土している。

**所見** 本跡の時期は、8世紀後葉と考えられる第118号掘立柱建物跡を指し込んでいることと出土土器から、8世紀末葉から9世紀前葉と考えられる。本跡の南部に位置する第45号掘立柱建物跡と時期及び行方向がほぼ一致することから、同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。



第658図 第127号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第127号掘立柱建物跡出土遺物観察表

回収番号	落種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	土上・生糞・焼成	備考
第658回 1	外 A	12.4	底部から縫合部にかけての後片。平口縫合。底部内・外側ロクロナダ。	砂粒・雲母・長石	P.B82	
	B	4.1	底、多部は縫合部に外側して立ち	石炭	20%	
	C	1.72	立上がり。縫合部でわずかに外側にする。	黒灰色、苔藻		
2	外 B	3.7	底部上位から縫合部にかけての後片。底部は外側して立ち上り。	口縫合。底部内・外側ロクロナダ。	砂粒・雲母・長石	T.P8424
	眼忠器		底部外側に横筋の平行巻き。	灰白色	5%	
MS447						
回収番号	落種	計測値	月質	荷皿	備考	
MS447	刀	7.1 (4.7) (2.0) (0.9) 0.2 (2.7) (3.2)	鉄	刀頭部・底部一部欠損	MS447	

表13 8区掘立柱建物跡一覧表

測定番号	位置	南北(度)	東西(度)	高さ(cm)	幅(横)(cm)	幅(縦)(cm)	厚さ(cm)	柱			備考			
								柱頭	柱身	柱脚				
37	8-60	N-38°E	S-2°E	6.94	48.9	33.97	2.70~2.50	2.40~2.80	柱頭	10	平口縫合・柱頭切妻	86~152 82~133 46~76 木筋付 根元切妻	木筋付 S-282	
41	M1042	N-12°E	S-2°E	at0	42.7	23.91	1.75~2.00	1.80~2.50	柱頭	10	丸太形・柱頭切妻	80~154 67~118 48~94 木筋付 根元切妻	S-1119~S-1216	
42	U1033	N-10°E	S-2°E	8.28	41.5	23.13	2.10~2.30	1.80~2.20	柱頭	12	丸太形・柱頭切妻	83~138 70~132 16~60 木筋付 根元切妻	S-1144~S-1147	
44	M312	N-15°W	S-2°E	5.75	37.6	21.08	1.96~2.10	1.80~2.00	柱頭	12	丸太形・柱頭切妻	86~156 74~116 35~64 木筋付 根元切妻	S-1145~S-1148	
45	M1012	N-3°E	S-2°E	5.30	35.0	19.9	1.80~1.90	1.80~2.00	柱頭	10	丸太形・柱頭切妻	84~134 74~102 30~55 木筋付 根元切妻	S-1145~S-1147	
46	L1519	N-10°E	S-2°E	6.22	42.6	25.50	1.80~2.10	1.70~2.30	柱頭	10	丸太形・柱頭切妻	82~142 81~91 44~68 木筋付 根元切妻	S-1128~S-1130	
47	L1519	N-3°E	S-2°E	5.76	42.1	24.25	1.80~2.00	1.80~2.40	柱頭	10	丸太形・柱頭切妻	104~128 80~108 24~64 木筋付 根元切妻	S-1128~S-1130	
70	O842	N-5°E	S-2°E	6.70	46.0	20.82	2.05~2.25	2.25~2.40	柱頭	10	丸太形・丸太形	65~130 63~36 11~33 木筋付 根元切妻	S-1125~S-1126	
71	O842	N-15°W	S-2°E	7.82	42.6	20.84	2.20~2.50	2.0~2.10	柱頭	12	丸太形・丸太形	116~155 81~139 32~111 木筋付 根元切妻	S-1125~S-1126	
72	0710	N-38°E	S-2°E	5.60	43.5	21.95	1.70~2.30	2.0~2.50	柱頭	12	丸太形・丸太形	64~132 32~136 38~60 木筋付 根元切妻	S-1122~S-1125	
73	N812	N-5°E	S-2°E	5.75	33.6	19.56	1.80~2.00	1.10~1.60	柱頭	10	円形・柱頭切妻	88~100 88~75 31~65 木筋付 根元切妻	S-1122~S-1125	
75	N812	N-38°E	S-2°E	7.28	49.6	26.95	2.10~2.60	2.20~2.40	柱頭	10	円形・柱頭切妻	123~140 91~110 15~85 木筋付 根元切妻	S-1122~S-1125	
74	N810	N-0°	S-2°E	6.82	42.9	44.09	2.30~2.56	2.40~2.85	柱頭	10	円形・柱頭切妻	46~133 36~120 31~114 木筋付 根元切妻	S-1129~S-1130	
76	O818	N-85°W	S-2°E	4.92	45.7	22.39	1.90~3.00	2.20~2.30	柱頭	8	丸太形・丸太形	63~103 61~95 34~24~10 木筋付 根元切妻	S-1127~S-1128	
77	O941	N-3°E	S-2°E	3.06	27.0	18.19	2.50~3.10	2.70~3.10	柱頭	14	不規則形・丸太形	117~141 93~103 30~34 木筋付 根元切妻	S-1129~S-1130	
78	N846	N-85°E	S-2°E	7.07	43.2	34.08	1.30~2.70	2.00~2.80	柱頭	12	円形・丸太形・丸太形 木筋付・木筋付	95~195 82~163 44~95 木筋付 根元切妻	S-1128~S-1131	
79	N818	N-85°E	S-2°E	5.21	45.8	28.13	1.50~2.30	2.00~2.70	柱頭	10	円形・不規則形	75~123 88~122 14~88 木筋付 根元切妻	S-1127~S-1128	
80	NS45	N-13°E	S-2°E	4.2	11.0	52.56	2.70~2.80	2.70~2.80	柱頭	12	不規則形・丸太形	90~152 20~110 60~121 木筋付 根元切妻	S-1129~S-1130	
80	NS44	N-3°E	S-2°E	4.2	10.99	54.06	2.60~2.70	2.50~2.60	柱頭	12	円形・不規則形・丸太形 木筋付	99~104 81~93 45~78 木筋付 根元切妻	S-1128~S-1130	
81	NS46	N-85°E	S-2°E	7.21	47.6	34.56	2.10~2.58	2.21~2.53	柱頭	10	円形・丸太形・丸太形 木筋付	119~147 84~116 24~71 木筋付 根元切妻	S-1128~S-1130	
82	O843	N-15°W	S-2°E	7.16	43.2	34.51	2.40~2.70	2.30~2.90	柱頭	7	円形・丸太形	62~110 62~90 34~82 木筋付 根元切妻	S-1126~S-1127	
83	O845	N-85°W	S-2°E	6.95	21.51	15.03	2.10~2.80	2.05~2.15	柱頭	6	丸太形・丸太形・丸太形 木筋付	86~127 79~120 26~32 木筋付 根元切妻	S-1128~S-1129	
84	O845	N-85°W	S-2°E	2.76	56.0	49.33	2.20~2.59	1.70~1.95	柱頭	12	丸太形・丸太形	80~129 65~86 24~72 木筋付 根元切妻	S-1127~S-1128	
85	O847	N-85°E	S-2°E	3.03	6.51	42.73	3.23	2.00~2.40	柱頭	8	丸太形・丸太形・丸太形 木筋付	98~138 90~115 32~71 木筋付 根元切妻	S-1128~S-1129	
86	O848	N-15°E	S-2°E	3.75	49.0	35.26	2.90	2.20~2.40	柱頭	7	丸太形	71~174 64~162 47~73 木筋付 根元切妻	S-1128~S-1129	
87	O849	N-3°W	S-2°E	1.9	13.75	23.36	2.95	2.85	柱頭	9	楕円形・丸太形	85~125 94~119 22~32 木筋付 根元切妻	S-1127~S-1128	
87	O842	N-87°W	-	-	-	-	-	-	3	楕円形・丸太形・丸太形 木筋付	94~124 71~116 42~38 木筋付 根元切妻	S-1128~S-1127		
88	O843	N-3°W	S-2°E	5.99	12.0	21.75	1.70~2.10	2.00~2.20	柱頭	13	丸太形・丸太形・丸太形 木筋付	7~38 65~75 22~35 木筋付 根元切妻	S-1128~S-1127	
89	NE10	N-3°W	S-2°E	2.74	5.73	6.69	2.60	2.60~2.90	柱頭	12	円形・斜止方	36~108 33~78 31~82 木筋付 根元切妻	S-1126~S-1125	
90	NN84	N-0°	S-2°E	4.08	10.4	6.48	1.90~2.20	1.80~2.20	柱頭	9	楕円形・丸太形	60~96 36~70 16~60 木筋付 根元切妻	S-1124~S-1125	
10	NN84	N-0°	S-2°E	2.82	4.67	3.59	14.61	1.80~2.10	1.60~2.00	柱頭	8	楕円形・斜止方	69~88 30~70 18~63 木筋付 根元切妻	S-1124~S-1125

編號 學名 俗名	位置 樹木方向	胸徑 (厘米)	葉級 (毫米)	樹高 (米)	樹形和枝 條數 (枝)	葉面 薄厚 (毫米)	生長			出上邊 枝葉 名稱 種類	老 年 者
							長 短 粗 細 (毫米)	年 齡 (年)	深 淺 (毫米)		
102 Osa 3 N - 2°W 4 x 3 9.37 x 4.66 5.03 2.26 - 2.50 1.70 - 2.00 雜木 14 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 90 - 156 81 - 100 26 - 95 老齡 葉面薄 1.5-2.5 毫米 葉緣有鋸齒 51.15-52.50 1.56-2.52 毫米											
09 Osa 5 N - 2° E 3 x 2 5.21 x 4.34 26.05 1.90 - 2.10 2.30 - 2.35 雜木 10 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 72 - 115 69 - 90 23 - 65 老齡 葉面薄 51.22-53.30 葉緣有鋸齒 51.22-53.30 毫米											
103 N815 N - 2° W 2 x 2 4.68 x 4.56 22.71 2.30 - 2.60 2.03 - 2.60 雜木 9 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 54 - 101 63 - 96 12 - 26 老齡 葉面薄 51.05-52.65 葉緣有鋸齒 51.05-52.65 毫米											
105 Osa 2 N - 2° L 3 x 2 7.68 x 4.66 36.02 2.30 - 3.00 2.10 - 2.90 雜木 8;2 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 58 - 116 83 - 95 18 - 80 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 72 - 102-105 毫米											
106 N812 N - 2° E 2 x 2 4.60 x 4.55 22.80 2.30 - 2.40 2.00 - 2.50 雜木 9 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 84 - 110 81 - 100 21 - 70 老齡 葉面薄 51.05-52.65 葉緣有鋸齒 51.05-52.65 毫米											
.97 N819 N - 2° W 3 x 2 8.20 x 5.03 41.00 2.30 - 2.10 2.00 - 2.80 雜木 15 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 85 - 140 80 - 110 30 - 85 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 85 - 140 毫米											
108 N818 N - 1° W 3 x 3 7.70 x 5.50 10.01 2.40 - 3.05 1.50 - 1.80 雜木 11;1 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 95 - 173 95 - 135 35 - 95 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 95 - 173 毫米											
109 Osa 6 N - 2° W 2 x 2 7.15 x 5.34 37.47 2.30 - 2.60 2.50 雜木 10 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 113 - 172 - 173 15 - 43 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 113 - 172-173 毫米											
110 Osa 1 N - 2° E 2 x 1 3.74 x 3.50 22.56 2.20 - 3.40 1.80 - 3.90 雜木 6 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 85 - 20 75 - 20 10 - 15 老齡 葉面薄 51.05-52.65 葉緣有鋸齒 85 - 20 毫米											
111 L1012 N - 4° E 3 x 2 6.23 x 4.48 27.78 1.80 - 2.30 1.80 - 2.40 雜木 10 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 76 - 110 68 - 84 18 - 30 老齡 葉面薄 51.98-51.99 葉緣有鋸齒 76 - 110 毫米											
119 M1044 N - 77° W 13 x 2 6.60 x 4.41 19.26 1.70 - 2.20 2.10 - 2.30 雜木 9 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 78 - 141 82 - 116 10 - 96 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 78 - 141 毫米											
120 M816 N - 35° W 2 x 2 4.60 x 4.74 22.75 2.30 - 2.60 雜木 9 圓形-橢圓形 40 - 56 36 - 50 14 - 40 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 40 - 56 毫米											
121 L919 N - 86° W 3 x 2 6.65 x 3.80 26.03 1.80 - 2.00 1.70 - 2.10 雜木 14 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 51 - 107 64 - 95 27 - 76 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 51.56-52.71 毫米											
122 L919 N - 2° W 3 x 2 6.69 x 3.51 37.12 2.10 - 2.60 2.00 - 2.60 雜木 10 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 60 - 134 68 - 112 28 - 50 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 60 - 134 毫米											
123 L919 N - 10° B 3 x 2 5.17 x 3.84 19.70 1.50 - 2.10 1.80 - 2.00 雜木 10 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 78 - 106 78 - 94 24 - 56 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 78 - 106 毫米											
124 L918 N - 1° W 2 x 2 5.15 x 3.85 24.85 2.20 - 3.10 雜木 8 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 88 - 145 78 - 88 26 - 37 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 88 - 145 毫米											
125 9 h 9 N - 0° 3 x 2 5.67 x 4.90 33.86 2.00 - 2.70 2.20 - 2.30 雜木 10 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 76 - 125 70 - 82 30 - 58 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 76 - 125 毫米											
127 L1012 N - 3° E 3 x 2 5.64 x 4.08 21.61 1.70 - 2.40 1.70 - 2.80 雜木 10 圓形-橢圓形 葉緣有鋸齒 79 - 119 88 - 98 28 - 51 老齡 葉面薄 51.56-52.71 葉緣有鋸齒 79 - 119 毫米											

(3) 薦

調査8区では7条の溝を検出した。特徴的な遺構について記載し、それ以外の遺構の特徴や遺物については、省いて掲載する。溝の平面図は8区遺構全体図(付図2・3)に示す。

### 第16号溝（第659～666段、付図2・3）

位置 調査8区の南東部、M10j4～N9a7区、N9f6～O9h6区。平成8年度の調査区と平成10・11年度の調査区にまたがって位置している。そのため、中央部（N9b6～N9e6区）を平成8年度、南部を（N9f6～O9h6区）を平成10年度、北部から東部（M10j4～N9a7区）を平成11年度に調査した。

**重複関係** 東部（M10j3区）で第1422号分居跡を掘り込んでいる。東部（M10j3区）を第9号道路状構に、南部（O9b5区）を第81号溝に掘り込まれている。北部（N9a7区）で、第35B号溝とつながっている。覆土が東側に堆積状況であることから第35B号溝と第16号溝(同時に廃止)との考え方である。

**規模と形状** 上幅75~210cm、下幅42~105cmで、確認面からの奥行きは50~82cmである。底部は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。確認できる長さは平成8年度調査を含めて98mで、東端と南端で調査区域外に延びている。右から左へ向かって、平成9年度の調査断面に位置する第20号港池のすぐ北側に位置する。

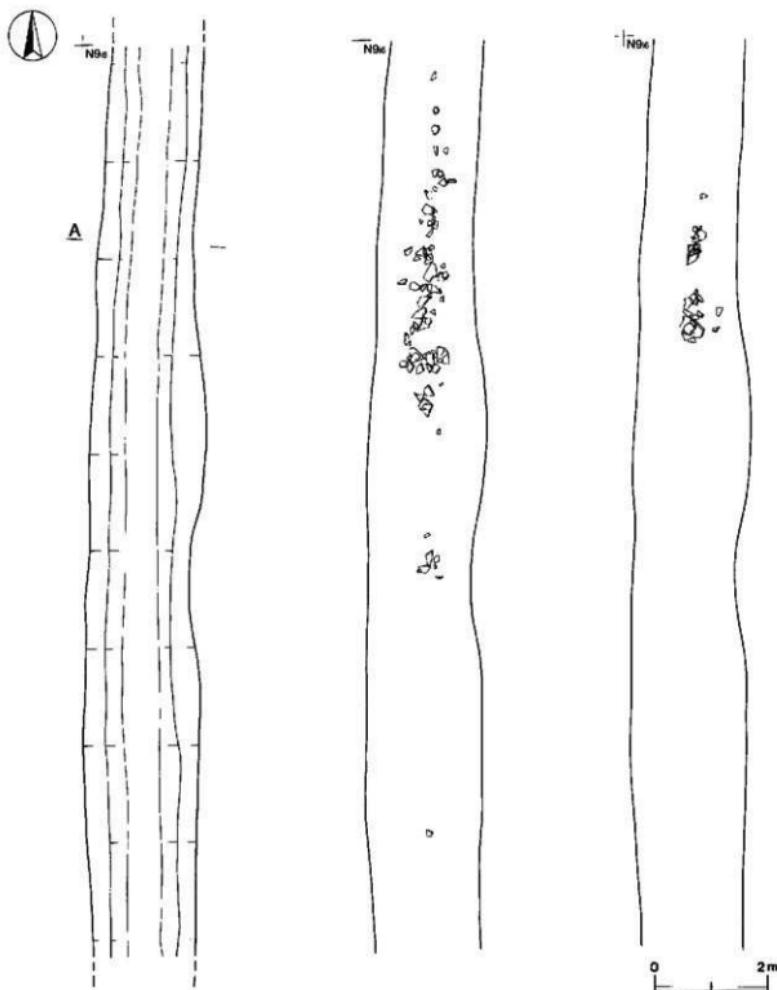
方向 O96.6区から北方向 ( $N = 0^\circ$ ) に直線的に伸び、N9a7区で東方向 ( $N = 86^\circ - E$ ) にはば直角に屈曲する。点線は延長線である。

覆土 8 層からなり、自然地盤上書きかねる。

上標題

- |       |                           |       |                         |
|-------|---------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブリック半量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム小ソック少量、ローム粒子微量       |
| 2 深褐色 | ローム小ブリック、ローム粒子少量          | 6 暗褐色 | ローム小ブリック、ローム粒子中量、粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブリック半量、ローム粒子少量        | 7 暗褐色 | ローム小ブリック、ローム粒子中量        |
| 4 黒褐色 | ローム小ブリック、ローム小ソック、ローム粒子、粘土 | 8 所褐色 | ローム小ソック多量、ローム粒子中量       |
|       | 粒子微量                      |       |                         |

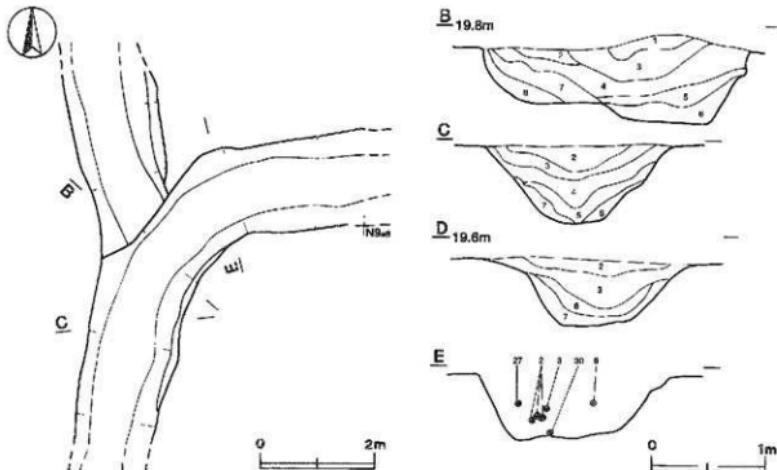
遺物 土師器1174点、須恵器片679点、石製鉄製品1点、編制品1点（源方）が出土している。第662~666



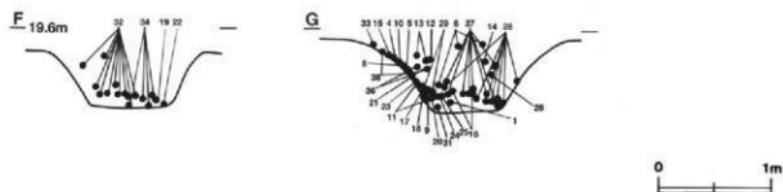
第659図 第16号溝・須恵器大甕(39)出土状況図

図2・3・7・27・30・35は、北部M9j8～M10j1区から出土している。2・3の土師器杯、35の土師器塗は覆土下層から、30の須恵器長頸壺は覆土下層から正位でそれぞれ出土している。7の須恵器杯、27の須恵器蓋は覆土中層から出土している。ここからは遺物が集中して出土している。1の土師器杯は斜位で、14の須恵器杯、16の土師器皿は覆土下層からそれぞれ逆位で出土している。18～20・22～26は須恵器蓋である。26以外はいずれも覆土下層から逆位で出土している。26は覆土中層から出土した破片である。28の須恵器鉢、31の須恵器小形短頸壺、37の須恵器壺は、覆土下層から出土した破片が接合したものである。32の須恵器壺は、南部の北半のN9h6区の覆土下層から出土した破片が接合したものである。4の土師器杯は、覆土下層から出土している。5・6・8～13・15・17・21・33・36・38は、海部の南半のO9d6～O9g6区から出土している。4の土師器杯は、覆土下層から出土している。5・6・8～13・15は須恵器杯である。5・8～10は覆土下層から正位で出土している。11は覆土下層から出土した2片が接合したものである。6は覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。12・13・15は覆土中層から出土している。17・21の須恵器蓋は覆土下層から正位で出土している。33の提瓶・36・38の須恵器壺は覆土中層から出土している。39の須恵器大甕は、南部の溝全体から出土した83点が接合したものである。破片の大部分はN9j6～N9j6区の覆土下層に集中していることから、破碎して投棄した可能性が考えられる。O9e6区の覆土中から出土している29の須恵器子持ち器皿、N9j6区の覆土中から出土している34の須恵器提瓶は混入したものと考えられる。40の不明鉄製品は南部(O9e6区)の覆土下層から、41の蓮方は北部(M10j1区)の覆土上層から出土している。

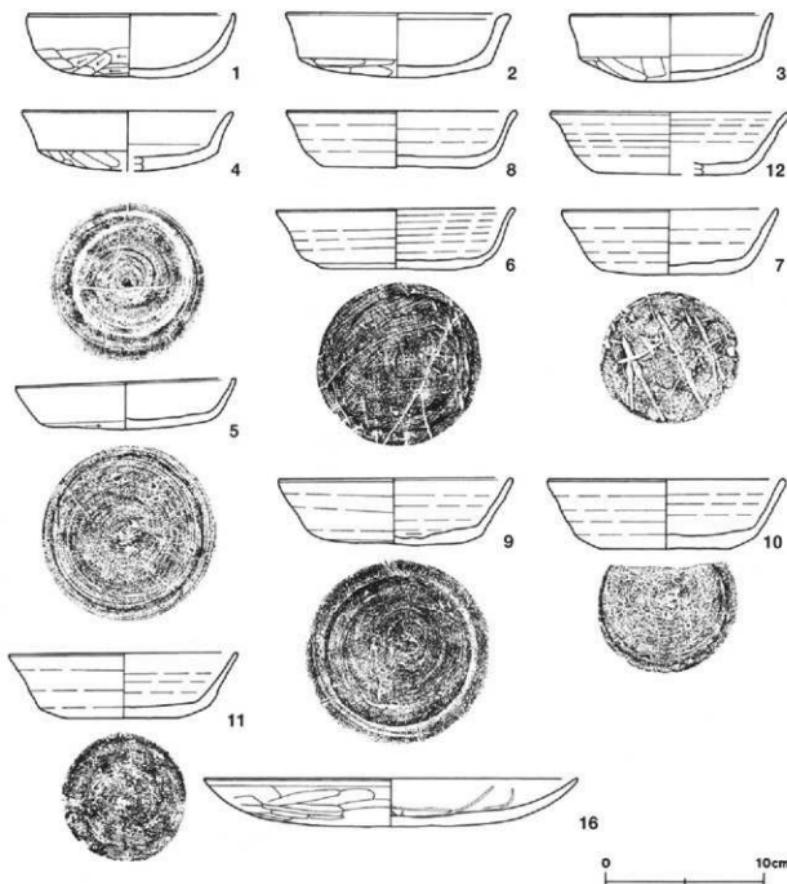
所見 本跡の中央部は平成8年度に調査が終了しており、その部分については、「茨城県教育財團文化財調査報告」第133集を参照されたい。第35B号溝は、本跡の北コーナー部に連結しており、底部が一段高くなっている。このことから本跡が削削された後、第35B号溝が削削されたと考えられる。また、覆土は、本跡と連結した堆積状況であることから、一時的ではあるが同時期に存在し、廃絶も同時期と考えられる。本跡の時期は、出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



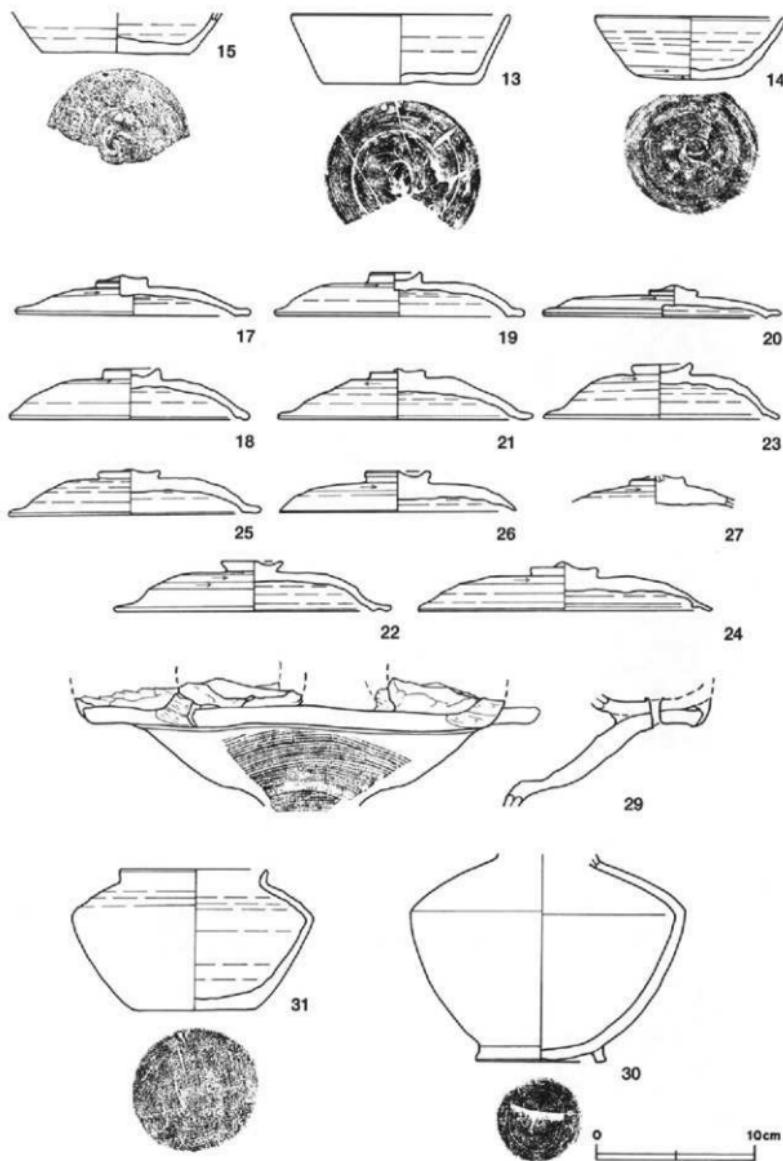
第660図 第16号溝実測図(1)



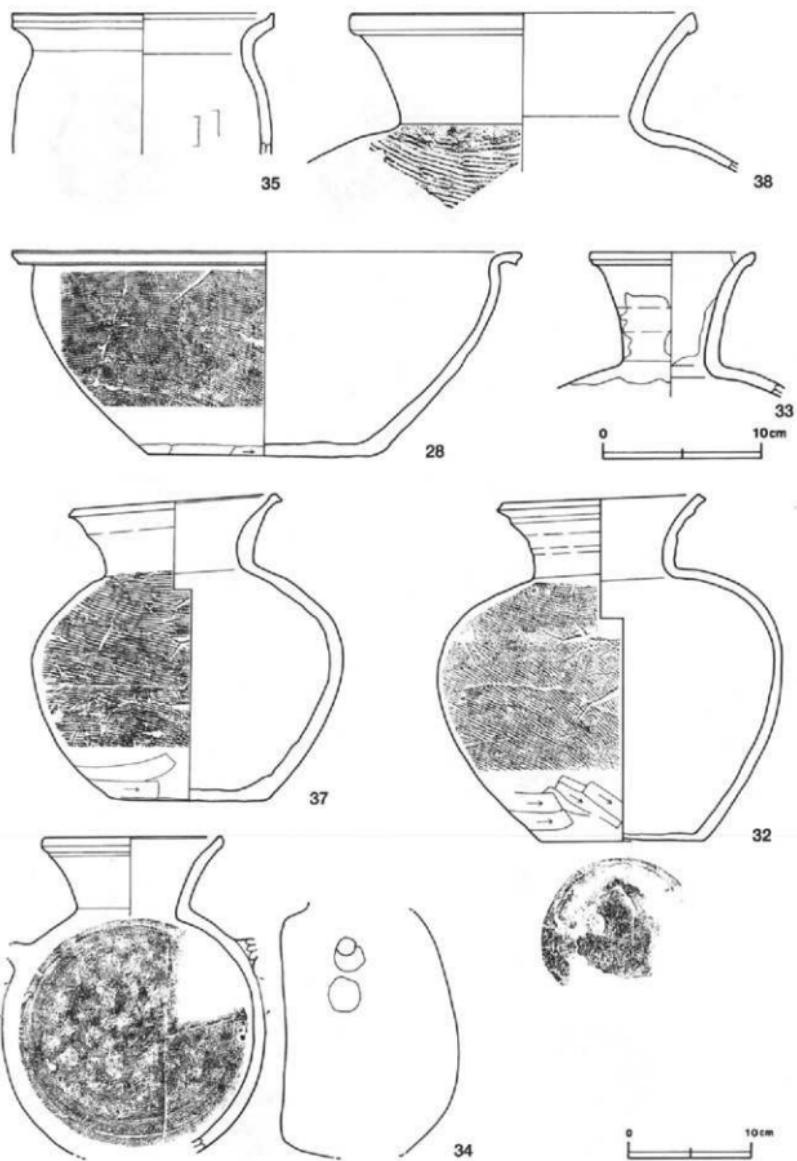
第661図 第16号溝実測図(2)



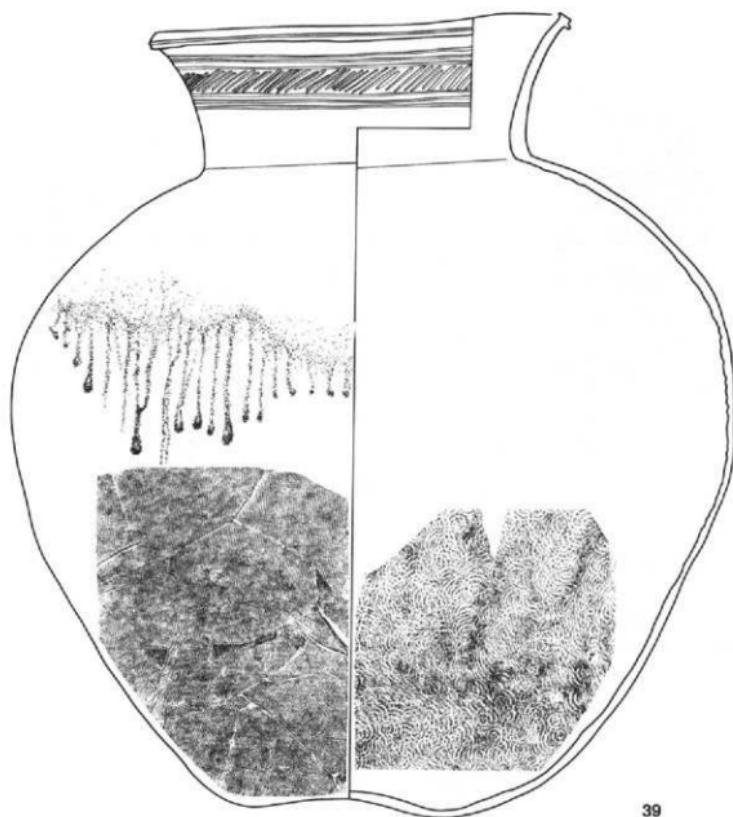
第662図 第16号溝出土遺物実測図(1)



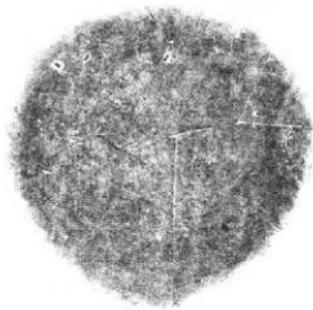
第663図 第16号溝出土遺物実測図（2）



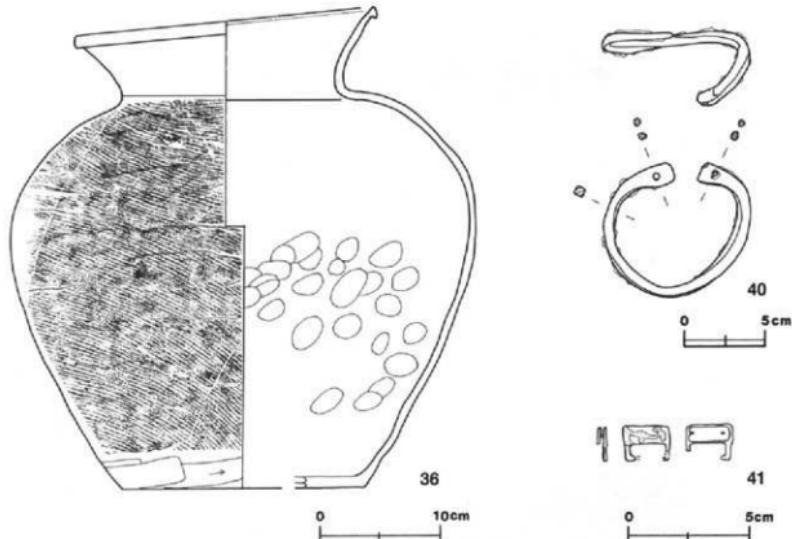
第664図 第16号溝出土遺物実測図（3）



39



第665図 第16号溝出土遺物実測図（4）



第1666図 第16号溝出土遺物実測図(5)

第16号溝出土遺物観察表

国版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第662図 1	壺 土師器	A 12.6	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内壁気味に立ち上がり、口縁部との境に綫をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	P 80001 90% P L 270
		B 3.9				
2	壺 土師器	A 13.6	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内壁気味に立ち上がり、口縁部との境に綫をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 80002 80% P L 270
		B 3.9				
3	壺 土師器	A 12.4	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内壁気味に立ち上がり、口縁部との境に綫をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 80003 80% P L 270
		B 4.2				
4	壺 土師器	A 13.0	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内壁気味に立ち上がり、口縁部との境に綫をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 80004 80% P L 270
		B 3.7				
5	壺 須恵器	A 13.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部削り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P 80007 90% P L 270 底部内面墨記「-」大萬
		B 3.1				
		C 9.5				
6	壺 須恵器	A 14.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰白色。普通	P 80008 70% P L 270
		B 3.8				
		C 10.0				
7	壺 須恵器	A 13.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 80009 90% P L 272
		B 4.1				
		C 8.2				

固形番号	器種	剖面径(cm)	器 形 の 特徴	工 法 の 特徴	断面・色調・成形	備考
第662回 8	坏	A 14.0 B 3.5 C 9.0	杯部・口縁部・底欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部を支える。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P 80010 70% P L 222
	坏	A 14.3 B 4.2 C 8.7	杯部・口縁部・底欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に生る。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ切り後、同軸ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P 80011 70% P L 272
	坏	A [14.6] B 4.3 C 8.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に生る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ切り後、同軸ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 石英 黄褐色	P 80012 50% P L 272
第663回 10	坏	A 14.0 B 4.1 C 7.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に生る。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 石英 灰褐色	P 80013 50% P L 272
	坏	A [14.6] B 3.8 C 3.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に生る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P 80014 30%
	坏	A [14.2] B 4.3 C 9.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に生る。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ削り後、同軸ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P 80015 30%
第663回 11	坏	A [14.6] B 4.9 C 6.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に生る。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 石英 普通	P 80016 30%
	坏	B (2.5)	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ削り後、多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 石英 普通	P 80017 30%
	坏	A [22.9] B 3.0 F 3.0	底部から口縁部の破片。体部は内壁気泡に大きく開き、「山崩」に生る。	口縁部内・外面クロナデ。体部回転ヘラ削り後、内面磨ナシ後、放射状のヘラ削り。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P 80005 40% P L 270
第663回 16	盖	A 14.5 B 2.5 F 3.0	変形。天井部は伏せ皿形。底平なボタン次のつまみが付く。口縁部内面には、ごく小さなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。ナデ。外周部及び口縁部内・外面クロナデ。	砂粒・雲母・長石 石英 灰褐色 普通	P 80018 100% P L 272
	坏	A 14.9 B 3.2 S 3.3	完形。天井部は伏せ皿形。中央部をくぼませた扁平なボタン次のつまみが付く。口縁部内面には、小さなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。ナデ。外周部及び口縁部内・外面クロナデ。	砂粒・雲母 石英 普通	P 80019 100% P L 272
	盖	A 15.4 B 2.7 F 3.1	変形。天井部は伏せ皿形。中央部をくぼませた扁平なボタン次のつまみが付く。口縁部内面には、小さなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。ナデ。外周部及び口縁部内・外面クロナデ。	砂粒・雲母・長石 石英 灰褐色 普通	P 80020 100% P L 272
第663回 17	盖	A 14.6 B 2.0 F 3.0	変形。天井部は伏せ皿形。中央部をくぼませた扁平なボタン次のつまみが付く。口縁部内面には、小さなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。ナデ。外周部及び口縁部内・外面クロナデ。	砂粒・雲母・長石 石英 灰褐色 普通	P 80001 100% P L 272
	坏	A 15.6 B 3.2 F 3.4	変形。天井部は伏せ皿形。中央部をくぼませた扁平なボタン次のつまみが付く。口縁部内面には、ごく小さなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。ナデ。外周部及び口縁部内・外面クロナデ。	砂粒・雲母・長石 石英 灰褐色 普通	P 80022 100% P L 272
	盖	A [16.6] B 3.1 F 3.5	天井部から口縁部の破片。天井部は伏せ皿形。中央部をくぼませた扁平なボタン次のつまみが付く。口縁部内面には、かえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。ナデ。外周部及び口縁部内・外面クロナデ。	砂粒・雲母 黄褐色 普通	P 80023 60% P L 272
第663回 21	盖	A 14.4 B 3.4 F 3.3	天井部から口縁部の破片。天井部は伏せ皿形。中央部をくぼませた扁平なボタン次のつまみが付く。口縁部内面には、かえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。ナデ。外周部及び口縁部内・外面クロナデ。	砂粒・雲母 石英 灰褐色 普通	P 80024 60% P L 272
	坏	A 18.0 B 2.9 F 4.0	天井部から口縁部の破片。天井部は伏せ皿形。中央部を隆起させた底平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には、かえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。ナデ。外周部及び口縁部内・外面クロナデ。	砂粒・雲母・長石 黄褐色 普通	P 80025 50% P L 272
	盖	G 0.9	口縁部内面には、かえりが付く。			

国版番号	器種	高さ( cm )	器 形 の 特徴	下 法 の 特 徴	動止・色調・施成	備 考
第663回 25	病 患 器	A 15.6	天井部から口縁部の破片。天井部は伏せ重影、幅広なガラス状のつまみが付く。口縁部内面には、かえりが付く。	天井部向軸へ割り後、つまみ貼り付け。ナダ。外周部及び口縁部内・外面部クロナナ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰白色 普通	P 80026 50% P L 272
		B 2.8				
		F 3.6				
		G 0.6				
		A 15.3	口縁部欠損。天井部は伏せ重影、幅広な擬宝珠状のつまみが付く。	天井部向軸へ割り後、つまみ貼り付け。ナダ。外周部内・外面部クロナナ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰白色 普通	P 80027 60% P L 272
第664回 28	鉢	T 3.2	天井部欠損。天井部は伏せ重影、幅広な擬宝珠状のつまみが付く。	天井部向軸へ割り後、つまみ貼り付け。ナダ。外周部内・外面部クロナナ。	砂粒・雲母・長石・ 灰白色 普通	P 80028 50%
		A 41.5	外部・口縁部・一部欠損。底部は外輪なし。内輪なしで立ち上がり、口縁部を底部する。	口縁部内・外面部クロナナ。底部外輪側の平行引き。下位脚位のへき裂。内面ナダ。底部脚位に調整不整。	砂粒・雲母・長石・ 石英 黄灰色 普通	P 80029 70%
		B 16.8				
第663回 29	病 患 器	C 18.2	口縁部を底部する。口縁部を面取りして角張らし、中央に1条の浅縫を造らしている。	口縁部内・外面部クロナナ。底部外輪側の平行引き。下位脚位のへき裂。内面ナダ。底部脚位に調整不整。	砂粒・雲母・長石・ 石英 黄灰色 普通	P 80030 30% P L 272
		A 29.2	环状片。体部は外輪なしで立ち上がり、口縁部に水平な面を造り、その上面に貼付した环の残存部がある。脚位は2カ所ある。	口縁部脚位貼り付け後、ナダ。体部外輪側カット調整。内面ナダ。脚位2カ所の内側部に、貫通する径約1mmの内孔がそれぞれ1カ所存在している。	砂粒・長石 灰白色 普通	P 80030 P L 272
		B ( 6.6 )				
第664回 30	鉢	B ( 12.8 )	口縁部から体部の破片。やや丸みを帯びた底部に、ハの字状に開く。口縁部が立ち上がり、口縁部に内輪して立ち上り、肩部で「く」の字形に屈曲し内輪する。	体部内・外面部クロナナ。ロクロ。口縁部は弱い。底脚位へき裂後、内輪貼り付け。高脚位熱融。	砂粒 灰白色 良好	P 80031 60% P L 272
		D 8.0				
		E 1.0				
第664回 31	小形短瓶 病 患 器	A 9.0	口縁部・体部・一部欠損。体部は内輪して立ち上り、肩部で「く」の字形に屈曲し、口縁部に沿る。	口縁部及び体部内・外面部クロナナ。底部多方向のへき裂。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P 80033 80% P L 271
		B 8.7				
		C 7.4	口縁部は直立する。			
第664回 32	壺	A 15.8	口縁部・体部・一部欠損。底部は内輪で立ち上り、肩部で「く」の字形に屈曲し、口縁部に沿る。	口縁部内・外面部クロナナ。体部外輪側の平行引き。下位脚位のへき裂。内面ナダ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 良好	P 80036 80% P L 270
		B 28.0				
		C 13.0	口縁部は直立する。口縁部は内輪して立ち上り、肩部で「く」の字形に屈曲し、口縁部に沿る。肩部は面取りして角張らせている。			
第665回 33	提 瓶	A 16.0	体部から口縁部の破片。頸部は比較的の短く、口縁部はだらかに外反して口縁部に沿る。	口縁部及び体部外面部クロナナ。内面ナダ。口縁部内・外反及び体部外輪側自然曲線。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P 80032 10% P L 273
		B ( 8.9 )				
第665回 34	提 瓶	A 14.5	体部から口縁部の破片。頸部は比較的太く、口縁部はだらかに外反して口縁部に沿る。底脚位は直立する。底脚位は面取りして角張らせている。	口縁部内・外面部クロナナ。コクコロは前位。体部外輪側カット調整。内面ナダ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P 80031 60% P L 273
		B ( 28.5 )				
第666回 35	壺	A 16.0	体部から口縁部の破片。体部は内輪して立ち上り、底脚位で屈曲し、口縁部に沿る。底脚位は上方へつきみ上げられる。	口縁部内・外面部ナダ。体部外輪側ナダ。内面ナダ。	砂粒・雲母・長石 石英 にぶい黄褐色 青石	P 80036 20% P L 272
		B ( 8.6 )				
第666回 36	病 患 器	A 24.2	底脚から口縁部の破片。体部は内輪して立ち上り、底脚部で屈曲し、口縁部に沿る。底脚部は下方に突出させている。	口縁部内・外面部クロナナ。体部外輪側の平行引き。下位脚位のへき裂。内面ナダ。	砂粒・雲母・長石 石英 灰白色 普通	P 80035 80% P L 272
		B 38.6				
		C 19.8				
第664回 37	壺	A 16.3	体部・口縁部・一部欠損。底脚、体部は球形を呈し、底脚部で屈曲し、口縁部に沿る。底脚部は面取りして角張らせている。	口縁部内・外面部クロナナ。体部外輪側の平行引き。下位脚位のへき裂。内面ナダ。	砂粒・雲母・長石 青灰色 普通	P 80037 80% P L 270
		B 24.9				
		C 12.8				
第665回 38	壺	A 20.8	体部・口縁部・一部欠損。底脚、体部は球形を呈し、底脚部で屈曲し、口縁部に沿る。	口縁部内・外面部クロナナ。体部外輪側の平行引き。内面ナダ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 80038 5% P L 271
		B ( 9.7 )	底脚部は内輪して立ち上り、底脚部で屈曲し、口縁部に沿る。			
第665回 39	病 患 器	A 49.7	底脚から口縁部の破片。底脚、体部は球形を呈し、底脚部で屈曲し、口縁部に沿る。	口縁部内・外面部クロナナ。口縁部外に平行した3本1組の横足上部による平行脚と組めの脚柱ときわら文筋文。体部外輪側の平行引き後、底脚の平行脚と。内面ナダ。	砂粒・雲母・長石 石英 灰色 普通	P 80039 80% 酒内産 P L 274
		B 9.0				
		C 23.9				

試験番号	器種	計 測 値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
第666840	不明	8.2	9.3	0.6	37.3	鉄	長さ、幅ともに4cmの貫通する円孔がそれと全く一致する。	M8224 PL282
第666841	馬	7.1	1.9	(1.0)	0.5	(1.9)	木板、長軸15cm、高軸3cmの丸木板。	M8225 PL283

### 第35B号溝（第667～673段、付図2・3）

位置 調査8区の中央部。L9b7～M9j6区。平成9年度と平成11年度の調査にまたがって位置しておる。そのため、調査も北部の一部を平成9年度、それ以外を平成11年度と両年度にわたった。平成9年度調査分を掲載している『茨城県教育財團文化財調査報告書』第166集では、当遺跡北部の調査4・11区で確認された第35号溝に連結するものとして報告されているが、今回の調査で別の溝と判明したため、調査4・11区のものを第35A号溝と改め、本跡を第35B号溝とした。

重複関係 北部で第1419号住居跡を掘り込み、北部が第82号溝に掘り込まれている。南端が第16号溝のコ・ナーに連結しており、両溝の堆積状況は、土層断面から同時期に堆積したと考えられる。

規模と形状 規模は長さ74.88m、上幅71～254cm、下幅30～97cmで、確認面からの深さは47～102cmであり、形状は底面がほぼ平坦で、壁面が外傾して立ち上がる箱型状をしている。

方向 M9j6区から北方向（N=0°）に、直線的に延びている。

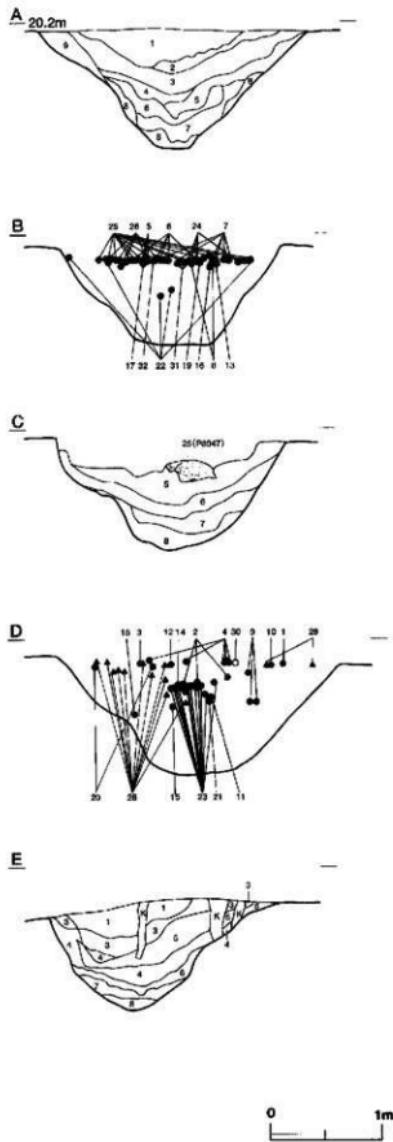
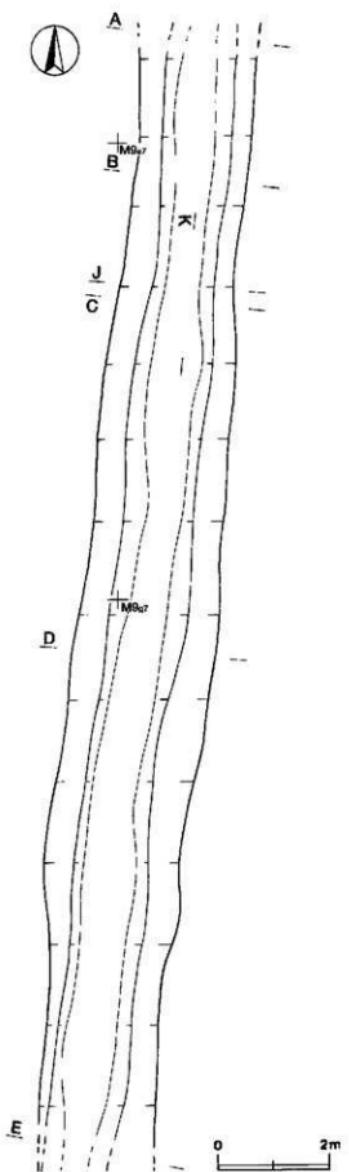
覆土 9層に分層できた。ほぼレンズ状に堆積していることから、埋没する段階での自然堆積と考えられる。

上層断面図中、第4・5層は全体的にややしまりがあり、その上部の幅2～3cmの部分がやや硬くしまっている。M9d7区の第1～3層中に、長径175cm、短径85cm、厚さ45cmの焼土塊が検出され、その焼土が第3層上面を南部のM9e7区付近まで流れていた。第10～14層が焼土塊の土層である。

#### 土層解説

- 1 黒赤褐色 土三種子・炭化物少量、ローム小ブロック、一ム粒 8. 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量  
下、燒土小ブロック、炭化物少量
- 2 黒赤褐色 燃土小ブロック、燒土小ブロック、燒土粒子・炭化物中量 9. 黑褐色 ローム粒 10. 燃土粒、燒土粒多量、燒土中ブロック、粘土量  
ローム粒、炭化物少量
- 3 黑褐色 ローム小ブロック、ローム粒子、粘土小ブロック、燒土 11. 燃土褐色 燃土粒多量、燒土中ブロック、粘土少量  
炭化物少量、粘土少量
- 4 黑褐色、ローム粒少量、炭化物少量。しまりややない。 12. 黑褐色 燃土中ブロック、燒土小ブロック、燒土粒子中量、炭化物・粘土粒子少量
- 5 黑褐色 ローム粒少量、炭化物少量。しまりやや濃い。 13. 黑褐色 燃土小ブロック、燒土粒子少量
- 6 泥褐色 ローム小ブロック、ローム粒、炭化物少量 14. 黑褐色 燃土小ブロック、燒土粒子少量
- 7 泥褐色 ローム小ブロック、ローム粒、炭化物少量

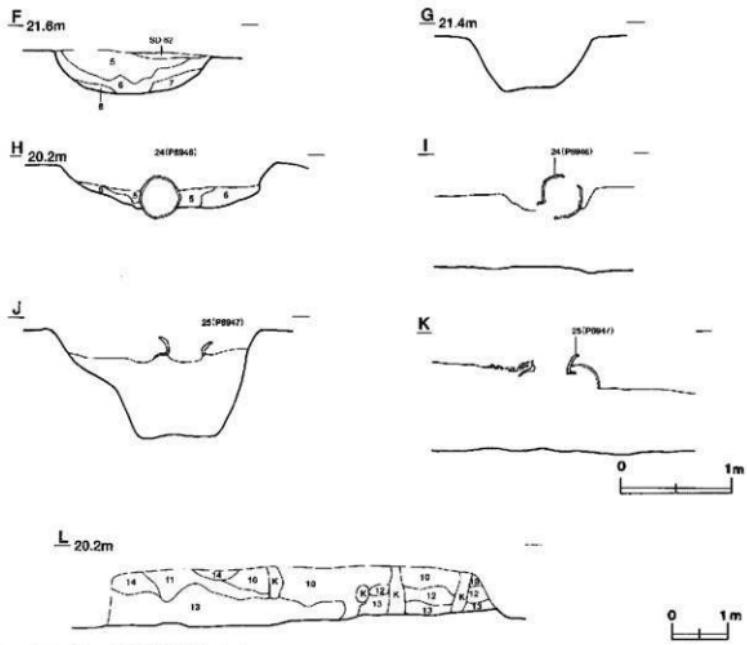
遺物 土師器片4,417点（坏273、高台付坏7、甕・瓶類4,132、ミニチュア7器5）、須恵器片1,200点（坏878、高台付坏17、蓋31、盤6、高盤4、甕・瓶類261、鉢2、短颈甕1）、土製品2点（球狀土鍊）、鉄器2点（刀子1、手鏡1）、銅津2点が出土している。出土遺物は、M9d7～M9e7区で出土し、大半はM9d7～M9e7区に集中している。また、覆土の土層断面図中、第1～3層から出土している。第670～673段3・4・5の須恵器坏、10の上師器高台付坏、12・13の須恵器盤、16・17の須恵器高盤、19の須恵器蓋、22の須恵器甕、30の球狀土鍊、32の刀子は、第1層から出土しており、10には体部外面と底部外面の2か所に「不」と墨書きされている。6・7の須恵器坏、14の須恵器盤、20の土師器鉢、26の上師器甕は第2層から、1の上師器坏、2・8の須恵器坏、11の高台付坏、21の須恵器短颈甕、23の須恵器甕、28の須恵器鉢の体部片、29の須恵器甕の体部片は、第3層から、それぞれ出土している。24・25の須恵器甕は、造構の確認面から第1・2層にかけて出土してお



第667図 第35B号清炎測図(1)



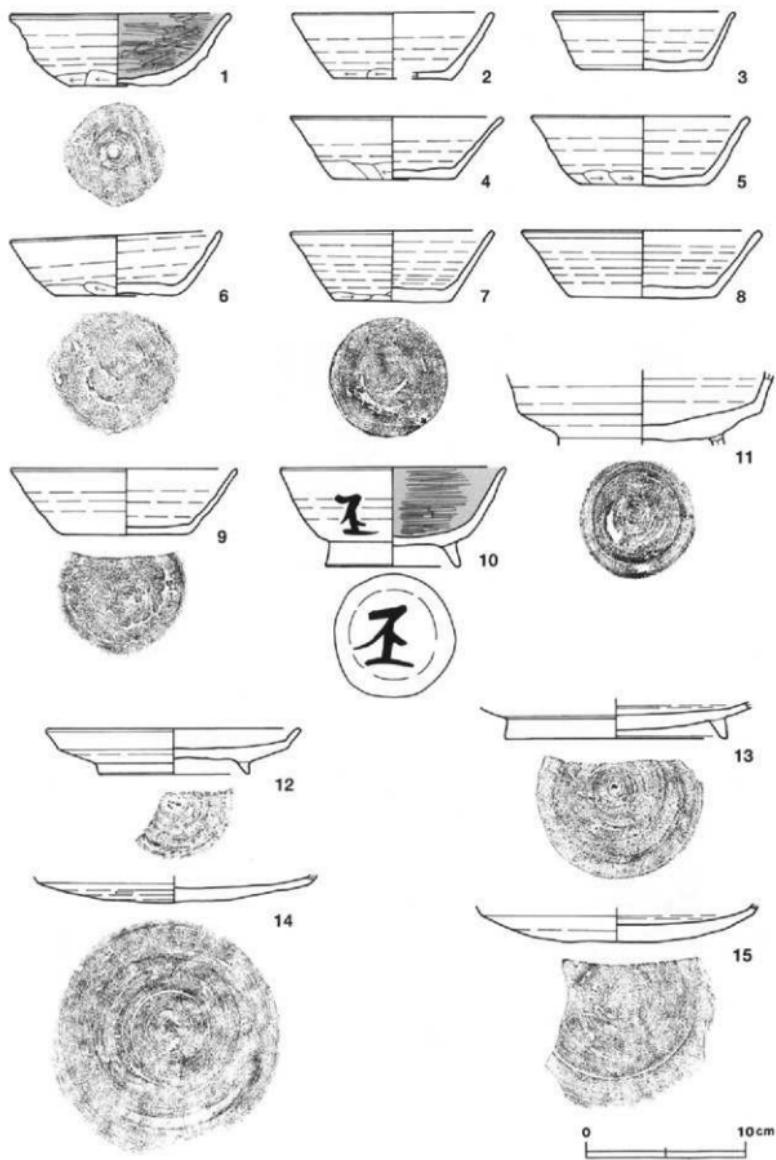
第668図 第35B号溝遺物出土状況図



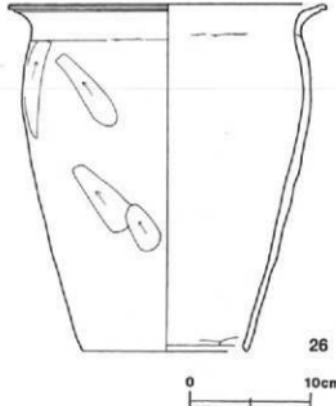
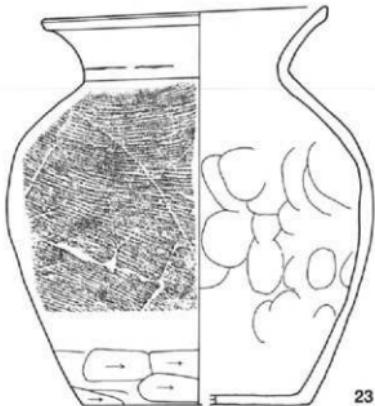
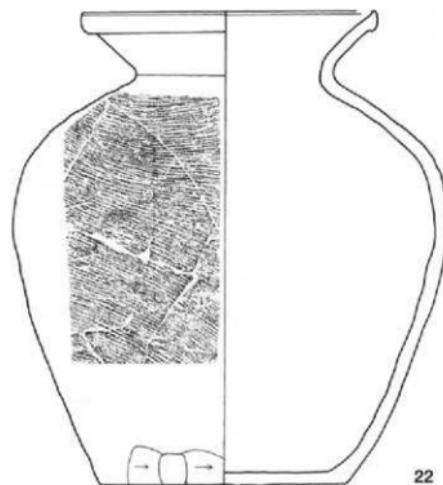
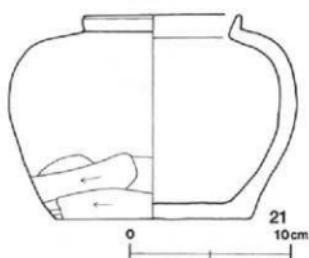
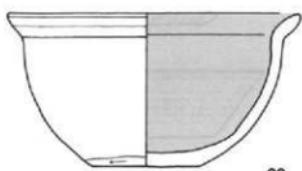
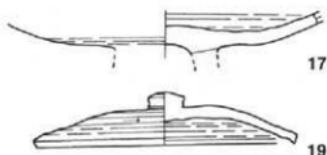
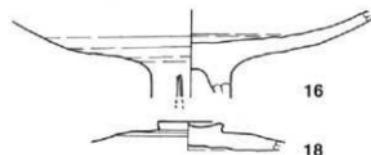
第669図 第35B号溝実測図（2）

り、25は上半部が正位で出土している。24の頸部の一部と25の下半部は、第30号井戸跡から出土した破片と接合した。9の須恵器杯、15の須恵器盤、31の十錢は、第4層から出土している。18の須恵器蓋は第8層から、第33の手鏡は第6層から、それぞれ出土している。1と10は、他の土器群とは異なり、新しい時期のものと考えられる。

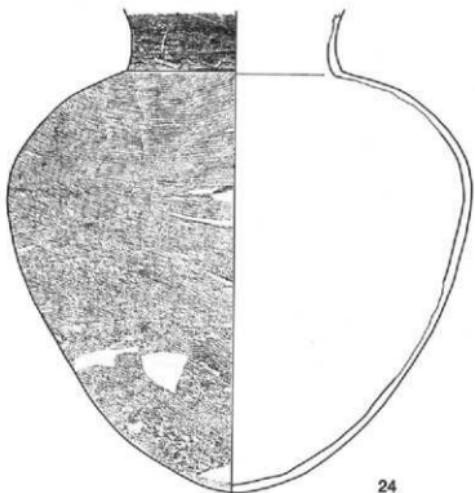
所見 本跡の性格は、南端が第16号溝のコーナーに連結しており、堆積状況から廃絶がほぼ同時期と考えられることから、同時に機能していたことがいえる。本跡は南北に直線的に延びるものであるが、連結部では東方向に折れて連結しており、第16号溝より掘り込みが浅い。これらのことから、第16号溝の掘削時期より後に掘り込まれたものと考えられる。また、北端は第35A号溝には連結していないものの、本跡と第35A号溝とは形状及び長軸方向が同じであり、出土土器からは同時期に機能していたものと考えられる。さらに本跡の東側には、本跡に長軸方向と平行方向をほぼ同じにするL字状の掘立柱建物跡群が検出されていることから、掘立柱建物跡群と密接な関係があり、区画を目的として設けられた溝と考えられる。堆積状況からみて、中層に硬化した面が検出されたことから、廃絶後、埋没する段階で通路に使用された可能性がある。その後は、遺物の出土状況から、大量の土器類を投棄した場所と考えられる。時期は、7世紀前半の第1419号住居跡を掘り込んでいることと、8世紀中葉の土器が出土していることから、8世紀中葉以前には機能していたと考えられる。



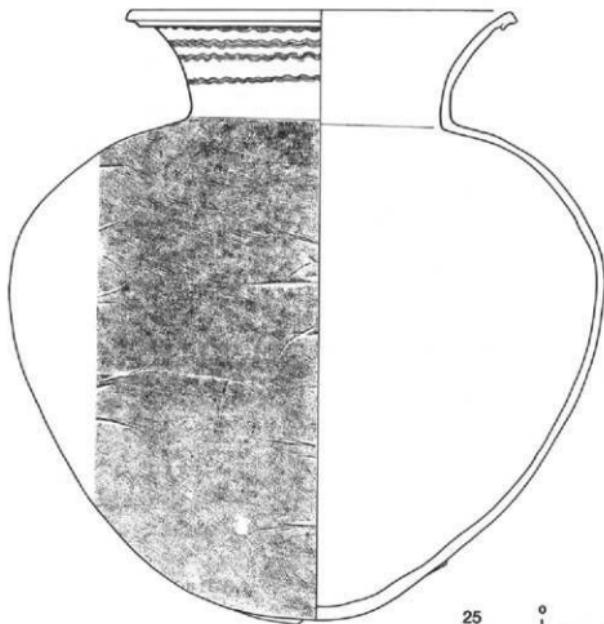
第670図 第35B号溝出土遺物実測図（1）



第671図 第35B号溝出土遺物実測図（2）



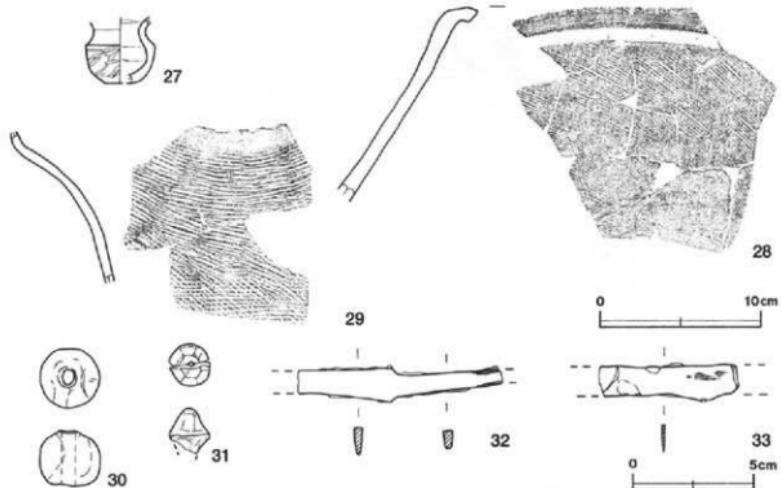
24



25

0 20cm

第672図 第35B号溝出土遺物実測図(3)



第673図 第35B号溝出土遺物実測図(4)

第35B号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計画図(cm)	器形の特徴	手法の特徴	出土・色調・焼成	備考
第670回 1	壺	A [13.7]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内骨質に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下面下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 普通	P 8891 70%
	土師器	B 4.4				
	C 6.0					
2	壺	A [12.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 普通	P 8895 45%
	頬窓器	B 4.0				P L 275
	C [7.4]					
3	壺	A [11.4]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 普通	P 8896 70% P L 275
	頬窓器	B 3.5				
	C 7.6					内・外面火拂あり
4	壺	A 13.1	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 普通	P 8897 80% P L 273
	頬窓器	B 3.9				
	C 7.6					内・外面に煤付有
5	壺	A 13.4	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 普通	P 8898 85% P L 273
	頬窓器	B 4.2				
	C 7.6					にぶい褐色、普通
6	壺	A 13.1	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内骨質に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り痕を残す。2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 8899 50% P L 275
	頬窓器	B 3.9				
	C 7.6					
7	壺	A 12.5	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 普通	P 8890 90% P L 273
	頬窓器	B 4.4				
	C 7.2					
8	壺	A 14.8	底部、体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。蓋部は丸く収めている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 普通	P 8891 90% P L 273
	頬窓器	B 4.1				
	C 8.9					
9	壺	A [14.1]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り後。不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 普通	P 8892 60% P L 273
	頬窓器	B 4.1				
	C 7.8					

国版番号	器種	計量値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第670回	高台付环	A [14.0]	高台部から口縁部にかけての破片。	口縁部、体部内・外面にクロナデ。底部削り、体部内側へラブリき、底部削りへラブリ。高台貼り付け後、ナヂ、内面黑色処理。	砂粒・雲母・長石 50% 石英 50%	P 8924 40% P L 273
10	土師器	B 6.1	体部は底部から外側へ立ち上がり、口縁部に丸る。高台は底部外側にあり、「ハ」の字状に開く。			
		D 8.4				
		E 1.5				
11	高台付环	B [4.6]	高台部、体部一部欠損。体部は底部から外傾して立ち上がる。高台は内側にある。	体部内・外面にクロナデ。底部削り、体部内側へラブリき。高台貼り付け後、ナヂ。	砂粒・雲母・長石 50% 石英 50%	P 8933 P L 273
	頬忠器	E [0.8]				
12	盤	A 15.6	高台部から口縁部にかけての脱片。	口縁部、体部内・外面にクロナデ。底部削り、体部内側へラブリき。高台貼り付け後、ナヂ。	砂粒・雲母・長石 35% 石英 35% 灰白色 30%	P 8934 P L 273
	頬忠器	B 28	体部は外傾して外方に開き、屈曲			
		D 9.4	して口縁部に至る。口縁部はわずかに外傾する。高台は三月状。			
		E 0.7				
13	盤	B [12.2]	高台部から体部にかけての脱片。	体部内・外面にクロナデ。底部削り、体部内側へラブリき。高台貼り付け後、ナヂ。	砂粒・雲母・長石 20% 石英 20%	P 8935 P L 273
	頬忠器	D 13.8	体部は外傾して外方に開く。高台はわずかに外方にふんばる。			
14	盛	E 1.3				
	頬忠器	B [1.6]	体部の脱片。丸底。体部は内厚気味に外方に大きく開く。	体部内・外面にクロナデ。底部削り、体部内側へラブリき。	砂粒・雲母・長石 75% 石英 25%	P 8936 75% P L 273
15	盤	B [2.3]	体部の脱片。丸底。体部は内厚気味に外方に大きく開く。	体部内・外面にクロナデ。底部削り、体部内側へラブリき。	砂粒・雲母・長石 30% 石英 30%	P 8937 30% P L 273
第671回	高盤	B [5.4]	脚部下から体部にかけての脱片。	体部、脚部内・外面にクロナデ。体部外表面へラナダ。	砂粒・雲母・赤色粘土 15% 石英 15%	P 8938 P L 273
16	頬忠器		脚部は内厚気味で外方に大きく開く。脚部は円錐形を呈し、西方に切り込みがある。			
17	高盤	B [2.9]	体部の脱片。体部は内厚気味に外方に大きく開く。脚部は体部外縁の直鍛から、円錐形を呈し、四方に浅く凹を有する。	体部内・外面にクロナデ。体部外表面へラナダ。	砂粒・雲母・長石 20% 石英 20%	P 8939 P L 273
	頬忠器	F 4.1	天井部の破片。天井部が平頭で、外周部はなだらかに下降する。つまみはボタン状。	天井部削り、外周部ロカノデ。つまみ部ナヂ。	砂粒・雲母・灰白色 30% 石英 30%	P 8940 P L 273
18	蓋	G 0.7				
19	頬忠器	A 16.1	天井部は丸く、外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し、弧を立てる。つまみはボタン状。	天井部削り、外周部ロカノデ。つまみ部ナヂ。	砂粒・雲母・長石 100% 石英 100%	P 8941 P L 273
	B 32					
	C 2.3					
	D 10					
20	外	A [18.1]	体部。口縁部一部欠損。平底。体部は内側して立ち上がり、屈曲して口縁部に至る。	口縁部内・外面にクロナデ。体部外側の凹凸り後、ナヂ、内面へラブリき。内面黒色處理。底部本素焼。	砂粒・雲母・赤色粘土 70% 石英 20%	P 8942 P L 273
	上脚器	B 9.4				
	C 6.5					
21	好窓蓋	A 9.8	底部、口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球形を呈し、屈曲は口縁部から屈曲して、弧を立てる。	體部、体部内・外面にクロナデ。体部外側の凹凸り後、手折りへラブリき、内面ナヂ。底部本素焼。	砂粒・雲母・長石 90% 石英 10%	P 8943 P L 273
	頬忠器	B 12.5				
	C 12.2					
22	盖	A 23.8	底部、口縁部一部欠損。体部は倒卵形を呈し、屈曲は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。底部はわざかに上下に突出している。	口縁部、底部内・外面にクロナデ。体部外側の凹凸り後、下端へラブリき、内面ナヂ。底部本素焼。	砂粒・雲母・石英 90% 石英 10%	P 8944 P L 273
	頬忠器	B 38.2				
	C 20.2					
23	盖	A 22.8	体部、口縁部一部欠損。体部は倒卵形を呈し、屈部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部、底部内・外面にクロナデ。体部外側の凹凸り後、内面ナヂ、底部本素焼。	砂粒・雲母・長石 80% 石英 20%	P 8945 P L 273
	頬忠器	B 32.0				
	C 18.4					
第672回	大甕	B [59.5]	体部、口縁部一部欠損。体部は倒卵形を呈し、屈部は直立気味に外傾する。	口縁部、底部内・外面にクロナデ。体部外側の凹凸り後、内面ナヂ、底部本素焼。	砂粒・雲母・長石 80% 石英 20%	P 8946 P L 273
24	頬忠器					
25	大甕	A 47.4	体部一部欠損。体部は倒卵形を呈し、屈部で屈曲し、口縁部は外傾して開く。底部は下方に突出している。	口縁部、底部内・外面にクロナデ。底部外側の凹凸り後、内面ナヂ、底部本素焼。	砂粒・雲母・長石 80% 石英 20%	P 8947 P L 273
	土脚器	B 75.0				
	C [134]					
26	甕	A [25.6]	体部下部から口縁部にかけての破片。無底式。体部下半は外傾して開く。底部は下方に突出している。	口縁部、底部内・外面にクロナデ。底部外側の凹凸り後、内面ナヂ、底部本素焼。	砂粒・雲母・長石 80% 石英 20%	P 8948 P L 273
	土脚器	B 28.1				
	C [134]		口縁部は外反し、底部はわずかに上方につまみ上げられている。			
第671回	瓶					
26	土脚器					

国版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考		
第673号	ミニチュア器	B : 1.0 C : L 18]	体部から口縁部にかけての複数の環状、半径。体部は球形を呈し、頸部はゆるやかにくぎれ、口縁部に平弧。	口縁部内・外面輪郭ナダ。体部外側へラブリ、内面輪郭ナダ。	砂粒・灰石・石英 明褐色 普通	P 8949 45% P L 275		
27	土師器							
28	鉢	B : 15.5	体部から口縁部にかけての複数の環状。体部は外輪して立ち上がり、底面して、縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクイナダ。体部外側輪郭の平行押き、下端ハラブリ。	砂粒・灰母・灰石・石英 褐色 普通	T P 8429 20% P L 275		
29	壺	3 : 12.7	体頂中央から底部にかけての複数の環状。体部は内輪して立ち上がり、底部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナダ。体部外側輪郭の平行押き、内面輪郭ナダ。	砂粒・灰母・灰石 灰褐色 普通	T P 8430 10% P L 275		
	瓶							
国版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考	
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第673号30	球状土器	2.2	25	0.8	13.4	やや扁平な球体。ナダ。	雲母・灰ぶい・黄褐色 D P 8435 P L 280	
31	球状土器	1.7	19	0.3	2.8	やや扁平な球体。ナダ。	雲母・灰石・褐褐色 D P 8436 P L 280	
国版番号	器種	計測値				特徴	備考	
		全長(cm)	刃長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	材質		
第673号32	刀子	(8.4)	(4.0)	(1.4)	0.3~0.4	(4.4)	(9.6) 鋼 刃部・茎部・柄部・頭(あり)	M 8448 P L 282
国版番号	器種	計測値	材質	特徴	備考			
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第673号33	手鎌	(5.9)	(1.4)	0.1	(3.8)	鉄	頭丸。手鎌は長方形で、厚い。	M 8449 P L 281

### 第82号溝 (第674図、付図2・3)

位置 調査8区の北端。L9e1~L10d1区。西部は調査区域外に延びている。

重複関係 第1419号住居跡・第37号掘立柱建物跡・第35B号構を掘り込み、第83号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部は調査区域外に延びており、東部は掘り込みが浅くなり確認できなくなる。確認できた規模は、長さ26.95m、上幅24~68cm、下幅12~48cmで、確認面からの深さは最大10cmであり、形状は断面が「U」状をしている。溝の底面から、径20~32cm、深さ17~27cmのピットが9基、1.50~2.30m間隔で検出された。ピットの性格については不明である。

方向 L10d1区から西方向(N-89°W)に、直線的に延びている。

覆土 3層に分層された。堆積状況は、覆土が薄いため断定することは難しいが、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1. 黒褐色 ローム段子・炭化物少量
2. 粘褐色 11-ムシブロック・ローム段子少量
3. 黑褐色 11-ムシブロック・ローム小ノック・11-ムシブロック

遺物 土師器片6点が出土している。いずれも細片であるため、図示できなかった。

所見 本跡の性格は不明である。時期は、出土土器が細片のため不明であるが、8世紀後葉の第37号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられる。



第674図 第82号溝土層断面図

### 第83号溝（第675図、付図2・3）

位置 調査8区の北部。L9c6～L9e6区。北部は調査区域外に延びている。

重複関係 第82号溝を掘り込んでいる。

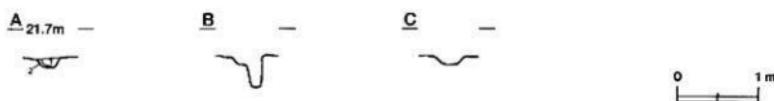
規模と形状 北部は調査区域外に延びているため、全容は確認できなかった。確認できた規模は、長さ7.98m、上幅22～41cm、下幅6～20cmで、確認面からの深さは8～10cmであり、形状は断面形がU字形をしている。溝の底面から、ピットが2か所（P1・P2）の検出された。P1・P2の併30cm・25cm、深さ28cm・32cmである。ピットの性格については不明である。

方向 L9c6区から北方向（N-10°-E）に、直線的に延びている。

覆土 2層に分層された。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土壤解説  
1 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量  
2 灰色 ローム粒子多量

所見 本跡からは土器は出土しておらず、時期及び性格については不明である。



第675図 第83号溝実測図

### 第84A・B号溝（第676図、付図2・3）

位置 調査8区の西部。第84A号溝はM8c4～M9h3区に位置し、第84B号溝は第84A号溝からM8e6区で分岐しており、M9c1区に至る。第84A号溝と第84B号溝が分岐する部分で、両者の新旧関係は認められないことから、同時期に機能していたものと考えられる。西部は調査区域外に延びている。

重複関係 第1423・1426・1434・1441号住居跡、第1354・1355号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外に延び、第84A号溝の東部と、第84B号溝の北東部で掘り込みが浅くなり、いずれも確認できなかった。確認できた規模は、第84A号溝が長さ24.14m、上幅44～96cm、下幅24～70cmで、確認面からの深さは最大で38cmであり、第84B号溝が長さ21.1m、上幅78～92cm、下幅38～49cmで、確認面からの深さは最大で41cmである。形状は断面形がいずれもU字形をしている。

方向 第84A号溝はM8c4区から東方向（N-110°-E）に、直線的に延び、第84B号溝はM8e6区で第84A号溝から分岐し、北東方向（N-63°-E）に、直線的に延びている。

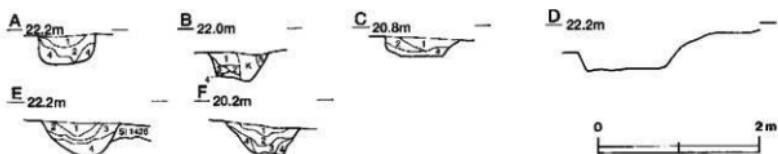
覆土 5層に分層された。ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土壤解説  
1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
2 黑褐色 コーム小ブロック少量、ローム粒子微量

- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子少量  
 4 灰褐色 ローム小ブロック、ローム粒子少量  
 5 黑褐色 ローム小ブロック、ローム粒子少量、焼土粒子微量

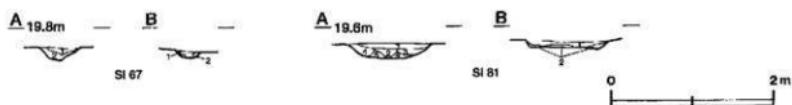
遺物 土器断片124点、須恵器片35点が出土している。いずれも縦片であるため、図示はできなかった。

所見 本跡の時期は、出土土器が縦片のため不明であるが、6世紀後半から7世紀後半の第1423・1426・1434・1441号住居跡、10世紀後半の第1355号土坑を掘り込んでいることから、10世紀後半以降と考えられる。性格は不明である。



第676図 第84A・B号溝実測図

以下に、上述した遺構を除く溝の土層解説を記載する。(第677図)



第677図 第67・81号溝上層断面図

#### 第67号溝上層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
 2 棕褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

#### 第81号溝上層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少  
 2 紫褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少  
 3 灰褐色 ローム粒子中量  
 4 紅褐色 ローム粒子中量、ローム小ソロック少  
 5 黄褐色 ローム小ソロック少、炭化粒子微量

表14 8区溝一覧表

溝番号	位置・方向	形状	幅 横 (m)				深さ (cm)	層理	底面	壁上	周土遺物	備考
			幅長	上幅	下幅	深さ (cm)						
16 39e7~Y10j6	北~南 西~東	L字状 (18.0)	0.75~2.10	0.42~1.05	50~82	外傾	平坦	自然	素地層・L字形壁・素 地・灰褐色・柱状柱・鉢底等	S 1422・本跡→第9 号道路状遺構・SD81		
35B L9b7~M9j6	北~南	直線状 (7.9)	0.71~2.54	0.30~0.97	47~102	外傾	平坦	自然	素地層・柱状柱・壁等・ 柱状柱・柱状柱・壁等	S 1419→本跡→SD82		
67 O9b5~O9e6	北~南	直線状 (11.5)	0.26~0.43	0.13~0.18	18	緩斜	平坦					
81 O9c1~O9b5	西~東	直線状 (17.0)	0.20~0.98	0.38~0.88	20	緩斜	平坦					
82 L9c4~L10d1	東~西	直線状 (27.0)	0.24~0.68	0.12~0.48	10	緩斜	平坦	自然	上部断片	S 1423~1425~1430~1431		
83 L9c6~L9e6	北~南	直線状 (8.0)	0.22~0.44	0.06~0.26	8~10	外傾	U	自然		SD82→本跡		
84A Y8e4~M9j5	東~西	直線状 (34.1)	0.44~0.95	0.24~0.70	38	外傾	U				S 1422・1425・1430・1441・ SK1354・1355→本跡	
84B X8e6~M9j1	西~北~東	直線状 (21.1)	0.78~0.92	0.38~0.49	44	外傾	U					

(4) 井戸跡

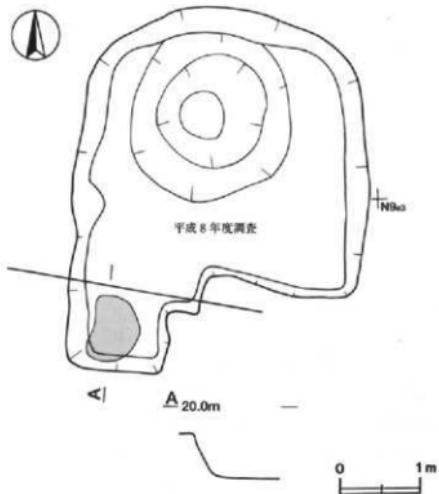
第4号井戸跡（第678図）

**位置** 調査8区の中央部、N9e2区。平成8年度の調査区と平成10年度の調査区にまたがって位置している。そのため、調査も大半を平成8年度に、南部の一部を平成10年度にと兩年度にわたった。

**規模と形状** 大半が平成8年度に調査されており、平成10年度調査では、南側に張り出した部分を検出した。検出した規模は、長軸64cm、短軸50cmの不定形で、深さ55cmである。底面は平坦で、薄く粘土が堆積していた。

**遺物** 土器片28点、須恵器片10点が覆土中から出土している。

**所見** 本跡の大部分は平成8年度に調査が終了しており、その部分については『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集を参照されたい。時期は、判断する出土遺物がないため、不明である。



第678図 第4号井戸跡実測図

第29号井戸跡（第679図）[SK-1342]

**位置** 調査8区の北東部、M9d0区。

**規模と形状** 挖り方が確認されただけである。掘り方は漏斗状をしている。上部は平面形が長径1.80m、短径1.45mの梢円形で、確認面から約0.95mの深さまでぼまっている、下部は長径0.98m、短径0.94mの梢円筒形に掘り込まれている。確認面から3.2mの深さまで掘り下げた時点で水が滲出してきたため、そこまでしか調査できなかったが、本跡はローム層と常総粘土層を掘り抜き、さらに下まで掘り込んでいる。

**長径方向** N-82°-E

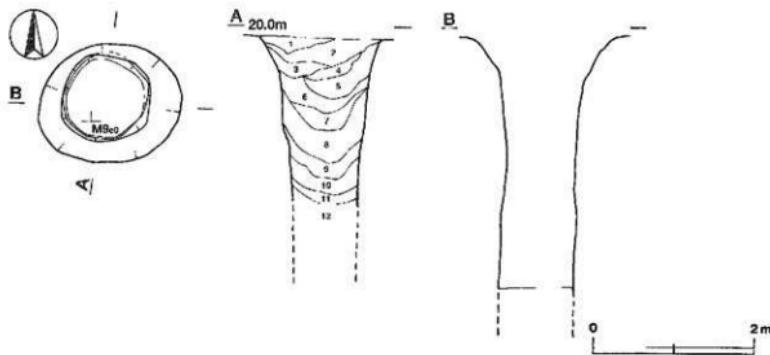
**覆土** 土層断面図中、第1～7層は、ブロック状に堆積しており、廃棄のため埋め戻した層と考えられる。第8～12層は、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量	9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量	10 黒褐色	ローム粒子中量・ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量・しまり弱い。
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量	11 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量・しまり弱い。
4 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量	12 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量・しまり弱い。
5 黒色	ローム粒子・砂粒少量		
6 黒褐色	ローム粒子・粘土小ブロック少量		
7 黒褐色	ローム粒子少量・しまり弱い。		
8 施釉褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量・しまり弱い。		

**遺物** 土器片14点、須恵器片3点、雲母片岩2点が出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土土器が細片のため不明であり、図示できなかった。



第679図 第29号井戸跡実測図

第30号井戸跡 (第680~688区) [S X - 12, S K - 1352]

位置 調査8区の北西部。M8e9区。

重複関係 第1426・1434号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 当初、大形土坑として調査を開始したが、確認面から約2.1m掘り込んだ時点で、白色粘土で構築された半円形の土手状の盛り上がりが検出され、この盛り土の内側は桶円筒形に掘り込まれた井戸跡であったことから、上部の大形土坑部を含んだ全体が1基の井戸跡であると理解した。全体として1基の井戸跡であるが、便宜上、上半を大形土坑部、下半を井戸部として記載する。確認できたのは、掘り方とわずかな人為堆積の土層である。掘り方は、南東部に突出してはいるが、ほぼ漏斗状を呈している。この南東部は、底面がほぼ平坦で、外傾して立ち上がる壁の中位に平場がある一段掘り状になっている。平面形は上部が長径9.55m、短径6.81mの梢円形で、確認面から約2.2mの深さまでぼまっている。下部は長径1.60m、短径1.45mの梢円筒形に掘り込まれている。井戸開口部の北半に巡った土手状の盛り上部分は、底面からの高さ10~12cm、幅10~23cmで、長さ約3.1mであり、断面形は丸味のある台形状をしている。確認面から5.25mの深さまで掘り下げた時点で水が滲出してきたため、そこまでしか調査できなかったが、本跡はローム層と常緑粘土層を掘り抜き、さらに下まで掘り込んでいる。

長径方向 N 19° W

覆土 27層からなる。第1~17層はほぼレンズ状に堆積していることから、施設後、埋没する段階で自然堆積したものと考えられる。第18~26層は井戸部の上層であり、ブロック状に堆積していることから、施設のため、人為的に埋め戻された層と考えられる。第27層は井戸開口部の土手状に巡らされた盛り土の上層である。

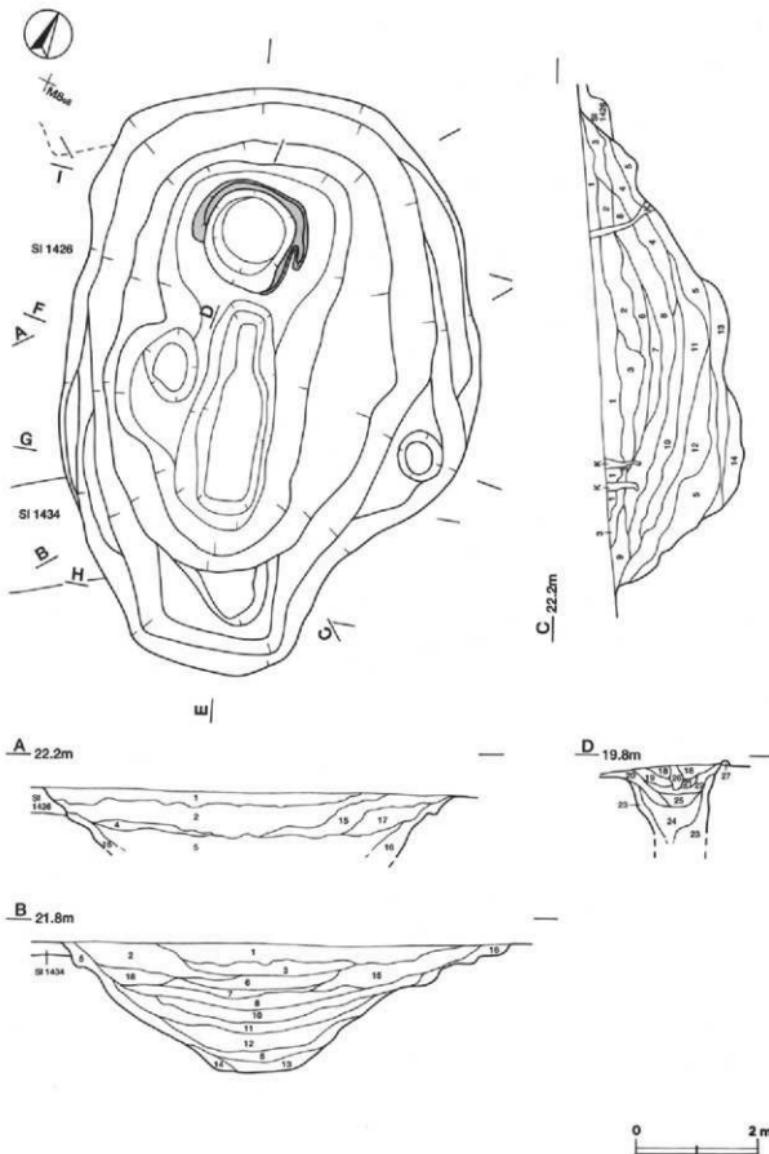
#### 土層解説

- 1 砂 士 色 ローム小ブロック・ローム粒子・燒土小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 細 色 ローム小ブロック・ローム粒子・燒土小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
- 3 細 粒 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量
- 4 黑 細 色 ローム粒・燒土小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
- 5 黑 細 色 ローム粒子中量・ローム中ソロック・燒土小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
- 6 焼 土 色 コム粒子中量・ローム中ブロック・ローム小ブロック・燒土粒子・燒土粒子少量
- 7 烧 土 色 コム小ブロック・ローム粒子・燒土小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
- 8 新 煙 管 色 コム粒子中量・コム大ブロック・コム中ブロック・ローム小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
- 9 灰 烟 管 色 ローム小ブロック・ローム粒子・燒土小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
- 10 灰 烟 管 色 ローム粒子中量・ローム中ソロック・ローム小ブロック・燒土粒子・燒土粒子・炭化粒子少量
- 11 灰 烟 管 色 燃土粒子中量・ローム小ブロック・ローム粒子・燒土ノリック・炭化粒子少量
- 12 灰 烟 管 色 ローム小ソロック・コム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子少量

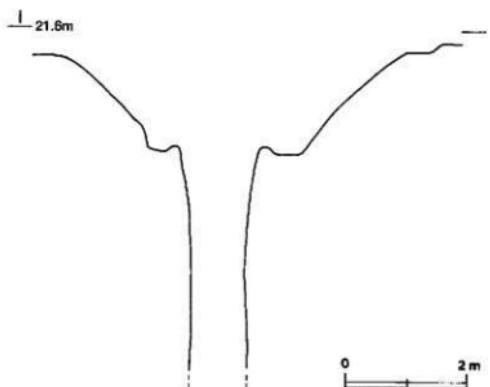
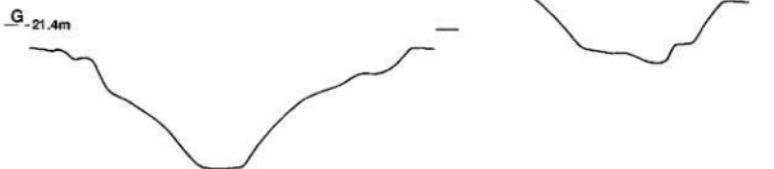
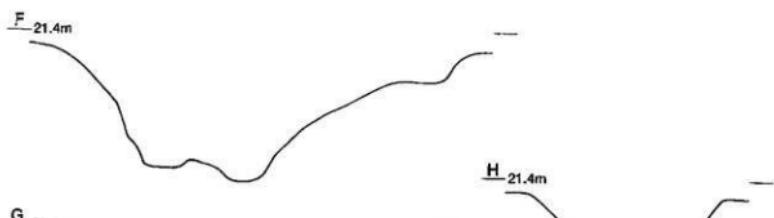
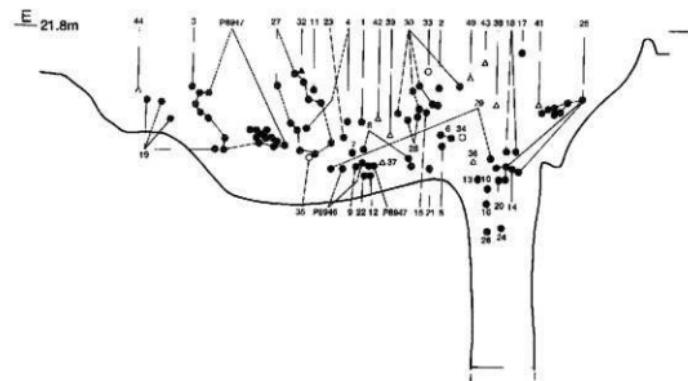
13	黒	福	外	ローム粒子多量、コーム小プロック少量
14	赤	福	外	ローム小プロック、ローム粒子少量、粘土粒子多量、漏れ土が多量、土立りが少く弱い。
15	黒	福	色	ローム小プロック、ローム粒子・堆土・小プロック、陶土粒子・炭化物・炭化粒子少量
16	白	福	色	ローム粒子少量、ローム中プロック、ヒートヒルク少量
17	黒	福	色	ローム小プロック、ローム粒子・堆土粒子・炭化粒子少量
8	黒	福	色	ローム小プロック少量、陶土粒子・炭化粒子微量
19	黒	福	色	ローム小プロック、ローム粒子・堆土粒子少量、燒土粒子微量。ややしまりあり。
20	灰	福	色	ローム小プロック、灰化粒子・堆土粒子・灰化粒子微量
21	黒	福	色	ローム粒子・堆土粒子・灰化粒子少量
22	黒	福	色	ローム小ノック、粘土粒子少量
23	黒	福	色	ローム粒子中量、ローム小ノック少量
24	白	福	色	ローム粒子少量、炭化粒子・堆土粒子微量
25	黒	福	色	ローム粒子・堆土粒子・灰化粒子微量
26	白	福	色	ローム粒子少量、堆土粒子・炭化粒子微量
27	灰	福	色	ローム粒子多量、ローム小プロック、ヒートヒルク少量。褐色。土立り強い。

遺物 土師器片13,122点(坏類1,739, 繁類11,383),須恵器片1,411点(坏類678, 蓋34, 盤2, 鞍輪689, 簪環8),灰釉陶器1点(手付瓶),土製品3点(管状土錠1,球状土錠1,土玉1),鉄器(刀子2,鉄鎌7),馬骨3体が出土している。出土遺物の大半は上部の大形土坑部から出土しており、下部の井戸部内からの出土量は、全体からみてわずかである。また、大形土坑部から出土した土器は、そのほとんどが破片であるが、井戸部内及び大形土坑の底面から出土している土器は、甕、壺類が目立ち、それらは破損が少なくほぼ完形である。大形土坑部の各層ごとの出土状況は、上層断面図中、第13層から上層にかけての覆土から多量に出土しており、また、これらの各層からまんべんなく出土している。第680~688図32の須恵器窯のII縁部片は第1層から、17の須恵器蓋、33の管状土錠、34の球状土錠、40の鉄鎌が第2層から、それぞれ出土している。5の須恵器坏、19の土師器鉢、38の鉄鎌が第5層から、2の須恵器坏、11の須恵器高台付杯が第6層から、1の須恵器坏、15の須恵器皿、28の須恵器皿、30の灰釉陶器手付瓶、42の鉄鎌が第8層から、それぞれ出土している。3の須恵器坏、23の土師器窯、39の鉄鎌が第10層から、7・8の須恵器坏、37の刀子が第11層から、12の須恵器高台付杯、35の土玉、43の鉄鎌が第12層から、9の須恵器坏、21の須恵器鉢、22の須恵器皿、29の須恵器皿が第13層から、それぞれ出土している。4の須恵器坏は、第10層と第11層から出土した破片が接合したものである。6の須恵器坏は、第5層と第11層から出土した破片が接合したものである。27の須恵器皿は、第3層、第7層、第10層、第11層から出土した破片が接合したものである。31の土師器坏片は覆土中から出土しており、外面に墨書きされているが、判読は不能である。44の鉄鎌は、覆土上層から出土している。井戸部内からは、10の須恵器坏、13・14の須恵器皿、16の須恵器蓋、18の須恵器長颈瓶、20の須恵器鉢、24・25・26の土師器皿、36の刀子、41の鉄鎌が、いずれも上層から出土している。馬骨3体は、第25層上部から第24層にかけて、解体された状態で出土している。第35B号溝から出土している須恵器皿(P8947)の体部片が、南西部の覆土中層、第5層と第14層から出土している。

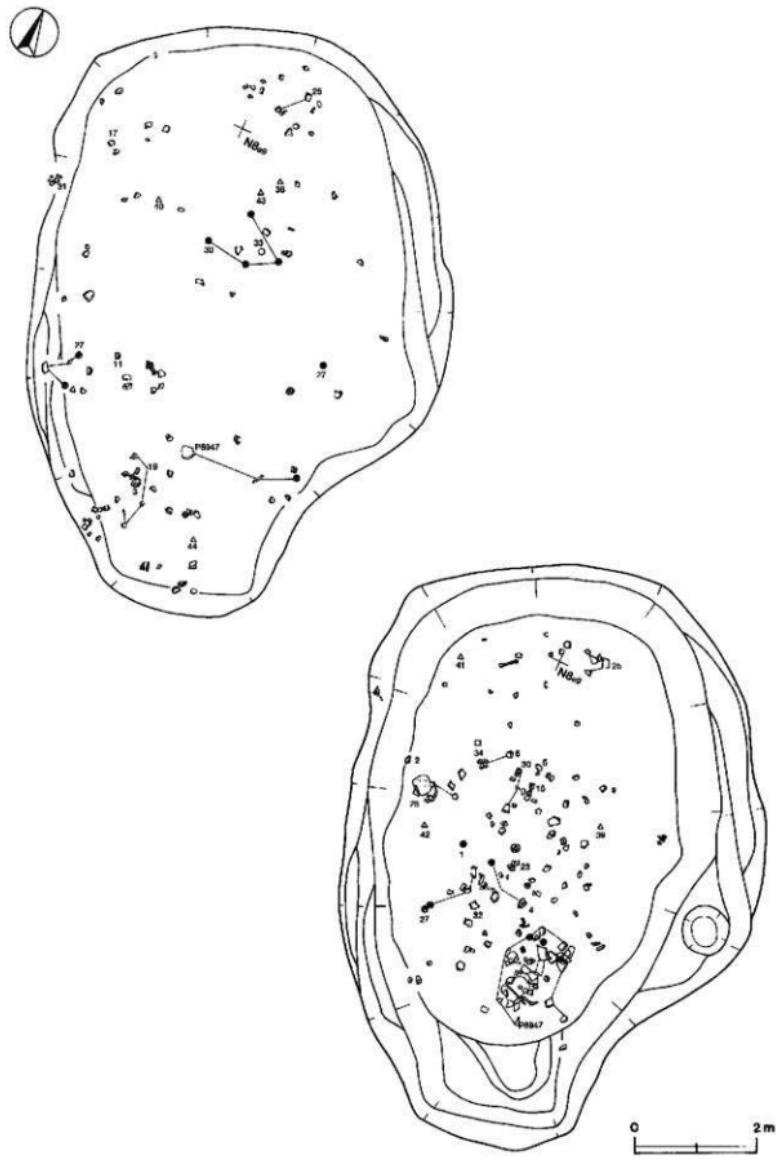
所見 本跡の性格は、上部の大形土坑の堆積状況で重複関係が認められないことから、大形土坑部を含む全体が大形の井戸跡であったと考えられる。突出した南東部底面の平坦は、作業場的な施設と考えられる。また、井戸開口部に運らされた十手状の盛り土が北半にあり、南半では確認されていないことからも、裏付けられる。井戸部は堆積状況から、廃絶のため、人為的に埋め戻されたと考えられ、井戸部の上面から大形土坑の底面にかけて、解体された馬骨が3体出土している。これらのことから、疫病の発生等、何らかの原因で廃絶され、井戸封じのような祭祀が行われた可能性がある。廃絶された時期は、井戸部内から出土している土器から、8世紀の後葉と考えられる。本跡は、遺物の出土状況からみて、井戸が廃絶された後、廃棄土坑として利用されたと考えられる。その時期は、出土土器から8世紀後葉から9世紀後葉までと考えられる。



第680図 第30号井戸跡実測図（1）

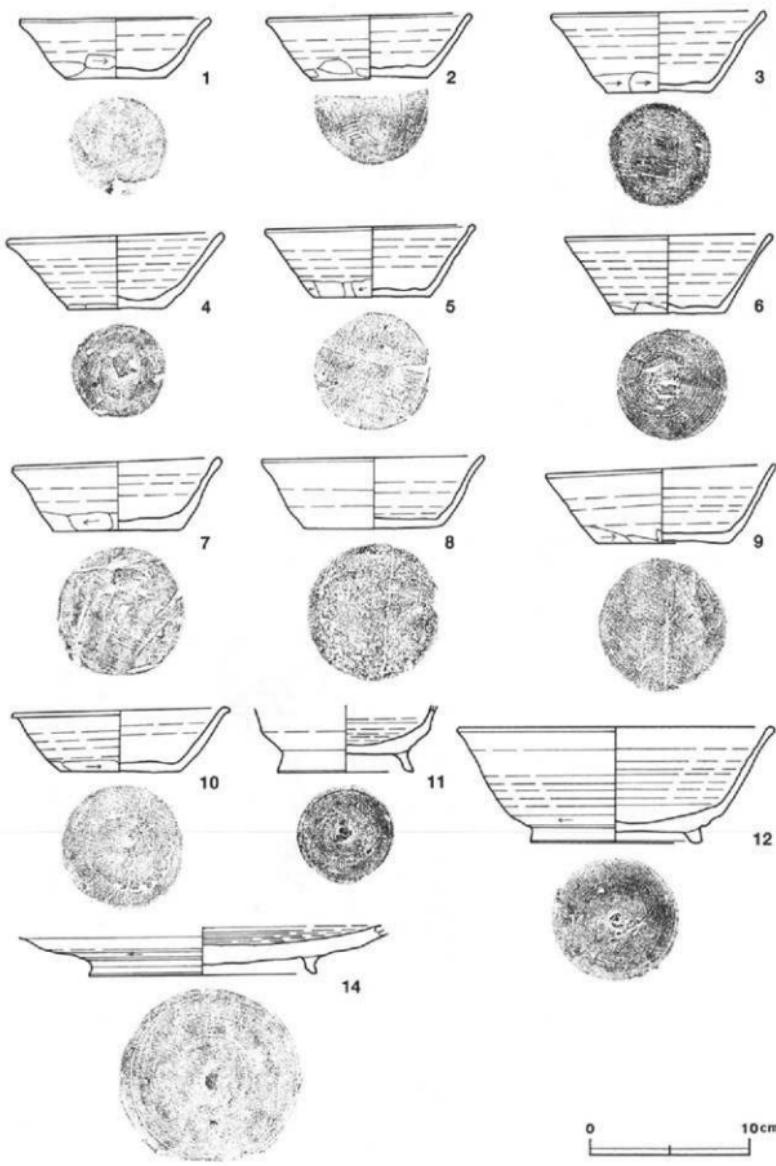


第681図 第30号井戸跡実測図（2）

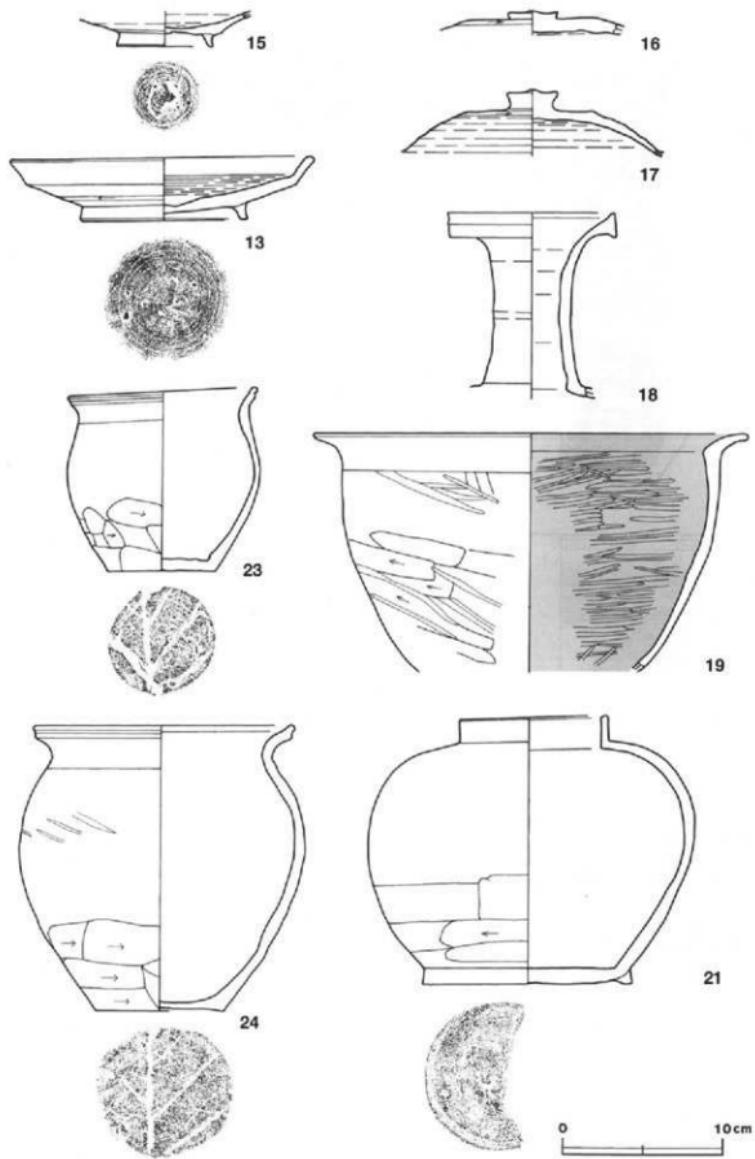




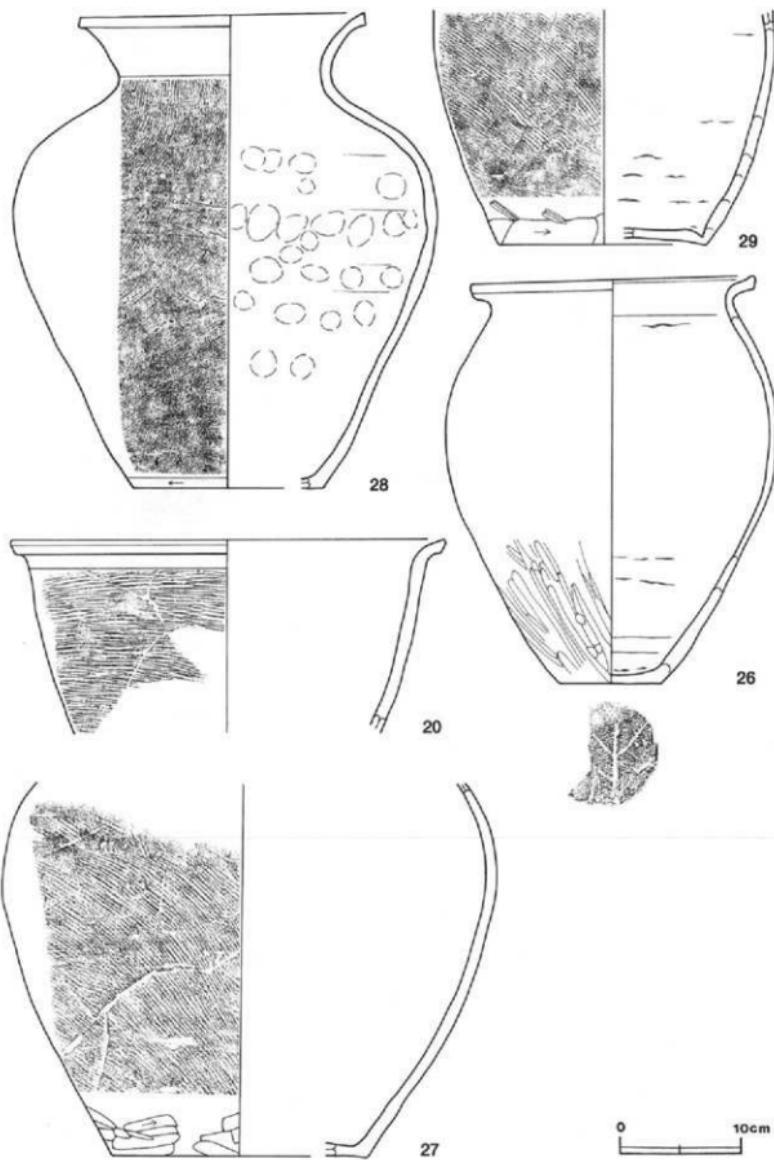
第683図 第30号井戸跡遺物出土状況図（2）



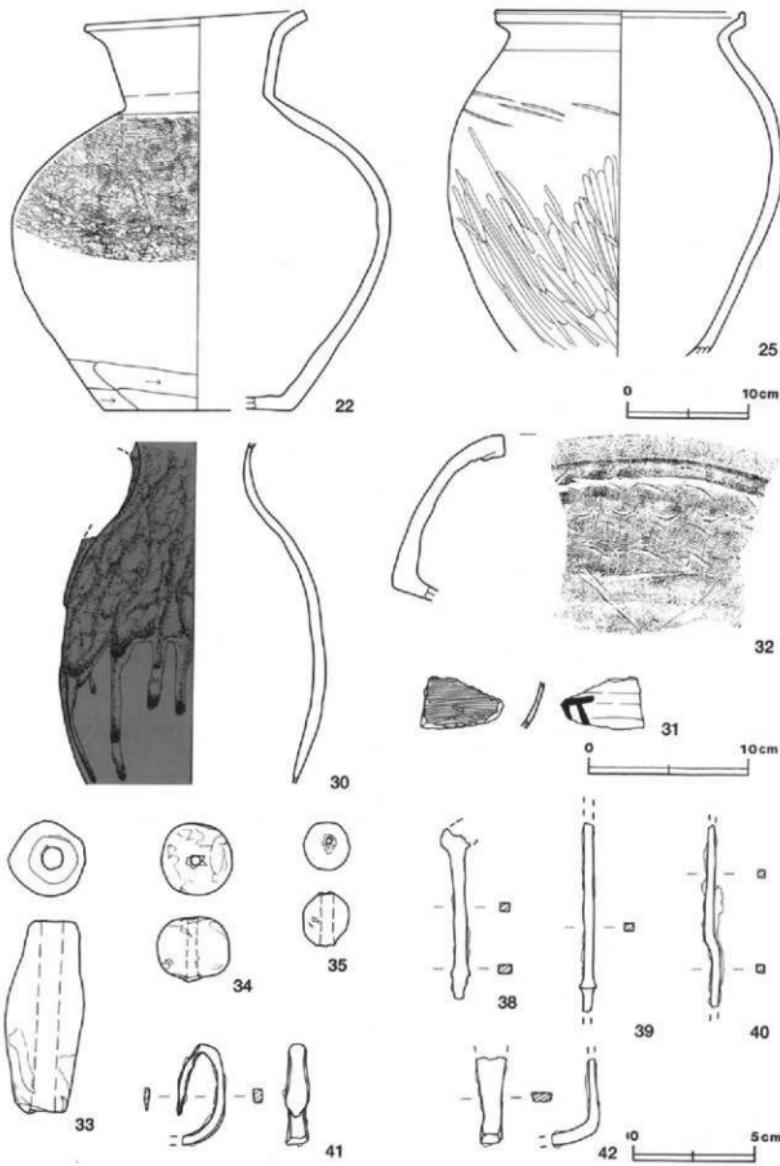
第684図 第30号井戸跡出土遺物実測図（1）



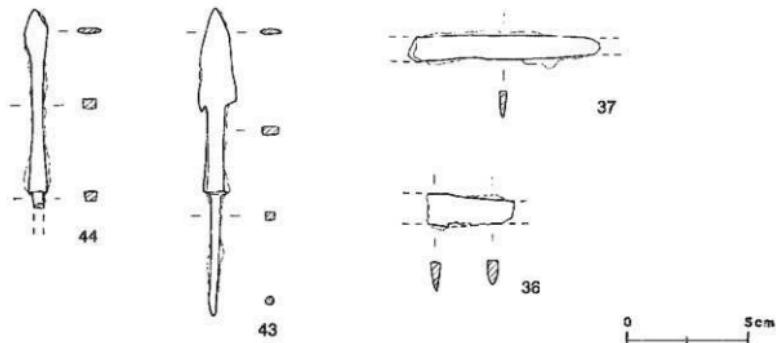
第685図 第30号井戸跡出土遺物実測図（2）



第686図 第30号井戸跡出土遺物実測図（3）



第687図 第30号井戸跡出土遺物実測図 (4)



第688図 第30号井戸跡出土遺物実測図(5)

第30号井戸跡出土遺物観察表

回収番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	地土・色調・焼成	備考
第684次	環	A [118]	底部から1周部にかけての張り、半底、体部は外傾して立ち上がり、上部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロロナガ。体部下端手持ちヘラ削り、底部不定方向のヘラ削り。	砂粒、雲母、長石 褐色	P8951 50%
		B 37		体部下端手持ちヘラ削り。	普通	P L276
		C 60				
第685次	環	A [124]	底部から1周部にかけての張り、半底、体部は外傾して立ち上がり、上部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロロナガ。体部下端手持ちヘラ削り、底部不定方向のヘラ削り。	砂粒、雲母、長石 黄灰色	P8952 50%
		B 39		体部下端手持ちヘラ削り。	普通	P L276
		C 72	1周部でわずかに外反する。			
第686次	環	A [132]	底部から1周部にかけての張り、半底、体部は外傾して立ち上がり、上部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロロナガ。体部下端手持ちヘラ削り、底部不定方向のヘラ削り。	砂粒、雲母、長石 石英	P8953 65%
		B 49		体部下端手持ちヘラ削り。	普通	P L276
		C 64				
第687次	環	A 132	体部・部欠損、半底、体部は外傾して立ち上がり、1周部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロロナガ。1周部下端手持ちヘラ削り、底部不定方向のヘラ削り。	砂粒、雲母、長石 黄灰色	P8954 75%
		B 46		体部下端手持ちヘラ削り。	普通	P L276
		C 58				
第688次	外	A 129	体部一部欠損、半底、体部は外傾して立ち上がり、1周部に半底。	口縁部、体部内・外面クロロナガ。	砂粒、雲母、長石	P8955
		B 44		体部下端手持ちヘラ削り。	褐色	90%
		C 72		底部不定方向のヘラ削り。	普通	P L276
第689次	環	A 128	体部一部欠損、半底、体部は外傾して立ち上がり、1周部でわずかに外反する。	1周部、体部内・外面クロロナガ。	砂粒、雲母、長石	P8956
		B 49		体部下端手持ちヘラ削り。	石英	55%
		C 68		体部下端手持ちヘラ削り。	普通	P L276
第690次	環	A 128	体部一部欠損、半底、体部は外傾して立ち上がり、1周部でわずかに外反する。	1周部、体部内・外面クロロナガ。体部下端手持ちヘラ削り、底部不定方向のヘラ削り。	砂粒、雲母、長石 石英	P8957 95%
		B 44		体部下端手持ちヘラ削り。	普通	P L276
		C 78				
第691次	環	A 138	体部一部欠損、半底、体部は外傾して立ち上がり、1周部でわずかに外反する。	1周部、体部内・外面クロロナガ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒、雲母、石英	P8958 65%
		B 45		底部ヘラ削り。	普通	P L276
		C 80				
第692次	環	A 140	体部一部欠損、半底、体部は外傾して立ち上がり、1周部でわずかに外反する。	1周部、体部内・外面クロロナガ。	砂粒、雲母、長石	P8959
		B 48		体部下端手持ちヘラ削り。	石英	70%
		C 80		底部不定方向のヘラ削り。	普通	P L276
第693次	環	A 133	1周部一部欠損、半底、体部は外傾して立ち上がり、1周部でわずかに外反する。	1周部、体部内・外面クロロナガ。	砂粒、雲母、長石	P8960
		B 40		体部下端手持ちヘラ削り、底部側面切り削しを残す。	石英	95%
		C 74		底部側面切り削しを残す、不定方向のヘラ削り。	褐色	P L276
高台付環	環	B (41)	高台部から体部下端にかけての張り、体部は下位に棱を有し、やや外傾して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面クロロナガ。底部側面切り削り。	砂粒、雲母、長石	P8961
		D 84		底部側面切り削り、高台貼り付け後、テア。	石英	30%
		E 14			灰黄色	P L276
須恵器	環				普通	

国登番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第684回 12	高台唇杯	A 19.6 B 7.1 D 10.8 E 0.9	体部、口縁部・脚部欠損。体部は底部から弧曲して立ち上がり。口縁部は上方にわずかに外反する。高台は短く、「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部下部から弧曲して立ち上がり。底部脚部へハラ削り後、高台貼り付け。	砂粒、雲母、長石 石英 青灰色 普通	P8962 50% PL277
第685回 13	盤	A 18.5 B 3.9 D 10.4 E 1.1	体部、口縁部・脚部欠損。体部は底部から弧曲して立ち上がり。口縁部は上方にわずかに外反する。高台は短く、「ハ」の字状に開く。接ぎ縫跡有。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部下部から弧曲して立ち上がり。底部脚部へハラ削り後、高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、雲母、長石 石英 灰白色 普通	P8963 70% PL276
第684回 14	盤	B (29) D 14.2 E 1.0	高台脚から体部にかけての破片。 体部は底脚残存で外方に大きくなっている。	体部内・外面ロクロナデ。体部下部から弧曲して立ち上がり。底部脚部へハラ削り後、高台貼り付け後。	砂粒、雲母、石英 磨拭黄色 普通	P8961 65% PL276
第685回 15	皿	B (2.2) D 6.1 E 0.7	高台脚から体部にかけての破片。 体部は外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部脚部へハラ削り後、高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、雲母、石英 黄灰色 普通	P8965 30% PL276
第685回 16	蓋	B (1.5) F 3.0	天井部の破片。天井部が平坦で、外周部はなだらかに下降する。つまみは水平な楕円珠状。	天井部脚部へハラ削り。外周部口クロナデ。	砂粒、雲母、石英 灰白色 普通	P8966 20% PL276
第685回 17	蓋	B (4.0) F 3.2	天井部・脚部欠損。天井部が平坦で、外周部はなだらかに下降する。	天井部脚部へハラ削り。外周部口クロナデ。口ロヨ強い。	砂粒、雲母、石英 黄白色 普通	P8967 65% PL276
第685回 18	長頸瓶	A 10.4 B (11.4)	腹部の破片。瓶頸は円錐形状に立ち上がり、口縁部で大きく外反する。瓶底は上下に突出する。	11縁部、瓶部内・外面ロクロナデ。	砂粒、長石 灰オーリーブ色 良好	P8969 30% PL277
第685回 19	鉢	A '27.0' B (14.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内側で立ち上がり。傾曲して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部外面部被ナデ。体部外側へハラ削り後、ナデタジ、内面横線のハラ磨き。内面黑色処理。	砂粒、雲母、赤色粒子 明赤褐色 普通	P8970 10% PL278
第685回 20	土師器	A [33.4] B (13.6)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内側乳頭で外側で立ち上がり。口縁部は外反する。瓶底は下方にわずかに突出している。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外側横線の平行叩き。	砂粒、雲母、長石 黄灰色 普通	P8971 10% PL278
第685回 21	壺	A 9.0 B 16.5 C 13.0	体部、底部・脚部欠損。体部は側面形を呈し、瓶底は直立する。高台は短く、ほぼ垂直す。	瓶部、体部内・外面ロクロナデ。体部外側下部へハラ削り。底部脚部へハラ削り、高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、雲母、長石 石英 灰白色 普通	P8972 90% PL277
第687回 22	壺	A 17.7 B 32.3 C 115.1	底部、口縁部・脚部欠損。平底。体部は側面形を呈し、瓶底は外側で立ち上がり、口縁部は外反する。瓶底は内側で張り出している。	口縁部、底部、体部内面ロクロナデ。体部外側下部横線の平行叩き。下部横線のハラ削り。内面横線ナデ。底部木炭痕。	砂粒、雲母、長石 石英 灰白色 普通	P8973 90% PL276
第685回 23	壺	A 11.6 B 11.4 C 6.8	体部、口縁部・脚部欠損。平底。体部は側面形を呈し、瓶底は内側で張り出している。口縁部は外反する。	11縁部、瓶部内・外面ロクロナデ。体部外側下部横線のハラ削り。下部横線のハラ削り。内面横線ナデ。底部木炭痕。	砂粒、雲母、長石 赤色粒子 橙色 普通	P8974 70% PL277
第687回 24	壺	A 15.4 B 17.6 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部は側面形を呈し、瓶底は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反する。瓶底は上方につまみ上げられている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外側下部横線のハラ削り。内面横線ナデ。底部木炭痕。	砂粒、雲母、長石 赤色粒子 にせい 普通	P8975 99% PL277
第687回 25	壺	A 20.3 B (27.3)	底部、体部一部欠損。体部は側面形を呈し、瓶底は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反する。瓶底は上方につまみ上げられている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外側下部横線のハラ削り。内面横線ナデ。	砂粒、雲母、長石 石英 橙色 普通	P8976 80% PL277
第686回 26	壺	A 23.2 B 32.9 C 8.4	底部、口縁部・脚部欠損。側面形を呈し、瓶底は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反する。瓶底は上方につまみ上げられている。	口縁部、底部内・外面ロクロナデ。体部外側下部横線のハラ削り。内面横線ナデ。底部木炭痕。	砂粒、雲母、長石 明赤褐色 普通	P8977 70% PL277
第687回 27	壺	B (30.2) C 20.8	底部から体部下部にかけての破片。 平底。体部は内側で立ち上がる。	体部内面ロクロナデ。体部外側斜面の平行叩き。下端横線のハラ削り。内面横線ナデ。	砂粒、雲母、長石 石英 暗赤色、普通	P8978 30% PL278
第685回 28	土師器					

測定番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第686回 28 類 惠 算	束	A 23.3 B 38.1 C [15.6]	底部から腹部にかけての腹筋。手筋。底部は外側して立ち上がり、中筋で内側し、底部に至る。腹部は外筋で立て立ち上がり。口縁部は外反する。端部はわずかに下方に突出する。	口縁部、体部内、外面クロコナテ。 体部外端斜位の平行引き、下端筋 部のへら折り、内面指頭による押 さえ痕を残す擦ナガ。	砂粒、青母、長石、 石英 灰色 普通	P 8979 50% P L 276
	束	B (19.0) C 16.8	底部から体部下部にかけての腹筋。手筋。底部は外側して立ち上 がる。	口縁部、体部内、外面クロコナテ。 体部外端斜位の平行引き、下端筋 部のへら折り、内面指頭による押 さえ痕を残す擦ナガ。	砂粒、青母、長石、 石英 灰色、普通	P 8980 30% P L 277
	瓶 帽	B (20.9)	体部の腹筋。把手一部欠損。体 部は筒形を呈し、端部は丸やかに くびれる。体部上下から腹部に把手 が付く。	腹筋、体部内、外面クロコナテ。 軽量。把手は底に付いていた。	砂粒 助石、灰黄色 特 灰オリーブ色 良好	P 8988 40% P L 277 二用器
第687回 30 類 惠 算	束	B (29)	体部の破片。	体部外面クロコナテ。内面へき さ、黒色處理。	砂粒、青母 にぶい橙色 普通	P 8992 5% P L 278
	束	A [34.0] B (9.7)	頂部から口縁部にかけての腹筋。 頂部に外側して立ち上り、口縁 部は外反する。端部は角張る。	口縁部、腹部内、外面クロコナテ。 腹部外面に8条1巻化の捺痕を残 すが3段階されている。	砂粒、青母、長石、 赤色粒子 暗褐色、普通	T P 8431 5% P L 278

測定番号	器種	計 測 値				特 徵	胎 土・色 調	備 考
		幅(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第687回33	管状上器	3.3	7.9	0.9	67.6	エンタシス形の器身。ナギ。青母、長石、にぶい黄色	D P 8437 P L 280	
34	球状土鉢	3.0	2.7	0.5	22.8	球状の器身。ナギ。	D P 8438 P L 280	
35	七 手	1.9	1.8	0.6~0.8	7.0	擴長の器身。ナギ。青母、長石、にぶい黄色	D P 8439 P L 280	

測定番号	器種	計 測 値					材質	特 徵	備 考
		全长(cm)	刃長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	身長(cm)			
第689回36	刀	7.6	(3.6)	(1.0)	(1.3)	0.5	(2.6)	(5.2)	鉄 足部、茎部、茎欠缺、刃(あり)。
37	刀	7.1	(8.1)	(1.0)	0.3	(2.3)	(9.2)	鉄 足部、茎部、部欠損。	M 8456 P L 282

測定番号	器種	計 測 値						材質	特 徵	備 考
		全長(cm)	刃長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	身長(cm)	重量(g)			
第687回38	鐵	(7.1)	(0.9)	(1.3)	0.5	(1.0)	0.4	(6.0)	鉄 刃先、茎部、茎欠缺、青銅。	M 8450 P L 282
39	鐵	(7.9)	(6.9)	0.4	-	(1.0)	0.4	(5.2)	鉄 根部方形、茎圓錐。	M 8451 P L 282
40	鐵	(7.5)	(7.5)	0.4	-	-	-	(4.3)	鉄 刃先、茎部、茎欠缺。	M 8452 P L 282
41	鐵	(8.3)	2.3	0.9	(6.0)	0.6	-	(8.2)	鉄 根部に刃欠缺、長石。	M 8453 P L 282
42	鐵	(4.9)	(2.1)	(1.2)	(2.7)	0.8	-	(5.8)	鉄 茎部に刃欠缺、長石。	M 8454 P L 282
第689回43	鐵	12.6	4.0	1.5	3.5	0.7	5.1	0.4	0.3 鉄 茎部に刃欠缺、長石。	M 8460 P L 282
44	鐵	(8.2)	2.1	1.0	0.4	0.5	(0.7)	0.4	0.4 鉄 茎部欠缺、茎圓錐。	M 8461 P L 282

### 第31号井戸跡（第689～691回）

位置 調査8区の南部。O850区。

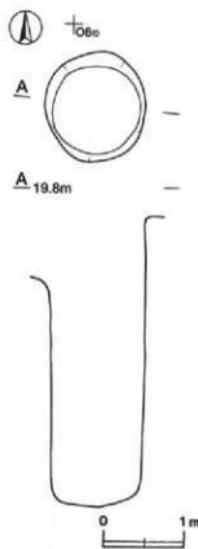
規模と形状 挖り方を確認しただけである。掘り方は湖斗状を呈している。確認面での平面形は長径1.47m、短径1.26mの橈円形で、上半は約1.15mの深さまで緩やかに狭まっていき、それ以下は径1.15mの円筒状に掘り込まれている。底面は、径1.03mの円形である。確認面からの掘り込みの深さは、確認しただけで3.56mである。木跡はホーム層と粘土層を掘り抜きさらに下まで掘り込んでいる。

長径方向 N-13° - E

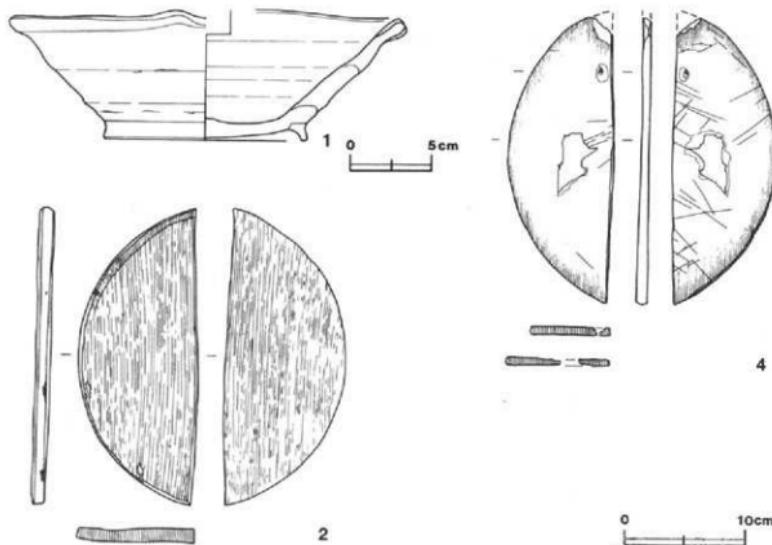
覆土 地質土層を半裁して調査する過程で崩落したため固化できなかったが、大半が黒褐色のロームブロックを含んだ粘質土である。一季に埋め戻したものと考えられる。

**遺物** 土師器片3点、須恵器片12点、陶器片3点、木製品6点が出土している。第690・691図1の陶器片口跡は、2.46mの深さから出土した3片が接合したものである。2～7は木製品類である。2の桶の底板は、3.45mの深さから出土している。3分の1の断片で、直径25.2cmの円形に復元される。3は3.14mの深さから出土している。台形の板状を呈しており、器種は不明である。4は3.45mの深さから出土している。円形の3分の1片で、中央部から縁辺部寄りに径4mmほどの円孔が穿たれている。器種は不明である。また、片面に多数の擦痕が見られる。5～7の有頭棒状木製品は、3.48mの深さから出土している。それぞれが一端を折損しており、残存する端部を粗い削りで調整し、一面に突起をつくっている。紐かけをもつ部材の一部の可能性が考えられる。出土木製品の樹種は同定分析の結果、2はスギ、3・4はケヤキ、5～7はウルシであることが明らかになった。詳細は「付章」を参照されたい。

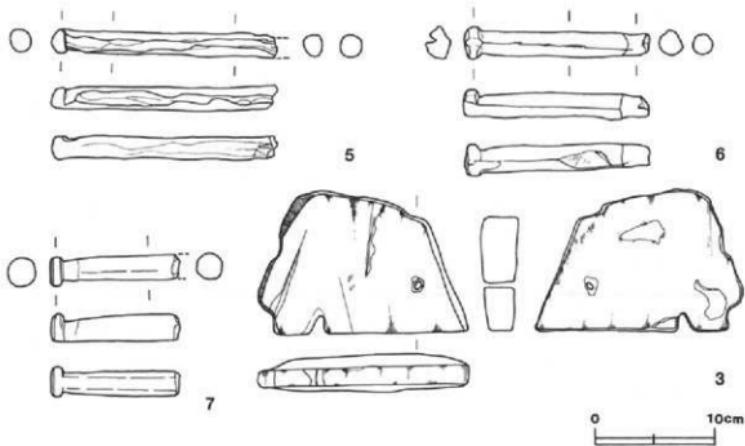
**所見** 本跡の時期は、出土遺物から13世紀後半と考えられる。



第689図 第31号井戸跡 実測図



第690図 第31号井戸跡出土遺物実測図(1)



第691図 第31号井戸跡出土遺物実測図（2）

第31号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計画値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第690図 1	片口鉢	A [23.8] B 7.9	高台底から口縁部の破片。底部の外周にハート字状の高台が付く。体部は外側に立ち上がり、口縁部は外反する。片口は口縁端部の一部を外方に折り曲げてつくられている。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。体部外面輪模痕。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P80040 50% 常温 P L279
	陶器	D [12.0] E 1.1				

図版番号	種別	計画値			樹種	形態的特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
第690図 2	植底板	(24.1)	(9.5)	1.2	スギ	円形の3分の1断片。側面に木釘痕3か所。周縁は鋸めに削り落とす。	WB001 P L284
第691図3	台形板状品	17.0	11.5	3.0	ケヤキ	貫通する長径6mm、短径4mmの椎円孔1か所。	WB002 P L284
第690図 4	円形板状品	(23.0)	(8.6)	(1.0)	ケヤキ	貫通する長径4mmの小孔1か所。周辺は丁寧に加工された、ほぼ直に削り落とす。片面に多数の擦痕あり。	WB003 P L284
第691図 5	有頭椎状木製品	(18.5)	長径19 短径15	—	ウルシ	一端を折損。断面円形。椎部の一面に突起を残す。	WB004 P L284
6	有頭椎状木製品	(15.0)	長径2.6 短径1.6	—	ウルシ	一端を折損。断面円形。折損部付近を一段細くし、椎部の一面に突起を残す。	WB005 P L284
7	有頭椎状木製品	(10.5)	長径2.3 短径1.5	—	ウルシ	一端を折損。断面円形。椎部の一面に突起を残す。	WB006 P L284

第32号井戸跡（第692図）

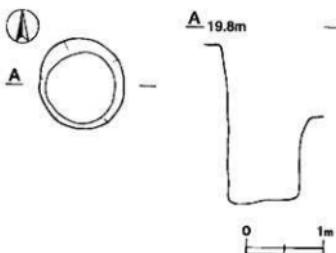
位置 調査8区の南部、O8e9区。

規模と形状 挖り方を確認しただけである。掘り方は漏斗状を呈している。確認面での平面形は径1.12mの円形で、上半は約0.45mの深さまで緩やかに狭まっていき、それ以下は径0.87mの円筒状に掘り込まれている。底面は、径0.83mの円形である。確認面からの掘り込みの深さは、確認しただけで1.96mである。本跡はローム層と粘土層を掘り抜きさらに下まで掘り込んでいる。

**覆土** 堆積土層を半截して調査する過程で崩落したため固化できなかったが、大半がロームブロックを含んだ暗褐色・黒褐色の粘質土である。一舉に埋め戻したものと考えられる。

**遺物** 須恵器片1点が覆土中から出土している。混入したものと考えられる。

**所見** 本跡の時期は、判断する出土遺物がないため、不明である。



第692図 第32号井戸跡実測図

### 第33号井戸跡（第693図）

**位置** 調査8区の南東部, O9d9区。

**規模と形状** 挖り方を確認しただけである。掘り方は漏斗状を呈している。確認面での平面形は径1.32mの円形で、上半は約0.35mの深さまで緩やかに狭まっていき、それ以下は径1.09mの円筒状に掘り込まれている。深さ2mまで掘り込んだところで湧水が苦しくなり、それ以下の調査を打ち切った。

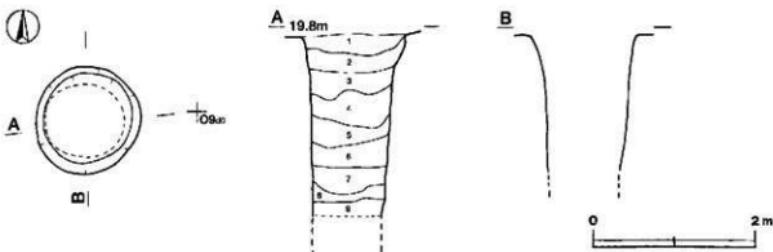
**覆土** 9層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、焼け粒子・炭化物少量	6	極暗褐色	ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
2	赤褐色	ローム粒子中量、粘土小ブロック少量	7	黒褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・粘土小ブロック少量
3	深褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	8	極暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・粘土小ブロック少量
4	黄褐色	ローム粒子中量、粘土中ブロック・粘土粒子少量	9	極暗褐色	ローム粒子・粘土中ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量			

**遺物** 土器片4点、縁1点が覆土中から出土している。

**所見** 本跡の時期は、判断する出土遺物がないため、不明である。



第693図 第33号井戸跡実測図

表 15 8 区井戸跡一覧表

井戸番号	井戸方向 (炎軸方向)	規 模				土 壤	主な遺物	考 新 古 新 (古→新)
		平面形	断面図	幅 (m)	深さ (cm)			
4	N 9° d 2 N -12° E	長方形	4.42×3.70	160	急傾	自然	土器破片、須恵器片	-
29	M 9 d 0 N -82° E	横円形	1.80×1.45	(320)	急傾	—	人骨、土器破片、須恵器片	-
30	M 8 e 9 N -19° W	横円形	9.55×6.81	(525)	急傾	—	人骨、土器破片、須恵器片	S : 1426-1431→木棒
31	O 8 f 0 N -13° E	横円形	1.47×1.26	356	急傾	平坦	人骨	-
32	O 8 e 9	— 円形	1.12	196	急傾	平坦	人骨、須恵器片	-
33	O 9 d 9	— 円形	1.32	(200)	急傾	—	自然	土器破片、漆

## (5) 道路状遺構

## 第5号道路状遺構 (第694図、付図2・3)

位置 調査8区の北部。L9b9～L10c4区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も東部が平成9年度、西部が平成11年度と両年度にわたった。また、北半が現在生活道路として使用されているため調査区域外とされた部分に位置している。

規模と形状 北西部が調査区域外に延びているため、全容は確認できなかった。確認できた規模は、長さは8mで、平成9年度調査分を含めて36mとなり、最大上幅は1.72mで、確認面からの深さは15cm程度である。形状は、北側に向かってゆるやかに下っている。北側の生活道路を状況確認のためトレンチ調査をしたところ、上層断面図中にみられる上幅7.0m、下幅1.5mで、生活道路面からの深さ1.7mの箱築研状の溝状に堆積している土層が確認された。また、西部の先端はほぼ生活道路に沿って北西方向に延びていることが確認できた。

方向 L9b9区から西方向 (N -85° W) に、直線的に延びている。

覆土 7層に分層された。土層断面図中、第1～4層までは、硬くしまっている。第1層上面は現在の生活道路面である。第2・3層は、昔耕された上層と考えられる。第4～7層は、シング状に堆積しており、箱築研状の溝が底絶された後、埋没する段階で自然堆積した土層と考えられる。

## 土層解説

- 1 純粘土 ローム粒子少、塊土粒子微量、しりとり型。
- 2 純粘土 ローム・小プロック・ローム粒子・砂粒少量、焼け粒子、炭化物微量、しりとり強。
- 3 純粘土 ローム・小プロック・ローム・小プロック・ローム粒子、焼け粒子、炭化物、砂粒少量、しりとり強。
- 4 混合土 ローム・小プロック・ローム・粒子少、しりとり強。
- 5 黑褐色 ローム・小プロック・ローム・粒子中量、ローム中・コクク少量、しりとりや強。
- 6 黑褐色 ローム・粒子中量、ローム・小プロック・塊土粒子、炭化物少量
- 7 混合土 コーク粒子中量、ローム・小プロック少量

所見 本跡は、土層断面図中、第5～7層の堆積状況から、箱築研状の溝と考えられ、第4層が硬化していることから、その後、溝が埋没する段階で、道路として使用されたと思われる。時期は、本跡に直交している第35A・B号溝と形状は似ているが不明である。第3層上面は、南側の調査区内で確認された路面と一致しており、位置と形態から調査7区の第3号道路状遺構につながるものと考えられる。第3号道路状遺構の時期は、



第694図 第5号道路状遺構実測図

上部質土器内井戸が出土していることから、中世と考えられている。これらのことから、箱蓋状の溝は中世以前で、本跡は第3号道路状遺構とほぼ同時期と思われ、第1・2層は中世以降現代までの道路と考えられる。

### 9号道路状遺構（第695図、付図2・3）

**位置** 調査8区の東部。M10h4～N10b4区。東半が現在生活道路として使用されているとして調査区域外とされたため、全容は確認できなかったが、硬化面とその西側に側溝が検出された。南部のN10b4区以南は、平成8年度と平成10年度の調査区になるが、検出されておらず、南東部の調査区域外に延びていたものと推測される。

**重複関係** 第1422号住居跡、第16号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 確認できた規模は、長さが18.35m、幅が約90cmで、その内硬化面の幅が約75cmである。側溝は、幅16～55cmで、深さ30～50cmである。形状は硬化面がほぼ平坦で、側溝がU字形をしている。北端は東部の調査区域外に延びている。

**方向** N10c4区から北方向（N=7°-E）に、直線的に延びている。

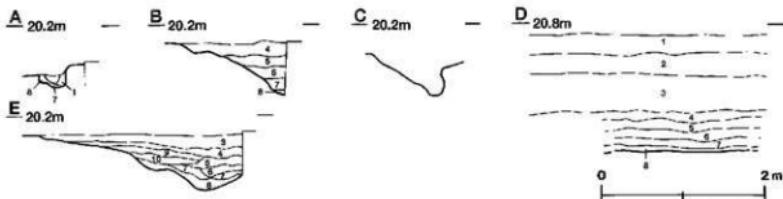
**覆土** 10層に分層された。十層断面図中、第1～3層は自然堆積上層である。第4・5・9・10層は硬化していることから、路面の土層と考えられる。第6～8層は側溝の覆土で、ブンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、コーム小ブロック、浚土小ブロック、炭化粋少量。しまり強い。
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック、浚土少量、炭化粋少量。こわり強い。
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック、浚土小ブロック、炭化粋、炭化粋少量。しまり強い。
- 4 白褐色 ローム小ブロック、ローム粒子中量、浚土小ブロック、炭化粋少量。しまり強い。
- 5 結砕色 ローム小ブロック、コーム粒子多量、浚土粒子、炭化粋少量。しまり強い。
- 6 黑褐色 ローム小ブロック、ローム粒子中量、浚土粒子少量
- 7 黑褐色 ローム小ブロック、ローム粒子中量、浚土粒子少量
- 8 黑褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、ローム小ブロック少量。ややしまりあり。
- 9 黑褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、浚土小ブロック少量。ややしまりあり。
- 10 黑褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック、炭化粋少量。ややしまりあり。

**遺物** 陶器片2点、上部器片42点、須恵器片29点が出土している。陶器片は常滑系の甕の破片である。上部器片・須恵器片は記入したものと考えられる。いずれも細片であり、図示はできなかった。

**所見** 本跡の堆積状況からみて、土層断面図中の第6～8層が側溝に堆積した後、踏み固められた第5・10層が、次に第4・9層が堆積していることから、側溝が自然に埋没した後に、2期にわたって踏み固められたものと考えられる。このことから側溝が機能していた時期を含めて、3期にわたって使用されたと考えられる。側溝が機能していた時期の路面は、上層断面では確認されなかった。本跡は、位置と形態から調査7区の第2号道路状遺構につながる可能性がある。時期は、常滑系の陶器の撲片が側溝の覆土上層から出土しており、このことから第1期については中世と考えられる。



第695図 第9号道路状遺構実測図

表 16 8 区道路状遺構一覧表

道 路 状 遺 構 番 号	位 置	方 向 形 状	廣 度 (m)		側 溝 幅	側 溝 深 さ	便 化 面	鋪 設	覆 土	出 土 遺 物	備 考 重 複 関 係
			認 定 長	上 幅							
3	1.359~1.404	東~西	直線状	(36.0)	(17)	-	-	平滑	-	自然	
9	M10E4~N.664	北~南	直線状	(18.4)	(09)	0.15~0.55	0.30~0.50	平坦	U	自然 土器片、炭化物片、陶器片	SI.142~SD.15~棒

## (6) 方形堅穴状遺構

第20号方形堅穴状遺構 [SK-874] (第696図)

位置 調査 8 区の南西部。O8e2区。

重複関係 周囲に第70号掘立柱建物跡の柱穴が存在している。切り合はないが重複関係にある。

規模と平面形 長軸2.43m、短軸2.04mの隅丸長方形で、深さ66cmである。

長軸方向 N - 0°

壁 外傾して立ち上がる。

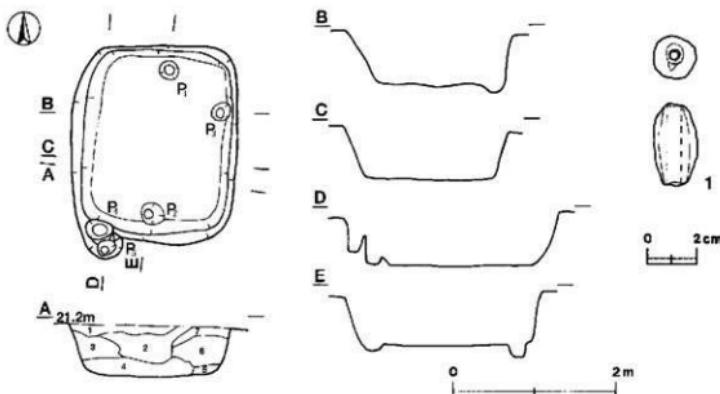
底面 平坦であり、踏み固められた面は認められない。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1・P2はいずれも径25cmの円形で、深さ18cm・12cmであり、P1は北壁際の中央部、P2は南壁際の中央部にそれぞれ位置している。P3は径23cmの円形で、深さ8cmであり、東壁際の北部に位置している。P4・P5は径40cm・35cmの円形で、深さ60cm・40cmであり、南西コーナー部に位置している。それぞれのピットの性格は、P1・P2は位置的に柱穴の可能性があるが、その他は不明である。

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1. 船褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック、焼土粒子、炭化物少量
- 2. 黒褐色 ローム中ブロック、ローム小ブロック中量、ローム粒子、炭化物少量
- 3. 黄褐色 ローム中ブロック、ローム小ブロック中量、炭化物少量
- 4. 黒褐色 ローム中ブロック、ローム大ブロック少量、焼土粒子微量
- 5. 黄褐色 ローム中ブロック中量、ローム大ブロック、炭化物少量
- 6. 黄褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子、炭化物少量
- 7. 褐褐色 ローム大ブロック、ローム中ブロック中量、ローム中ブロック、焼土粒子、炭化物、炭化粒子少量



第696図 第20号方形堅穴状遺構・出土遺物実測図

**遺物** 土師器片 2点、土製品 1点（管状土錐）が出土している。第696図 1 の管状土錐が覆土中から出土している。土師器片・管状土錐はいずれも混入したものと思われる。土師器片は細片のため、図示はできなかった。

**所見** 本跡の時期及び性格については不明である。

第 20 号方形堅穴状遺構出土遺物観察表 [SK874]

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第696図 1	管状土錐	1.8	3.4	0.5~0.7	8.9	円柱状。ナデ。	雲母・長石、明赤褐色	DP8440 PL280

第21号方形堅穴状遺構 (第697図)

**位置** 調査 8 区の南東部、N9h0区。

**規模と平面形** 長軸 3.96m、短軸 2.54m の長方形である。

**長軸方向** N - 86° - W

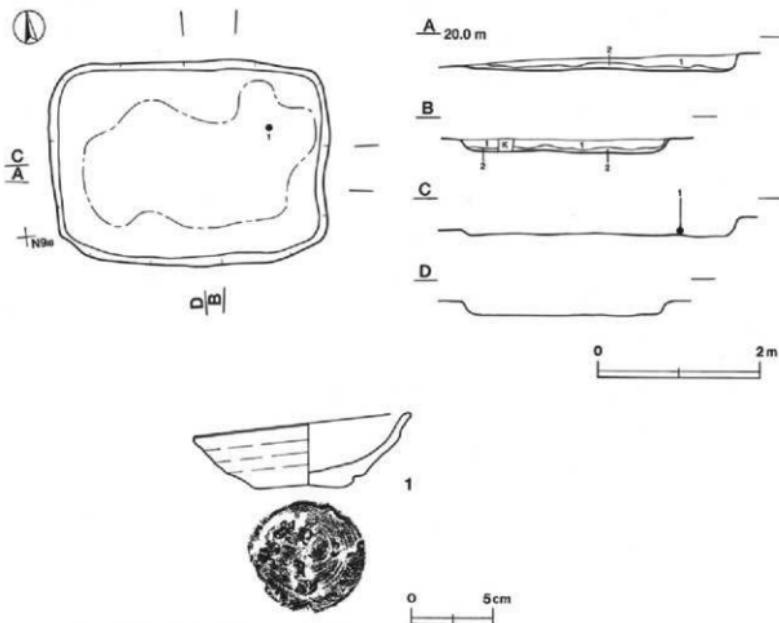
**壁** 壁高は 13~15cm で、外傾して立ち上がる。

**床** ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

**覆土** 2 層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 焙土粒子・炭化粒子少量。ローム中プロック微量
- 2 暗褐色 ローム小プロック少量



第697図 第21号方形堅穴状遺構・出土遺物実測図

**遺物** 土師器片47点、混入と思われる須恵器片6点が出土している。第697図の土師器杯は北東部の覆土下層から逆位で出土している。

**所見** 本跡の時期は、判断する出土遺物が少なく限定することは難しいが、出土した土師器の形態から11世紀以降と考えられる。

表21号方形堅穴状遺構出土遺物観察表

目次番号	種別	計測値(cm)	器形の特徴	手状の特徴	施上・色調・焼成	備考
第697図 1	杯	A 13.4 体部・口縁部 部欠損。体部は外 B 4.5 係して立ち上がり、口縁部はわず C 6.8 かに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。底部河松糸切り。底部内側ナ ギ。	砂粒・雲母・石英 に赤い褐色 含鐵	P8275 90% P.L.279	

表17 8区方形堅穴状遺構一覧表

方正度 割合 割合	長軸方向 (長軸方向)	幅 (m)	堅穴状				主な遺物	備考 森坂園地 新田耕作(古→現)	
			平 面	底 面	壁 面	底 上			
20	O8e2 N 0°	西丸云寺形	2.43×2.04	66	直立	平	人馬	土師片、土製品(替土跡)	S.B.70-1本跡
21	N9e0 N-85°-W	長方彌	3.96×2.54	5~18	外傾	平	馬	土器(16)	

### (7) 土坑

ここでは、性格や形態に特徴のあるものを次のように分類した。

- ①火葬施設 ②墓塚 ③その他の土坑

以下、この分類に従って記載する。記載されなかった土坑については、一覧表に記載する。また、出土遺物については実測図と観察表でその一部を掲載する。

#### ① 火葬施設

##### 第847号土坑(第698図)

**位置** 調査8区の南東部、O9e0区。

**規模と形状** 楕円形を2つつなぎたような不整形で、全長は1.58mである。燃焼部は、長軸が主軸と直交する、長軸95cm、短軸49cmの橢円形で、深さ15cmである。壁面は外傾して立ち上がる。開口部は長軸が主軸と平行する、長軸102cm、短軸86cmの楕円形で、深さ22cmである。壁面は外傾して立ち上がる。通気溝は燃焼部と直交し、長さ75cm、上幅22~28cm、下幅17~20cmで、深さ24cmである。壁面は、燃焼部側は外傾して立ち上がり、開口部側は緩やかに外傾して立ち上がる。

**主軸方向** N-85°-E

**底面** 嘴部から燃焼部へ緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は、一部火熱を受け赤変している。燃焼部の両側に通気溝をはさんで雲母片岩が散かれていた。

**覆土** 12層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。土層断面図中、第5・7・10・11層から火葬骨片が出土している。

#### 上層解説

1. 磨光褐色 ローム粒子の中量、ローム小ブロック、第三粒子少量
2. 磨光褐色 ローム小ブロック・ローム粒子、炭化粒子少量
3. 磨光褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子、第三粒子、炭化粒子、炭化粒子少量
4. 磨光褐色 ローム粒子多量
5. 磨光褐色 ローム粒子、炭化粒子、火葬性粉少量
6. 磨光褐色 ローム粒子中量、第三粒子、炭化粒子少量
7. 磨光褐色 燃燒粒子、炭化粒子中量、ローム粒子、炭化粒子、火葬骨片少量
8. 磨光褐色 燃燒粒子中量、ローム粒子、炭化粒子少量

- 9 黒 色 ローム粒子多量。ローム小ブロック少量  
 10 黒 色 炭化粒子多量。炭化物中量。ローム粒子・焼土  
粒子・火葬骨粉少量  
 11 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量。ローム粒子・火葬骨  
粉少量  
 12 暗 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量。焼土粒子・  
炭化粒子微量

**遺物** 燃焼部から火葬骨片が出土している。

**所見** 本跡は、燃焼部及び通気溝の底面が一部火熱を受けて赤変しており、火葬骨片・炭化物等が出土していることから、火葬施設と考えられる。本跡の時期は、形状から中世と考えられる。

## ② 墓壙

### 第863号土坑（第699図）

**位置** 調査8区の南西部。O7c9区。

**規模と平面形** 径0.90ほどの円形で、深さ42cmである。

**壁** 外傾して立ち上がる。

**底面** ほぼ平坦であり、踏み固められた面は認められない。

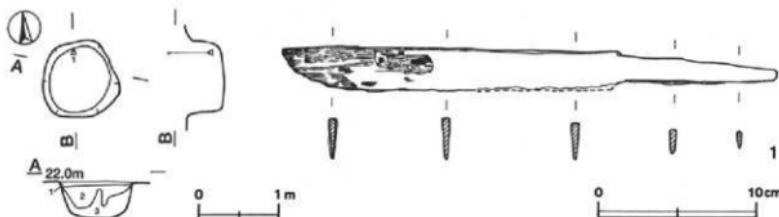
**覆土** 3層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗 色 ローム小ブロック中量。ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量

**遺物** 土器碎片2点、鉄製品1点（小刀）、人骨片（大腿骨の一部、骨片、骨粉）が出土している。第699図1の小刀、人骨片（大腿骨の一部）は、覆土中層から出土している。

**所見** 本跡の時期は不明であるが、性格は造構の形状及び人骨片が出土していることから墓壙と考えられる。



第699図 第863号土坑・出土遺物実測図

第863号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	基長(cm)			
第699図1	小刀	30.6	20.7	(23)~28	0.5	9.9	(95.9)	鉄	両刃あり、切先部に木質付着。

③ その他の土坑

第881号土坑（第700～702図）

位置 調査8区の南部、N95区。

重複関係 北部で第886号土坑を掘り込み、南東部が第887号土坑に掘り込まれている。

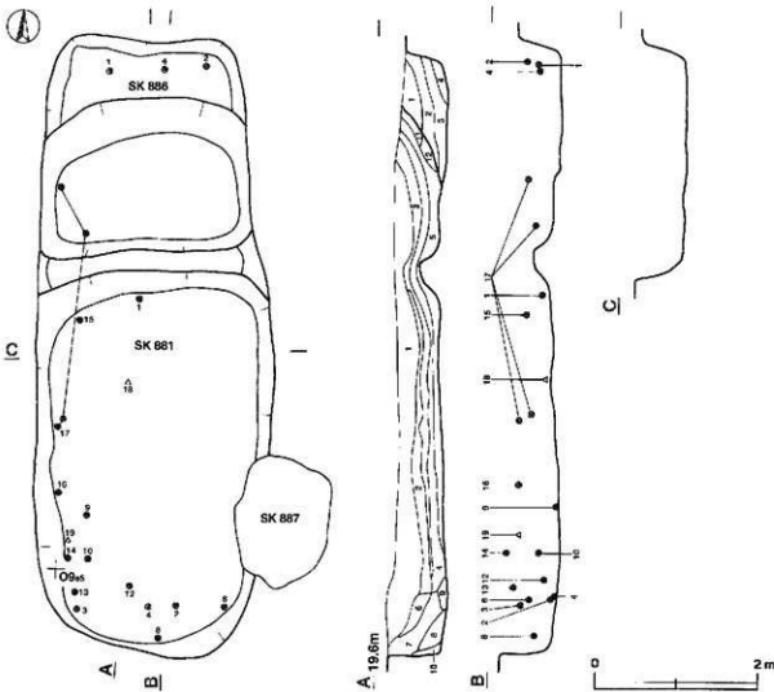
長軸方向 N-1° - E

規模と形状 長軸6.85m、短軸2.90mの隅丸長方形で、深さ50cmである。壁は外傾して立ち上がり、底面は凸凹である。中央部からやや北寄りの東壁から西壁にかけて、長軸と直交する土幅23～35cm、下幅60～88cm、高さ23cmの断面台形状の高まりを検出した。

覆土 12層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第2～5層からは灰が多量に出上している。覆土の堆積状況を見ると、北側から南側に向かって埋め戻されたものと考えられる。

土質解説

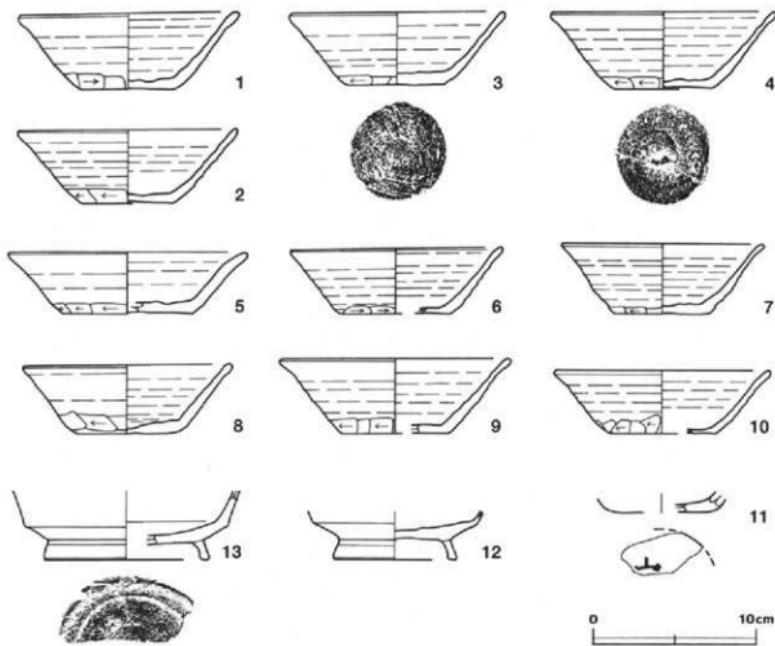
1 灰褐色	口・ム粒子・粘土粒子・炭化粒子・灰少量	6 黒褐色	燒土小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
2 灰褐色	灰少量・燒土小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量	7 黒褐色	燒土小ブロック・燒土粒子・灰少量・炭化粒子少量
3 水褐色	灰多量・燒土小ブロック・燒土粒子・炭化物・炭化粒子少量	8 黒褐色	燒土粒子・灰少量・炭化粒子・燒土小ブロック少量
4 灰褐色	灰多量・炭化物少量	9 黑褐色	燒土粒子・心材少量・燒土粒子・炭化粒子少量
5 灰褐色	灰多量・炭化物・粘土大ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量	10 灰色	口・ム粒子・燒土粒子・中量・燒土粒子少量
		11 黑褐色	灰少量・燒土粒子・炭化粒子・燒土粒子・粘土小ブロック少量
		12 黑褐色	燒土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・灰少量



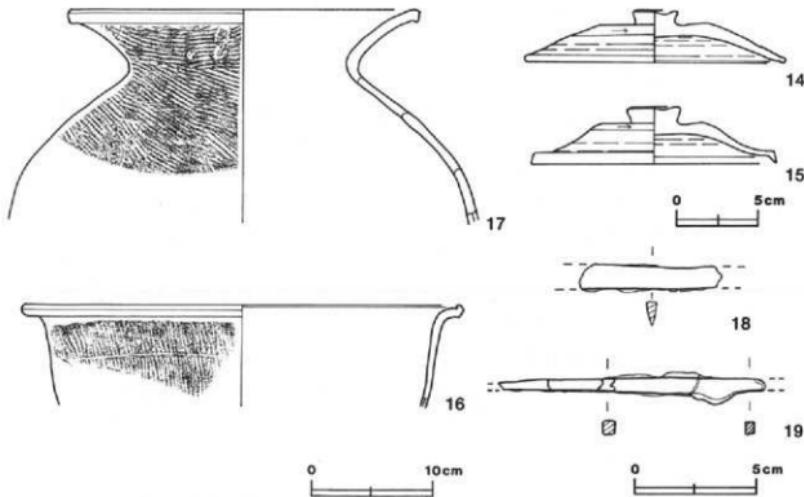
第700図 第881・886号土坑実測図

**遺物** 土師器片668点、須恵器片904点、鉄器・鉄製品2点（刀子・不明）、鉄滓1点が出土している。第701・702図に示した土器はいずれも須恵器である。1～11は杯で、1は中央部の覆土下層から逆位で出土している。2は南部の覆土下層と覆土中から出土した破片が、3は南部の覆土中層から出土した破片数点が接合したものである。4は南部の底面と覆土中から出土した破片が、6は南東部の覆土中層と覆土中から出土した破片が接合したものである。8は南部の覆土中層から出土した破片が、10は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。9は、中央部から南西部寄りの底面から出土した破片である。5・7は、覆土中から出土している。11の底部片は、覆土中から出土している。外面に墨書きされているが、判読不能である。12の高台付杯は南部の覆土下層から正位で、13の高台付杯は南西部の覆土上層から逆位で出土している。14の蓋は南西部の覆土上層から正位で、15の蓋は西部の覆土中層から逆位で出土している。16の鉢は南西部の覆土中層から正位で出土している。17の甕は北西部と西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。18の刀子は中央部の覆土下層から、19の不明鉄製品は南西部の覆土上層から出土している。

**所見** 遺物は、多量の土師器の窓体部片に混じって、須恵器の窓体部片や杯細片が出土している。そのほとんどが覆土下層から中層にかけて出土している。土器の出土状況や多量に検出された灰の堆積状況から、灰と土器は投棄された可能性が考えられる。性格は不明である。本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。灰は自然科学分析の結果、稻藁の灰であることが明らかになった。詳細は「付章」を参照されたい。



第701図 第881号土坑出土遺物実測図（1）



第702図 第881号土坑出土遺物実測図（2）

第881号土坑出土遺物観察表

国版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第701図 1 環 類 惠 器	A	13.4	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向へのヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英、暗灰色	P 80047
	B	47				100% P L278
	C	58				
2 環 類 惠 器	A	13.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向へのヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・黄灰色	P 80048
	B	45				50% P L277
	C	56				
3 環 類 惠 器	A [130]		底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英、黄灰色	P 80049
	B	44				50% P L278
	C	56				
4 環 類 惠 器	A [138]		底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向へのヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英、黄灰色	P 80050
	B	47				50% P L278
	C	60				
5 環 類 惠 器	A [146]		底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向へのヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・灰褐色	P 80051
	B	38				50% P L278
	C	80				
6 環 類 惠 器	A [129]		底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向へのヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・黄灰色	P 80052
	B	40				40% P L278
	C [ 6.6 ]					
7 環 類 惠 器	A [122]		底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向へのヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・灰褐色	P 80053
	B	44				40% P L278
	C	59				
8 環 類 惠 器	A [128]		底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向へのヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・褐灰色	P 80054
	B	42				35% P L278
	C	60				
9 環 類 惠 器	A	14.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向へのヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・にほい褐色	P 80055
	B	46				25% P L278
	C [ 6.4 ]					

次数番号	器種	計測値(cm)	要形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第701回 10	环	A [13.1] B 3.9 C [6.5]	底部から口縁部の破片。半底。体部は外傾して立ち上がり。口縁部はわざかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロナガ。体部下端持ちへきり。底部基部へきり切り後、上方のへきり切り。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P80056 25%
II 上 部 瓶	环	B [12]	底部片。	底部を斜め切り。	砂粒・雲母・石英 にいし褐色	P80057 5%
高台付环 12	B [25]	高台部から体部下端の破片。高台はハサの状に高く。体部下端に黒を有する。	体部内・外面クロナガ。底部内側へきり切り後、底部切り付け。ナ	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰褐色	P80058 30%	
高台付器 13	D 7.1 E 12	[10.0] は瓶のハサの状に高く。体部下端に黒を有する。	体部内・外面クロナガ。底部内側へきり切り後、白焼けりけ。ナ	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰褐色	P80059 15%	
第702回 14	瓶	A 15.8 B 32	定形。天井部は等形で、腰窓の点は瓶のつまみが付く。口縁部は屈曲する。	天井部黒ヘキリ。外周部及び口縁部内・外面クロナガ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色	P80060 100%
類 意 器 15	F 2.2 G 0.7	[15.0] 天井部から口縁部の破片。天井部は等形で、腰窓の点はつまみが付く。口縁部は平底。内もじ部は屈曲し、底を削る。	天井部黒ヘキリ。外周部及び口縁部内・外面クロナガ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰褐色	P L277	
鉢 16	A [35.0] B [8.5]	水舟から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり口縁部で削割ある。端部は上方へ突出させている。	口縁部内・外面クロナガ。体部外側部の平行引き。横幅のナガ。板有り。内面ナガ。	砂粒・雲母・長石・ 灰褐色 普通	P80063 10%	
類 意 器 17	A [27.7] B [17.3]	体部から口縁部の破片。体部は人さく内傾・内折し、底部は強く屈曲して口縁部に至る。	口縁部内・外面クロナガ。体部外側部の平行引き。内面輪積み。裏を残すナガ。	砂粒・雲母・長石・ 灰褐色 普通	P80062 20%	
第702回18 刀 子	(S.8)	全長(cm) 1.0 身身長(cm) 0.4 重ね(cm) 0.5 重量(g) 142	刀身部の破片。	鉢	M8227 P L282	
回収番号	器種	計測値	材質	特徴	備考	
第702回19 小 刃	子	全長(cm) 1.0 身身長(cm) 0.5 重ね(cm) 0.4 重量(g) 142	木	木	M8226	
回収番号	器種	計測値	材質	特徴	備考	
第702回19 小 刃	子	長さ(cm) 1.0 幅(cm) 0.5 厚さ(cm) 0.4 重量(g) 142	木	木	M8226	

### 第686号土坑(第700・703回)

位置 調査8区の南部、N95区。

重複関係 南部を第881号土坑に埋り込まれている。

規模と形状 南部を第881号土坑に埋り込まれているため、全容は不明である。東西軸は2.43mで、南北軸は0.88mだけが確認できた。深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

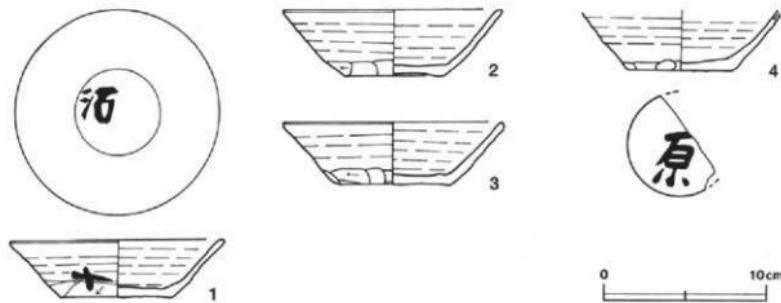
覆土 4層からなる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 土褐色 ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・粘土粒子少量
- 2 灰褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土ブロック少量
- 3 黑褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土ブロック・粘土大ブロック少量
- 4 黑褐色 粘土ブロック多量、粘土粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量

遺物 土器片52点、須恵器片77点が出土している。第703回に示した土器は、いずれも須恵器杯である。1は北部の覆土中層から逆位で出土している。体部外側に「ナカ」、底部内側に「酒」と墨書きされている。2は北東部の覆土中層から斜位で出土している。3は覆土中層から出土している。4は北部の覆土中層から出土している。底部外側に「原」と墨書きされている。

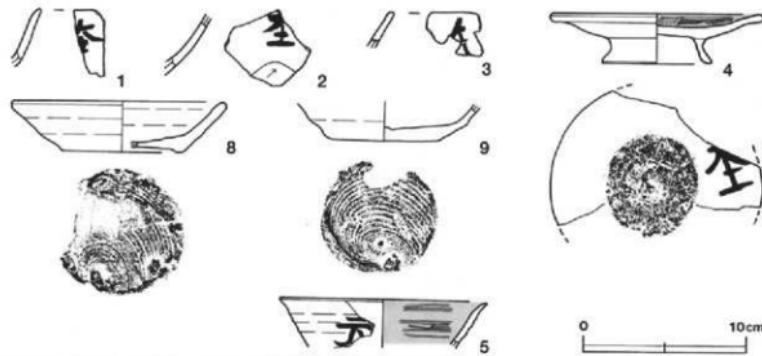
所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



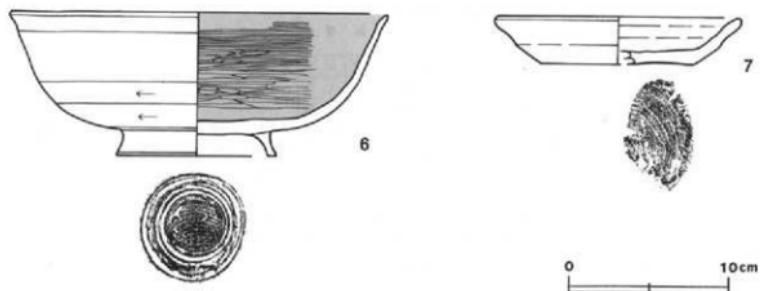
第703図 第886号土坑出土遺物実測図

第886号土坑出土遺物観察表

田版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地成	備考
第703図 1 頬窓器	环	A 13.0 B 2.7 C 6.7	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P80064 80% P1.279 体部外周墨書き「十」 底部内面墨書き「酒」
2 頬窓器	环	A 13.2 B 4.1 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色 普通	P80065 80% P1.278
3 頬窓器	环	A 13.4 B 3.9 C 6.9	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P80066 70% P1.278
4 頬窓器	环	B (3.8) C [6.4]	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黃褐色 普通	P80067 35% 底部外周墨書き「原」



第704図 第857・860B・1026・1344号土坑出土遺物実測図



第705図 第856・1355号土坑出土遺物実測図

第856・857・860B・1026・1344・1355号土坑出土遺物観察表

国版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第704図 1 土師器	壺	B (29)	体部から口縁部の破片。	口縁部、体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	P 80044 5% 体部外面墨書き「亞々」 SK - 860B
2 土師器	壺	B (47)	体部の破片。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	P 80045 5% 体部外面墨書き「亞々」 SK - 860B
3 土師器	壺	B (28)	体部から口縁部の破片。	口縁部、体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 80046 5% 体部外面墨書き「亞々」 SK - 860B
4 土師器	皿	A 128 B 30 D [66] E 15	高台部から口縁部の破片。高台は底部外周にあり、「ハ」の字状に開く。体部は縦やかに外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 80049 40% P L 279 体部外面墨書き「亞々」 SK - 1026
5 土師器	壺	A [128] B (29)	体部から口縁部の破片。体部は内側向外して立ち上がり。口縁部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 80052 5% P L 279、体部外墨書き「元々」 SK - 1344
第705図 6 高台付壺	壺	A [232] B 87 D 9.8 E 15	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内側向外して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。高台は内側にあり、「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下半横位のヘラ削り、内面横位のヘラ磨き。底部回転糸切り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 8883 40% P L 279 SK - 1355
第705図 7 土師器	壺	A [150] B 29 C [9.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 浅黄橙色 普通	P 80041 40% P L 277 SK - 856
第704図 8 土師器	壺	A 129 B 31 C 7.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 浅黄橙色 普通	P 80042 60% P L 277 SK - 857
9 土師器	壺	B (24) C 6.3	底部から体部下端の破片。平底。	体部外面下端ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 浅黄橙色、普通	P 80043 40% SK - 857

表18 8区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模 (長(幅)×幅(奥)×深さ (m))	壁 面	底 面	覆 土	主 な 遺 物	燒 新 旧 關係 (古→新)
690	M10e1	—	円 形	0.74 × 0.71 77	直立	平坦	—	土師器片	
834	O10f1	N - 55° - E	楕 円 形	0.98 × 0.80 24	外 傾	平坦	人為		
835	O10f1	—	円 形	0.90	40	外 傾	平 坦	土師器片、須恵器片	
836	O10f1	—	円 形	1.25	44	外 傾	平 坦	人為	
837	O10e1	—	円 形	1.15	30	外 傾	平 坦	人為	土師器片、須恵器片
838	O10e1	—	円 形	1.15	38	外 傾	傾 斜	自然	土師器片、須恵器片
839	O9e9	—	円 形	1.50	16	傾 斜	凹 凸	人為	土師器片、須恵器片

土坑 号	长宽方向 (或轴方向)	规 模			底面 形态	出土 物	考 古 (古·新)
		平面形	最深(距地表) (m)	深(米)			
840	O 9 g 0	—	圆 形	1.25	10	或 新 平 椭 人 为 痕迹器片	
841	O 9 f 0	N - 38° - E	椭 圆 形	0.96 × 0.76	24	外 鞍 平 圆 人 为	
842	O 9 f 0	—	圆 形	0.70	12	或 钝 直 状 自 然	
844	O 9 f 0	N - 47° - E	【椭 圆 形】	1.62 × 1.31	30	外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片、痕迹器片	S K 845 → 本葬
845	O 9 f 0	N - 50° - E	椭 圆 形	1.26 × 1.04	36	外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片、痕迹器片	本葬 → S K 844
846	O 9 e 0	N - 57° - E	椭 圆 形	1.20 × 1.02	24	或 锐 直 凸 人 为 土器碎片	
847	O 9 e 0	N - 85° - E	不 整 形	1.58 × 0.49	24	或 锐 凹 凸 人 为 土器碎片、痕迹器片, 瓷片	火葬施设
848	O 9 c 8	—	圆 形	0.70	21	外 鞍 圆 凸 人 为 土器碎片、痕迹器片	
850	N 10 i 2	N - 80° - E	椭 圆 形	2.00 × 1.68	45	外 鞍 平 圆 自 然 土器碎片、痕迹器片	S I 1201 → 本葬
851	O 9 g 8	N - 88° - W	椭 圆 形	0.78 × 0.66	48	外 鞍 平 圆 人 为	S I 1206 → 本葬 → S K 851
852	N 10 i 2	N - 4° - W	【椭 圆 形】	1.55 × [1.25]	30	外 鞍 平 圆 自 然	S I 1202 → 本葬
853	N 9 g 9	N - 70° - E	椭 圆 形	1.90 × 1.52	10~56 外 鞍 圆 人 为 土器碎片、痕迹器片		
854	N 9 g 9	N - 10° - E	椭 圆 形	1.24 × 1.12	30	外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片、痕迹器片	
855	N 10 j 2	N - 20° - W	【椭 圆 形】	[1.50] × 1.20	33	外 鞍 平 圆 自 然	S I 1201 → 本葬
856	O 10 i 3	N - 13° - E	椭 圆 形	2.60 × 2.30	44~64 外 鞍 平 圆 — 上部器 (坏) 土器 (坏), 痕迹器片	S I 1205 → 不述	
857	O 10 b 2	—	圆 形	1.60	37	外 鞍 平 圆 自 然 土器 (坏)	S I 1204~1205 → 本葬
858	N 10 i 3	N - 80° - E	椭 圆 形	0.97 × 0.74	13	外 鞍 平 圆 人 为 土器 (坏)	S I 1201 → 本葬
859	N 10 i 3	N - 17° - W	椭 圆 形	0.73 × 0.61	39~38 外 鞍 四 凸 人 为 土器碎片、痕迹器片	S I 1202 → 本葬	
860A	O 7 s 0	—	圆 形	0.70	36	直 立 圆 状 人 为	
860B	O 7 a 0	—	圆 形	1.06 × 0.98	46~66 外 鞍 椭 新 人 为 土器 (坏), 痕迹器片		
861	O 7 a 0	N - 39° - W	椭 圆 形	1.22 × 0.80	44~54 外 鞍 圆 凸 人 为 土器碎片、痕迹器片		
862	O 7 b 9	—	圆 形	0.60	20	或 锐 平 圆 人 为	
863	O 7 c 9	—	圆 形	0.90	42	外 鞍 平 圆 人 为 十字器片, 痕迹器, 人骨片	墓室
864	O 7 c 9	—	圆 形	1.05	27	或 锐 圆 状 自 然 土器碎片	
865	O 7 b 9	N - 26° - E	椭 圆 形	1.08 × 0.90	30 外 鞍 圆 状 人 为 土器碎片		
866	O 7 c 9	N - 39° - E	椭 圆 形	1.30 × 0.88	42 外 锐 圆 凸 人 为 痕迹器片		
867	O 7 c 8	N - 15° - E	方 形	[0.88] × 0.84	20 或 锐 圆 状 人 为 痕迹器片	本葬 → S K 868	
868	O 7 c 8	N - 10° - W	椭 圆 形	1.14 × 1.00	24 或 锐 圆 凸 人 为 土器碎片、痕迹器片	S K 867 → 本葬	
869	O 7 d 8	—	圆 形	0.85	18 或 锐 圆 凸 人 为 土器碎片, 填塞器片		
870	O 7 d 8	N - 43° - W	椭 圆 形	1.00	16~28 或 锐 斜 刀 人 为 土器碎片, 填塞器片		
871	O 7 c 8	—	圆 形	0.75	12~24 或 锐 斜 刀 人 为 土器碎片		
872	O 8 g 3	N - 13° - E	不整清内斜形	2.08 × 1.32	46~52 或 锐 圆 凸 人 为 土器 (坏), 痕迹器片	S K 866 → 本葬 → S K 867	
881	N 9 j 5	N - 1° - E	椭丸状方彌	0.65 × 2.90	50 外 鞍 平 圆 人 为 土器 (坏), 痕迹器片	S I 1227~S I 1228 → 本葬	
882	O 8 c 5	N - 7° - W	椭 圆 形	1.90 × 1.48	26 或 新 平 圆 自 然 土器碎片, 痕迹器片	S I 1227~S I 1228 → 本葬	
884	N 9 j 4	N - 4° - W	椭丸状方彌	0.62 × 1.98	45 外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片, 痕迹器片	本葬 → S I 1220	
885	N 9 i 4	—	圆 形	1.25	40~55 外 鞍 椭 人 为 土器碎片, 痕迹器片	本葬	
886	N 9 i 5	N - 1° - E	【椭丸状方彌】	2.43 × (0.88)	54 外 鞍 人 为 自 然 土器碎片, 痕迹器 (坏, 盖, 隔) 片	S K 881	
887	N 9 j 5	N - 6° - E	不 定 形	1.60 × 1.20	65~90 或 圆 圆 人 为 土器碎片, 痕迹器片	本葬 → S K 881	
888	N 9 g 4	N - 82° - W	圆 形	0.90	59 外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片, 痕迹器片	S K 881 → 本葬	
889	N 9 g 2	N - 65° - W	椭丸状方彌	0.62 × 0.80	22 外 鞍 椭 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
890	N 9 g 2	—	圆 形	0.65	14~24 外 鞍 椭 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
891	N 9 g 2	—	圆 形	0.75	20 外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
892	N 9 g 2	—	圆 形	0.75	20 外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
893	N 9 f 2	—	圆 形	0.65	21 外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
894	N 9 f 3	N - 12° - W	方 形	0.65	27 外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
895	N 9 f 3	—	圆 形	0.70	20 外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
896	N 9 f 3	—	圆 形	0.65	23~33 外 鞍 椭 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
897	N 9 f 3	N - 47° - W	方 形	0.80	18~40 外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
898	N 9 g 3	—	圆 形	0.73	18~25 外 鞍 椭 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
899	N 9 g 3	—	圆 形	0.70	14~28 外 鞍 椭 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
900	O 9 c 8	—	圆 形	1.10	38 外 鞍 平 圆 人 为 土器碎片, 痕迹器片		
901	O 9 b 8	N - 18° - W	椭 圆 形	0.79 × 0.62	12~19 外 鞍 刀 人 为 土器碎片		
902	O 9 c 9	N - 70° - E	椭 圆 形	0.80 × 0.66	10~20 外 鞍 圆 自 然		

番号	長径方向 位置 (反転方向)	平面形	規 模			底面	上面	主な遺物	備考
			北×東×西×高 (m)	幅 (m)	厚さ (cm)				
983	O 9 c 0	N - S - E 楕円形	0.80 × 0.70	28	外傾 平坦	自然			
984	O 10 i 1	N - 45° - W 楕円形	1.90 × 1.58	40	外傾 平坦	人為		土師器片	S 11203 → 本路
985	O 9 e 7	— 円 形	0.95	20	外傾 平坦	人為		上部器片、須恵器片	
986	O 9 b 9 N - 77° - E 楕円形	1.25 × 0.65	46	外傾 開口	人為				
987	O 9 a 9	— 円 形	0.90	23 ~ 33	外傾 平坦	人為			
988	O 9 a 9 N - 22° - W 楕円形	1.02 × 0.65	30	外傾 平坦	人為				
989	O 9 a 9 N - 67° - W 楕円形	1.00	40	外傾 手造	人為			土師器片、須恵器片	
990	O 9 a 9	— 円 形	0.75	30	外傾 平坦	人為			
991	O 9 b 0 N - 75° - E 楕円形	0.78 × 0.66	27	外傾 平坦	自然				
992	O 9 a 0	— 円 形	0.40	58	外傾 平坦	人為			
993	O 9 a 0 N - 78° - W 楕円形	0.56 × 0.43	33	外傾 平凸	人為				
994	N 9 j 0 N - 6° - W 楕円形	1.10 × 0.93	27	外傾 平坦	自然			上部器片	
995	N 9 j 0 N - 43° - E 楕円形	1.30 × 1.18	18	外傾 平坦	人為			土師器片、須恵器片	
996	N 9 j 9 N - 62° - W 楕円形	1.02 × 0.66	32	外傾 平坦	人為			上部器片、須恵器片	
997	N 9 j 9 N - 53° - E 楕円形	1.48 × 1.32	22	外傾 平坦	人為			土師器片、須恵器片	
998	N 9 j 9	— 円 形	1.45	30	外傾 平坦	人為		土師器片	
999	N 9 h 7 N - 67° - E 楕円形	1.00	18	外傾 平坦	人為			上部器片	
1000	N 9 g 7 N - 0°	椭円形	1.64 × 1.45	12	外傾 平坦	人為		土師器片、須恵器片	
1001	N 9 g 7 N - 76° - W 不整椭円形	0.85 × 0.78	20	外傾 平凸	人為				
1002	N 9 g 7 N - 88° - W 楕円形	1.18 × 0.60	30	外傾 平坦	人為				
1003	N 9 f 7 N - 70° - W 不定形	1.08 × 1.03	35	外傾 四角	人為			上部器片	
1004	N 9 f 8 N - 0° - W 脊丸瓦形	1.56 × 1.48	15	外傾 平坦	人為			上部器片、須恵器片	
1005	N 9 g 9 N - 7° - W 楕円形	0.90 × 0.75	13	外傾 平坦	人為				
1006	N 9 g 0 N 0°	椭円形	0.98 × 0.85	38	外傾 平坦	人為			
1007	N 10 g 1 N - 7° - E 楕円形	0.69 × 0.60	21	外傾 平坦	自然				
1008	N 9 f 5	— 円 形	1.10	14	外傾 平坦	人為		上部器片	
1009	N 9 g 2 N 44° - W 楕円形	1.33 × 0.90	23 ~ 45	外傾 平坦	人為				
1010	N 9 g 2 N - 12° - E 楕円形	1.25 × 0.97	23 ~ 50	外傾 平坦	人為				
1011	N 9 f 1 N - 30° - W 楕円形	1.35 × 0.90	25 ~ 38	外傾 平坦	人為				
1012	N 9 c 2 N - 35° - E 楕円形	1.20 × 0.95	23 ~ 54	外傾 平坦	人為				
1013	N 9 f 2	— 円 形	0.65	23	外傾 平坦	人為			
1014	N 9 f 4 N - 15° - E 脊丸瓦形	0.75	26	外傾 平坦	人為				
1015	N 9 f 4 N - 44° - E 脊丸瓦形	0.75	15	外傾 平坦	人為				
1016	N 9 f 4 N - 8° - E 脊丸瓦形	0.55	23	外傾 重状	人為				
1017	N 9 g 4 N - 88° - W 脊丸瓦形	0.80 × 0.72	23	外傾 平坦	人為				
1018	N 9 g 5 N - 5° - E 脊丸瓦形	0.63 × 0.70	17	外傾 平坦	人為			須恵器片	
1019	N 9 f 5 N - 85° - E 脊丸瓦形	0.60	18	外傾 平坦	人為				
1020	N 9 f 1 N - 2° - E 楕円形	1.33 × 1.12	53	外傾 平坦	人為				
1021	N 9 g 1 N - 58° - W 楕円形	1.54 × 1.36	58	外傾 四凸	人為			上部器片	
1022	N 9 g 1	— 円 形	1.45 × 1.33	56	外傾 巴凸	人為		土師器片	
1023	N 9 h 1 N - 13° - E 楕円形	1.10 × 0.93	27	外傾 平坦	人為			土師器片	
1024	N 7 t 9 N - 15° - E 不定形	1.04 × 0.40	15 ~ 70	立凹	人為			土師器片、須恵器片	
1025	N 7 j 0 N - 37° - W 不定形	1.20 × 0.65	29	外傾 平坦	人為			土師器片	
1026	N 7 j 0 N - 3° - E 楕円形	1.21 × 0.90	42	外傾 平坦	人為			土師器片(鉢)、須恵器片	
1027	N 7 i 0 N - 74° - E 楕円形	1.13 × 0.93	37	外傾 平坦	人為			土師器片、須恵器片	
1028	N 7 i 0 N - 25° - E 不定形	1.30 × 0.73	30	外傾 平坦	人為			上部器片	
1029	N 7 i 0 N - 85° - W 不定形	1.80 × 1.37	45	外傾 平坦	人為			土師器片	
1030	N 7 i 0	— 円 形	0.75	32	外傾 平坦	人為			
1031	N 7 h 0 N - 35° - E 不整椭円形	1.15 × 0.83	43	外傾 開口	人為			上部器片、須恵器片	
1032	N 7 h 0	— 円 形	1.10	30	外傾 四凸	人為		土師器片、須恵器片	
1033	N 7 g 0 N - 70° - E 楕円形	0.93 × 0.60	62	外傾 平坦	人為			土師器片	
1034	N 8 g 1 N - 61° - E 不定形	0.96 × 0.41	45	外傾 重状	自然			上部器片	
1035	N 8 g 1	— 円 形	0.80	82	外傾 重状	自然		土師器片	

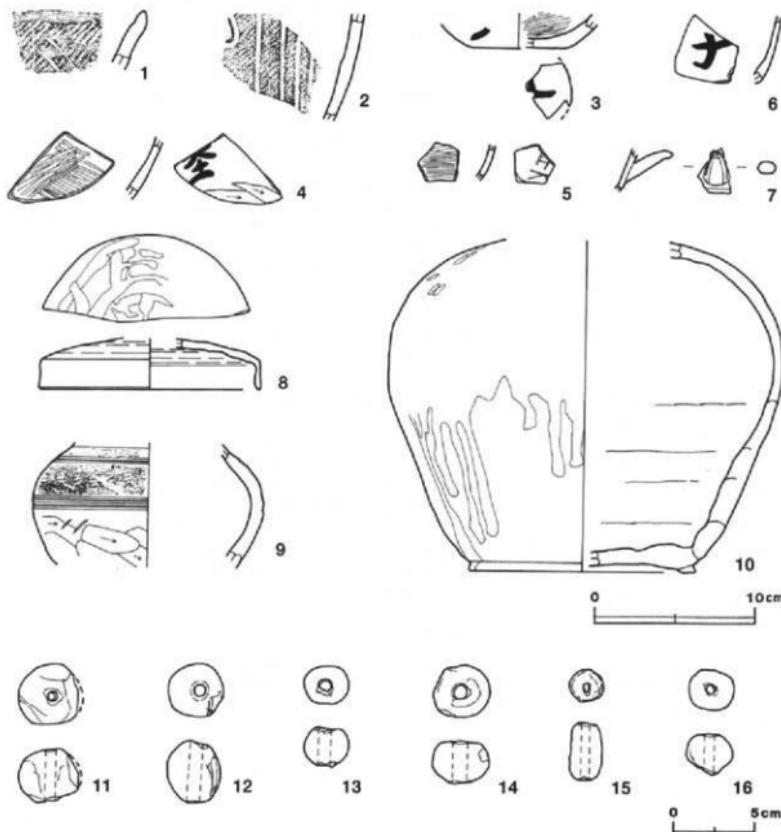
地名	其後方向 位置 (長軸方向)	規 格			標 本 號	主な遺物	舊新旧開 (古→新)
		半 徑	周 長	高 度 (cm)			
1036 N 8 g 2	—	円 形	0.50	34	外 領 圓 狹 自 然	上飾器片	—
1039 N 8 f 0	N - 15° E	椭 圆 形	0.81 × 0.70	45	外 領 圓 狹 人 爪	—	—
1040 N 8 e 0	—	円 形	0.65	35	外 領 圓 狹 人 爪	—	—
1041 N 8 g 0	—	(円形)	0.98 × 0.72	30	外 領 圓 狹 人 爪	網狀器片	本統 → SK1042
1042 N 8 g 0	N - 35° E	椭 圆 形	1.21 × 1.10	52	外 領 平 扁 人 爪	上飾器片, 細束器片	SK1041 → 本統
1043 O 8 b 2	—	円 形	0.65	18~55	外 領 西 凸 人 爪	—	S I 1225 → 本統
1044 O 8 c 1	—	円 形	0.50	43~58	外 領 西 凸 人 爪	—	—
1045 O 8 b 1	N - 2° E	椭 圆 形	0.76 × 0.64	12~18	外 領 圓 狹 人 爪	上飾器片	—
1046 A O 8 c 1	—	椭 圆 形	1.10 × 0.98	16~42	縱 斜 西 凸 人 爪	上飾器片, 細束器片	SK1046B → 本統
1046 B O 8 c 1	—	(円形)	1.03 × 0.95	15~40	縱 斜 西 凸 人 爪	土飾器片, 細束器片	本統 → SK1046A
1047 O 8 b 1	—	円 形	0.65	17~56	外 領 西 凸 人 爪	上飾器片	—
1048 O 8 b 1	N - 81° W	椭 圆 形	0.52 × 0.45	66	外 領 平 扁 人 爪	—	S I 1233 → 本統
1049 O 7 d 8	N - 7° E	椭 圆 形	0.85 × 0.70	17	縱 斜 圓 狹 人 爪	—	—
1050 O 7 d 8	—	円 形	1.10	31	縱 斜 平 扁 人 爪	上飾器片, 細束器片	—
1051 O 7 d 0	N - 13° E	椭 圆 形	1.05 × 0.95	47	外 領 平 扁 人 爪	土飾器片, 細束器片	—
1052 O 7 c 0	N - 10° E	椭 圆 形	1.04 × 0.83	45	直 立 平 扁 人 爪	土飾器片, 細束器片	—
1053 O 7 b 0	—	円 形	0.35	37	直 立 平 扁 人 爪	—	—
1054 O 7 b 0	—	円 形	1.05	37~47	外 領 圓 狹 人 爪	土飾器片, 細束器片	S I 1223 → 本統
1055 O 7 b 0	N - 63° W	椭 圆 形	0.68 × 0.54	30	縱 斜 平 扁 人 爪	—	—
1056 O 7 b 9	—	円 形	0.55	33	縱 斜 平 扁 人 爪	—	—
1057 O 8 c 5	N - 35° W	椭 圆 形	1.03 × 0.88	24	縱 斜 平 扁 人 爪	—	S I 1237 → 本統
1058 O 8 c 4	—	円 形	0.65	113	直 立 平 扁 人 爪	—	—
1059 O 8 c 5	N - 10° W	椭 圆 形	0.57 × 0.45	54	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1060 O 8 d 5	—	円 形	0.65	48	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1061 O 8 d 4	—	円 形	0.27	42	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1062 O 8 d 4	—	円 形	0.43	48	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1063 O 8 d 4	N - 26° E	椭 圆 形	0.62 × 0.52	15~42	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1064 O 8 d 4	N - 6° E	不整圓形	0.82 × 0.56	16~70	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1065 O 8 c 4	—	円 形	0.55	100	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1066 O 8 c 4	—	円 形	0.50	37	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1067 O 8 c 4	—	円 形	0.50	33~35	外 領 巴 凸 人 爪	上飾器片	—
1068 O 8 c 4	—	円 形	0.45	27~35	外 領 巴 凸 人 爪	—	—
1069 O 8 b 6	N - 13° E	椭 圆 形	0.85 × 0.70	29~38	縱 斜 西 凸 人 爪	—	—
1070 O 8 a 5	N - 10° W	椭 圆 形	0.65 × 0.58	34	縱 斜 平 扁 人 爪	上飾器片	S I 1240 → S B 102 → 本統
1071 N 8 j 5	—	円 形	0.80	19~29	外 領 西 凸 人 爪	—	S I 1235 → 本統
1072 N 8 j 6	—	円 形	0.68	36~45	外 領 西 凸 人 爪	—	—
1073 N 8 j 6	N - 18° E	椭 圆 形	1.16 × 0.85	36~56	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1074 N 8 i 6	N - 69° W	椭 圆 形	0.83 × 0.62	12~42	外 領 圓 狹 人 爪	—	—
1075 N 8 i 6	—	円 形	0.90	48	外 領 圓 狹 人 爪	—	—
1076 N 8 h 6	—	円 形	0.90	58	外 領 巴 凸 人 爪	—	—
1077 N 8 h 7	N - 4° E	椭 圆 形	0.57 × 0.45	25	外 領 圓 狹 人 爪	—	—
1078 N 8 i 7	N - 13° W	椭 圆 形	0.69 × 0.56	24	外 領 圓 狹 人 爪	—	—
1079 N 8 i 7	—	円 形	0.50	30	直 立 平 扁 人 爪	—	—
1080 N 8 i 8	—	円 形	0.95	30	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1081 N 8 i 7	—	円 形	0.77	25	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1082 N 8 h 8	—	円 形	0.73	32	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1083 N 8 j 5	N - 1° W	不定形	1.61 × 1.20	30	外 領 圓 狹 人 爪	—	—
1084 N 8 i 5	N - 83° W	椭 圆 形	0.84 × 0.73	41	外 領 平 扁 人 爪	—	S I 1235 → 本統
1085 N 8 i 9	N - 47° W	不整圓形	1.42 × 1.30	34~47	外 領 圓 狹 人 爪	—	—
1086 N 8 f 9	N - 37° E	椭 圆 形	1.15 × 0.95	27~53	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1087 N 8 e 8	N - 18° E	椭 圆 形	0.85 × 0.65	20	外 領 平 扁 人 爪	—	—
1088 N 8 e 9	N - 9° W	椭 圆 形	1.10 × 0.75	35~40	外 領 圓 狹 人 爪	—	—
1089 A N 8 e 7	N - 75° E	椭 圆 形	0.95 × 0.70	33	輪 形	圓 狹 自 然	上飾器片, 細束器片

序号	位置 (经度/纬度)	坡向	类型	剖面		坡面	地质	主要造物	新老关系 (古→新)
				剖面高差 m	深度 S				
1069	N 8° E	3° E	棱凹形	0.88 × 0.55	29 ~ 46	缓斜	凹凸	人字	上部器片, 疣状器片
1090	N 8° E	—	凹形	0.80	43	缓斜	凹凸	人字	
1091	N 8° E	N - 34° W	棱凹形	0.80 × 0.70	22	缓斜	凹凸	自然	
1092	N 8° E	N - 60° W	棱凹形	0.65 × 0.45	26	缓斜	凹凸	自然	
1093	N 8° E	—	凹形	0.60	16	缓斜	凹凸	自然	土脚器片
1094	N 8° E	N - 90° W	棱凹形	0.57 × 0.42	18	缓斜	凹凸	人字	
1095	N 8° E	N - 90° W	棱凹形	0.74 × 0.58	20 ~ 28	外倾	凹凸	人字	
1096	N 8° E	N - 8° E	棱凹形	0.65 × 0.44	22	外倾	凹凸	人字	上部器片, 疣状器片
1097	N 8° E	—	凹形	0.55	17	缓斜	凹凸	自然	
1098	N 8° E	N - 35° E	棱凹形	0.85 × 0.65	25	缓斜	凹凸	自然	
1099	N 8° E	N 54° W	圆弧形	0.74 × 0.64	20	外倾	凹凸	自然	
1100	N 8° E	—	凹形	0.45	30	外倾	凹凸	自然	
1101	N 8° E	N - 50° W	棱凹形	0.65 × 0.47	15	外倾	凹凸	自然	
1102	N 8° E	—	凹形	0.38	28	外倾	凹凸	自然	
1103	N 8° E	N - 18° W	棱凹形	1.07 × 0.87	18 ~ 23	外倾	平缓	自然	土脚器片, 疣状器片
1104	O 9 b 2	N - 90° W	棱凹形	0.93 × 0.82	28	外倾	凹凸	人字	土脚器片, 疣状器片
1105	O 9 b 2	—	凹形	0.75	15	外倾	凹凸	自然	上部器片, 疣状器片
1106	O 9 b 2	N - 0°	棱凹形	0.80 × 0.58	15	外倾	凹凸	人字	土脚器片, 疣状器片
1107	O 9 c 2	—	凹形	0.50	38	外倾	凹凸	自然	
1108	O 9 e 1	N - 3° W	方凹形	0.60	30	外倾	凹凸	人字	
1109	O 9 d 1	N - 82° W	棱凹形	0.76 × 0.65	35 ~ 45	外倾	凹凸	人字	
1110	O 8 d 0	—	凹形	0.74	30	外倾	平坦	自然	
1111	O 8 b 0	N - 90° W	圆弧形	0.92 × 0.70	45	外倾	平坦	人字	土脚器片
1112	O 8 b 0	—	凹形	0.75	19	外倾	凹凸	自然	上部器片, 疣状器片
1113	O 9 a 1	N - 71° W	棱凹形	1.18 × 0.84	50	外倾	平坦	自然	上部器片, 疣状器片
1114	O 9 a 1	N - 74° W	棱凹形	0.37 × 0.49	19	外倾	凹凸	自然	
1115	O 8 b 8	—	凹形	0.82	73	垂直	平坦	人字	土脚器片
1116	O 8 b 8	—	凹形	0.75	58	垂直	平坦	人字	
1117	O 8 b 8	—	凹形	0.58	45	垂直	平坦	人字	土脚器片
1118	O 9 f 4	N - 87° E	棱凹形 I	3.53 × (2.73)	175	外倾	平坦	自然	土脚器片, 疣状器片
1119	L 9 i 3	N - 6° E	棱凹形	1.53 × 1.34	38	缓斜	凹凸	人字	土脚器片, 疣状器片
1120	L 8 i 9	N - 80° W	棱凹形	0.74 × 0.60	15	缓斜	凹凸	人字	上部器片
1121	L 8 i 9	N - 82° W	棱凹形	0.66 × 0.55	15 ~ 20	外倾	凹凸	自然	
1122	L 8 i 8	N - 82° W	棱凹形	0.75 × 0.65	15	外倾	平坦	人字	土脚器片
1123	L 9 i 6	—	凹形	1.30	14 ~ 22	缓斜	平坦	人字	土脚器片
1124	L 9 i 6	N - 0°	棱凹形	(0.65) × 0.55	9 ~ 15	缓斜	平坦	人字	土脚器片
1125	M 9 f 8	N - 79° W	棱凹形	0.72 × 0.61	35	外倾	凹凸	人字	土脚器片, 疣状器片
1126	M 9 f 8	N - 74° W	棱凹形	1.24 × 0.70	28 ~ 70	外倾	稍斜	人字	上部器片, 疣状器片
1127	M 9 f 8	N - 85° W	棱凹形	0.80 × 0.68	17	缓斜	平坦	人字	
1128	M 8 c 9	N - 38° W	圆弧形	1.23 × 0.83	28 ~ 58	外倾	平坦	人字	土脚器片, 疣状器片
1129	M 8 c 9	—	凹形	1.53 × (0.94)	20 ~ 30	缓斜	凹凸	自然	土脚器片, 疣状器片
1130	N 9 a 5	N - 65° W	棱凹形	1.43 × 1.15	24 ~ 30	外倾	凹凸	人字	土脚器片
1131	M 8 j 0	—	凹形	1.26 × 1.13	23	外倾	平坦	人字	上部器片, 疣状器片
1132	N 10 a 1	N - 7° E	棱凹形	1.95 × 1.62	48 ~ 73	外倾	凹凸	人字	土脚器片
1133	M 10 a 1	N - 39° E	棱凹形	1.20 × 1.07	26 ~ 32	外倾	平坦	自然	上部器片, 疣状器片
1134	M 8 c 0	N - 30° W	棱凹形	1.42 × 0.92	30	外倾	凹凸	—	脚器片, 疣状器片
1135	M 9 a 3	N - 20° E	棱凹形	1.26 × 0.90	20 ~ 42	缓斜	凹凸	人字	土脚器片
1136	M 9 h 2	N - 12° S	棱凹形	1.13 × 1.00	27	外倾	缓斜	人字	土脚器片
1137	M 9 h 2	—	凹形	1.13 × 1.06	23 ~ 68	缓斜	凹凸	人字	上部器片
1138	M 10 i 2	—	凹形	1.35	43	外倾	平坦	人字	土脚器片, 疣状器片, 剥器片
1139	M 9 g 1	—	凹形	0.75 × 0.70	(23)	外倾	平坦	人字	S K 35 ~ S D 8 A → 土脚器片
1140	M 9 h 1	N - 37° W	长方形	3.00 × 2.30	17	外倾	平坦	—	上部器片 (高台村店)
1141	M 9 c 3	N - 25° W	棱凹形	1.51 × 1.16	25	缓斜	平坦	人字	S K 35 ~ S D 8 A → 土脚器片

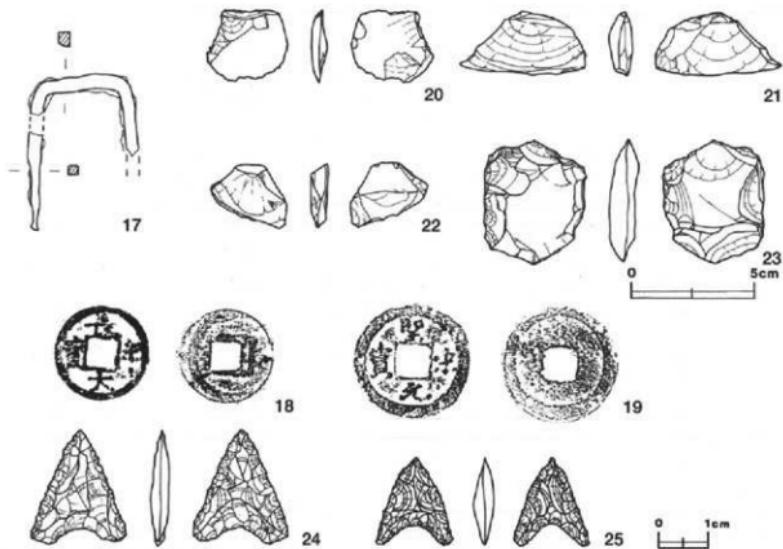
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模 長径(幅)×短径(高) (m)	深 度 (cm)	壁 面	底 面	覆 土	主 な 遺 物	備 考 新 旧 間 係 (古 → 新)
1358	M9 f 3	N・38°・E	楕円形	1.66 × 1.25	28 ~ 32	緩斜	平坦	人為		S 11430 → 本跡
1359	M8 d 6	N・11°・E	椭丸長方形	1.14 × 0.75	7 ~ 10	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1360	M8 d 7	N・16°・E	椭丸長方形	1.05 × 0.71	14	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1361	M10 a 2	N・90°	椭丸長方形	1.13 × 0.88	80	外傾	平坦	人為		
1363	M8 f 0	N・68°・W	不整椭円形	1.32 × 0.93	27	緩斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	S 11428 → 本跡
1365	M9 j 0	—	円形	1.32	23	緩斜	平坦	人為	土師器片、須恵器片	

(8) 遺構外出土遺物 (第706・707図)

今回の調査で、遺構に伴わない旧石器時代から中世にかけての遺物が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。



第706図 8区遺構外出土遺物実測図 (1)



第707図 8区遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表

国版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第706図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (3.8)	口縁部の破片。LRの単節縄文を地文に。沈繩が施されている。	小窪・長石・赤色粒子 に赤い黄褐色、普通	T P8433 PL279 縄文時代後期前葉 堀ノ内I式
	深鉢形土器 縄文土器	B (6.4)	脚部の破片。LRの単節縄文を地文とし、沈繩文が垂下する。	小窪・長石・赤色粒子 に赤い黄褐色、普通	T P8434 PL279 縄文時代後期前葉 堀ノ内I式

国版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第706図 3	环 土器	B (2.2) C (6.6)	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は内壁気味に立ち上がる。	体部下端手持ちハラ削り、内面ハラ削き。 底部1方向のハラ削り。 内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・ 石英 5% 灰化、普通	P8987 P8990 底部外側に剥離現象不規則
	环 土器	B (3.8)	体部の破片。体部は内壁気味に立ち上がる。	体部下端・外面クロナデ。体部下端手持ちハラ削り、内面ハラ削き。 内面黒色処理。	砂粒・雲母 に赤い褐色 5% 普通	P8991 体部外側に剥離「土」
4	环 土器	B (2.4)	体部の破片。	体部下端ハラ削り、内面ハラ削き。 内面黒色処理。	砂粒・雲母 に赤い褐色 5% 普通	P8990 体部外側に剥離現象不規則
	环 土器	B (4.1)	体部の破片。	体部内・外面クロナデ。体部下端手持ちハラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	P8988 5% P L279 体部外側に剥離「土」
5	环 土器	B (2.7)	体部下端の破片。体部下端に縫を有し、下位に断面棒円形の耳部がつく。耳部は外上方に開く。	体部内・外面クロナデ。耳部ナデ。	砂粒・長石 5% 普通	P8985 三和浜ノ台窯
	环 土器	B (3.1)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸味を帯び、外周部はなだらかに下降し、屈曲して口縁部に至る。口縁部は垂下する。	口縁部。外周部内・外面クロナデ。	砂粒・長石・石英 暗灰褐色 普通 外面に自然釉 O8a0区。	P8986 30% P L279

回収番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第706回 9	盃 燒成器	B (7.6)	体盤上半の破片。体盤は内壁して立ち上がる。	体盤内・外壁クロナチ。体盤下 端手内立ちへく削り。外壁に懸突状 工具による沈落と剥離文が巡る。 沈落は中位には1枚1单位が1段造る。 上位には2枚1单位が1段造る。	砂粒・赤色粒子 灰褐色 普通	P8884 15% PL279 SD67 東経
10	盃 器	B (20.2) D (14.0) E (6.5)	底部から体盤上位にかけての破片。 体盤は底盤から剥離して立ち上がり、上位で内壁する。底盤は底盤 外側にあり、頗る外方にふんばる。	体盤内・外壁クロナチ。底台熱 り剥離後、ナガ。	砂粒・青母・灰石・ 石英 暗赤褐色 普通	P8889 50% PL279 常温系

回収番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		厚(cm)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)			
第706回11	球状土錐	(2.5)	2.2	0.4	12.1	やや扁平な球体。ナゲ。	青母、にぶい褐色	DP8442 PL280
12	球状土錐	2.2	2.5	0.5	10.5	やや扁平な球体。ナゲ。	長石、にぶい褐色	DP8443 PL280
13	球状土錐	1.8	1.6	0.5	4.0	扁平な球体。ナゲ。	長石、明褐色	DP8445 PL280
14	球状土錐	2.3	1.8	0.6	7.3	扁平な球体。ナゲ。	長石、にぶい褐色	DP8447 PL280
15	球状土錐	1.4	2.3	0.3	4.4	円筒状。ナゲ。	砂粒、にぶい褐色	DP8446 PL280
16	土玉	1.8	1.7	0.4	4.4	球体。	青母・長石、にぶい褐色	DP8444 PL280

回収番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第707回12	両全貝	(6.4)	4.5	0.4~0.6	19.1	貝	相模古墳(?)の貝殻標記 銀鏡	M8463 PL281

回収番号	器種	計測値				初発年	特徴	出土地點	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重積(g)				
第707回18	長年大吉	1.9	0.6×0.6	1.7	848年	円筒形。皇朝十二段。M9d01X		MR462 PL282	
19	里栄元吉	2.4	0.6×0.6	2.9	1101年	円筒形。北宋銘。M8g71X		M8423 PL282	

回収番号	器種	計測値				石材	表面と調査の若版	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重積(g)			
第707回20	剝片	3.0	3.3	0.6	4.6	頁岩	薄手の寸詰まりの剥片。	Q8417 PL284
21	剝片	(2.6)	3.2	0.9	11.2	頁岩	三角形を呈す。横長剥片。	Q8418 PL284
22	剝片	2.6	3.1	0.7	(4.8)	頁岩	表面に自然面を残す。麻透剥片の上位層。	Q8419 PL284
23	削器	3.1	4.2	1.3	23.9	頁岩	手の握持跡を有する。本導引の垂直面を 中心に削痕を加え、刃部を削り出している。	Q8416 PL284
24	鋸	2.3	2.0	0.4	1.0	瑪瑙	両面押付剥削。左右対称形。黒墨。	Q8420 PL284
25	鋸	1.8	1.5	0.4	0.6	瑪瑙	両面押付剥削。左右対称形。無墨。	Q8421 PL284

## 第4節 まとめ

### 1 はじめに

当遺跡の調査は、平成7年4月から平成12年3月までの5年間にわたって実施され、調査した遺構数は、堅穴住居跡1,331軒、土坑1,260基、掘立柱建物跡120棟など、膨大な数に上る。これまでの調査から、当遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代を中心とする複合遺跡であることが判明している。当遺跡は、律令期の行政組織において常陸国河内郡名郷に属しており、遺跡の規模や出土遺物、並びに配置された掘立柱建物跡群などから、郷の中心的な集落跡になると考えられる。

本報告書は、平成10・11年度に調査したつくば市熊の山遺跡のうち、平成10年度に調査した調査10区を除く遺構と遺物を扱っている。概要は次のとおりである。

確認された遺構は、堅穴住居跡309軒（古墳時代134軒、奈良・平安時代171軒、時期不明4軒）、掘立柱建物跡60棟（古墳時代7棟、奈良・平安時代53棟）、溝29条（奈良・平安時代3条、時期不明26条）、井戸跡7基（奈良・平安時代1基、中世1基、時期不明5基）、道路状遺構2条（中世）、方形堅穴状遺構13基（中世1基、時期不明12基）、地下式壇6基（中世）、土坑391基（その内性格が明らかなものは、火葬施設4基、墓壙1基）である。旧石器時代及び縄文時代の遺物は出土しているが、遺構は確認されていない。弥生時代に関しては、遺構・遺物とともに確認されていない。なお、堅穴住居跡で遺構の規模と時期が不明であるものは、住居跡一覧表だけに記載している。

出土した遺物は、旧石器時代の石器、縄文時代の上器片・石器、古墳時代の上部器・須恵器・金屬製品・石製品・土製品、奈良・平安時代の十輪器・須恵器・灰釉陶器・腰帶具・金尾製品・石製品・土製品・古錢・巾・近世の陶器片・壺管・古錢・土製品・木製品などである。旧石器時代と縄文時代の遺物は、表面採集された、あるいは他の時代の遺構に混入していたものである。

今回報告した調査4・8区で主な遺構としては、古墳時代後期では、調査4区にみられる一边が8～9mを超える人形の堅穴住居跡や、第33・55～57号掘立柱建物跡がある。奈良・平安時代では、調査8区の北部で検出された「し」字状に配置された掘立柱建物跡群と、同じ調査8区の南部で検出された堅穴住居跡をほぼ「コ」の字状に囲むように配置された掘立柱建物跡群がある。さらに、当遺跡を取り囲むように新築研堀状に掘り込まれた第16・35A・35B号溝と大形の第30号井戸跡などがあげられる。出土遺物では、第16号溝、第35B号溝と第30号井戸跡からそれぞれ出土した須恵器の大甕、その他これらとの遺構及びその他の遺構から出土した多量の遺物がある。これらは奈良・平安時代、特に律令期の集落の様相を考察する上で、貴重な資料になるものと考えられる。中世では、調査4区の北部で検出された第12・60号溝によって「コ」の字状に囲まれた区域に、墓壙や墓塚の可能性がある土坑群、火葬施設、地下式壇、井戸跡、方形堅穴状遺構、柵列がある。このように各遺構がセットで検出された例は少なく、中世の葬送儀礼を考察する上で、重要な資料と考えられる。

ここでは、今回報告分の調査4・8区を中心として、これまで報告されている調査区の遺構・遺物を含め、当遺跡の主体となる古墳時代後期及び奈良・平安時代の集落の様相について、堅穴住居跡、掘立柱建物跡及び溝、大形井戸跡等の特徴的な構造や須恵器の大甕、その他の遺物から若干の考察を加え、まとめたい。

### 2 古墳時代後期の集落の様相

#### (1) 集落の変遷について

この項では、下掲の表<sup>1)</sup>をもとに古墳時代後期の集落の変遷について概観しておく。

・ 6世紀代

確認された当該期の堅穴住居跡の数は、今回報告する範囲では調査4区で37軒、5区で1軒、8区で12軒である。これまでの調査報告では、今回報告分を含めて181軒が確認されている。6世紀前半または前葉から中葉の時期に比定された住居跡は16軒だけである。5世紀代に比べわずかに住居跡数が増え、7区で8軒、11区で7軒が比較的まとまって検出されているほか、5区で2軒、6区で1軒、8区で1軒が検出されている。住居跡が急激に増加するのは、6世紀後半以降からである。6世紀後半の住居跡の分布は、調査区域の北部にあたる11区から中央部から西部にあたる4・8区にかけて密であり、東側から台地上に入り込む谷部（1区と5区の間に広がる、標高16~19mの部分）を囲むように標高20~22mの地点にかけての台地上全体に広がりをみせている。大形住居跡<sup>2)</sup>の分布を見ても、調査4・11区に集中しており、遺構の配置から、さらにこの時期の集落の範囲が、調査4・8区の西側の未調査区域に広がっていることを想定させる。なお、6世紀後半から7世紀にかけての集落の移動と考えられる2×2間の柱式の掘立柱建物跡（第15・51・120号）が、それぞれ4・5・8区で確認されている。

・ 7世紀代

当該期の堅穴住居跡は、今回報告する範囲では調査4区で50軒、5区で4軒、8区で29軒が確認されている。これまでの調査報告では、今回報告分を含めて182軒が確認されている。7世紀は、前半と後半とは、堅穴住居跡の分布状況に変容が見られる。堅穴住居跡の最も密な分布地帯が、7世紀前半はやや南部へ移動するものの6世紀後半に引き続くものと考えられ、大形住居跡の分布も、5区で増加し11区で減少するものの6世紀後半と同様の傾向を見せている。

様相に変化が見えるのが、7世紀中葉を含めた7世紀後半である。これまでに確認された7世紀後半または中葉から後葉の時期に比定された住居跡は28軒であり、4区で10軒、6区で9軒、2区で1軒、5区で2軒、7区で2軒、8区で3軒、11区で1軒が検出されている。大形住居跡も4・6・7区からの各1軒ずつ計3軒にとどまり、住居跡数の減少とともに大形住居跡数も減少している。また、集落の範囲も縮小し、調査4区の中央部から北西部にかけての範囲と6区に住居跡の分布が目立つ程度である。7世紀後半の時期で注目すべき遺構としては、4区の西部で確認されている第35~57号掘立柱建物跡があげられる。3棟ともにはほぼ同じ方向であり、とりわけ、第55号掘立柱建物跡（5×3間）・第57号掘立柱建物跡（6×3間）は、この時期の掘立柱建物跡としては、柏木古墳群遺跡で確認されている第1~3号掘立柱建物跡に匹敵する規模のものである<sup>3)</sup>。また、3か所の柱穴だけ確認され、さらに未調査区に延びていると考えられる第53号掘立柱建物跡も7世紀代の遺構である。これらの掘立柱建物跡からも、この時期、相当の有力者が存在したことを想像せるものである<sup>4)</sup>。

表19 各期・各区住居跡数 [表中の( )内の数字は、一辺が6mを超す大形の住居跡である]

調査区	4世紀	5世紀	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	計(軒)
調査1区	3	1	13(1)	4	13	12	3	49(1)
2	1	1	3(1)	1	1	3	25	35(1)
3			11	7	5	4	9	36
4		1	44(14)	56(13)	62(2)	27	38	228(29)
5	7(1)	3	17(8)	30(14)	15	14	10	96(23)
6	6(5)	6(2)	16(3)	22(2)	43	27	72	206(14)
7	2		12(1)	10(5)	37(1)	63(1)	51	178(8)
8			21(2)	41(9)	27(1)	39(6)	17	142(18)
9					1	2		3
11	18	1	47(26)	11(6)	32	29	20	158(32)
計(軒)	47(6)	13(2)	181(58)	182(49)	236(4)	220(7)	248	1126(126)

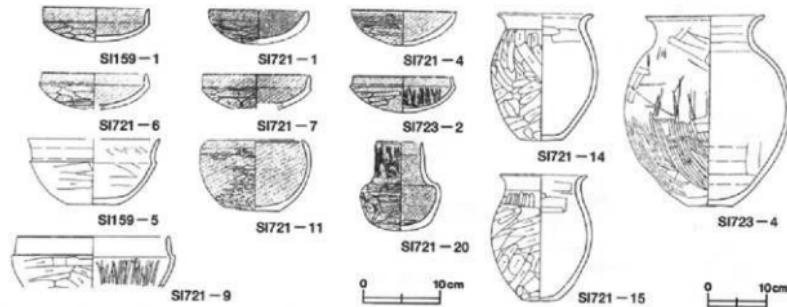
## (2) 出土遺物について

### ① 土器の様相について

ここでは、熊の山遺跡から出土した土師器の変遷について、古墳時代後期に焦点を絞り、述べることとする。土器編年を試みるにあたり、形態変化が明瞭な杯に伴う甕・瓶・高杯等の土器組成を捉え、各器種の形態変化や遺構の重複関係、須恵器との共存関係を検討し、組み立てた。

### I期（第708図）

杯は、楕円形杯と須恵器杯身の模倣杯、須恵器杯蓋の模倣杯が混在する。組成率は、楕円形杯37%、杯身模倣杯19%、杯蓋模倣杯44%である。計測値は、口径12.0~14.4cm、器高3.7~4.9cmであり、特に、口径12.0~14.0cm、器高4.5~4.9cmに集中する。黒色処理率は87%と高く、赤色されたものは出土していない。技法は、底部外面にヘラ削りやヘラナデ、内面にナデや横ナデが施されたものを主体とし、放射状のヘラ磨きが施されたものも少数ながら存在する。甕は、やや縦長の球形を呈し、体部下間にヘラ磨きが施されているものと、倒卵形を呈し、体部外面にヘラ削りが施されているものがある。楕・鉢類は、須恵器模倣杯を大形にしたような、口縁部と体部の境に稜や段をもつものが多数を占める。技法は、杯とほぼ同様に、体部外面にヘラ削り、内面にナデあるいは放射状のヘラ磨きが施されている。



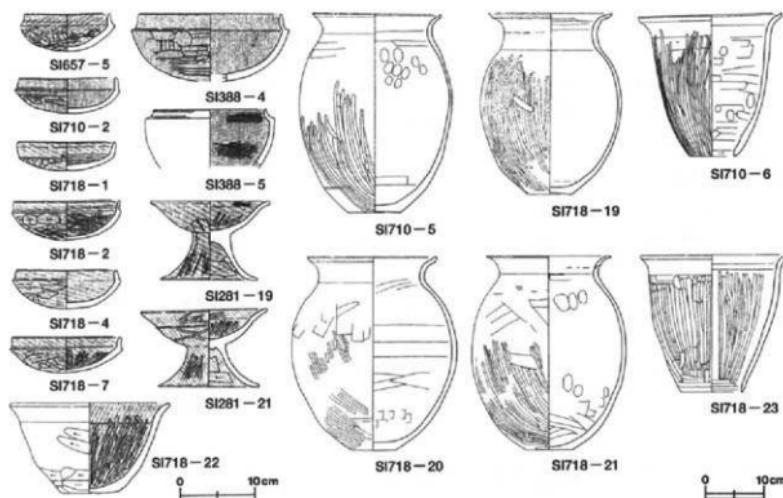
第708図 第I期出土土器

### II期（第709図）

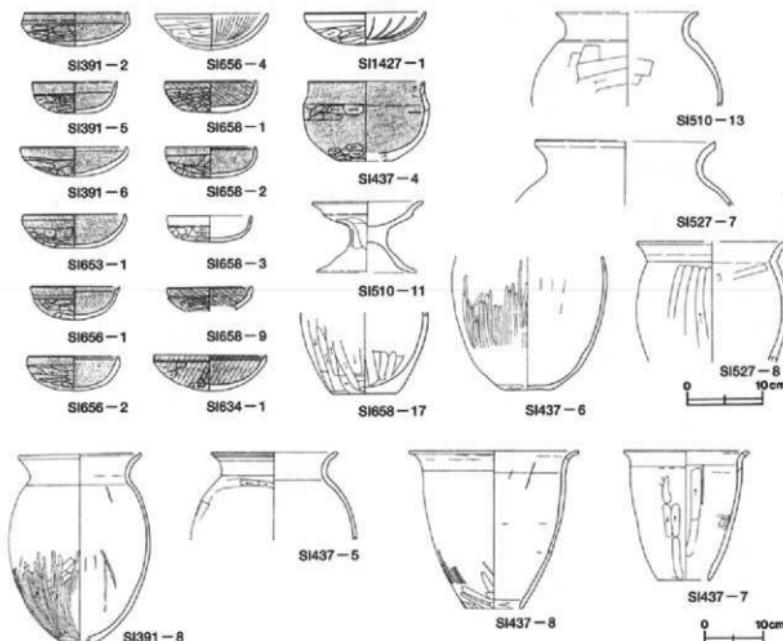
本期は、須恵器模倣形態の主体が蓋模倣から身模倣へと転換する段階である。組成率は、楕円形杯31%、杯身の模倣杯46%、杯蓋の模倣杯23%である。黒色処理率はさらに高くなり、97%を占める。計測値は、口径11.4~14.8cm、器高3.7~5.5cmであり、特に口径12.7~14.4cm、器高4.4~5.2cmに集中する。技法は、前期同様、底部外面にヘラ削り、内面にナデやヘラ磨きが施されたものが主流である。高杯は、脚部がラッパ状に開き、杯部と脚部の器高がほぼ等しいものが多い。甕は、長胴化の傾向にあり、口縁端部が外方につまみ出されるようになる。体部に施されたヘラ磨きが上位にまで及ぶものも見られる。瓶は、体部外面にヘラ削りが施されたものとヘラ磨きが施されたものがあり、調整はいずれも体部上位にまで及ぶ。

### III期（第710図）

本期は、大形化の傾向にあった杯が、小形化、あるいは扁平化する時期である。計測値は、口径10.9~14.8cm、器高3.4~5.4cmで、特に、須恵器模倣杯は口径10.9~13.0cm、器高3.9~4.5cmに集中し、小形化の傾向を示し、楕円形杯は口径13.7~14.8cm、器高3.4~4.4cmに集中し、扁平化の傾向を示す。黒色処理率は、前期より減少し、73%である。技法は、体部外面にヘラ削り、内面にナデ調整が施されているものが主流である。本期



第709図 第Ⅱ期出土土器



第710図 第Ⅲ期出土土器

には、密な放射状のヘラ磨きが施されたものはほとんど見られなくなり、代わって暗文風のヘラ磨きが放射状に施されたものが组成に加わる。また、椭形坏の中には、口縁端部の内面に段を有するものが出現する。高坏は、脚部がさらに外方に開き、坏部の口径と脚部の底径がほぼ等しくなってくる。出土量は減少し、本期をもって消滅する。甕は、長胴化への移行が顯著である。体部上位にまで及んでいたヘラ磨きは、中位以下に限定されるようになる。また、体部外面にヘラ削りが施されているものも認められる。瓶は、体部外面にヘラ削りを施したもの出土数が増加する。瓶・鉢類は、内面に放射状のヘラ磨きが施されたものがなくなり、ナデあるいは横位のヘラ磨きが施されたものが主体となる。また、本期から、須恵器が供伴するようになる。

#### V期（第711図）

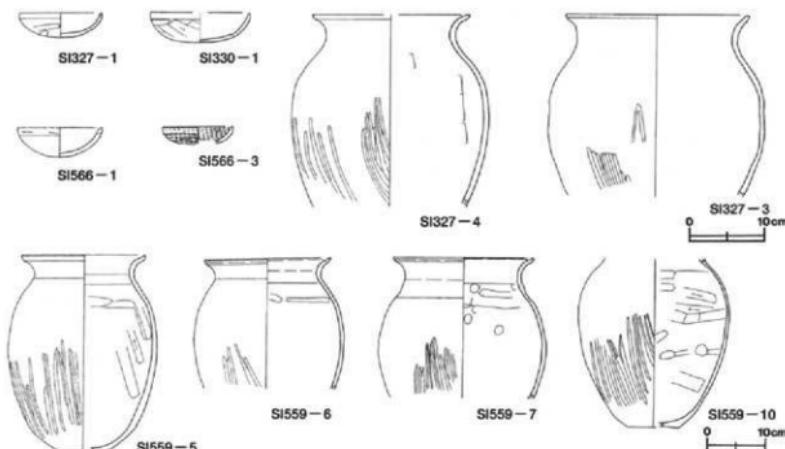
坏は、さらに小形化の傾向にあり、深みのある椭形坏の出土数が増加する。計測値は、口径10.6～12.3cm、器高2.8～4.5cmである。本期になると、黒色処理率は20%に減少する。技法は、前期と同様である。甕は、前期とほぼ同様に長胴化の傾向を示し、その他に頸部のくびれの少ないものも出土している。



第711図 第IV期出土土器

#### V期（第712図）

坏は、前期と同様、小形化の傾向にある。計測値は、口径9.8～11.8cm、器高2.6～4.1cmである。黒色処理率は、前期とほぼ同様の25%である。甕は、長胴化が進み、口縁端部のつまみ上げの明瞭なものの出土量が増加する。体部下半の膨らみが大きく、安定感のあるものや、肩がわずかに張るものもこの時期に見られるよう



第712図 第V期出土土器

になる。

以上、熊の山遺跡の古墳時代の土器様相について概観した。実年代は、Ⅲ・Ⅳ期に属する住居跡から出土したTK209型式からTK217型式併行と考えられる須恵器坏を基準として、樺村立行氏<sup>5)</sup>、浅井哲也氏<sup>6)</sup>の編年を参考にすると、I期を6世紀中葉に、V期を7世紀後葉にするのが妥当と思われる。

#### ② 石器・石製品について（第713・714図）

熊の山遺跡では、33点の白玉が出土している。石材は、滑石25点、綠泥片岩2点、蛇紋岩2点、珪岩1点、蛭石1点、不明2点である。時期別にみると、7世紀前半の住居跡から最も多く出土し、次いで6世紀後半の住居跡からが多く、7世紀後半の住居跡からは1点が出土しただけである。形態は、厚さが穿孔面の直径未満で、円筒を紅かく輪切りにしたような、いわゆる平玉状のものがほとんどである。調整は粗神で、穿孔後の仕上げの研磨がなされていないものが多く、中には、上下の穿孔面が平行でないものや側面が未調整のものも見受けられる。これらのことから、当遺跡から出土した白玉は未製品のような印象を受けるが、遺跡内の広い範囲から30点を超える点数が出土していることから、製品として流通したと考えるのが妥当と思われる。するならば、これらの白玉は、篠原祐一氏の編年案のように、「稀少性から普及という現象<sup>7)</sup>に応じて、製品の量産化とそれに伴う製作の簡略化が進み、やがて消滅していく」という、まさに終末期の様相を呈していることになる。さらに、個々の大きさをみると、径がほぼ1cm前後のものが大部分を占めるものの、中には径1.5cmを超える、白玉としては大形のものも見受けられる。先の編年案に従えば、「小さなもののは加工は難しいため、人形化することにより少しでも簡単に製作できるように試みた結果<sup>8)</sup>」と言え、このことは、既定の人大きさの概念が崩壊したことを意味するものと考えられる。次に、出土数を住居跡ごとにみていくと、4点出土した住居跡が1軒、2点出土した住居跡が6軒で、その他は住居跡1軒につき1点の出土であることから、個々の白玉を環状にして使用する木の白玉の使用方法ではなく、二次的な使用の可能性が考えられる。篠原氏は、住居跡から出土する白玉の性格について、二つの可能性を指摘している。一つは、「御札、お守りのように、場所を異にして行われた祭祀行為の終了とともに、祭祀具に護符的性格が与えられ、それらが各住居に配与される」ものであり、もう一つは、「白玉の入手が困難な場合に、1点の石製円玉以外を有機物で代用する」ものである。そのいずれかを裏付けるような出土状況は確認されていないが、白玉の多くは束面や覆土下層から出土しており、混入ではなく、住居に伴うものと考えられることから、篠原氏の指摘した可能性も十分に想定される。

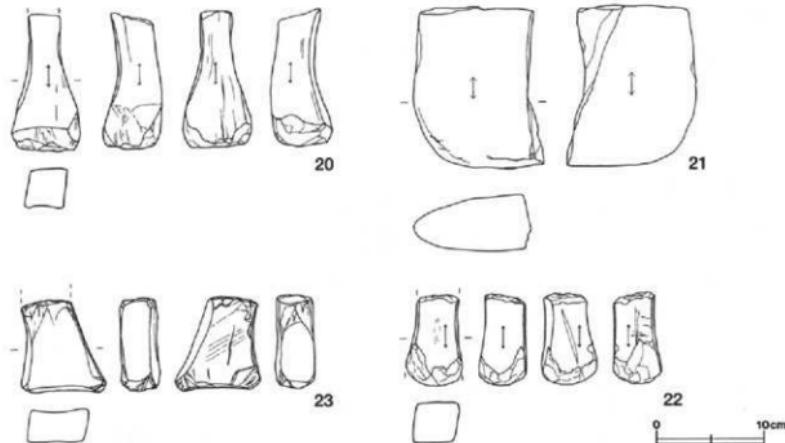
また、当遺跡からは、白玉以外に、勾玉4点（綠泥片岩2・鵝卵1・滑石1）、丸玉2点（頁岩・蛇紋岩）、管玉1点（鵝卵）、有孔円板1点（滑石）、双孔円板1点（綠泥岩）が出土している。いずれも住居跡からの出土であり、出土地点から判断して、住居に伴う可能性の高いものが多い。管玉や勾玉を模造した土製品も出土していることから、祭祀具としての稀少性をうかがうことはできるが、出土数が少ないために、その性格付けについては保留する。

砥石は、23点出土している。石材の内訳は、綠泥岩製20点、砂岩製2点、安山岩製1点である。形態は方柱状のものが主体で、よく使い込まれて中央部が薄くなり、その薄くなつた部分から折損してしまったものが多い。側面4面を底面としているものがほとんどで、中には、面によって彎曲度の違うものも見受けられる。第713図9や17は、幅の狭い面が大きく彎曲していることから、その面が主に使用されていたものと考えられる。その理由として、佐々木義則氏は、「幅の広い方向を正面として使用すると、少しの彎曲で折れてしまい、使用期間が短くなってしまうからではないか」<sup>9)</sup>と推測している。また、一方の端部が穿孔され、掻げ砥として使



第713図 砥石集成図（1）

用されたと考えられるものが4点出土している。中でも、5は破損面側が穿孔されていることから、長期の使用により折損してしまった据え紙を、提げ紙としてさらに使用し続けたものと考えられる。



第714図 砥石集成図(2)

石製紡錘車は、8点出土している。材質は、滑石3点、蛇紋岩3点、ホルンフェルス1点、粘板岩1点である。重量は70gを超えるものが1点、20g未満のものが1点で、その他は30~50gである。いずれも無文で、断面が逆台形を呈しており、形態的な差異は見られない。

表20 石器・石製品一覧表

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)						
1	白玉	1.2	0.7	0.3	(1.0)	珪岩	平玉状、作り難。	SI-3	覆土下層	7世紀後半	Q2
2	白玉	1.3	(0.9)	0.3	(2.0)	緑泥片岩	平玉状、作り難。	SI-64	覆土中層	7世紀前半	Q14
3	白玉	1.2	(0.8)	0.3	(2.0)	円錐状、作り難。	SI-78	ピット1覆土中	6世紀後半	Q38	
4	白玉	1.7	1.0	0.3	3.56	不明	平玉状、作り難。	SI-141	ピット2底面	6世紀後半	Q41(65)
5	白玉	1.5	0.9	0.4	2.16	不明	平玉状、作り難。	SI-141	ピット2底面	6世紀後半	Q5
6	白玉	1.2	(0.9)	0.35	(1.58)	滑石	円錐状、作り難。	SI-423	廻西側床面	6世紀後半	Q5003
7	白玉	1.2	0.3	0.25	0.44	鐵石	平玉状	SI-435	廻東側覆土下層	7世紀前半	Q5004
8	白玉	0.8	0.9	0.3	2.16	滑石	平玉状、作り難。	SI-810	中央部覆土上層	7世紀前半	Q2006
9	白玉	1.6	0.6	0.3	1.66	滑石	平玉状、作り難。	SI-515	覆土中	7世紀前半	Q2007
10	白玉	0.9	0.7	0.2	0.88	滑石	円錐状、作り難。	SI-780	北西部覆土下層	7世紀前半	Q11008
11	白玉	1.4	0.8	0.3	2.48	滑石	平玉状、作り難。	SI-780	廻東側覆土中層	7世紀前半	Q11007
12	白玉	0.9	0.8	0.3	1.28	滑石	円錐状	SI-806	覆土中	7世紀前半	Q11015
13	白玉	0.9	0.6	0.3	0.81	滑石	平玉状、作り難。	SI-811	ピット1付近床面	7世紀前半	Q11018
14	白玉	1.4	0.7	0.4	1.32	滑石	平玉状、作り難。	SI-811	南西コーナー床面	7世紀前半	Q11019
15	白玉	1.0	1.0	0.4	0.47	滑石	平玉状、作り難。	SI-831	南西壁際床面	6世紀中期	Q11023
16	白玉	1.5	0.5	0.3	1.18	滑石	平玉状	SI-836	覆土中	6世紀後半~後期	Q11029
17	白玉	2.0	0.96	0.35	5.91	滑石	平玉状、作り難。	SI-891	覆土中	6世紀後半	Q112010
18	白玉	0.72	0.5	0.15	0.27	滑石	平玉状	SI-897A	覆土中	6世紀後半	Q112013
19	白玉	0.6	0.6	0.16	0.28	滑石	圓玉状	SI-900	廻東側床面	7世紀前半	Q112014
20	白玉	0.65	0.49	0.15	0.24	滑石	圓玉状	SI-900	廻東側床面	7世紀前半	Q112015
21	白玉	1.3	1.15	0.3	2.67	滑石	円錐状	SI-932	東部床面	7世紀前半	Q8002
22	白玉	1.1	0.1	0.3	0.47	滑石	平玉状、作り難。	SI-932	東部床面	7世紀前半	Q8003
23	白玉	1.3	0.4	0.3	(0.4)	滑石	平玉状	SI-935	中央部床面	6世紀後半	Q8005

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土遺物	時期	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)					
24	臼 玉	1.1	1.0	0.3	1.58	純板岩	圓玉状	SI-92	西西部覆土中 6世紀後半 Q41006
25	臼 玉	1.0	0.7	0.3	1.20	純板岩	圓玉状	SI-972	北西部底面 6世紀後半 Q41006
26	F1 玉	1.1	0.7	0.3	1.24	滑石	半玉状	SI-972	北西部底土中 6世紀後半 Q41007
27	F1 玉	1.4	0.4	0.3	1.2	滑石	半玉状	SI-973	北東部覆土下層 7世紀前半 Q41008
28	臼 玉	1.1~1.2	0.4	0.3	0.75	滑石	半玉状	SI-1010	北東部覆土下層 7世紀前半 Q41019
29	臼 玉	1.3~1.6	0.6	0.4	1.7	滑石	半玉状	SI-1040	北東部圓底面 7世紀前半 Q41021
30	臼 玉	1.8	0.7	0.3	3.2	滑石	半玉状, 作り難い	SI-1102	東部圓底土中層 7世紀前半 Q41004
31	F1 玉	1.5	0.8	0.5	2.0	滑石	半玉状, 作り難い	SI-1110	東部圓底土中層 7世紀前半 Q41005
32	F1 玉	1.1	0.4	0.3	0.75	滑石	半玉状	SI-1139	北西部覆土下層 6世紀後半 Q41050
33	臼 玉	1.1	0.5	0.3	0.66	滑石	半玉状, 作り難い	SI-1159	北西部覆土下層 6世紀後半 Q41050
34	丸 玉	0.8	1.0	0.2	0.86	碧玉	空心圓半球形	SI-310	覆土中 7世紀後半 Q41013
35	丸 玉	1.1	1.0	0.3	1.88	純板岩	空心圓半球形珠	SI-1166	覆手前腕土下層 7世紀中期 Q410571
36	管 玉	1.1	3.0	0.3	7.91	碧玉	圓筒形, 中央部を穿孔	SI-888	北西部覆土下層 7世紀前半 Q41009
37	有孔円板	3.1	0.4	0.2	6.75	滑石	圓板形, 中央部を穿孔	SI-761	中央部覆土中層 6世紀後半 Q41005
38	双孔円板	2.0	0.3	0.3	2.5	綠泥岩	上穿孔, 平凹形穿孔	SI-924	覆土中 7世紀前半 Q41

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土遺物	出土位置	時期	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)						
39	勾 玉	2.6	1.6	0.7	0.2	5.0	結晶片岩	完形, 薄部を穿孔	SI-149	覆土下層 7世紀後半 Q513(4)
40	勾 玉	(2.0)	1.1	0.6	—	(2.0)	綠泥片岩	穿孔部空, 穿孔不規	SI-246	覆土上層 7世紀後半 Q46
41	勾 玉	2.8	1.7	—	0.2	4.9	瑠璃	完形, 穿孔を穿孔	SI-744	覆手前腕土下層 7世紀前半 Q5014
42	勾 玉	3.3	2.1	—	0.2	8.6	滑石	完形, 穿孔を穿孔	SI-779	覆内腹土中 7世紀前半 Q11006
43	勾 玉	3.1	2.0	0.99	0.4	8.11	滑石	穿孔, 穿孔を穿孔	SI-892	西地盤床面 7世紀後半 Q412011

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土遺物	出土位置	時期	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)						
1	砥 石	(4.2)	(2.0)	2.5	(320)	安山岩	平面5面	SI-31	床面	6世紀 Q7
2	砥 石	10.6	4.5	3.2	(1760)	凝灰岩	完形, 斜面4面	SI-162	西壁突起覆土下層 6世紀後半 Q16	
3	砥 石	8.4	3.3	3.1	(1240)	凝灰岩	底面4面	SI-175	覆土中 7世紀前半 Q18	
4	砥 石	(9.5)	4.2	1.4	(1073)	凝灰岩	底面4面	SI-732	ピット剝離覆土下層 6世紀後半 Q11002	
5	砥 石	(4.9)	3.9	2.5	(810)	凝灰岩	底面4面, 薄面2面	SI-800	底土中 6世紀後半 Q11011	
6	砥 石	(7.3)	3.1	3.1	(930)	凝灰岩	底面4面	SI-800	南端壁床面 6世紀後半 Q11012	
7	砥 石	10.4	3.9	3.1	2410	凝灰岩	底面4面	SI-800	南端壁床面 6世紀後半 Q1013	
8	砥 石	(5.4)	4.1	2.1	(989)	砂岩	底面4面	SI-829	中央部床面 6世紀後半 Q11021	
9	砥 石	9.3	4.2	4.5	2350	凝灰岩	底面4面	SI-831	中央部床面 6世紀後半 Q11024	
10	砥 石	7.2	3.4	2.4	890	凝灰岩	底面4面	SI-8330	南京國際館土下層 6世紀後半 Q11028	
11	砥 石	6.1	2.5	1.7	420	凝灰岩	底面4面, 空洞2面	SI-8358	南京國際館床面 6世紀後半 Q11027	
12	砥 石	(9.6)	5.0	5.1	(2983)	凝灰岩	底面4面	SI-849	光環帶床面 7世紀中期中蓋 Q112002	
13	砥 石	(8.3)	4.0	4.3	(1544)	砾岩	底面4面	SI-877	中央部腰土中層 7世紀中期中蓋 Q112005	
14	砥 石	(5.3)	3.8	1.85	(545)	砾岩	底面4面	SI-943	南京國際館土下層 6世紀後半 Q801	
15	砥 石	(7.8)	3.9	3.2	(1449)	砾岩	底面4面	SI-987	南京國際館床面 6世紀後半 Q11009	
16	砥 石	(2.3)	(2.1)	0.8	(39)	砾岩	基部全穿孔, 斜面2面	SI-987	中央部覆土中 6世紀後半 Q41010	
17	砥 石	(12.0)	5.9	2.1	(325)	砾岩	底面4面	SI-1002	南部斜面 6世紀後半 Q41010	
18	砥 石	3.4	1.9	2.2	163	砾岩	底面4面	SI-1010	西南部覆土下層 6世紀後半 Q41020	
19	砥 石	(9.1)	6.8	4.9	(4470)	砾岩	底部穿孔, 斜面2面	SI-1010	北部覆土下層 7世紀後半 Q41021	
20	砥 石	(12.5)	6.4	5.4	(4405)	砾岩	底面4面	SI-1055	南京國際館床面 7世紀後半 Q49003	
21	砥 石	(14.0)	5.1	5.1	(12690)	砂岩	底面4面	SI-1079	ピット剝離底土中層 7世紀前半 Q41035	
22	砥 石	(6.4)	(5.2)	4.4	(2692)	砾岩	底面4面	SI-1110	北部覆土中層 7世紀前半 Q40003	
23	砥 石	8.0	7.9	3.0	3250	基板岩	底板4面	SI-1429	南京コーナー部木面 6世紀後半 Q8406	

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土遺物	出土位置	時期	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)						
1	筋 鋒 車	3.7	1.8	0.8	(58.2)	滑石	無文, 斜面適合形	SI-934	西壁際底面	7世紀前半 Q8005
2	筋 鋒 車	3.8	1.4	0.9	30.0	滑石	無文, 斜面適合形	SI-786	中央部底土下層 7世紀前半 Q11010	
3	筋 鋒 車	3.9	1.5	0.7	34.6	滑石	無文, 斜面適合形	SI-849	北壁際底面 7世紀前半 Q11003	
4	筋 鋒 車	4.1	1.8	0.9	46.5	純板岩	無文, 斜面適合形	SI-937	東壁際底面 7世紀前半 Q41003	
5	筋 鋒 車	3.9~4.1	1.6	0.6~0.7	35.8	純板岩	無文, 斜面適合形	SI-1010	西壁際底土下層 6世紀後半 Q410018	

番号	基盤 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土調査		時期	備考
							出土遺構	出土位置		
6	馬蹄車	3.7~3.8	1.0	0.6	19.7	粘土岩 無文、断面丸角形	SI-1012	西堀跡床面	6世紀後半	Q41022
7	馬蹄車	3.8	2.0	0.8	36.9	粘土岩 無文、断面逆台形	SI-1123	中央部床面	7世紀前半	Q40007
8	馬蹄車	5.5	1.7	0.9	71.0	粘土岩 無文、断面逆台形	SI-1430	南部覆土中層	7世紀前半	Q8422

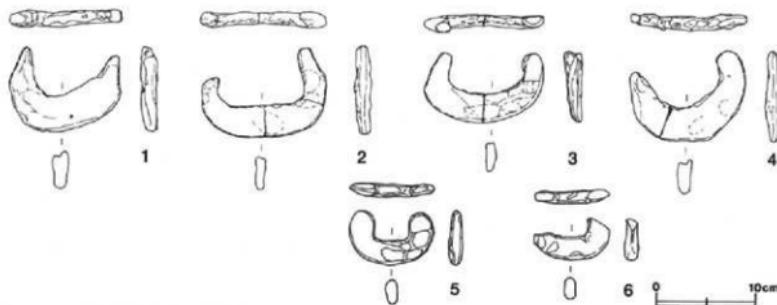
### ③ 土製品について(第715図)

土製玉類については、小玉23点、丸玉16点、勾玉13点、管玉4点、臼玉1点、切子玉1点、襄玉1点が出土している。住居跡ごとの出土数を見てみると、複数点出土している住居跡はわずかに6軒で、第64号住居跡から丸玉3点、勾玉1点、切子玉1点、第388号住居跡から勾玉1点、管玉1点、第510号住居跡から小玉10点、第876号住居跡から勾玉2点、第1445A号住居跡から丸玉2点、第1445B号住居跡から勾玉2点が出土している。それ以外は、いずれも住居跡1軒につき1点だけの出土である。

第510号住居跡は、出土した小玉10点のうち9点が床下から検出されたという点で注目される。それらは掘り方調査時に南西部の床下から検出されたものであり、住居を構築する際に地鎮に関わる祭祀行為が行われた可能性が考えられる。また、第1445A号住居跡の竈袖部構築材からは、丸玉2点が出土している。同様の出土例として、埼玉県本庄市の南大通り線遺跡では、中期から後期にかけての堅穴住居跡12軒の竈袖部構築材から滑石製臼玉10点や土製丸玉5点の出土が確認されている<sup>11)</sup>。これらは、竈構築の際の「鎮め物」<sup>12)</sup>と考えられており、第1445A号住居跡の出土例も同様の可能性が考えられる。

鉛(錫)先形土製品については、第510号住居跡から4点、第1426号住居跡から2点の出土が確認されている。住居の規模は、第510号住居跡が8mを超える大型のもので、第1426号住居跡が5m程度の中形のものであることから、住居の規模と鉛(錫)先形土製品との相関関係は認められない。県内の出土例はほとんどなく、桜川村尾島遺跡の祭祀跡から3点出土している程度である。尾島遺跡の鉛(錫)先形土製品について報告者は、出土品が農耕具の模造品と考えられることから、「農耕祭祀に関わる五穀豊穣を祈る土製模造品」<sup>13)</sup>と推測している。住居跡からの出土例としては、千葉県我孫子市日秀西遺跡の堅穴住居跡から、鉛(錫)先形土製品10点が確認されている<sup>14)</sup>。特に、041B号住居跡から出土した鉛(錫)先形土製品8点はすべて竈周辺からの出土であり、その性格について報告者は、「これらのものが祭祀又は儀礼用の器具として使用されたものならば、室内祭祀を考えなくてはならない」<sup>15)</sup>としている。当遺跡の場合、第510号住居跡出土の鉛(錫)先形土製品は、竈内や竈付近の覆土中から出土したものであり、日秀西遺跡での出土状況と一致する。ところが、第1426号住居跡出土の鉛(錫)先形土製品は竈手前の床下からのものであり、住居、あるいは竈構築の際にこの土製品を使用して祭祀が行われたとすれば、その目的は農耕祭祀に関わるものというよりも、地鎮祭祀に関わるものとするほうが妥当と思われる。第510号住居跡と第1426号住居跡は、床下から土製品が出土したという点において一致するものの、第510号住居跡の床下から出土したものは小玉であり、両跡の鉛(錫)先形土製品の出土状況は同一ではない。つまり、床下に土製品を埋めて祭祀行為を行った可能性を示す点では一致を見るが、鉛(錫)先形土製品については、一方は竈周辺の覆土中から、もう一方は竈手前の床下から出土していることから、鉛(錫)先形土製品の使用方法や目的が同一であったとは断定できない。いずれにしても、この2軒の住居跡からの土製品の出土例は当遺跡において稀少な存在であることから、明確な性格付けについては今後の資料の集積を待って考察を加えたい。

土製鉢車は、5点出土している。円柱状を呈する1点を除くと、右製鉢車との形態的な差異はほとんど認められないが、径・厚さとともに土製鉢車の平均値が右製鉢車のそれを上回っている。材質の違いからくる重量の不足を、寸法を大きくすることで補ったものと推測される。



第715図 鍾(鑷) 先形土製品集成図

表 21 土製品一覧表

番号	器種	計測値				特徴	出土遺構	当土位置	時期	備考
		径(cm)	厚さ(約)(mm)	孔径(cm)	重量(g)					
1	白玉	1.8	0.6	0.2	1.5	円板状	竪村没覆土下層	6世紀後半	DP2001	
2	小玉	0.7	0.5	0.2	1.0	扁平な球体	竪土下層	6世紀後半	DP2002	
3	小玉	0.8	1.0	0.2	0.71	白玉状	竪穴床面	6世紀後半	DP8(6区)	
4	小玉	0.5	0.9	0.2~0.4	0.41	白玉状	南京東部覆土中	6世紀後半	DP11	
5	小玉	0.7	0.9	0.4	0.68	白玉状	覆土中	7世紀前半	DP2020	
6	小玉	0.4	0.6	0.15	0.12	白玉状	南西部床下	7世紀前半	DP2023	
7	小玉	0.5	0.7	0.2	0.19	白玉状	南西部床下	7世紀前半	DP2024	
8	小玉	0.45	0.6	0.1	0.15	白玉状	南西部床下	7世紀前半	DP2025	
9	小玉	0.4	0.55	0.1	0.15	白玉状	南西部床下	7世紀前半	DP2026	
10	小玉	0.5	0.7	0.25	0.23	白玉状	南西部床下	7世紀前半	DP2027	
11	小玉	0.4	0.55	0.15	0.12	白玉状	南西部床下	7世紀前半	DP2028	
12	小玉	0.5	(0.6)	[0.2]	(0.1)	白玉状	南西部床下	7世紀前半	DP2029	
13	小玉	0.5	(0.5)	[0.15]	(0.08)	球体	南西部床下	7世紀前半	DP2030	
14	小玉	0.35	(0.3)	—	(0.03)	白玉状、貫通孔不明。	南西部床下	7世紀前半	DP2031	
15	小玉	0.6	0.4	0.2	0.17	白玉状	北西部覆土中層	7世紀前半	DP112012	
16	小玉	0.9~1.0	1.1	0.3	1.0	球体	中央部覆土中層	6世紀後半	DP41003	
17	小玉	0.9	0.9	0.3	0.7	白玉状	東部床面	6世紀後半	DP41008	
18	小玉	0.9	0.4	0.1	0.1	白玉状	西部床面	6世紀後半	DP41009	
19	小玉	0.9	0.7	0.2	0.6	球体	東北部埋溝内	6世紀後半~7世紀前半	DP41027	
20	小玉	0.7	0.6	0.1	0.26	白玉状	南西部覆土下層	6世紀後半~7世紀前半	DP41028	
21	小玉	0.8	0.5	0.2	0.33	白玉状	南西部覆土下層	6世紀後半~7世紀前半	DP41029	
22	小玉	0.8	0.7	0.2	0.55	白玉状	南西部覆土下層	6世紀後半~7世紀前半	DP41030	
23	小玉	0.6~0.7	0.4	0.1	0.2	白玉状	竪手前覆土下層	7世紀前半	DP41010	
24	小玉	0.7	0.5	0.1	0.2	白玉状	竪手前床面	7世紀前半	DP41021	
25	丸玉	1.0	0.8	0.3	1.0	球体	覆土下層	7世紀前半	DP19	
26	丸玉	1.0	0.9	0.2	1.0	球体	覆土下層	7世紀前半	DP20	
27	丸玉	1.0	0.8	0.3	1.0	球体	覆土下層	7世紀前半	DP21	
28	丸玉	1.0	0.9	0.3	1.0	球体	覆土中	6世紀後半	DP29	
29	丸玉	1.4	1.3	0.4	3.18	球体	北西部床面	7世紀前半	DP739	
30	丸玉	1.0	0.9	0.3	0.68	球体	ピット4内覆土中	6世紀中葉	DP7032	
31	丸玉	1.0	0.9	0.1	(0.83)	球体	南京コナー床面	6世紀後半	DP5010	
32	丸玉	1.4	1.3	0.2	2.02	球体	北西部床面	6世紀後半	DP11014	
33	丸玉	1.1	1.1	0.3	1.44	球体	北西コーナー床面	6世紀後半	DP11024	
34	丸玉	1.1	1.1	0.15	1.12	球体	竪手前床面	6世紀後半	DP11207	
35	丸玉	1.4	1.5	0.2	2.84	球体	竪手前床面	6世紀後半	DP11206	
36	丸玉	1.1	0.8	0.4	1.0	球体	西壁際床面	6世紀後半~7世紀前半	DP41026	
37	丸玉	1.7~1.8	1.8	0.5	4.1	球体	北壁際覆土下層	6世紀後半~7世紀前半	DP41022	

番号	器種	計測値				特徴	出土位置	出土状況	時代	備考
		径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
38	丸玉	1.0	1.2	0.2	12	球体	SI-1122	西壁梁裏面内	6世紀後半	DP2006
39	丸玉	1.05	1.05	0.2	0.75	球体	SI-1445	東壁部内	6世紀後半	DP8426
40	丸玉	1.05	1.05	0.2	0.88	球体	SI-1445	西壁部内	6世紀後半	DP8427
41	管玉	1.0	1.7	0.2	C.10	断面長楕円形	SI-388	西壁穴蓋上中	6世紀後半	DP500
42	管玉	0.8	1.7	-	(2.30)	円筒状	SI-530	竪南東側壁下付	7世紀後半後期	DP7002
43	管玉	0.9	1.5	0.2	0.17	断面長楕円形	SI-888	北壁側壁上部	7世紀後半	DP1201
44	管玉	1.0	2.0	0.2	1.6	円筒状	SI-1103	ピット内覆石上部	6世紀後半	DP40002
45	切子玉	1.1	2.7	0.2	3.0	完形	SI-64	没土中層	7世紀前半	DP18
46	玉	1.2	2.3	0.2	3.60	完形	SI-807	覆石中	6世紀後半	DP1027

番号	器種	計測値				特徴	出土位置	出土状況	時代	備考		
		径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)							
47	勾玉	2.7	1.7	1.0	0.2	3.36	完形、頭部に穿孔有り	SI-1	覆石中	6世紀後半	DP1214	
48	勾玉	2.5	1.5	0.8	0.2	2.9	完形、頭部に穿孔有り	SI-64	覆石中層	7世紀前半	DP17	
49	勾玉	(1.9)	(1.4)	-	-	0.2 (0.1)	头部欠損、頭部穿孔	SI-388	西壁横貫上下層	6世紀後半	DP5003	
50	勾玉	3.3	2.2	0.9	-	5.0	完形、頭部に穿孔有り	SI-527	ピット2近覆石中層	7世紀前半	DP2033	
51	勾玉	(2.2)	2.0	-	-	0.2 (0.02)	头部欠損、頭部穿孔	SI-407	中央部覆土下層	研究用・複数個	DP400	
52	勾玉	4.3	2.0	1.1	0.7	7.0	完形、面部に穿孔有り	SI-658	電子室覆土中層	7世紀前半	DP7013	
53	勾玉	2.3	1.5	-	-	2.06	完形、面部に穿孔有り	SI-794	中央部覆土下層	6世紀後半	DP1102	
54	勾玉	2.0	1.3	-	-	1.42	完形、面部に穿孔有り	SI-801	覆石中	6世紀後半後期	DP11024	
55	勾玉	(2.7)	(1.3)	0.8	-	12.32	頭部欠損、穿孔不規則	SI-845	蓋置七中	6世紀後半	DP11203	
56	勾玉	3.1	2.0	-	-	0.2	2.89	完形、頭部に穿孔有り	SI-876	中央部床面	9世紀・渤海國	DP11208
57	勾玉	3.1	1.9	-	-	0.3	2.08	完形、頭部に穿孔有り	SI-876	ピット8覆土中	研究用・複数個	DP11209
58	勾玉	2.8	2.3	1.1	0.3	2.51	完形、頭部に穿孔有り	SI-1445	古コーナー焼塗内	6世紀後半	DPF8428	
59	勾玉	1.9	0.6	0.6	0.2	0.83	完形、頭部に穿孔有り	SI-1445B	古コーナー焼塗内	6世紀後半	DP8429	

番号	器種	計測値				特徴	出土位置	出土状況	時代	備考
		径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
1	鍔(鎧)先端上製品	7.8	10.5	1.6	84	完形、平字模を呈する。	SI-510	北正面梁裏上層	7世紀前半	DP2011
2	鍔(鎧)先端上製品	8.1	11.9	1.8	58	完形、凹字模を呈する。	SI-510	裏内	7世紀前半	DP2012
3	鍔(鎧)先端上製品	6.5	11.2	1.6	59	完形、四字模を呈する。	SI-510	西壁袖脚裏上層	7世紀前半	DP2013
4	鍔(鎧)先端上製品	8.4	10.9	1.5	96	完形、背模と腹模の底面。	SI-510	西正面梁裏上層	7世紀前半	DP2014
5	鍔(鎧)先端上製品	5.5	8.5	1.3	433	完形、四字模を呈する。	SI-1426	電子室床下	7世紀後半	DP8421
6	鍔(鎧)先端上製品	(4.2)	7.6	1.5	(31.4)	専ら凹字模を呈する。	SI-1426	電子室床下	7世紀後半	DP8422

番号	器種	計測値				特徴	出土位置	出土状況	時代	備考
		径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
1	筋鍔	3.9	2.8	0.6	430	所面凸形、ナメ	SI-354	北正面梁裏上層	7世紀前半	DP5001
2	筋鍔	4.4	2.9	0.5	61.0	所面邊凸形、ハラ巻き	SI-354	西壁横貫裏上層	6世紀後半～後後	DP7001
3	筋鍔	4.7	2.1	0.9	(29.3)	所面邊凸形、ナメ	SI-439	南正面梁裏上層	6世紀後半	DP4036
4	筋鍔	[6.6]	3.1	[0.5]	(73.5)	所面邊凸形、ナメ	SI-133	西壁裏上層	6世紀後半	DP4005
5	筋鍔	4.3	2.5	0.9	56.8	所面邊凸形、ナメ	SI-133	中央部床面	7世紀前半	DP4006

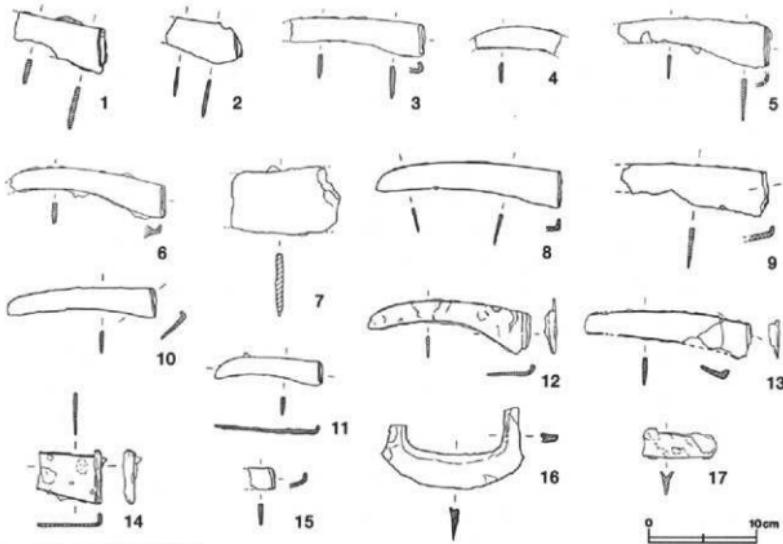
#### (4) 鉄製農具について（第716図）

当遺跡からは、鍔15点、鍔(鎧)先2点が出土している。鍔は、いずれも着柄部側に最大幅をもち、刃部先端が狭くなる曲刀鍔である。着柄部の折り返しは全体に及び、刃部に対してほぼ直角である。大きさについては、7が刃幅6cmほどの大形のもので、4・11・15が刃幅2cmほどの小形のものであることから、大形鍔・中形鍔・小形鍔の3つに分類することが可能である。寺沢氏氏の分類案<sup>10)</sup>に従えば、小形鍔である4・11・15は「細切り鍔」、大形鍔である7は「芝草木除鋸」、その他の鍔は「根刈り鍔」といえよう。一方、柄に対する刃部の角度は、100~105°が主流であるが、7世紀になると第716図1・6・12のようにその角度が115°前後のものも見受けられるようになる。時代が下がるにつれて、柄に対する刃部の角度が大きくなる傾向をうかがうことができ、この傾向は8世紀以降も続く。この刃部の柄に対する角度の変化は、刃部の彎曲度にも反映し、

角度の大きいものは彎曲する傾向にある。ただし、角度の大きい大形のものを農業用鎌と分離させる論考<sup>17</sup>もあることから、角度の違いについては機能面からの考察も必要であり、今後の資料の集積を待ちたい。

**鎌（鋤）**先は、刃先部の長さに対して刃幅の広い凹字形を呈するものである。風呂部が検出されていないため、鎌と鋤の区別は断定できない<sup>18</sup>。16は遺存状態が良好で、全体の形状をうかがい知ることのできる好資料といえる。17は、着柄部の溝が大きく開いており、繰り返し使用されたことにより、めくれ上がってしまったものと推測される。

これらの鉄製農具は、砥石と共に伴していない。しかし、砥石は鉄製品の存在を間接的に証明しうる資料であることから、当遺跡にはこれまでの調査で検出された以上の鉄製品が普及していたことが推測される。



第716図 鉄製農具集成図

表22 鉄製農具一覧表

番号	器種	計測値			特徴	出土遺物	出土位置	時期	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)					
1	鎌	(8.8)	4.1	0.4	(46)	刃部から着柄部片	SI-49	床面	7世紀後半 M9
2	鎌	(7.5)	3.7	0.4	(32)	刃部から着柄部片	SI-119	南壁際覆土下層	7世紀 M37
3	鎌	(12.4)	3.4	0.4	(39)	刃先欠損	SI-253	竈西脇際覆土下層	7世紀後半 M1007
4	鎌	(7.8)	2.5	0.4	(11)	刃部片	SI-253	中央部覆土下層	7世紀後半 M1008
5	鎌	(14.0)	4.5	0.4	(46)	刃先欠損	SI-274	西壁際覆土下層	7世紀中葉 M1013
6	鎌	(14.4)	3.9	0.4	(53)	刃先欠損	SI-330	北壁際覆土下層	7世紀後半 M1031
7	鎌	(9.8)	5.8	0.4	(38)	刃部片	SI-330	南壁際覆土中層	6世紀後半 M1034
8	鎌	16.8	3.4	0.25	49.4	完形、刃部は若干彎曲。	SI-508	中央部床面	7世紀前半 M8421
9	鎌	(13.4)	4.3	0.4	(61.9)	刃部から着柄部片	SI-771	北西部覆土下層	7世紀前半 M1008
10	鎌	13.8	2.7	0.2	27.7	ほぼ完形	SI-827	南壁際床面	7世紀前葉 M11031
11	鎌	10.1	2.2	0.3	21.0	完形、刃部は若干彎曲。	SI-846	中央部覆土中層	6世紀後葉 M112001
12	鎌	(14.8)	2.0	0.2	(35.8)	完形、刃部は彎曲する。	SI-961	北東部覆土下層	7世紀前半 M41003
13	鎌	(15.4)	2.5	0.4	(44.8)	完形・着柄部一部欠損	SI-1032	北西部床面	7世紀中葉 M41022

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	特徴	出土遺物	出土位置	時期	備考
14	縦	(4.1)	4.5	2.3	(56.4)	刃部から着剝落	SI-1045	南東部覆土巾	律令期-7世紀	M41026
15	縦	(2.5)	2.0	0.4	(54)	刃部から着剝落	SI-1405	南西部覆土巾	7世紀前半	M4119
16	縦(側)先	13.0	3.0	0.8	39.3	刃部・部欠損	SI-972	北西部覆土下層	5世紀後半	M41004
17	縦(側)先	(6.8)	2.2	1.2	(22.9)	刃部欠	SI-1048	西郊覆土下層	6世紀後半	M41040

### 3 奈良・平安時代の集落の様相

これまでの調査で検出されている堅穴住居跡の時期や分布状況から、当遺跡は古墳時代後期に引き継ぎ、奈良時代以降平安時代の10世紀まで、集落が継続的に形成されていたことが判明している。堅穴住居の数は、8世紀には前代より増加し、10世紀に至っている。奈良・平安時代の堅穴住居跡は、時期とともにその最も密な分布地域が移り変わっていることがうかがえる。その地域は、8世紀には調査4区、9世紀には調査7区、10世紀には調査6区となり、遺跡北部から南部、そして、遺跡の南東部へと移動している。当遺跡は標高約20mの台地状に存在し、東側には、東谷山川が流れ、その低段丘には水田が広がっている。當時も現在とはほぼ同様の景観であったと推測される。

ここでは、これまでに報告されている各調査区の遺構を加味し、今回報告する調査8区を中心とした堅穴住居跡・掘立柱建物跡等の変遷、出土遺物等から、集落の様相について若干の考察を加えたい。

#### (1) 堅穴住居跡・掘立柱建物跡・溝の関係及びその変遷（第717～719図）

調査8区の特徴のひとつは、調査区の中央に箱型研堀状の第16・35B号溝が、南北にはほぼ一直線状に延び、第16号溝は調査区の中央部では直角に屈曲し、東方向に延びていることである。調査8区の東側は調査7区であり、『茨城県教育財團文化財調査報告』第149集で報告されている第20号溝に接続するものと考えられる。この第16号溝と第20号溝とて、調査7・8区にまたがる区域をほぼ方形に区画している。また、調査8区の北東部には、19棟の掘立柱建物跡群が「L」字状に配置されており、平成9年度の調査7区の北部で検出された掘立柱建物跡と連続している。『茨城県教育財團文化財調査報告』第149集で報告されている調査7区の掘立柱建物跡群は、16棟の掘立柱建物跡が2列平行に規則的に配置されている。これらはすべて第35B号溝の東側、第16・20号溝の北側に位置している。第16・20・35B号溝は、調査7・8区の北側で検出された35棟の掘立柱建物跡群を併せて区画しているものと考えられる。同様に調査8区の南西部からは、33棟の掘立柱建物跡群が検出されている。これらの一部は、9世紀中葉から後葉にかけては堅穴住居跡を曲むように配置されていたと考えられる。このように調査7・8区には、律令期において溝で区画された区域があり、調査7区の北西部から調査8区の北東部にかけての区域と調査8区の南西部の区域との2区域に掘立柱建物跡が集中していることがうかがえる。以上のことから、調査7・8区は、当遺跡の律令期の様相を知る上で重要な区域と考えられる。

以下、調査8区を中心に、奈良・平安時代を8世紀から10世紀の3期に分けて検討する。また、調査8区の北東部から調査7区の北西部にかけての掘立柱建物跡群を第1集中区、調査8区南西部の掘立柱建物跡群を第2集中区と呼ぶことにする。

なお、第501～503・507・512・513・525号堅穴住居跡、第4号掘立柱建物跡は『茨城県教育財團文化財調査報告』第133集に、第715・720号堅穴住居跡は『茨城県教育財團文化財調査報告』第149集に、第35・38・40・43号掘立柱建物跡は『茨城県教育財團文化財調査報告』第166集に、それぞれ掲載されている。

まずははじめに、第1集中区について検討する。

・8世紀

第1集中区の掘立柱建物は、前葉から中葉に掘立柱建物が出現している。この時期には、 $3 \times 3$ 間の総柱式の第35号掘立柱建物と、桁行2間、梁行2間（以下、 $2 \times 2$ 間）で北側と南側に庇が付く第121号掘立柱建物及び第35号掘立柱建物と桁行方向が一致すると思われる第10号掘立柱建物が配置されていたと考えられる。その周囲には、同時期の堅穴住居は検出されていない。各掘立柱建物の性格を判断することは難しいが、第35号掘立柱建物はやや大形の高床倉庫であると思われる。中葉には、調査8区を南北に走る第35B号溝が機能しており、その東側に第121号掘立柱建物を建て替えた第124号掘立柱建物と第47号掘立柱建物が配置されていたと考えられ、掘立柱建物が徐々に増加する傾向がうかがえる。中葉から後葉にかけては、さらに、掘立柱建物の棟数が増して、第35B号溝の東側すでに配置されている第47・124号掘立柱建物を含めて、第37・38・125号掘立柱建物が「L」字状に配置されたと考えられる。第47・124・125号掘立柱建物は、第35B号溝に平行で南北方向に直列配置されており、第37・38号掘立柱建物は、第35B号溝に直交し、東西方向に直列配置されている。これらの掘立柱建物は、第44号掘立柱建物が $3 \times 2$ 間の総柱式建物、第125号掘立柱建物が $2 \times 2$ 間の側柱式建物であるが、その他は、 $3 \times 2$ 間の側柱式建物である。このように第1集中区では、8世紀中葉から後葉にかけて、掘立柱建物及び溝が計画的に造営・整備されたことがうかがえる。

その後、後葉には調査7区の西部に位置する、長幅7.7m、短軸6.8mで、当遺跡のこの時期の住居としては、やや大形の第720号堅穴住居が出現し、その西側には、桁行方向を同じにする第46・118号掘立柱建物とこれに桁行方向が直交する第119号掘立柱建物が、ほぼ同時期に配置されたと考えられる。第720号堅穴住居と第46・118・119号掘立柱建物は、時期的に併存していたと考えられ、また、それらの土軸方向及び桁行方向がほぼ同じことから、一つの施設群として機能した可能性が考えられる。第720号堅穴住居からは、多くの上器が出土しており、供膳具の割合が高いことから、豪族・富豪層の居宅の可能性がある。8世紀の末葉には、第44・127号掘立柱建物が造営されたと思われる。また、「L」字状の掘立柱建物群中の南北に直列配置された第125号掘立柱建物が、第126号掘立柱建物、第123号掘立柱建物の順に、ほぼ同じ位置で2度建て替えられている。

ここにあげた掘立柱建物の桁行方向は、第121号掘立柱建物跡がN-86°-Wで、第47・123~126号掘立柱建物跡がN-3°-W~N-10°-Eで、軸線がいずれもほぼ真北方向に向くのに対して、第46・118号掘立柱建物跡がN-10°-E、第119号掘立柱建物跡がN-77°-Wであり、わずかに東に振れていている。第44号掘立柱建物跡はN-1°-W、第127号掘立柱建物跡はN-3°-Eであり、再度、ほぼ真北方向に向いてくる。

このように第1集中区では、8世紀前葉から中葉にかけて、第35号掘立柱建物のようなやや大形の高床倉庫が配置され、その後は、中葉から後葉にかけて、低い床か、あるいは土間を持つ側柱建物へと変化している。前葉から中葉で、第35・40・47・121・124号掘立柱建物が立ち並んでいた時期までは、調査7区の北部には同時期の第714・717号堅穴住居は存在しても、掘立柱建物の東側に堅穴住居は存在しておらず、空間があったようと思われる。また、掘立柱建物の建て替えは、ほぼ同位置で行われ、時期が下がると桁行方向がやや東に振れる傾向がうかがえる。第35B号溝は、中葉には機能していたとされていることから、第1集中区の掘立柱建物群及び堅穴住居を区画したものと考えられる。

#### ・9世紀

前代に引き続き、第44・126・127号掘立柱建物は前葉まで残るもの、これまで「L」字状を呈していた掘立柱建物群は姿を消し、整然とした配置は崩れてくる。また、第35B号溝の機能は失われていたと考えられる。第720号堅穴住居の南西側に $3 \times 2$ 間で側柱式の第41・45号掘立柱建物が配置されていたと考えられる。その後は、第720号堅穴住居が廃絶され、9世紀中葉には第918号堅穴住居がその西側に出現する。第918号掘立柱

建物の南側に、 $4 \times 2$ 間で側柱式の第42号掘立柱建物と $3 \times 2$ 間で側柱式の第43号掘立柱建物の2棟が配置されるだけになる。第918号竪穴住居と第42・43号掘立柱建物は、時期的にみて一つの施設群として機能した可能性が考えられる。それ以降の掘立柱建物跡は検出されていないことから、消滅したものと考えられる。9世紀代の掘立柱建物は、調査7区を含めてすべてが側柱建物であり、穀物倉庫と考えられるが、一般的には粉を入れたものではなくて、穀穂を入れるために使われた倉または屋へと変化した可能性がある。

#### ・10世紀

この時期の竪穴住居跡及び掘立柱建物は検出されていない。

次に、第2集中区について検討する。第2集中区からも、多数の竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が検出されている。重複が激しく、特に掘立柱建物跡は出土遺物が少ないと時期を断定することは難しいが、わずかに出土している土器と重複関係から判断すると次のようになる。

#### ・8世紀

第2集中区の掘立柱建物は、中葉から後葉にかけて出現している。竪穴住居は8世紀前半には前代よりも減少し、掘立柱建物跡も検出されていない。中葉には、 $3 \times 2$ 間の側柱式建物で南北棟の第86・103・105・107号掘立柱建物が東西方向に並列配置され、その北側には第1214号竪穴住居、南側には第1226・1227号竪穴住居が、それぞれ位置していたと考えられる。後葉には、 $2 \times 2$ 間で縦柱式の第100・104・106号掘立柱建物が互いに隣接して配置され、その周囲には長軸3~5m程度のやや小形といえる第501・502・1215・1220・1223・1231号竪穴住居が、これらの掘立柱建物を取り囲むように位置している。なかでも、第1215・1220・1223号竪穴住居は、お互いの間隔が12m程度のほぼ等間隔に位置している。縦柱式の掘立柱建物は、多くの場合、初倉または施設の桶を納めた倉であり、高床倉庫と考えられている。第100・104・106号掘立柱建物もこれと同様と考えられる。これらの配置から、高床倉庫を中心とする「戸」単位の建物群が存在していたと考えられる。その後、第100号掘立柱建物は、ほぼ同位置で第101号掘立柱建物に建て替えられている。また、それらの東側に $3 \times 2$ 間で縦柱式の第89号掘立柱建物、 $3 \times 2$ 間で側柱式の第108・109号掘立柱建物が配置されている。さらにその東側には、一辺3~4m程度の第525・1203・1412号竪穴住居が、25m程度の間隔に位置している。

ここにあげた第2集中区の掘立柱建物は、第1集中区より遅れて中葉から後葉にかかる時期に、竪穴住居とともに出現している。しかし、第1集中区のような掘立柱建物と溝との関係に当てはめてみると、第16号溝は出土土器から8世紀の中葉にはすでに廃絶されていたと考えられることから、第2集中区は溝による区画ではなく、第100・101・104・106号掘立柱建物及び第89・108・109号掘立柱建物を中心とする建物群で、集落が営まれていたものと考えられる。

#### ・9世紀

9世紀の竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が多数検出されており、特に掘立柱建物は建て替えたなどで重複が激しいため、時期を断定することは難しかった。しかし、あえて前・中・後葉の3期に分類すると次のようになる。前葉と考えられている掘立柱建物は、 $3 \times 2$ 間で側柱式の第73・78号掘立柱建物、 $3 \times 3$ 間で側柱式の第84・85号掘立柱建物及び梁行2間だけが検出された第87B号掘立柱建物の5棟だけであり、周囲から竪穴住居跡は検出されていない。中葉のものとしては、第2集中区の北西部において、 $3 \times 2$ 間で側柱式の第72・74・81号掘立柱建物が考えられる。いずれも桁行方向が一致する東西棟で、なかでも第74・81号は、直列配置されている。また、第74・81号掘立柱建物の南側には、 $4 \times 3$ 間で側柱式の南北棟である第102号掘立柱建物が位置している。中央部では長軸7.9m、短軸7.6mでやや人形の第1241号竪穴住居跡と第1232・1234・1239号竪穴住居

跡が検出されており、その東側には $4 \times 3$ 間の第80A・80B号掘立柱建物と第88号掘立柱建物、第881・886号土坑が検出されている。いずれもこの時期のものと考えられる。そのほかに、南西部に第1228・1236号竪穴住居跡が、第82・83・87A号掘立柱建物跡と重複して検出されており、いずれも中葉と考えられる。この時期の特徴は、第1241号竪穴住居跡、第80A・80B・88号掘立柱建物及び第881・886号土坑が、互いに隣接していることである。また、8世紀に比べ、竪穴住居の大形化の傾向がうかがえる。第1241号竪穴住居跡からは、供膳具を主体とする多量の上器片が出土しており、第80A・80B号掘立柱建物跡の付近から多くの土器片が検出されている。第1241号竪穴住居跡の規模や出土土器から、一般民衆の住居とは考えにくく、豪族・富豪層の住宅の可能性がある。また、第80A・80B号掘立柱建物跡には、東側と南側の2面に目隠し扉のような付属施設跡が検出されている。いずれも性格が不明であるが、竪穴住居1~2軒、掘立柱建物2棟、土坑1基が、一つの施設群として機能していた可能性がある。また、第1241号竪穴住居跡からみて、北西部に位置する第72・74・81・102号掘立柱建物跡も、この施設群と何らかの関係がある可能性もある。

中葉から後葉にかけては、長軸7.2m、短軸7.1mでやや大形の第1233号竪穴住居跡を中心に、その内側には $3 \times 2$ 間で南北棟の第70・71・73号掘立柱建物跡が直列配置され、北側には第1221号竪穴住居跡と $3 \times 2$ 間で東西棟の第79号掘立柱建物跡が検出されている。これらの配置から、第1233号竪穴住居と掘立柱建物との間に空間があったと考えられる。第1233号竪穴住居跡からは、円面鏡が出土しており、出土土器は須恵器が8割を占め、主に供膳具である。これらは竪穴住居2軒と掘立柱建物4棟から構成された一つの施設群と考えられ、先に述べた第1241号竪穴住居と掘立柱建物との関係に類似しているように思われる。

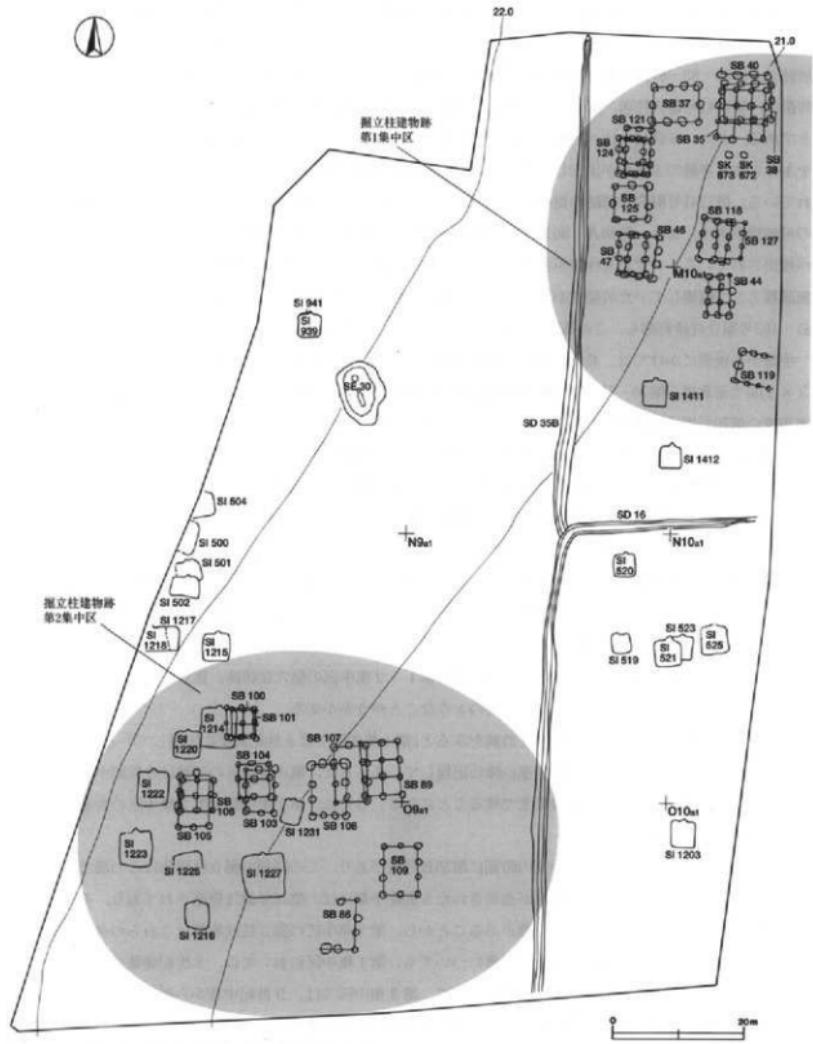
#### ・10世紀

この時期の竪穴住居跡及び掘立柱建物は検出されていない。この時期の竪穴住居跡は、調査8区の東部で検出されるだけあり、しかも、規模が長軸3.2~4.1m、短軸2.7~3.7mであり、小形化の様相を呈する。

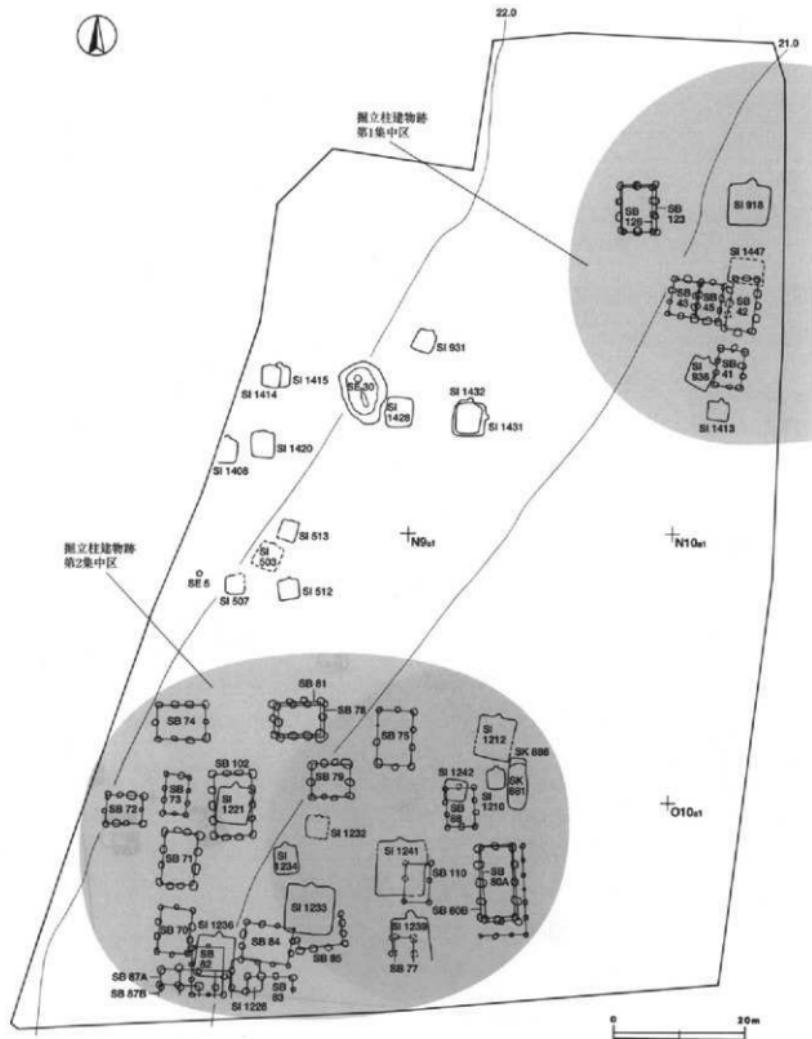
以上のような、調査8区を中心とする掘立柱建物第1・2集中区の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝の関係及びその変遷から集落の構造をみてみると、次のようなことがうかがえる。

第1・2集中区の掘立柱建物の出現と消滅をみると、第1集中区では8世紀前葉に出現しているのに対して、第2集中区はそれより遅れて8世紀中葉以降に出現している。また、第1集中区の消滅は9世紀中葉であるのに対して、第2集中区では9世紀後葉まで残ることになる。さらに、第1集中区と第2集中区の共通点及び相違点をみると、次のようになる。

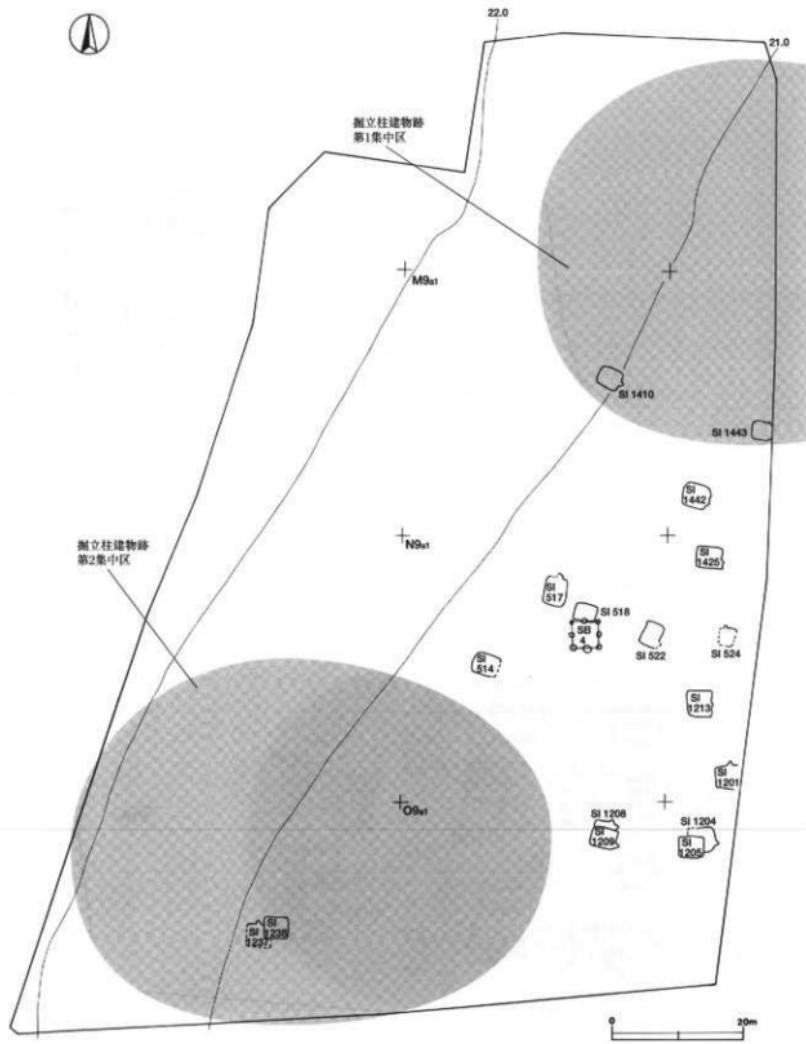
第1集中区は、8世紀前葉から中葉の時期に第35B号溝があり、この時期の掘立柱建物はこの溝で区画されているが、第2集中区で掘立柱建物群が造営された8世紀中葉には、第16号溝は廃絶されており、その北側の第35B号溝は機能していたにしても距離があることから、第2集中区の掘立柱建物群はこれらの溝とは関係が薄いと考えられる。また、掘立柱建物の配置についても、第1集中区においては、8世紀後葉になるまでは、ほぼ「L」字状に整然と配置されているのに対して、第2集中区では、9世紀中葉から後葉にかけてで、「コ」の字状に近い配置となるが、この時期を含めて掘立柱建物の配置は整然さに欠ける傾向がある。さらに、第1集中区で、掘立柱建物及び溝が造営された8世紀の前葉から中葉においての竪穴住居跡は、その付近からは検出されておらず、やや大形の竪穴住居と掘立柱建物とが一つの施設群を構成する時期は、8世紀後葉になってからである。これに対して、第2集中区では、掘立柱建物が存在したどの時期も、竪穴住居と掘立柱建物がいくつかのまとまりで、一つの施設群を構成しているように思える。つまり、第1集中区の8世紀前葉から中葉の時期を除いて、第1・2集中区の掘立柱建物は竪穴住居との関係において存在したと考えられる。



第717図 調査8区(8世紀)遺構配置図(1)



第718図 調査8区（9世紀）遺構配置図（2）



第719図 調査8区（10世紀）遺構配置図（3）

## (2) 第30号井戸跡について

調査8区の西部で、大形の井戸跡が検出されている。当初は、大形土坑として調査を開始したが、2.1m掘り込んだ時点で平坦面が確認され、その平坦面の北西部に粘土の土手が造られた井戸跡の開口部が検出された。この遺構は、上部の大形土坑部及び下部の井戸部から構成されているかのように思えるが、覆上の堆積状況から重複等は認められず、一基の施設と判断できたことから、全体を大形の井戸跡とした。規模は、上部が長径9.55m、短径6.81mで、確認面から2.2mの深さまでぼり下がっており、下部は長径1.60m、短径1.45mの横円筒形に掘り込まれている。確認面から5.25mの深さまで掘り下げたが底面が確認できず、さらに下まで掘り込んでいると考えられる。

ここでは、上部を大形土坑部、下部を井戸部と分けて考えることにする。まず、それぞれの時期であるが、井戸部が施設された時期は、井戸内部から出土した土器から、8世紀後葉と考えられる。また、大形土坑部であるが、14,000点に及ぶ多量の上器片が出土していることから、井戸としての機能が失われた8世紀後葉以降9世紀後葉まで、施設として使用されていたものと考えられる。この井戸跡の特徴としては、規模が大きいことであるが、そのほか出土遺物も注目されるところである。ここでは出土遺物について、特に、井戸内部から出土した土器及び大形土坑部から出土した大甕、その他馬骨等について若干の考察を加えたい。

井戸内部及び土坑底面から出土した土器は甕、壺類が目立ち、それらは破損が少なくほぼ完形である。また、井戸内部の粘土の堆積状況は、人為的に埋め戻された状況である。さらに、井戸部上面から大形土坑の底面にかけて、馬骨3頭分が出土している。金子裕之氏の説<sup>19)</sup>によれば、甕・壺には、疫病のもとになる疫（鬼）（死者靈）を気息とともに吹き込むなどの封鬼壺・瓶と同じように用いられる場合があり、馬は水神奉獻説が有力で、貴人の乗り物から転じて疫神への供物を意味する説があるとしている。これらのことから、木跡においても疫病退散、井戸封じなどに関連した祭祀を行った可能性がうかがわれる。大形土坑部からは多数の土器片が出土しているが、なかでも須恵器の大甕（1点）の胴部が、破碎された状態で出土している。この大甕の口縁部は、第35B号溝の覆土上層から出土しており、大甕の時期は8世紀中葉と考えられる。調査8区南部の第16号溝の底面からも、7世紀末から8世紀初頭と考えられる須恵器の大甕（1点）が、やはり破碎された状態で出土している。第16・35B号溝からは、大甕の他にも多くの土器が、特に須恵器の壺、盤、高盤などを中心に出土している。これらの大甕は、酒などを入れたと考えられており、饗宴の際の酒を準備し、供給するための重要な器物であったと考えられる。須恵器の大甕及び大形窪穴住居の供膳具の保有者は、饗宴の主催者たる、郷における中心的な存在としての豪族・富豪層であったものと考えられる。また、「郷飲酒礼」など郷における儀礼<sup>20)</sup>を裏付けるものと考えられる。

以上、遺構の配置及び主な出土遺物、また、これまで報告された調査成果から、律令期における当遺跡の集落の様相を検討すると、国府や郡衙には当てはまらないが、一般的な集落とも言いがたい古代地方行政の末端支配機構に關係する集落と考えられる。それらには、「郡西山先施設」説、「首長私宅官衛」説、「豪族居宅」説、「郷衙」説<sup>21)</sup>など論じられているところであるが、出土遺構及び遺物などからは、判断がつけられないのが現状である。しかし、これまで述べた調査成果をまとめると、次のようなことがあげられる。<sup>①</sup>区画溝等の区画施設がある。<sup>②</sup>大形住居を中心に掘立柱建物跡が、「L」字状、または、「コ」の字状に配置されている。<sup>③</sup>須恵器の大甕と大量の供膳具が出土している。<sup>④</sup>出土数は少ないが、縁輪陶器、灰釉陶器、金泥付着の灰釉陶器が出土している。<sup>⑤</sup>円面鏡、転用鏡、腰帶貝、刀子などの、官人や文書にかかわる人物の存在を推定させる遺物が出土している。<sup>⑥</sup>馬骨、馬齒、馬具、錢が出土している。<sup>⑦</sup>不定形土坑（施設土坑）が検出されている。

⑤鐵冶工房が検出されている。⑥倉庫群の規模が小さい。⑦建物群の構成、特に掘立柱建物の構成がやや不安定で、隨時、掘立柱建物が増加した傾向がみられる。⑧井戸跡が区画内と区画外にある、などである。これは、田中広明氏が指摘している豪族の家の構成要素<sup>22)</sup>と類似している。⑨そのほかに、調査11区からは、水室と推定される特殊土坑が検出されている。奈良国立文化財研究所の山中敏史氏の御教示によると、官衙関連施設の諸類型を次の6タイプに分類<sup>23)</sup>している。I類「第三權力機関としての役割の一翼を担う施設として設けられた最も密な意味での官衙と推定できる一群」でAタイプの官舍独立型、Bタイプの正倉別院・併設型、II類「他の私的な民間の施設に併設され官衙的機能を果たした施設を含む一群」でCタイプの集落併存型、Dタイプの豪族居宅併存型、III類「家政機関など民間施設と官衙施設とが未分化で官衙の範囲から除外すべき一群」でEタイプの集落内包型、Fタイプの豪族居宅型などである。当遺跡をこの6タイプに当てはめるとするならば、第1集中区に掘立柱建物が造営され始めた8世紀前葉から中葉の、堅穴住居が伴わない時期は、II類Dタイプの豪族居宅併存型（家族の居宅に隣接して居住施設とは異なる施設が付属されたもので、館の別院、村里に別置された正倉、借倉・借屋があり、集落ないし居宅に併置された都衙の補完的官衙施設）に当てはまる可能性がある。これは、律令国家成立当初から永続的な施設として造営・維持されたものではなく、都衙機能を分掌するその職務内容や在地の政治経済的状況・地形条件に応じ、適宜、設置・移転・廃止された補完的な性格の強い官衙施設で、必要に応じて都衙の諸機能の一部を補う役割を担うべく設置された施設と考えられている。8世紀中葉以降は、第1・2集中区において、掘立柱建物と堅穴住居が一つの施設群として併存していたことから、III類Eタイプの集落内包型（民衆の居住施設とは区別しがたいが、遺物などにより官衙的な機能が推定される。）に当てはまるものと考えられる。

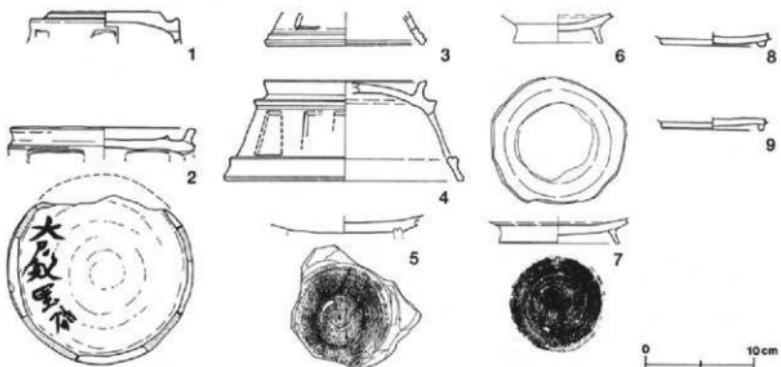
当遺跡は古墳時代から継続的に集落が営まれ、古墳時代後期には、特に調査4区で大形の住居が目立つようになり、集落の北側には古墳群が確認されていることなどから、古墳時代後期には首長クラスの在地有力者がいたと考えられる。奈良時代になると、このように在地勢力がある程度認められる地域に、国や郡の勢力は、官的・公的な権力の表れである区画溝や掘立柱建物を造営し、在地勢力との融合を図りながら地域支配を進めたのではないかと想像される。第1集中区の8世紀前葉から中葉にみられる溝及び掘立柱建物群は、こうした施設に相当すると考えられる。8世紀中葉以降の第1・2集中区周辺は、豪族・富豪層が台頭てきて集落を形成した区域と考えられる。第1集中区では、第918号堅穴住居、第42・43号掘立柱建物が、9世紀中葉以降に廃絶された後は、堅穴住居と掘立柱建物からなる施設群は消滅してしまう。これに対して、第2集中区では、9世紀中葉から後葉にかけて、第1233・1241号堅穴住居を中心とした掘立柱建物を含む施設群が出現している。ここにあげた堅穴住居及び掘立柱建物は、豪族・富豪層の居宅及び倉庫群と考えられ、これらが検出された区域は、郷または集落における中心区域として機能していたものと考えられる。その中心区域は、8世紀中葉から9世紀中葉では第1集中区であり、9世紀中葉から後葉では第2集中区に移動したことかがえる。

ここでの分析は、遺構の配置を中心とし、その他に主な出土遺物からだけであり、関連分野と接点を持った総合的な分析には至っていないのが現状である。また、これまでに報告されている各調査区及び遺跡全体の遺構の変遷、土器の組成や構成について再検討するには及ばなかった。調査8区を中心とした調査成果として報告したい。

(3) 砥、腰帶具、文字資料について (第720~725図)

① 砥

本跡からは、4点の円面硯と5点の転用硯が出土している。材質はすべて須恵器である。いずれも本跡の北部(調査4区北部・11区)及び中央部から南部(調査7・8区)にかけての住居跡から出土している。表中の5と6・7は7区東部の近接し合う住居跡から、そのほかは第16号溝及び第35A・B号溝に近接する掘立柱建物跡集中区付近の住居跡から出土している。時期的には、表中の2・3・8・9の硯が8世紀代の住居跡から、ほかはいずれも9世紀代の住居跡からの出土である。特に2・8・9の硯を出土している第871号住居跡は、第28・29号掘立柱建物跡と第32・33・34号掘立柱建物跡の間に位置しており注目すべき遺構である。



第720図 砥集成図

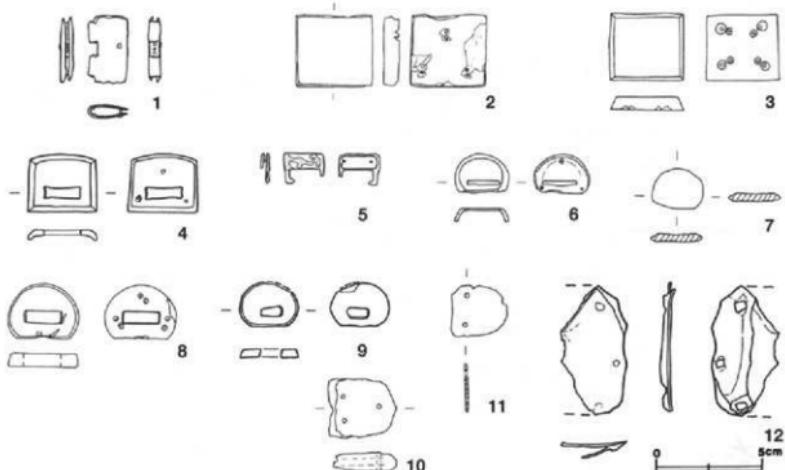
表23 砥一覧表

団番号	器種	出土調査区	出土遺構	時期	主な共伴遺物	備考
第720#81	円面硯	11区	SB34A	9世紀	須恵器(环)、土師器(甕)など	
2	円面硯	*	SB71	7世紀中葉～後葉	須恵器(高台付环)、土師器(甕)など	鏡背面書前大鏡裏を題
3	円面硯	4区北部	SI1144	7世紀末葉～8世紀初頭	須恵器(环)、土師器(环・甕)など	
4	円面硯	8区	SI1233	9世紀後葉	須恵器(环・高台付环・甕・鉢・高盤)・灰釉陶器(蓋の構み)、土師器(甕)、門、扉など	
5	転用硯 高台付盤	7区	SI628	9世紀後葉	須恵器(盤)、土師器(环)、角訂墨書き器2点など	
6	転用硯 高台付盤	*	SI703	9世紀中葉	須恵器(环・盤)、土師器(甕)、灰釉陶器片(長頸瓶)など	底部外周に墨が付着
7	転用硯 高台付盤	*	SI703	*	*	底部外周に墨が付着、底部内面に墨が付着
8	転用硯カ高台付环	11区	SB871	2と同じ	2と同じ	
9	転用硯カ高台付环	*	SB871	*	*	

② 腰帶具

本跡からは、12点の腰帶具が出土している。内訳は、銛具1点、巡方4点、丸柄(裏金具も含む)4点、鉈尾3点である。材質は、表中2の巡方と17の丸柄が石製、9の丸柄が鉄製、その他はすべて銅製である。出土遺構の時期は、表中5・9・10の3点が8世紀代、表中1~4・6~8の7点が9世紀代、11の1点が10世紀

代である。時期不明は遺構外出土の、12の1点である。全12点の内、6点が調査7区から出土しており、硯の出土地点を含めて、本跡の律令期の中心地域を特定する資料になるものと考えられる。



第721図 腰帶具集成図

表24 腰帶具一覧表

図版番号	器種	材質	出土調査区	出土遺構	時 期	主な共伴遺物	備 考
第721図1	鉢 具	銅	8区	SI1236	9世紀中葉	須恵器(环-垂-壺-長瓶軸)、土師器(环-高台付环-壺-壺)、墨書き土器1点	
2	環 方	粘板岩	6区	SK215	平安時代初期	なし	
3	環 方	銅	7区	SI696	9世紀後葉	須恵器(环-高台付环-壺)、土師器(壺)、灰陶陶器(長瓶軸)、角町	
4	環 方	銅	11区	SI856	9世紀中葉	須恵器片、土師器(壺)	
(5)	環 方	銅	8区	SD16	8世紀初頭	須恵器(环-壺-大甕片)	混入
6	丸 崩	銅	7区	SI697	9世紀中葉	須恵器(环-高台付环)、土師器(壺)	6の丸崩は外側に 黒漆一部残存
7	丸崩裏金具	銅					
8	丸 崩	緑色岩	7区	SI604	9世紀中葉	須恵器(环-高台付环)、土師器(壺)、灰陶陶器(花瓶)、刀子、壺、劍、鍔土器1点	
(9)	丸 崩	鐵	4区	SI1149	8世紀中葉	須恵器(环-壺)、土師器(壺)	
(10)	此 尾	崩	7区	SI639	8世紀前葉	須恵器(环-高台付环-壺-短瓶軸)、土師器(环-壺)、刀子、壺、鐵鎌	
11	鉢 尾	銅	7区	SI655	10世紀後葉	須恵器(壺)、土師器(环-高台付环-壺)、鐵鎌	
12	鉢 尾 カ	銅	4区	遺構外			

### ③ 文字資料

当遺跡から出土している文字資料は、同一個体の複数記載資料をそれぞれ数えると総数130点にのぼる<sup>24)</sup>。その出土した地点は住居跡から100点、大形竪穴状遺構から2点、掘立柱建物跡から5点、土坑から11点、井戸跡から1点、溝から2点、遺構外から9点である<sup>25)</sup>。種別の内訳は、朱墨書3点を含めて墨書107点、刻書15点、箋書8点である。また、文字が明瞭なもの、あるいは部分的に判読が可能なものは99点で、他は字形の一部を残すだけか、墨痕が極めて薄いため読み取れないものである。

材質の内訳は土師器101点、須恵器28点、陶器1点で、土師器が78%を占める。器種の内訳は壺89点、高台付环26点、高台付皿5点、壺3点、皿2点、小皿1点、蓋1点、瓶1点、鉢1点、盤1点、円面鏡1点と続き、

环・皿等の供膳具が96%と圧倒的である。時期別にみると8世紀代9点、9世紀代84点、10世紀代19点、近世以降1点、不明17点となる。以下、各時期ごとに様相を見ていくことにする。

8世紀代のものは、前葉のもの1点、中葉のもの4点、後葉のもの4点である。前葉のもの1点は、遺構外出土の十節器环の底部外面に「大」と読める文字が墨書きされている。中葉のもの4点はすべて須恵器に墨書き（朱墨書き1点）されたものであり、3点が环、1点が円面鏡（「大殿墨ヶ研」）である。後葉のもの4点は須恵器环に墨書きされたもの2点、須恵器甕（九九算）と土師器甕に墨書きされたもの2点である。この時期は、8点中7点が須恵器である。体部外面5点、底部外面2点、背面1点と記載の部位についてはそれほど特徴は見られない。

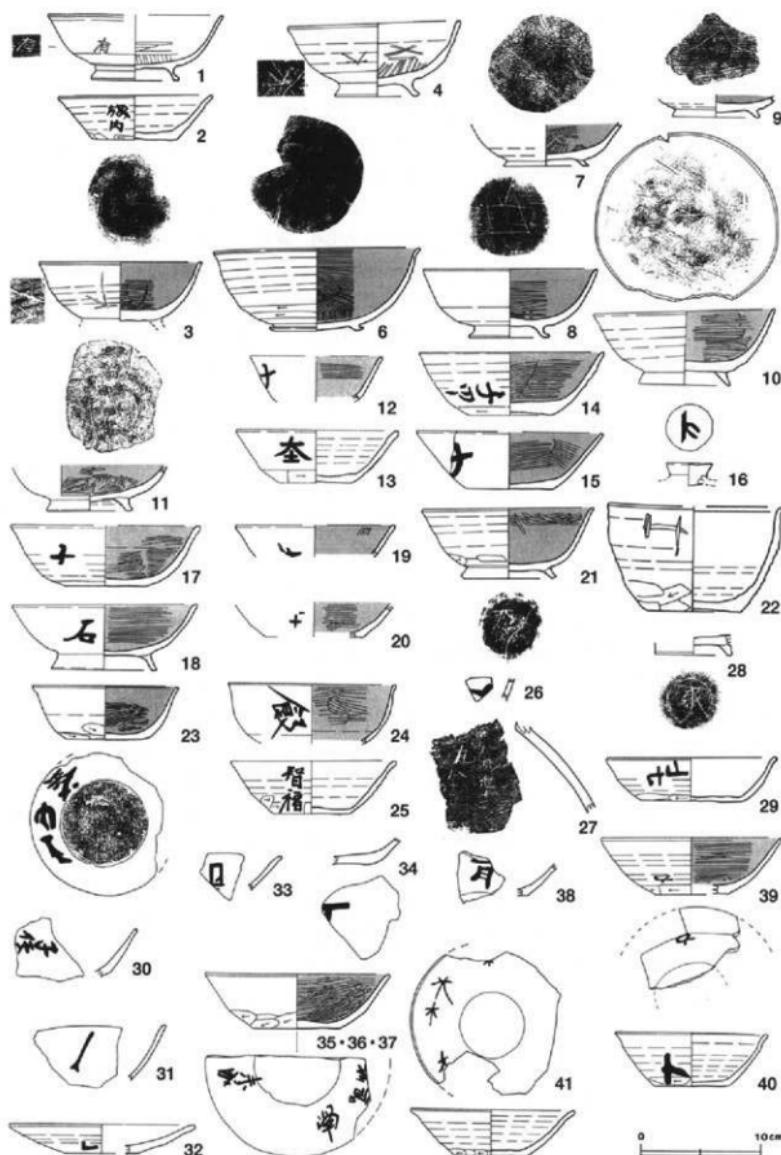
9世紀代のものは、初頭ないし前葉のもの7点、中葉のもの35点、後葉ないし末葉のもの40点、9世紀のもの2点を加えて84点を数える。このように9世紀中葉から後葉にかけて資料数が急激に増え、文字資料全体の58%を占めている。9世紀中葉から後葉にかけての時期が、当遺跡の文字資料記載の盛期と言える。器種では、8世紀代は1点だけの十節器が、9世紀代には84点中65点を占め、当遺跡でも文字資料は須恵器から土師器主体と変わっている。種別の内訳は、朱墨書き2点を含めて墨書き78点、刻書き3点、筆書き3点であり、器種の内訳は环64点、高台付环11点、高台付皿5点、皿2点、蓋1点、盤1点となる。

10世紀代のものは、前葉のもの15点、中葉のもの2点、後葉のもの2点である。資料数は9世紀の後葉に比べて10世紀前葉には急激に減少するものの、後葉まで維続している。種別の内訳は刻書き11点、墨書き6点、筆書き2点である。材質は全て十節器であり、器種は高台付环が13点、环が5点、小皿が1点である。この時期注目すべきは、高台付环に記載された刻書きが10点（「大」が5例、「+」が4例、「二」が1例）を数えることである。

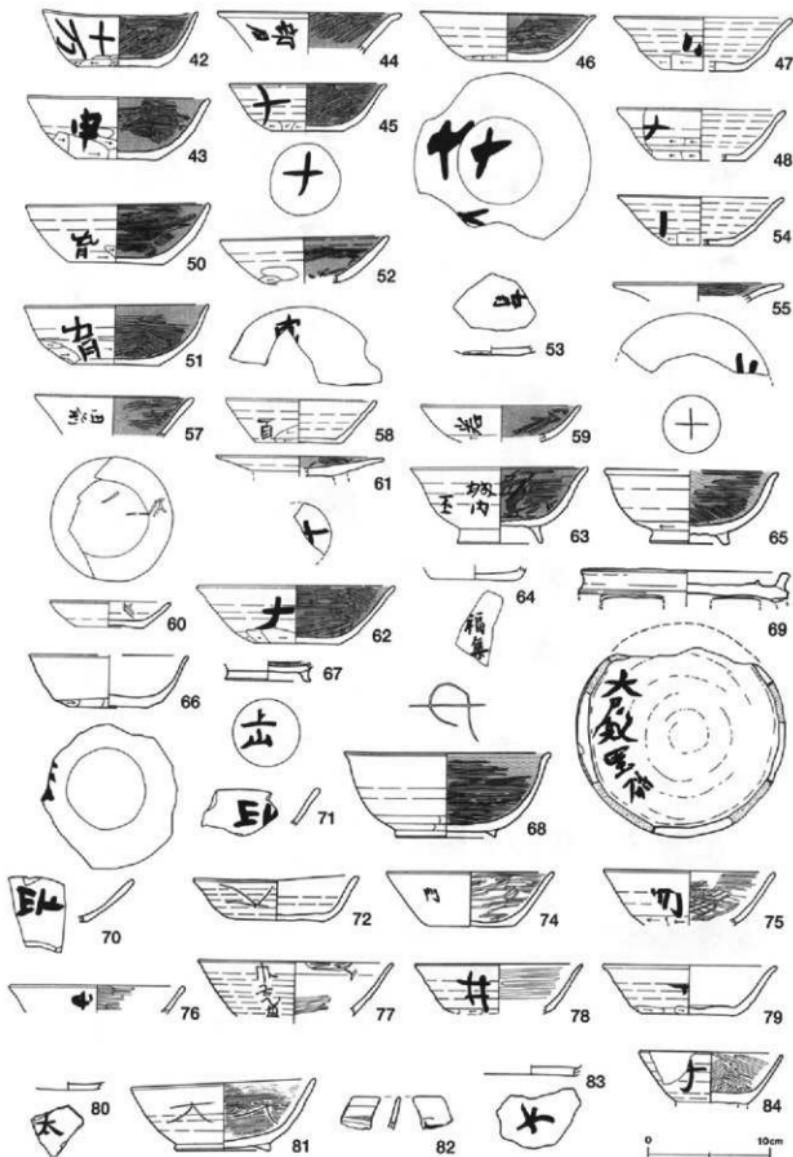
近世以降のものと考えられる1点は、陶器瓶類の底部外面に墨書きされたものである。

記載された文字資料は、1文字（102点、1文字で2・3ヵ所の記載を含む）ないし2文字のもの（22点）が主流である（3文字以上は6点）が、いくつか同種の文字が出土していることに気がつく。例えば、「ナ」・「ナカ」（墨書き、15例、9例が土師器环、体部外面、正位）は、1例不明のものを除いて他は9世紀中葉ないし後葉の器種に記載されたものであり、調査7・8区を中心に比較的広い範囲で出土している。「井」（墨書き、3例とも9世紀後葉）、「+」（刻書き、4例ともに10世紀前葉）は比較的広い範囲で出土している。一方、「壹」印（「大土」と判読でき2文字とも考えられるが、ここでは合わせ文字として1文字として扱う、墨書き、7例のうち6例は調査8区から出土）、「大」（刻書き、8例の内5例が5軒の近接した住居跡から出土）、「育」（墨書き、6例、2軒の近接する住居跡から出土）、「上山」（墨書き、4例、2軒の近接する住居跡から出土）等は、比較的狭い範囲で出土している。文字は記号の意味も含めており、呪術的な意味も考えられるがほぼ同時期に近接する遺構（地点）から出土していることを考慮すれば、集団の単位を示す標識文字と考えられる<sup>20</sup>。これらの文字とは違って、「城内」（墨書き、須恵器1例・土師器2例、环、体部外面、正位）、「城内不」（墨書き、土師器2例、环・高台付环、体部外面、横位・正位）、「大殿墨ヶ研」（墨書き、須恵器1例、円面鏡、背面）は、ある特定の場所を想定させ、権力者に関係するものなのかどうかは不明ではあるが、一般集落で出土する文字資料と違った意味をもつものではないだろうか。この他、則天文字（表中77）を含めて「智福」、「万」、「福集」等は、平川氏の言う共通文字による文字の組み合わせの可能性が考えられ、「大」、「万」、「来」、「明」、「朋」等の文字とともに庶民が吉兆を願うための、縁起の良い文字の類と考えられる<sup>21</sup>。

出土している地区を概観すると、総数130点のうち、42点が7区、39点が8区、14点が6区、12点が4区、11点が11区と続き、2区から7点、1・5区から2点ずつ、3区から1点である。7・8区からの出土資料数で全体の62%を占め、その内56点が9世紀代の遺構から出土している。単に遺構数だけでなく文字資料の数からも、本跡の9世紀代の中心地域は調査区域の中央部から南部にかけての地域（調査7・8区）と考えられる。



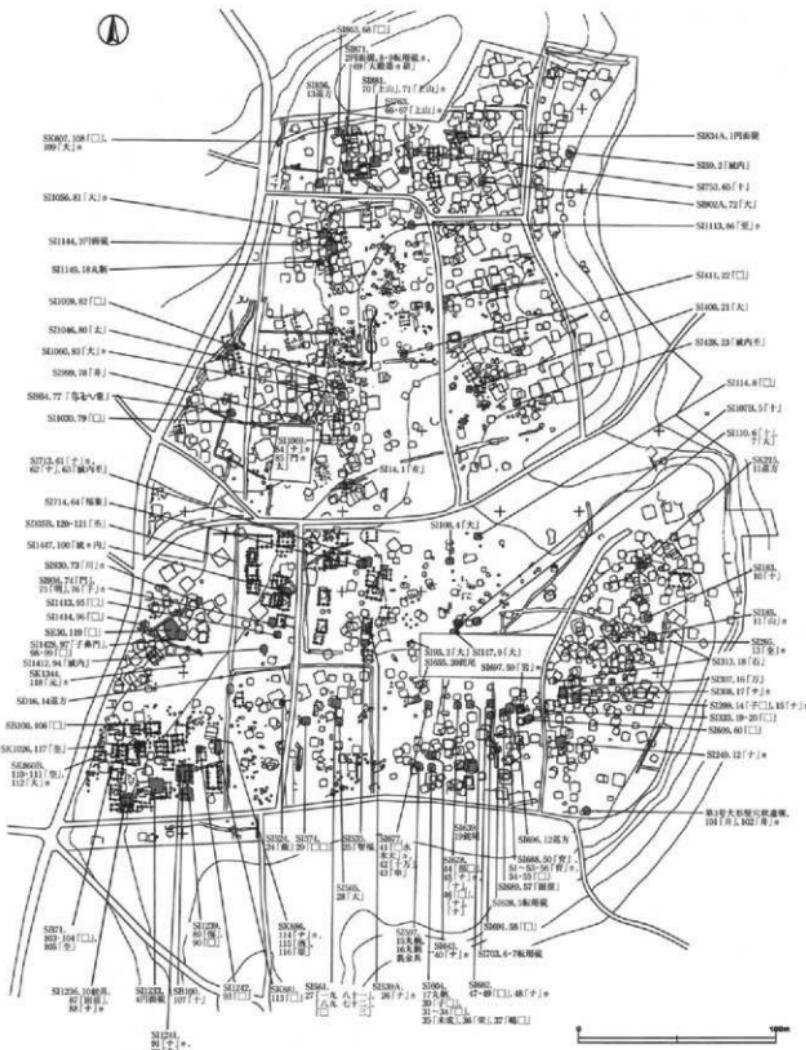
第722図 文字資料集成図（1）



第723図 文字資料集成図（2）



第724図 文字資料集成図 (3)



第725図 砥、腰帶具、文字資料出土位置図

表 25 文字資料一覧表

番号	訓文	種別	材质	器種	部位	方 向	通 傳	時 期	考
1	有	土師器	高古陶坏	体外	正位	14号住	9世紀末葉	調査3区	
2	國內	土師器	高古陶坏	体外	正位	59号住	9世紀末葉	1区	
3	大 (2か所)	土師器	高古陶坏	体内・外	偏位	95号住	9世紀末葉	2区	
4	大	土師器	高古陶坏	体外	侧位	100号住	9世紀末葉		
5	トト	土師器	高古陶坏	体内		107B号住	10世紀前葉	同版なし	
6	トト	土師器	高古陶坏	体内		110号住	10世紀前葉		
7	天	土師器	高古陶坏	底内			10世紀前葉		
8	口	土師器	高古陶坏	底内		114号住	10世紀前葉		
9	大トト	土師器	高古陶坏	底内		117号住	10世紀前葉		
10	トト	土師器	高古陶坏	底内		183号住	10世紀前葉	6区	
11	止カ	土師器	高古陶坏	底内		185号住	10世紀前葉		
12	ナタ	土師器	高古陶坏	体外	正位	249号住	9世紀末葉		
13	牛	土師器	高古陶坏	体外	正位	265号住	9世紀中葉		
14	了	土師器	高古陶坏	体外	右横位	298号住	9世紀後葉		
15	ナカ	土師器	高古陶坏	体外	正位		9世紀後葉		
16	万	黑口	須恵器	壺	つまみ	307号住	9世紀		
17	ナナ	黑口	須恵器	壺	正位	308号住	9世紀末葉		
18	石	黑口	須恵器	壺	正位	313号住	10世紀前葉		
19	口	黑口	須恵器	壺	横位	333号住	9世紀後葉		
20	口	黑口	須恵器	壺	不 明		9世紀後葉		
21	大	黑口	須恵器	壺		400号住	10世紀前葉	5区	
22	口	黑口	須恵器	小 鉢	体外	411号住	10世紀中葉	4区	
23	境内不	墨書	土師器	高古陶坏	体外	右横位	428号住	9世紀群馬	5区
24	鐵	墨書	土師器	壺	体外	右横位	524号住	10世紀前葉	8区
25	智福	墨書	須恵器	壺	正位	535号住	9世紀初頭	7区	
26	ナカ	墨書	土師器	壺	体外	538A号住	10世紀中葉		
27	一九八一六九七二口	墨書	須恵器	壺	正位	561号住	8世紀後葉	九九算	
28	天	墨書	須恵器	壺		565号住	9世紀後葉		
29	口	墨書	須恵器	壺	体外	不 明	574号住	8世紀中葉	
30	口	墨書	須恵器	壺		604号住	9世紀小舟		
31	口	墨書	須恵器	壺	体外		9世紀中葉		
32	口	墨書	須恵器	壺	不 明		9世紀中葉		
33	口	墨書	須恵器	壺	体外		9世紀中葉		
34	口	墨書	須恵器	壺	不 明		9世紀中葉		
35	未成	墨書	須恵器	壺	正位		9世紀中葉		
36	采	墨書	須恵器	壺				35と同一個体	
37	船	墨書	須恵器	壺				36と同一個体	
38	育カ	墨書	須恵器	壺					
39	口	墨書	須恵器	壺					
40	ナカ	口木本大	須恵器	壺					
41	口木本大	墨書	須恵器	壺					
42	十万	墨書	須恵器	壺					
43	巾	墨書	須恵器	壺					
44	船	墨書	須恵器	壺					
45	ナカ、ナ (2か所)	墨書	須恵器	壺					
46	口、ナ、ナ+3か所	墨書	須恵器	壺					
47	12か所	墨書	須恵器	壺					
48	ナ	墨書	須恵器	壺					
49	12か所	墨書	須恵器	壺					
50	育カ	墨書	須恵器	壺					
51	育カ	墨書	須恵器	壺					
52	育カ	墨書	須恵器	壺					
53	育カ	墨書	須恵器	壺					
54	口	墨書	須恵器	壺					
55	口	墨書	須恵器	壺					
56	育カ	墨書	須恵器	壺					
57	田前	墨書	須恵器	壺					
58	口	墨書	須恵器	壺					
59	岩カ	墨書	須恵器	壺					
60	口	墨書	須恵器	壺					
61	ナカ	墨書	須恵器	壺					
62	ナ	墨書	須恵器	壺					
63	境内不	朱書	須恵器	壺					
64	福集	刻書	土師器	小 鉢	体内	7.4号住	8世紀中葉		
65	上	刻書	土師器	高古陶坏	底内	753号住	10世紀前葉	11区	

番号	地文	種別	材質	器種	部位	方向	造形	時代	備考
66	上山山	墨書	土師器	环	不	右横位	763号住	9世紀中葉	
67	上山山	墨書	土師器	高台付环	底外			9世紀中葉	
68	上川記号△	墨書	土師器	高台付环	底内		863号住	10世紀前半	
69	大阪豊力城	墨書	土師器	高台付环	側背面		871号住	8世紀中葉	
70	上山	墨書	土師器	环	体外	右横位	881号住	9世紀末葉	
71	上山山	墨書	土師器	环	体外	右横位	881号住	9世紀末葉	
72	大	墨書	土師器	环	体外	面位	902A号住	10世紀前半	
73	川△	木口	須恵器	环	体外	不明	930号住	9世紀中葉	國版なし
74	門	墨書	土師器	环	体外	止位	936号住	9世紀後半	8区
75	羽	墨書	土師器	环	体外	横位	946号住	9世紀後半	
76	子△	墨書	土師器	环	体外	横位	954号住	10世紀後半	4区
77	草谷△	墨書	土師器	环	体外	正位	999号住	9世紀後半	
78	井	墨書	土師器	环	体外	正位	1030号住	8世紀中葉	
79	一太	墨書	須恵器	环	体外	横位	1046号住	9世紀末葉	
80	大△2かま	墨書	土師器	高台付环	底外	正位	1056号住	10世紀西葉	
82	□	墨書	土師器	环	体外	不明	1059号住	10世紀後半	
83	大△	墨書	須恵器	环	体外	横位	1069号住	8世紀後半	
84	ナカ	墨書	土師器	环	体外	手位	1069号住	9世紀後半	
85	門△太	墨書	土師器	高台付环	底外		1113号住	9世紀中葉	
86	京△	墨書	須恵器	环	底外	制位	1238号住	9世紀中葉	8区
87	田原△	墨書	土師器	环	底外		1239号住	9世紀中葉	
88	ナ△	墨書	土師器	高台付环	底外	正位	1241号住	9世紀中葉	
89	御	墨書	土師器	高台付环	底外	正位	1242号住	9世紀後半	
90	□	墨書	土師器	环	体外	正位	1242号住	9世紀後半	9世紀中葉
91	ナ△	墨書	土師器	环	体外	正位	1242号住	9世紀後半	9世紀中葉
92	△	墨書	土師器	环	体外	正位	1242号住	9世紀後半	9世紀中葉
93	二、波都に墨痕	墨書	土師器	环	体外	正位	1242号住	9世紀後半	9世紀中葉
94	城内	墨書	土師器	环	体外	正位	1413号住	9世紀後半	
95	□	墨書	土師器	环	体外	不明	1414号住	9世紀後半	
96	△	墨書	土師器	环	体外	横位	1426号住	9世紀中葉	
97	子森門	墨書	土師器	环	底外		—		
98	△	墨書	土師器	高台付环	体外	不明	—		
99	□	墨書	土師器	环	体外	正位	1447号住	9世紀後半	
100	城△内	墨書	土師器	环	体外	正位	3号大形瓶	9世紀後半	6区
101	井	墨書	土師器	高台付环	底外	正位	71号翻立	9世紀後半	8区
102	井△	墨書	土師器	环	体外	不明	—		
103	□	墨書	土師器	环	体外	不明	—		
104	△	墨書	土師器	环	体外	不明	—		
105	生	墨書	土師器	环	体外	正位	—		
106	□	墨書	土師器	环	体外	不明	100号掘立	8世紀後半	
107	ナ	墨書	土師器	高台付环	底外	不	109号掘立	—	
108	二、大△	墨書	土師器	高台付环	底外	明	—		
109	花△	墨書	土師器	环	底外	正位	607号土坑	9世紀後半	11区
110	茎	墨書	土師器	环	体外	正位	800B号土坑	—	109と同じ個体
111	下	墨書	土師器	环	体外	正位	—		
112	大△	墨書	土師器	环	体外	正位	—		
113	□	墨書	土師器	环	体外	正位	881号土坑	—	
114	ナ△	墨書	土師器	环	底外	横位	886号土坑	9世紀中葉	
115	酒	墨書	土師器	环	底外	横位	—		114と同じ個体
116	茶	墨書	土師器	高台付环	体外	左横位	1036号土坑	9世紀後半	
117	茎	墨書	土師器	环	体外	正位	1345号土坑	—	
118	元△	墨書	土師器	环	体外	不明	30号非口	—	
119	□	墨書	土師器	环	体外	正位	35B号坑	—	
120	丕	墨書	土師器	高台付环	体外	—	—		120と同じ個体
121	丕	墨書	土師器	环	底外	—	—		
122	六△	墨書	須恵器	环	底外	1区造構外	—		
123	或△	墨書	土師器	环	底外	4区造構外	近光以降		
124	虫△	墨書	土師器	环	底外	6区造構外	—		
125	大△	墨書	土師器	环	底外	7区造構外	8世紀後半		
126	万△	墨書	須恵器	环	底外	—	9世纪		
127	□	墨書	土師器	环	底外	不	8区造構外	—	
128	□	墨書	土師器	环	底外	正位	—		127と同じ個体
129	ナ△	墨書	土師器	环	底外	正位	—		
130	牛	墨書	土師器	环	底外	—	—		

#### 4 むすびにかえて

以上のように、当遺跡は、4～5世紀に東谷田川寄りの台地の縁辺部にあった集落が出現し、6世紀になって台地上の全体に広がり、6世紀後半になり急速に発展し、その後10世紀まで継続的に集落が営まれている。古墳時代後期から平安時代まで、この地域一帯の中心的な役割を担っていたと考えられる。その後、中世では一部墓域としての機能を果たしていたと考えられる。今回報告分の調査4・8区を中心として、平成7年度から平成11年度までの調査の成果を含め、古墳時代後期及び奈良・平安時代の集落の様相についてまとめてみたが、平成10年度調査分が未報告のまま残されており、さらに遺跡は西側に広がりを見せていることから、未報告分や今後の調査結果、研究資料の増加をまって、改めて考えていかなければならない。

#### 註

- 茨城県教育財団「島名・福田坪地区上地区歴史理事業地内埋蔵文化財調査報告書N 岛の山遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第166集の第1節まとめに掲載されている表に追加して作成した。前表と同じく時期が確定できた住居跡だけを掲載した。時期が2世紀にわたる住居跡（例えば、6世紀後葉から7世紀前葉は7世紀に含めた）は、新しい時期とした。また、10世紀以降の住居跡は10世紀の中に含めた。
- ここでは、一边が6mを超える穴式住居跡を大形住居跡とした。
- 茨城県教育財団「一般道新川江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 柏木古墳群」『茨城県教育財團文化財調査報告』第74集（1992年3月）参照。第1～3号掘立柱建物跡とともに、5×3間の倒柱式の掘立柱建物跡である。
- この後8世紀に入り、島名郷の拠点集落として律令体制に組み入れられていくが、古墳時代から本跡はこの地域の拠点集落として営んでいたものと考えられる。本跡の北部に隣接して島名郷の山古墳群が位置する他、本跡の周囲2kmの範囲内だけでも関の台・面の井・下河原塚・高山・寝屋の古墳群と薬師・高田・ツバタ・関の台・島名前野・島名前野東・樋内・水堀の古墳時代の遺跡が確認されている（第1図「周辺遺跡地図参照」）。
- 樋村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年7月
- 樋村宣行「浅井哲也「常陸地域の鬼高式土器」『考古学ジャーナル』342号 1992年
- 諫原祐・「白土研究私論」『研究紀要』第3号 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995年3月
- 前掲註7と同じ
- 前掲註7と同じ
- ひたちなか市教育委員会 ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 「武田石高遺跡 奈良・平安時代編」『ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第19集 2000年1月
- 本庄市教育委員会「南大通り線内遺跡発掘調査報告書」『本庄市埋蔵文化財調査報告』第9集 第1～3分冊 1986年3月、1989年3月、1991年3月
- 前掲註7と同じ
- 茨城県教育財団「一般道新川・江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 元島貝塚・宮の駒遺跡 後九郎兵衛遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第46集 1988年3月
- 千葉県文化財センター「千葉県我孫子市口秀西遺跡発掘調査報告書」 1980年2月
- 前掲註14と同じ
- 寺沢 薫 「収穫と貯蔵」『古墳時代の研究』第4巻 雄山閣 1991年1月
- 古瀬清秀「農工具」「古墳時代の研究」第8巻 雄山閣 1991年11月

- 18 松井和幸「日本古代の鉄製器先、銅先について」『考古學雑誌』第72卷第3号 1987年2月
- 19 金子裕之「考古学からみた律令の祭祀の成立」『考古学研究』第46卷第4号・第47卷第2号 考古学研究会 2000年3月、9月
- 20 山中敏史「律令国家の地方末端支配機構」『律令国家の地方末端支配機構をめぐって－研究集会の記録－』 奈良国  
立文化財研究所 1998年
- 21 前掲註20と同じ
- 22 田中広明「律令期における地方社会の構造」(茨城県教育財団内研修会資料) 1999年2月
- 23 山中敏史「郡衙城周辺の様相及び末端支配機構」(茨城県教育財団研修会資料) 2000年1月
- 24 同一箇体内に記載された文字資料は5点あり、表25中の35・36・37、108・109、114・115、120・121、124・125が挙げ  
られる。
- 25 出土した遺物は、住居跡65軒、大型堅穴状遺構が1基、掘立柱建物跡3棟、土坑6基、井戸跡1基、磚1枚である。
- 26 奈良・平安研究班「茨城県域における文字資料集成1」『研究ノート』9号 茨城県教育財団 2000年6月
- 27 8世紀の第3四半期の住居跡から「大郷長」の墨書き器を出土している群馬県の荒砥洗鍋遺跡からは、9世紀後半か  
ら10世紀初頭の遺物から「大上」と記載された墨書き器が17点出土している。群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財  
調査事業団「荒砥洗鍋遺跡 荒砥宮西遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第83集 1989年
- 28 平川 南「墨書き器の研究」古川弘文館 2000年11月、平川 南 天野 努 黒川 正典「古代集落と墨書き器」  
『國立歴史民俗博物館研究報告』第22集 1989年3月  
平川 南「墨書き器とその字形—古代村落における文字の実相—」『國立歴史民俗博物館研究報告』第35集 1996年  
3月
- 29 前掲註25と同じ

#### 参考文献

- ・茨城県教育財団「島名・袖ヶ浦地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書I～IV 船の山遺跡」「茨城県教育財  
團文化財調査報告」第120・133・149・166集 1997年3月、1998年3月、1999年3月、2000年3月
- ・赤崎敏男・金子裕之・桐山利准「『祭祀具』『古墳時代の研究』第3巻(生活と祭祀) 桐山閣 1991年3月
- ・浅井哲也「東日本の古代の東京」『茨城県史研究』72集 茨城県立歴史館 1994年3月
- ・小笠原研彦「古墳時代の堅穴住居集落にみる単位集団の移動」『國立歴史民俗博物館研究報告』第22集 1989年3月
- ・飯塚武司「古墳時代から古代の武藏・相模区を中心とした工具・農具の変遷」『法政考古学』第20集 法政考古学介  
1993年11月
- ・高野節夫「大工台遺跡における古墳時代後期の土器様相」『研究ノート』9号 茨城県教育財団 2000年6月
- ・中山敏史「地方官衙と末端支配」『茨城県考古学協会誌』第12号 2000年5月
- ・中山敏史・石毛彰子「豪族居宅と倉」「古代の稻作と村落・郷里の支配」 奈良国立文化財研究所 1996年
- ・次野富美夫「常陸南部における古墳時代後期の土器様相」『列島の考古学－波辺誠先生還暦記念論集－』 1998年2月
- ・松村忠司「律令国家の末端支配と集落」『律令国家の地方末端支配機構をめぐって－研究集会の記録－』 奈良国立文化  
財研究所 1998年
- ・松村忠司「正倉の存在形態と機能」『古代の稻作と村落・郷里の支配』奈良国立文化財研究所 1998年
- ・松村忠司「古代東京集落の諸相－村と都の暮らししぶり」『第9回企画展図録古代集落－しもつけのムラとその生活－』  
橋本縣立しもつけ風土記の丘資料館 1995年11月

- ・平川 南 『总合土器の研究』古川弘文館 2000年11月
- ・埼玉県埋蔵文化財調査事業団「中振遺跡 鶴岡場川堤調節池関係埋蔵文化財調査報告」「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書」第190集 1997年12月
- ・栃木県教育委員会 栃木県文化振興事業団「猿崎遺跡 一般国道4号（新4号国道）改築に伴う埋蔵文化財発掘調査」「鶴久跡埋蔵文化財調査報告」第150集 1994年3月
- ・栃木県教育委員会 栃木県文化振興事業団「砂部遺跡 高根沢町砂部地区工業用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査」「栃木県埋蔵文化財調査報告」第108集 1990年3月
- ・栃木県文化振興事業団「住宅・都市整備公团宇都宮都市計画事業多功南原地区埋蔵文化財発掘調査 多功南原遺跡」「栃木県埋蔵文化財調査報告」第222集 1989年3月
- ・日本道路公団名古屋建設局 長野県教育委員会 岡長野県埋蔵文化財センター「吉田川西遺跡 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 第3回長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書3」 1989年3月